

モロッコ国

国民教育・職業訓練・高等教育・科学研究省

モロッコ国  
公平な教育振興プロジェクト  
業務完了報告書

JICA LIBRARY



1232026 [3]

平成 30 年 9 月  
(2018 年)

独立行政法人  
国際協力機構 (JICA)

株式会社コーエイ  
リサーチ&コンサルティング

|        |
|--------|
| 人間     |
| JR     |
| 18-048 |

# 業務完了報告書

案件名：モロッコ国公平な教育振興プロジェクト

提出者：Abdelhaq EL HAYANI（プロジェクト責任者）  
奥川浩士（チーフアドバイザー／教材開発1）

提出日：2018年9月5日



## プロジェクト活動の写真



キックオフセミナー  
(2014年9月16日開催)



第1回JCC会議  
(2014年12月4日)



誤答分析ワークショップの様子  
(2015年4月6日～9日)



第2回JCC会議  
(2015年6月30日開催)



補助教材開発のためのワークショップ  
(2015年11月19～20日 於CNEEO)



プロジェクト運営委員会  
(2015年12月18日 於国民教育・職業訓練省)



算数補助教材の配布  
(2016年2月10日 於セタット県教育支局)



教員向け教授法改善研修  
(2016年3月2日 於エルジャディーダ  
CRMEF)



第2回本邦研修 (香美市立片地小学校訪問)  
(2016年5月15~28日 於東京・高知県・  
徳島県)



「誤答を活用した教育改善」研修モジュール  
(2016年11月22日~24日 於CNEEO)



JCC 第5回会議  
(2017年2月21日 於MENFP)



「誤答を活用した教育改善」ワークショップ  
(2017年3月3日~4日 Laghnimine 小学校)



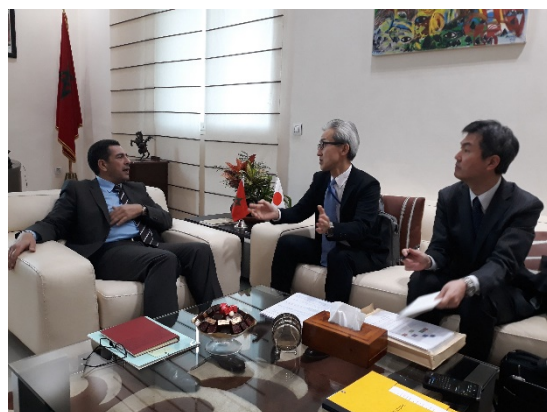
校長向け研修の様子  
(2017年9月21日 於アルハウズ県)



第6回 JCC  
(2017年10月12日 於 MENFPESRS)



数字カードを使った習熟活動のモニタリング  
(2017年10月17日 於シディスリマン県)



国民教育・職業訓練・高等教育・科学研究大臣との会合 (2018年2月26日 於ラバト)



カリキュラムワークショップ  
(2018年4月7日～9日 於ラバト)



校長ワークショップ  
(2018年4月19日 於シディカセム県)



# 目次

|                                     |    |
|-------------------------------------|----|
| プロジェクト活動の写真                         |    |
| I. プロジェクトの概要.....                   | 1  |
| 1. 国名.....                          | 1  |
| 2. 案件名.....                         | 1  |
| 3. プロジェクト期間.....                    | 1  |
| 4. 背景.....                          | 1  |
| 5. 上位目標及びプロジェクト目標.....              | 2  |
| 6. 実施機関.....                        | 3  |
| 7. 対象地域.....                        | 3  |
| II. プロジェクトの実績.....                  | 4  |
| 1. プロジェクトの実績.....                   | 4  |
| 1-1 日本側の投入.....                     | 4  |
| 1-2 モロッコ側投入.....                    | 5  |
| 1-3 活動.....                         | 6  |
| 2. プロジェクトの達成度.....                  | 48 |
| 2-1 成果と指標.....                      | 48 |
| 2-2 プロジェクト目標と指標.....                | 55 |
| 3. PDM 改訂の変遷.....                   | 56 |
| 4. その他.....                         | 60 |
| 4-1 環境社会配慮の実績.....                  | 60 |
| 4-2 ジェンダー・平和構築・貧困削減に対する配慮の実績.....   | 60 |
| III. 合同レビュー結果.....                  | 63 |
| 1. DAC 評価項目によるレビュー結果.....           | 63 |
| 2. プロジェクトの実施と成果に影響を及ぼした主要因.....     | 72 |
| 3. プロジェクトリスクマネジメントの結果に関する評価.....    | 74 |
| 4. 教訓.....                          | 78 |
| IV. プロジェクト終了後の上位目標達成に向けて.....       | 81 |
| 1. 上位目標達成見込み.....                   | 81 |
| 2. 目標達成に向けてのモロッコ側事業計画と実施体制.....     | 82 |
| 3. モロッコ側への提言.....                   | 83 |
| 4. プロジェクト終了時点から事後評価までのモニタリング計画..... | 84 |



## 別添資料

- 添付資料 1 専門家派遣実績（要員計画）
- 添付資料 2 カウンターパートリスト
- 添付資料 3 研修実績
- 添付資料 4 研修員受入実績
- 添付資料 5 供与機材・携行機材実績（引渡しリスト含む）
- 添付資料 6 Plan of Operation
- 添付資料 7 成果品リスト（レポート、マニュアル、ハンドブック等）
- 添付資料 8 Project Design Matrix（Version 0～2）
- 添付資料 9 Records of Discussions
- 添付資料 10 Minutes of Meetings
- 添付資料 11 合同調整委員会（第 1 回～8 回）議事録

## 略語表

|           |  |                      |
|-----------|--|----------------------|
| A/A       | Accompagnatrice/Accompagnateur   | 支援員                  |
| AREF      | Académies Régionales de l'Éducation et de la Formation   | 教育・人材育成地域アカデミー       |
| CGE       | Conseil de Gestion d'École   | 学校運営委員会              |
| CIDA      | The Canadian International Development Agency  | カナダ国際開発庁             |
| CNEEO     | Centre National des Évaluations, des Examens et de l'Orientation   | 国立評価試験進路指導センター       |
| CNIPE     | Centre National des Innovations Pédagogiques et de l'Expérimentation   | 国立教育イノベーション研究センター    |
| CPP       | Communauté de Pratiques Professionnelles   | 職能開発実践共同体            |
| CRMEF     | Centre Régional des Métiers de l'Éducation et de la Formation  | 州教育訓練職員センター          |
| DAC       | OECD Development Assistance Committee  | OECD 開発援助委員会         |
| DC        | Direction des Curricula  | カリキュラム局              |
| DAGBP     | Direction des Affaires Générales, de Budget et du Patrimoine   | 総務予算資産局              |
| DENF      | Direction de l'Education Non-Formelle  | ノンフォーマル教育局           |
| DSI       | Direction du Système d'Information   | 情報システム局              |
| DSSP      | Direction de la Stratégie, des Statistiques et de la Planification   | 戦略統計計画局              |
| DVS       | Direction chargée de la vie scolaire   | 学校生活局                |
| JCC       | Joint Coordinating Committee   | 合同調整委員会              |
| JICA      | Japan International Cooperation Agency   | 独立行政法人国際協力機構         |
| MENFP     | Ministère de l'Éducation Nationale et de la Formation Professionnelle  | 国民教育・職業訓練省           |
| MENFPESRS | Ministère de l'Éducation Nationale, de la Formation Professionnelle, de l'Enseignement Supérieur et de la Recherche Scientifique | 国民教育・職業訓練・高等教育・科学研究省 |
| NGO       | Non-Governmental Organizations   | 非政府組織                |
| PAMT      | Plan d'Action à Moyen Terme  | 中期開発計画               |
| PAGESM    | Projet d'Appui à la Gestion des Établissements Scolaires au Maroc  | モロッコ学校運営支援プロジェクト     |
| PDM       | Project Design Matrix  | プロジェクト・デザイン・マトリックス   |
| PEEQ      | Projet d'Amélioration de l'Éducation avec Équité et Qualité  | 公平な教育振興プロジェクト        |
| PU        | Programme d'Urgence  | 教育緊急計画               |
| R/D       | Records of Discussions   | 討議議事録                |
| TIMSS     | Trends in International Mathematics and Science Study  | 国際数学・理科教育調査          |
| UCFC      | Unité Central de la Formation des Cadres   | 中央職員研修ユニット           |
| UNESCO    | United Nations Organization for Education, Science and Culture   | 国際連合教育科学文化機関         |



## I. プロジェクトの概要

### 1. 国名

モロッコ王国

### 2. 案件名

公平な教育振興プロジェクト

### 3. プロジェクト期間

2014年9月から48カ月間

プロジェクト設計時、全体期間は1年ずつの4つのラウンドに分けて実施することが計画された。プロジェクトの最初の2ラウンドはパイロット事業を通じてプロジェクト専門家チームが範を示し、3ラウンド目以降はモロッコ側が予算も確保し実施するのを、プロジェクト専門家チームが支援するという計画であった。

プロジェクトが開始され、日本側・モロッコ側の関係者が共同で事業実施の枠組みを策定する中で、当初段階で慎重に詳細な活動計画を構築するために、当初12カ月間の予定であった第1ラウンドに18カ月を充てることとなった。

さらに、2017年2月に第3ラウンドを開始し、新たな8つの県においてモロッコ側の負担で活動を普及する予定であったが、後述する事情により第3ラウンド開始は見送られ、第2ラウンドまでに対象となった8つの県でのみ、プロジェクト終了時まで活動が実施された（表1参照）。

表1 プロジェクト期間におけるラウンド分けの変遷

|        | 設計時計画           | 開始当初計画          | 実績              |
|--------|-----------------|-----------------|-----------------|
| 第1ラウンド | 2014年9月～2015年7月 | 2014年9月～2016年1月 | 2014年9月～2016年1月 |
| 第2ラウンド | 2015年8月～2016年7月 | 2016年2月～2017年1月 | 2016年2月～2018年8月 |
| 第3ラウンド | 2016年8月～2017年7月 | 2017年2月～2018年1月 |                 |
| 第4ラウンド | 2017年8月～2018年7月 | 2018年2月～2018年8月 |                 |

出所：プロジェクトチームにより作成

### 4. 背景

モロッコ国では1999年から2009年までを「モロッコ教育の10年」と定め、基礎教育（初等教育6年間および前期中等教育3年間）の普及に取り組んできた。その結果、初等教育純就学率は1991年の56%から2008年には89%（United Nations Organization for Education, Science and Culture：UNESCO）へ大幅に改善したが、留年率・退学率は依然として高く、前期中等教育の普及、学習到達度、女子就学率等にみる地域間の格差は深刻である。これに対しモロッコ政府は、教育の普及（地域間のアクセス格差解消）や質向上を目的に、「教育緊急計画（Programme d'Urgence：PU）」

（2009-2012）を実施した。その後、PUは教育セクター開発政策「中期開発計画2013-2016」（Plan d'Action à Moyen Terme 2013-2016：PAMT）、「優先施策2015-2018」（Mesures Prioritaires 2015-2018）、

「教育改革の戦略的ビジョン 2015-2030」(Vision Stratégique de la Réforme 2015-2030) に引き継がれて現在に至っている。また、従来の中央集権型行政モデルは非効率であるとの問題認識に基づき、教育においても地方分権・分散化が推進されており、中央から、州、県及び学校レベルに適宜権限、意思決定を委ね、教育行政のニーズ対応力の強化が試みられているところである。

モロッコでは初等教育の普及は一巡し、前期中等教育の普及とその質向上がより喫緊の課題であるとされ、その概況は次の通りである。

- 前期中等教育普及の遅れ：純就学率 53.9% (2012 年)
- 前期中等教育の都市部－農村部の格差 (特に女子)：都市部女子の純就学率 78.7% に対し農村部は 23.6% (2011/12)
- 前期中等教育の留年率、退学率の高さ：留年率 16.0%、退学率 10.4% (2011/12)
- 学力の低さ：国際数学・理科教育調査 (Trends in International Mathematics and Science Study :TIMSS) の 2011 年結果 (中 2) 数学 42 カ国中 40 位、理科 41 位

モロッコ国民教育・職業訓練省 (現国民教育・職業訓練・高等教育・科学研究省 (Ministère de l'Education Nationale, de la Formation Professionnelle, de l'Enseignement Supérieur et de la Recherche Scientifique : MENFPESRS) は、州教育行政機関「教育・人材育成地域アカデミー (Académies Régionales de l'Education et de la Formation : AREF)」やその出先である県教育局 (Délégation、現 Direction Provinciale) による、域内の質・普及の格差是正施策の開発・実施を支援するため、日本に対して技術協力を要請した。

独立行政法人国際協力機構 (Japan International Cooperation Agency: JICA) は 2013 年 6 月と 10 月に詳細計画策定調査団をモロッコに派遣し、プロジェクトのフレームワークを策定し、2014 年 5 月に討議議事録 (Record of Discussions: R/D) を取り交わした。協議の結果、本技術協力プロジェクト「公平な教育振興プロジェクト」(Projet d'Amélioration de l'Éducation avec Équité et Qualité : PEEQ) が支援する AREF による格差是正施策の基本コンセプトは以下のとおり整理された。

- 1) 学校群 (中学校－小学校のまとまり。Bassin Scolaire) を支援対象の単位とする。
- 2) 「教育の質」：小学校修了 (6 年生) 時の生徒の学習レベルの低い学校群を支援対象とする。
- 3) 「教育のアクセス」：小学校から中学校への進学率、女子就学率等の低い学校群を支援対象とする。
- 4) 支援を要する学校群を AREF、県教育局が把握し、支援策を執る。

## 5. 上位目標及びプロジェクト目標

### (1) 上位目標

PEEQ の活動 (域内教育格差を緩和する施策) が対象 AREF 内の他の学校およびモロッコ国内他州にて展開される

### (2) プロジェクト目標

国民教育・職業訓練・高等教育・科学研究省が、教育に係る格差の緩和に取り組む AREF を支援する

## 6. 実施機関

- 国民教育・職業訓練・高等教育・科学研究省（MENFPESRS）戦略統計計画局
- 教育・人材育成地域アカデミー（AREF）
- 県教育局（Direction Provinciale）

## 7. 対象地域

### 【計画】

モロッコ全国の旧 16 州のうち下記旧 8 州における各 2 県

- 1) シャウィア・ウルディガ
- 2) ドゥカラ・アブダ
- 3) ガーブ・シャラルダ・ベニハッサン
- 4) マラケシュ・テンシフト・アルハウズ
- 5) タザ・アルホセイマ・タオウナート
- 6) オリエンタル
- 7) タドラ・アジラル
- 8) スス・マサ・ドラ

注：1) ～ 4) は円借款「基礎教育セクター支援事業」の学校建設コンポーネントの対象地域  
また、第 2 ラウンド以降、全国的な州再編に伴い、対象州の名称が変更されたが、上記では旧名称を使用。

### 【実績】

2015 年 2 月に実施された全国的な州再編に伴い、旧シャウィア・ウルディガ州と、旧ドゥカラ・アブダ州は解消され、プロジェクトの対象県はすべて新カサブランカ・セタット州に属することになった。また、旧ガーブ・シャラルダ・ベニハッサン州は新ラバト・サレ・ケニトラ州に、旧マラケシュ・テンシフト・アル・ハウズ州は新マラケシュ・サフィ州に吸収された。さらに、「3. プロジェクト期間」で述べたとおり、第 3 ラウンド以降に予定されていた 5) から 8) の州へのモロッコ国負担による活動普及は、プロジェクト期間中には実現しなかった。

以上より、実績として、プロジェクトの対象となったのは以下の 3 州であった。

- 1) カサブランカ・セタット
- 2) ラバト・サレ・ケニトラ
- 3) マラケシュ・サフィ

## II. プロジェクトの実績

### 1. プロジェクトの実績

#### 1-1 日本側の投入

(1) 日本側総投入額<sup>1</sup>：314 百万円（概算）

投入内容は、直接経費（旅費（航空賃・その他）、成果品作成費、再委託費、国内研修費）、直接人件費、その他原価、一般管理費等である。

#### (2) 専門家派遣

本プロジェクト実施期間（2014年9月～2018年8月）において、日本人専門家が計93.98人月分従事した（現地作業85.13人月、国内作業8.85人月）。本プロジェクト実施期間に投入された日本人専門家は以下の12名（詳細は添付資料1）である。

表 2 日本人専門家の業務実施期間

| 氏名           | 担当業務             | 人月    |      |
|--------------|------------------|-------|------|
|              |                  | 現地    | 国内   |
| 奥川 浩士        | チーフアドバイザー／教材開発 1 | 30.93 | 0.65 |
| 石井 徹弥        | 副総括              | 1.43  | 0.30 |
| 香西 武         | 教材開発 2（理数科教育）    | 2.80  | 0.20 |
| 日下 智志        | 教材開発 3（理数科教育）    | 11.96 | 0.00 |
| 佐藤 晃         | 教育評価             | 4.00  | 0.50 |
| 清水 麻由／堀 康廣*1 | 学校運営             | 9.47  | 0.00 |
| 太田 美穂        | 女子教育             | 5.14  | 0.00 |
| 野々口 敦子       | 女子教育 2           | 1.10  | 0.10 |
| 寺岡 亮輔        | サブプロジェクト管理       | 13.70 | 0.60 |
| 西野 宏         | インパクト評価          | 1.07  | 6.50 |
| 山田 めぐみ       | 研修実施モニタリング       | 3.53  | 0.00 |
| 合計           |                  | 85.13 | 8.85 |

\*1 「学校運営」担当は、清水麻由から堀康廣に交代となった。

#### (3) 研修員受入

本プロジェクトでは、国民教育・職業訓練・高等教育・科学研究省（MENFPESRS）、教育・人材育成地域アカデミー（AREF）、県教育局（Direction Provinciale）から合計27名を対象に本邦研修を実施した。研修員受入リストは添付資料2のとおりである。

#### (4) 機材供与

機材供与：2 百万円（概算）

<sup>1</sup> 日本側総投入額は「プロジェクトの精算金額」から「一般業務費（在外事業強化費に相当）」と「機材費」を差し引いた金額である。

本プロジェクト実施期間に調達した機材は添付資料3の機材費リストのとおりである。

## (5) 在外事業強化費

在外事業強化費：113 百万円（概算）

投入内容は一般業務費（一般傭人費、特殊傭人費、車両関連費、施設・機材保守管理費、消耗品費、旅費・交通費、通信・運搬費、資料等作成費、雑費）である。

## 1-2 モロッコ側投入

### (1) カウンターパートの配置

モロッコ側カウンターパートとして、国民教育・職業訓練・高等教育・科学研究省 (MENFPESRS) 次官 Youssef BELQASMI 氏を議長とする合同調整委員会が、プロジェクト責任者の Abdelhaq EL HAYANI 氏（戦略統計計画局長）を初めとする関係各局長、対象地域の AREF 局長、プロジェクトマネージャー Abdelhak GHOULI 氏を議長とするプロジェクト運営委員会の委員らによって構成されている。また、対象地域の州 AREF 並びに県教育レベルで、それぞれの局長の指導の下、PEEQ プロジェクト・コーディネーター、学校プロジェクト・コーディネーター等がプロジェクトの実施に従事した（添付資料4参照）。

さらに、活動の都度、必要に応じてモロッコ各地より視学官が招聘され、テストの問題作成・結果分析や補助教材作成等の際に、教育技術面での協力を行った。

### (2) 執務室の提供等

- 国民教育・職業訓練省（現：国民教育・職業訓練・高等教育・科学研究省）ララアイシャ別館内にプロジェクトチームの業務スペースが確保され、業務に必要な家具類も設置された。
- 診断テストのデータ入力のために、CNEEO 内に作業スペースが確保された。
- 補助教材作成ワークショップの会場として、プロジェクト事務所に隣接する MENFPESRS の会議室が提供された。

### (3) その他先方政府負担事項

- プロジェクトの展開に必要な、モロッコ側カウンターパート人材の給与、諸手当、交通費といった運営コストをモロッコ側が負担することが、2016年10月に行われた運営指導調査において、モロッコ側と日本側との間で再確認され、合意事項に基づいた措置が行われた。
- ワークショップ等の開催にあたり、会議場及び宿泊施設をモロッコ側が負担し提供した。さらに、カリキュラム改訂にかかるワークショップ開催に関しては、参加者への手当等も含めて、全てモロッコ側の負担で行われた。



### 1-3 活動

プロジェクトにおいて期待される成果を生み出すために、PDM が示す枠組みに基づきさまざまな活動が行われた。ここでは、当初計画と対比した場合の変更の有無を含め、PDM に記載された活動ごとに、プロジェクトの実績を記載する。

#### (1) 成果 1 に係る活動

成果 1：生徒の学習到達度の格差是正のための措置（主に診断テスト、誤答分析、授業案改善、補助教材を活用した生徒の学習支援、モニタリング体制からなる）が試行され、採用される

##### (1-1) MENFPESRS、AREF、県教育局、学校レベルの、生徒評価・試験の実践を把握する

本プロジェクトでは、案件形成時から、「誤答分析」を通じて児童生徒のつまずきを明らかにすることにより、そのつまずきを解消するための手立てを見出すというアプローチを用いることが設定されていた。したがって、プロジェクトチームは、活用可能な既存の情報や実践の有無を確認するため、モロッコ国内で児童生徒の学力評価がどのように行われているかを十分に把握する必要があった。プロジェクトが始まった2014年9月から、MENFPESRS ならびに関係する AREF、県教育局、学校との協議を通じて、プロジェクトチームは、以下を含むモロッコで実施されている生徒評価についての情報を入手した。

- 県・州・中央の各レベルにおける各教育段階の修了資格認定のための共通試験：  
初等教育修了時は県で作成される標準試験、前期中等教育修了時は州で作成される標準試験、後期中等教育修了時は、大学入学資格の取得を付与するバカロレアと呼ばれる全国共通の試験が実施されている。
- 学校レベルにおける平常評価：  
モロッコは2学期制であり、それぞれの学期の中間時点と期末にそれぞれ学校レベルで平常評価（*contrôle continu*）が行われている。
- 国立評価試験進路指導センター（CNEEO）が開発した既習事項確認テスト：  
2009年に開始された緊急プログラム（*Programme d'Urgence*）の枠組みの下で始められ、全初中等学校での実施が義務付けられるようになった、新学年開始直後に行われるテストで、児童生徒が新学年で新たな内容の学習をするのに必要な既習事項の習得度合いを確認するためのテスト。
- 全国学習到達度評価プログラム（PNEA）：  
4年に一度、全国レベルで対象校を抽出して行われる評価で、児童生徒の学習到達度を測定し、国レベルでの教育方法や教育内容の改善に役立てるためのもの。

案件形成時には小学校・中学校の修了資格認定試験の結果を用いて誤答分析を行い、子どものつまずきを探ることになっていたが、情報収集及び検討の結果、総括的評価を目的とした同試験の問題では、つまずきを発見するための十分な診断評価ができないと判断された。したがって、

CNEEO が開発した「既習事項確認テスト」の問題をベースとして、プロジェクト独自の診断評価を行い、その結果を用いて誤答分析を行うことを決定した。

(1-2) *MENFPESRS/AREF* が学校毎の学習到達度を把握し、底上げを要する学校群を指定する

第1ラウンド(2014年9月～)のプロジェクトの対象地域は、当時のシャウィア・ウルディガ州並びにドゥカラ・アブダ州(いずれも現カサブランカ・セタット州)から選定された。対象となる県教育局と学校群の選出にかかる基準は、プロジェクト概要書策定の過程で設定された。案件の設計段階では教育の質にかかる最困難学校群とアクセスにかかる最困難学校群をそれぞれ選出することが想定されていたが、実際のサイトの選定は、児童の学習成果と就学にかかる指標を組み合わせたものを基に行われた。選定方法は以下のとおりであった。

**【対象県の選定】**

各州の中で、以下の指標の平均値が最も低い県を2つ選ぶ。ただし、日本側の集中的な協力により、PEEQの支援モデルを新たに構築する必要があることから、県へのアクセス、県教育局の既存の人材、教員養成機関(Centre Régional des Métiers de l'Éducation et de la Formation : CRMEF)の有無等を考慮して、対象県を選定した。対象県の選定に用いられた指標は、次のとおりである。

- 学年度中の中途退学率(小学校全学年)
- 小学校から中学校への進学率(当該年度の中学1年生の人数/前年度卒業した小学6年生の人数)
- 留年率(小学校全学年)
- 小学校全生徒数にかかるジェンダー格差指数

**【対象学校群の選定】**

対象県の中で、学校群内の各小学校に関する指標の合計値を求める。そして、学校群内の小学校の平均値を用いて一覧を作成し、そのなかで平均値が最も高い上位2つの学校群(パフォーマンスが最も低い学校群)を選定する。

- 学年度中の中途退学率(小学校全学年)
- 小学校から中学校への進学率(当該年度の中学1年生の人数/前年度卒業した小学6年生の人数)
- 留年率(小学校全学年)
- 小学校全生徒数にかかるジェンダー格差指数
- 小学校修了試験の平均点
- 卒業に必要な及第点(Seuil de passage : 平常点と修了試験を合算)に達しなかった生徒(小学6年生)の割合

第2ラウンド(2016年2月～)では、第1ラウンド対象地域に加え、活動地域をラバト・サレ・ケニトラ州並びにマラケシュ・サフィ州へと拡大した。ただし、2015年2月の全国的な州再編に

伴い同年9月には州レベルの教育行政の区割りも変更になったものの、案件形成時の合意事項に従い、旧ガープ・シャラルダ・ベニハッサン州、旧マラケシュ・テンシフト・アル・ハウズ州に所属していた県の中から対象県を選定することになった。また、第1ラウンドで選定方法が複雑になり過ぎて混乱が生じたという反省から、県内の対象学校群を選択する際には、案件形成時に想定されていたとおり、教育の質の面、アクセスの面で、それぞれ最も困難な学校群を1群ずつ選定することとした。選定方法は以下のとおりであった。

#### 【対象県の選定】

各旧州の中で、県毎に以下の5つの指標の3年間（2011/2012、2012/2013、2013/2014）の平均値を用い、あらかじめ定められた計算式に当てはめて得られた数値が最も低い、すなわち最も困難な県を選定する。

- 小学校の中途退学率の平均値（TMAP）
- 小学校の留年率の平均値（TMRP）
- 中学校の中途退学率の平均値（TMAC）
- 中学校の留年率の平均値（TMRC）
- 小学校から中学校への進学率の平均値（TMTPC）

計算式： $0.15 \times (1-TMAP) + 0.2 \times (1-TMRP) + 0.15 \times (1-TMAC) + 0.2 \times (1-TMRC) + 0.3 \times (1-TMTPC)$

#### 【対象学校群の選定】

対象県の中で、学校群内の学校の以下の2つの指標の3年間（2011/2012、2012/2013、2013/2014）の平均値が最も低い学校群を選定する。

- 小学校修了試験の平均点
- 小学校から中学校への進学率

以上により選定されたプロジェクト対象地域は、表3のとおりである。

表3：プロジェクト対象地域

| 州               | 県        | 学校群（中学校）              | 小学校<br>本校数 | 小学校数<br>（分校含） |
|-----------------|----------|-----------------------|------------|---------------|
| カサブランカ・セ<br>タット | セタット     | Hassan Lawal          | 2          | 9             |
|                 |          | Sidi Hajjaj           | 2          | 7             |
|                 | ベルシッド    | Ibnou Sina            | 4          | 14            |
|                 |          | Ezzarktouni           | 3          | 3             |
|                 | エルジャディーダ | Khaled Ibnou Eloualid | 8          | 29            |
|                 |          | El Ouard              | 9          | 24            |
|                 | シディバヌール  | Ibnou Sina            | 3          | 10            |
| Baroudi         |          | 3                     | 13         |               |
| ラバト・サレ・ケ<br>ニトラ | シディスリマン  | El Kceibya            | 4          | 11            |
|                 |          | Safsaf                | 4          | 11            |
|                 | シディカセム   | Dakhla                | 6          | 26            |
|                 |          | Al Kindi              | 5          | 13            |
|                 |          | Tamazouzte            | 10         | 38            |

|            |       |                    |    |     |
|------------|-------|--------------------|----|-----|
| マラケシュ・サファイ | アルハウズ | Houman El Fetouaki | 8  | 42  |
|            | シシャウア | Mohamed V          | 10 | 56  |
|            |       | Timzgadiouine      | 14 | 41  |
| 合計         |       | 16 学校群 (中学 16 校)   | 95 | 347 |

出所：プロジェクトチームにより作成

(1-3) 日本人専門家がMENFPESRS/AREF/CRMEF/県教育局に対し講習会、説明会を実施する

(1-4) MENFPESRS 担当者が、AREF/CRMEF/県教育局に対し講習会、説明会を実施する

日本人専門家チームは、主に表 4 に示された機会において、PEEQ プロジェクトの内容や運営方法を、モロッコ側のパートナー機関（MENFPESRS/AREF/CRMEF/県教育局など）に提案し、プロジェクトに対する理解を深める努力をするとともに、それらパートナー機関との協議を通じて、プロジェクトの方向性を共同で確認してきた。

一方 MENFPESRS は、AREF/CRMEF/県教育局などの下部機関に対し、特にそれらが新たにプロジェクト対象として加わる際に、日本人専門家チームと協力して対象地域を訪れ、プロジェクトの内容や運営方法について説明した。

表 4：プロジェクトに関する説明等を行った主な活動

| 年月日                  | 活動                        | 場所       | 参加者数  |      |
|----------------------|---------------------------|----------|-------|------|
|                      |                           |          | モロッコ側 | 日本側  |
| 2014 年 9 月 16 日      | プロジェクト・キックオフ会議            | ラバト      | 16 名  | 10 名 |
| 2014 年 10 月 21～22 日  | プロジェクト概要書策定ワークショップ        | ラバト      | 12 名  | 6 名  |
| 2014 年 12 月 4 日      | 第 1 回合同調整委員会              | ラバト      | 16 名  | 9 名  |
| 2015 年 1 月 13 日      | シャウィア・ウルディガ州調整委員会         | セタット     | 16 名  | 7 名  |
| 2015 年 1 月 15 日      | ドゥカラ・アブダ州調整委員会            | エルジャディーダ | 15 名  | 7 名  |
| 2015 年 2 月 10 日、11 日 | 県調整委員会                    | セタット     | 11 名  | 9 名  |
|                      |                           | ベルシッド    | 11 名  |      |
|                      |                           | エルジャディーダ | 17 名  |      |
|                      |                           | シディベヌール  | 18 名  |      |
| 2016 年 2 月 19 日      | マラケシュ・サファイ州 AREF キックオフ会議  | マラケシュ    | 18 名  | 7 名  |
| 2016 年 2 月 25 日      | ラバト・サレ・ケニトラ州 AREF キックオフ会議 | ラバト      | 10 名  | 5 名  |
| 2016 年 3 月 21 日      | シディスリマン県教育局キックオフ会議        | シディスリマン  | 8 名   | 4 名  |
| 2016 年 3 月 24 日      | シディカセム県教育局キックオフ会議         | シディカセム   | 9 名   | 4 名  |
| 2016 年 3 月 30 日      | アルハウズ県教育局キックオフ会議          | アルハウズ    | 4 名   | 5 名  |
| 2016 年 4 月 4 日       | シシャウア県教育局キックオフ会議          | シシャウア    | 12 名  | 5 名  |

出所：プロジェクトチームにより作成

## (1-5) MENFPESRS/AREF 担当者が指定校の試験結果を分析し、特に基礎学力について、生徒の苦手な学習内容及び学びの阻害要因を把握する

以下の要領により、2015年診断テストが実施された。診断テストは、5年生対象のものについては第4学年の現行カリキュラムに基づきCNEEOが既に作成していた既習事項確認テストを一部改定したもの、6年生対象のものについてはCNEEOと日本人専門家との共同作業により、第5学年の現行カリキュラムに基づきプロジェクトで独自に作成したものである。ワークショップが2015年1月21日から30日まで開催され、CNEEOから任命された専門家と日本人専門家が協力してテスト開発を行った。

## 2015年診断テスト実施概要

期 間：2015年3月5日～10日

対象学年教科：小学5年・6年の算数と理科

実施学校と参加生徒数：16校 1,143名（表5参照）

表5：2015年診断テスト実施校と参加生徒数

| 州                   | 県            | 学校群                    | 学校名                   | 5年生 |    | 6年生 |     |     |     |
|---------------------|--------------|------------------------|-----------------------|-----|----|-----|-----|-----|-----|
|                     |              |                        |                       | 算数  | 理科 | 算数  | 理科  |     |     |
| シャウイ<br>ア・ウルデ<br>イガ | セタット         | Hassan Lawal           | Lakhrwaa Centre 小学校   | 17  | 17 | 9   | 10  |     |     |
|                     |              |                        | Laamarat 分校           | 13  | 13 | 6   | 6   |     |     |
|                     |              | Sidi Hajjaj            | Labioud Centre 小学校    | 30  | 30 | 28  | 28  |     |     |
|                     |              |                        | Ouled Yaïich 分校       | 20  | 20 | 22  | 22  |     |     |
|                     | バルシッド        | Ibnou Sina             | Laghnimine Centre 小学校 | 27  | 27 | 49  | 49  |     |     |
|                     |              |                        | Ezzmamra 分校           | 11  | 11 | 12  | 12  |     |     |
|                     |              | Ezzakartouni           | El Hay El Hassani 小学校 | 57  | 57 | 74  | 74  |     |     |
|                     |              |                        | Ibnou Lhaytem 小学校     | 72  | 72 | 58  | 57  |     |     |
| ドゥカラ・<br>アブダ        | エルジャデ<br>イーダ | Khaled Ibn<br>Eloualid | Laazizate 小学校         | 45  | 45 | 42  | 44  |     |     |
|                     |              |                        | Jouamaa 分校            | 25  | 25 | 25  | 25  |     |     |
|                     |              | El Ouard               | Tnine Hachtouka 小学校   | 77  | 77 | 75  | 75  |     |     |
|                     |              |                        | Ezzouazi 分校           | 44  | 44 | 25  | 25  |     |     |
|                     | シディベス<br>ール  | Ibnou Sina             | Lakhoualda 小学校        | 52  | 52 | 55  | 55  |     |     |
|                     |              |                        | Lahmamna 分校           | 32  | 32 | 26  | 26  |     |     |
|                     |              | Baroudi                | Bni Hlal 小学校          | 41  | 41 | 29  | 29  |     |     |
|                     |              |                        | Lamribtate 分校         | 31  | 31 | 12  | 12  |     |     |
|                     |              | 合計数                    |                       |     |    | 594 | 594 | 547 | 549 |

出所：プロジェクトチームにより作成

診断テストの結果は、2015年4月6日～9日の「誤答分析ワークショップ」において分析され、日本人専門家及びプロジェクト対象地域ならびにCNEEOから派遣された視学官16名の手で報告書にまとめられた。報告書には、診断テストの結果について、生徒の典型的な誤答とその理由の分析、ならびに授業改善のための教授法の提案等が記載された。同報告書は、2015年10月2日に国民教育・職業訓練大臣へ提出され承認された後、500部印刷され、後述する教員研修会に

参加した教員、「誤答分析に基づく授業改善にかかる全国ワークショップ」参加者、その他関係機関（MENFP 各局、AREF、Délégation）に配布された。

報告書に記載された典型的な誤答分析の例は図 1 に示すとおりである。

**問 5 :** 次の式を筆算で計算しなさい。  $58.74 + 853.6 =$

**1. 問題の目的 :**

この問題は、学習者が 2 つの小数（ひとつは整数部分が 2 けた、小数部分が 2 けたの数、もうひとつは小数部分が 3 けた、小数部分が 1 けたの数）のたし算を筆算で計算することのできる能力を問うものである。

**2. 回答の種類**

| 問題番号   | 回答記号 | 回答                                      | 誤答の主な理由  | 割合 (%)  |     |
|--------|------|---|--|---|-----|
| 5      | 正答   | 912.34                                  |  | 36.7  |     |
|        | a    | 1441, 144.1 等 (小数点の有無や位置は不問)            | 筆算による小数のたし算の仕方と整数のたし算の仕方を混同しており、整数のたし算のように、けたを右揃えで計算している。                          | 8.3   |     |
|        | b    | 911.8                                   | 小数点以下の数のけた揃えの仕方を習得しておらず、小数第 1 位は小数第 1 位で揃え、小数第 2 位は小数第 2 位で揃え、小数点も揃えるということができていない。 | 3.5   |     |
|        | c    | 91234                                   | 筆算で計算した後、小数点を打つのを忘れている。  | 0.8   |     |
|        | d    | 91.234, 9.1234, または 9123.4 (小数点の位置の間違い) | 筆算でたし算をした後に、小数点をどの位置に打つべきかということが、十分に理解できていない。                                      | 2.5   |     |
|        | e    | 911.34                                  | 901.34   | 二つの小数のたし算をする際の、くり上がりの処理に習熟していないため、答えが違ってしまっている。 | 1.5 |
|        |      | 902.34                                  | 811.34   |   |     |
|        |      | 812.34                                  | 801.34   |   |     |
| 802.34 |      |   |  |   |     |
| その他の誤答 |      | 二つの小数のたし算を筆算で行う方法を正しく習得していない。           | 43.7   |   |     |
| 無回答    |      | 学習者は問題の内容が理解できなかったかもしれない。               | 2.9  |   |     |

**3. 教育・学習プロセスを改善するための方策**

- 小数のたし算を行う前に以下の知識や技能を習得しなければならない。
  - 小数の比較や並べ替えができる。
  - 整数のくり上がりのないたし算、くり上がりのあるたし算ができる。
  - 小数の中の、整数部分と小数部分の区別ができる。
  - 整数部分が 2 けたで小数部分が 1 けたの二つの小数の、くり上がりのない、またはくり上がりのあるたし算ができる。
- 小数の筆算を立てる際、正しくけた揃えができるようになることに集中して取り組む。  
(以下省略)

出所：『2015 年診断テスト誤答分析報告書』（p.15）

図 1：2015 年診断テスト誤答分析報告書の記載例

2015 年診断テストにおいては、上述のとおり典型的な誤答が指摘され、その改善方法も検討されたが、正答率が低い問題が多い上に、典型的な誤答にあてはまらない「その他の誤答」の割合が多く、児童が実際どの辺りでつまづいているのかを正確に把握することは困難であった。そうした反省を踏まえ、2016/2017 年度診断テストが準備され、以下の要領により実施された。

同テストは、2015年11月から準備が始まり、2016年3月の問題開発ワークショップ、5月の試行、6月のテスト問題最終化のためのワークショップを経て完成した。従来は、テストを受ける児童生徒の1つ前の学年のカリキュラムに基づき作成されていたが、児童生徒のつまずきを特定するため、算数・数学では、小学1年で学習した内容を問う問題から系統的に問題を配列し、理科でも小学1年レベルからの問題を含むと同時に、特に分析力などの高次の能力を必要とする問題を多く取り入れた。

### 2016/2017年度診断テスト実施概要

期 間：2016年9月26日～10月5日（表6参照）

対象学年教科：小学3年・5年の算数、中学1年の数学、小学5年の理科

実施学校と参加生徒数：50校 8,190名（表7参照）

目 的：

- モロッコのすべての子どもたちに獲得させたい学力の内容を明らかにして、それに到達することができる教育方法を構築し、獲得させたい学力に到達させることを最終目標とする。
- 2016年の診断テストは、教育内容の系統性に着目し、子どもがどこでつまずいたかを診断できるテストを作成し実施して、目標への到達を阻んでいる要因を明らかにすることにより、教師の指導法の改善に役立てることを目的とする。
- 将来的には、教科書改善、カリキュラム改善に役立っていくことが考えられる。

表6：2016/2017年度診断テスト実施日程

| 州           | 県        | 小学校での実施日    | 中学校での実施日    |
|-------------|----------|-------------|-------------|
| カサブランカ・セタット | セタット     | 9月29日・30日   | 9月30日       |
|             | ベルシッド    | 9月27日・28日   | 10月4日       |
|             | エルジャディーダ | 9月28日・29日   | 9月29日・30日   |
|             | シディベヌール  | 10月4日・5日    | 10月4日・5日    |
| ラバト・サレ・ケニトラ | シディスリマン  | 10月4日・5日    | 10月5日       |
|             | シディカセム   | 10月12日・13日  | 10月12・13日   |
| マラケシュ・サフィ   | アルハウズ    | 9月29日～10月1日 | 9月28日、10月4日 |
|             | シシャウア    | 9月26日～28日   | 10月4日・5日    |

出所：プロジェクトチームにより作成

表7：2016/2017年度診断テスト実施校と参加生徒数

| 州           | 県                     | 学校名                 | 小3<br>算数 | 小5<br>算数 | 小5<br>理科 | 中1<br>数学 |
|-------------|-----------------------|---------------------|----------|----------|----------|----------|
| カサブランカ・セタット | セタット                  | Hassan Lawal 中学校    |          |          |          | 88       |
|             |                       | Lakhrwaa Centre 小学校 | 32       | 34       | 34       |          |
|             |                       | Laamarat 分校         | 12       | 12       | 12       |          |
|             |                       | Sidi Hajaj 中学校      |          |          |          | 127      |
|             |                       | Labioud Centre 小学校  | 56       | 54       | 54       |          |
|             |                       | Ouled Yaïich 分校     | 47       | 40       | 40       |          |
|             |                       | Oulad Bouamar 分校    | 41       | 45       | 45       |          |
|             | Laksass 分校            | 4                   | 6        | 6        |          |          |
| ベルシッド       | Ibnou Sina 中学校        |                     |          |          | 241      |          |
|             | Laghnimine Centre 小学校 | 59                  | 50       | 50       |          |          |

|                     |                            |                                      |                |      |      |      |
|---------------------|----------------------------|--------------------------------------|----------------|------|------|------|
|                     |                            | Ezzmamra 分校 (Lebrahma 小学校)           | 40             | 30   | 30   |      |
|                     |                            | Ezzkartouni 中学校                      |                |      |      | 434  |
|                     |                            | El Hay El Hassani 小学校                | 132            | 153  | 238  |      |
|                     |                            | Ibnou Lhaytem 小学校                    | 114            | 93   | 93   |      |
|                     | エルジャ<br>ディーダ               | Kahled Ibn Eloualid 中学校              |                |      |      | 310  |
|                     |                            | Laazizate 小学校                        | 73             | 64   | 64   |      |
|                     |                            | Jouamaa 分校 (Lakrarba 小学校)            | 27             | 20   | 20   |      |
|                     |                            | El Ouard 中学校                         |                |      |      | 550  |
|                     |                            | Tnine Hachtouka 小学校                  | 90             | 70   | 70   |      |
|                     |                            | Ezzouazi 分校 (Sidi Mhamed Moussa 小学校) | 42             | 35   | 35   |      |
|                     |                            | シディベ<br>ヌール                          | Ibnou Sina 中学校 |      |      |      |
|                     | Lakhoualda 小学校             |                                      | 52             | 53   | 53   |      |
|                     | Lahmanna 分校 (Errachad 小学校) |                                      | 38             | 33   | 33   |      |
|                     | Baroudi 中学校                |                                      |                |      |      | 304  |
|                     | Bni Hlal 小学校               |                                      | 56             | 94   | 94   |      |
|                     | Lamribtate 分校              |                                      | 17             | 18   | 18   |      |
| Lebzaghla 分校        |                            |                                      | 13             | 13   |      |      |
| ラバト・サ<br>レ・ケニト<br>ラ | シディス<br>リマン                | El Kceibya 中等教育学校                    |                |      |      | 207  |
|                     |                            | PAM 小学校                              | 100            | 61   | 61   |      |
|                     |                            | Sidi Omar Chelh 分校                   | 21             | 14   | 14   |      |
|                     |                            | Safsaf 中学校                           |                |      |      | 394  |
|                     |                            | 2 Mars 小学校                           | 46             | 64   | 64   |      |
|                     |                            | Oulad Ben Dib 分校                     | 95             | 95   | 95   |      |
|                     | シディカ<br>セム                 | Dakhla 中学校                           |                |      |      | 488  |
|                     |                            | Fatima Fihriya 小学校                   | 17             | 23   | 23   |      |
|                     |                            | Lafquir Allal 分校                     | 15             | 13   | 13   |      |
|                     |                            | Al Kindi 中学校                         |                |      |      | 606  |
| マラケシ<br>ュ・サフィ       | アルハウ<br>ズ                  | Tamazouzte 中学校                       |                |      |      | 305  |
|                     |                            | Tamakoste 小学校                        | 32             | 9    | 9    |      |
|                     |                            | Toug 分校                              | 13             |      |      |      |
|                     |                            | Houman El Fetouaki 中学校               |                |      |      | 452  |
|                     |                            | Ait Ouakstit 小学校                     | 42             | 51   | 51   |      |
|                     |                            | Izrafen 分校                           | 30             | 22   | 22   |      |
|                     | シシャウ<br>ア                  | Mohamed V 中学校                        |                |      |      | 157  |
|                     |                            | Affetas 小学校                          | 18             | 19   | 19   |      |
|                     |                            | Tabia 分校                             | 16             | 18   | 18   |      |
|                     |                            | Timzgadiouine 中学校                    |                |      |      | 171  |
|                     |                            | Tazidra 小学校                          | 14             | 13   | 13   |      |
|                     |                            | Diran 分校                             | 34             | 34   | 34   |      |
| 合計                  |                            |                                      | 1597           | 1543 | 1628 | 4965 |

出所：プロジェクトチームにより作成

診断テスト実施後、答案用紙を収集しプロジェクト事務所において結果の入力作業を行い、以下の帳票が出力された。

- ① テスト結果概要
- ② 受験者全体正答率分布
- ③ 受験者全体小問別正答率
- ④ クラス別小問別反応表



- ⑤ クラス別小問別正答率
- ⑥ 個人別指導用資料

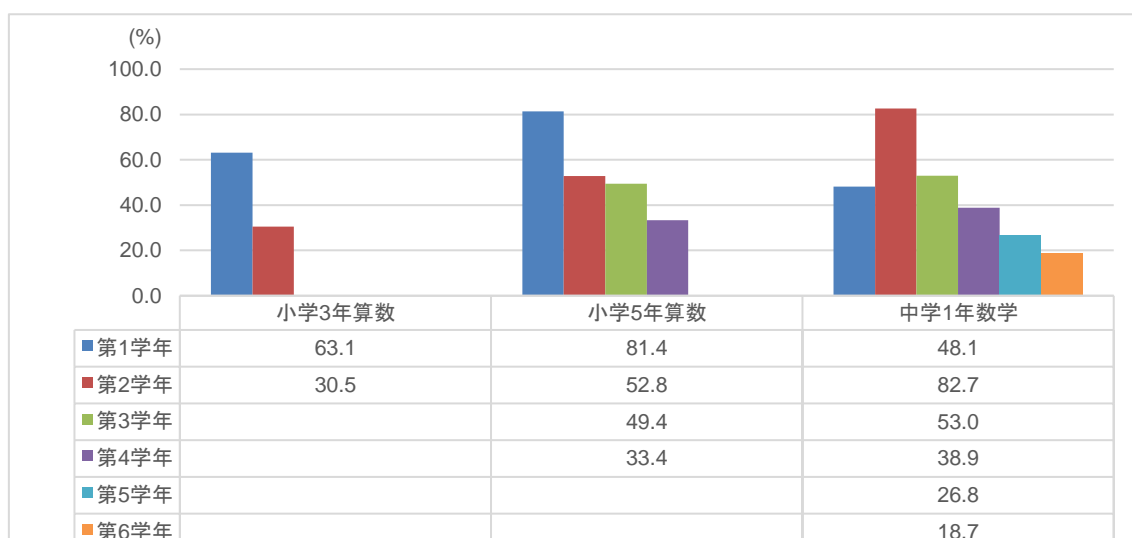
帳票は、テストに参加した各学校に結果を通知して児童生徒の指導改善に役立ててもらうため、表8のとおりフィードバック会議を開催して、帳票の活用方法の資料と共に配布した。

表8：2016/2017年度診断テスト・フィードバック会議日程

| 月日     | 場所                    | 対象県                   | 参加者                                 |
|--------|-----------------------|-----------------------|-------------------------------------|
| 11月16日 | 旧ドゥカラ・アブダ州<br>AREF 庁舎 | エルジャディーダ県<br>シディバヌール県 | 県 PEEQ コーディネーター<br>テスト参加校学校長<br>視学官 |
| 11月17日 | シディスリマン県<br>教育局       | シディスリマン県<br>シディカセム県   |                                     |
| 11月24日 | セタット県教育局              | セタット県<br>ベルシッド県       |                                     |
| 11月25日 | アルハウズ県教育局             | アルハウズ県<br>シシャウア県      |                                     |

出所：プロジェクトチームにより作成

2016年12月より、日本人専門家とモロッコ人視学官とが共同で、診断テストの結果報告書の執筆・編集を継続して行い、報告書は2017年7月20日のプロジェクト運営委員会において承認され、850部印刷され、2017/2018年度初頭にテスト実施校などに配布された。上述のとおり、2016/2017年度診断テストは、児童がどこでつまづいているのかを特定するために、系統的に問題を配列して出題した。テスト結果からは、図2が示すように、低学年の学習内容ですでにつまづき、その後は次第に分かれないことが積み上がっていく様子が明白になった。



注：中1のテストにおいて、小学1年で学んだ内容の問題の正答率が低くなっているが、これは座標の中の点の移動に関する問題1題のみの正答率を示しており、中学生はあまりその種の問題に慣れていないため、正答率が低くなってしまっている。

出所：『2016年診断テスト結果分析報告書』（p.13）

図2：学習学年別平均正答率（算数・数学）

PEEQによる指導方法の改善に係る介入の有効性を検証するため、2016/2017年度開始時である2016年9月～10月に実施した診断テストと同様のものを、同テストを実施した学校（PEEQプロジェクトのパイロット校）ならびにプロジェクト非対象校において、年度終了時期に当たる2017年5月25日から6月9日に実施した。以下の手順によりサンプルを抽出し、合計21校（小学校16校、中学校5校）でテストを実施した（表9参照）。

#### サンプル抽出方法

- (1) 2016年9・10月のテスト結果（学校毎平均点）を基に4つの階層に分割した上で、各階層から無作為に対象を選ぶ層化抽出法により12校（小学校8校、中学校4校）
- (2) 2016年2月の補助教材配布時に、教材活用のパイロット校として登録された学校のうち、(1)で選出された学校を除く4校（小学校のみ）
- (3) プロジェクト開始当初に、インパクト評価にて比較対象校として選出された学校から、層化抽出法により無作為に抽出した5校（小学校4校、中学校1校）

表9：2017年5・6月診断テスト実施校

| 州           | 県                 | 学校名                                   |                           |                    |
|-------------|-------------------|---------------------------------------|---------------------------|--------------------|
| カサブランカ・セタット | セタット              | Labioud 小学校                           |                           |                    |
|             |                   | Sidi Hajjaj 中学校                       |                           |                    |
|             |                   | Ezraoula 小学校                          |                           |                    |
|             | ベルシッド             | Ezzmamra 分校 (Lebrahma 小学校)            | El Hay El Hassani 小学校     |                    |
|             |                   |                                       | Ibn El Haytam 小学校         |                    |
|             |                   |                                       | Errhahoua 小学校             |                    |
|             |                   |                                       | Jouamaa 分校 (Lakrarba 小学校) |                    |
|             | エルジャディーダ          | Ouled Si Abbou 小学校                    | Oued Eddahab 中学校          |                    |
|             |                   |                                       | シディベヌール                   | Bni Hilal 小学校      |
|             |                   |                                       |                           | Lamribtate 分校 (同校) |
|             | El Baroudi 中学校    |                                       |                           |                    |
|             | Ouled Yakhlef 小学校 |                                       |                           |                    |
|             | ラバト・サレ・ケニトラ       | シディスリマン                               | PAM 小学校                   |                    |
|             |                   |                                       | El Kceibya 中等教育学校         |                    |
| シディカセム      |                   | Wlad Sghiyer 分校 (Ibn El Khathib 小学校)  |                           |                    |
|             |                   | Lafquir Allal 分校 (Fatima Fihriya 小学校) |                           |                    |
| マラケシュ・サフィ   | アルハウズ             | Ait Ouakstit 小学校                      |                           |                    |
|             | シシャウア             | Tazidra 小学校                           |                           |                    |
|             |                   | Timzgadiouine 中学校                     |                           |                    |

出所：プロジェクトチームにより作成

主な分析結果については、次のとおり。

- 2016年9月～10月に実施したテストの結果と比較して、テスト参加者の学年別の平均正答率は大きく上昇した（小学3年算数：39.5%→68.4%、小学5年算数：39.5%→74.5%、中学1年数学31.9%→48.7%、小学5年理科：50%→73.9%）。しかしながら、介入群と比較群との間

に統計的な有意差は見られなかった。

- PEEQ の諸活動に積極的な取り組みを行った学校について、参加校全体の平均より低かったところが優秀校レベルに追い付く結果を残したり、特に正答率 50%以下の児童がほとんどいなくなったりするなど、PEEQ の介入に対して有望な示唆を得ることができた。
- 学年末に行った今回のテスト結果と、新学年度開始当初に行った前回のテスト結果を比べたときに、同レベルの問題に対する正答率が、例えより高い学年の児童生徒であっても年度初めの方が低い傾向が見られた（例えば小学 2 年生レベルの問題の正答率は、2017/2018 年度初めの小学 5 年生の方が同年度末の小学 3 年生より低く、同様に年度初めの中学 1 年生の方が、年度末の小学 5 年より低い）。このことから、夏季長期期間中に既習事項の多くが忘れられていることが示唆され、児童生徒の基礎学力の習熟不足、未定着の問題が浮き彫りになった。

診断テストの今後の普及に向けて、MENFPESRS が既に全国的に展開をしている既習事項確認テストと PEEQ の診断テストとの統合を行うこととなり、補完的なテスト問題作成をモロッコ人視学官らの手により行うためのワークショップを、2017 年 7 月と 9 月に、プロジェクトチームと CNEEO が協力して実施した。

しかしながら、2017 年 9 月 19 日～25 日に開催した対象校の校長向け説明会において、PEEQ 診断テストを統合した既習事項診断テストを DVD に納めた電子版として配布したものの、MENFPESRS から指定された 2017/2018 学年度の既習事項確認テスト実施期間が 9 月 8 日～15 日であったことや、テスト用紙の印刷経費を県教育局や学校が負担できなかったため、PEEQ の開発した診断テストの活用度合いは限定的であった（対象校 111 校中少なくとも 43 校が活用）。

#### (1-6) 基礎学力向上対策を開発し、指定学校群で試行する

基礎学力向上対策の開発は、まずカリキュラム分析を行うことから開始した。2015 年 1 月に、シャウィア・ウルディガ州 AREF とドゥカラ・アブダ州 AREF（当時）でワークショップを開催し、現行<sup>2</sup>の初等教育の算数及び理科のカリキュラムを分析して、学習内容の系統図を作製した。これは補助教材作成の準備作業の一環として行われたものであり、視学官と日本人専門家が協力して行った。以下、算数と理科に分けて、教科ごとに開発した基礎学力向上対策を記す。

##### 【算数】

初等算数教育の補助教材として、練習問題集を開発した。開発には 2015 年 4 月から 2016 年 3 月までの約 1 年を要し、CNEEO の指揮の下、断続的に日本人専門家とモロッコ人視学官がワークショップを開催して作業を行った。その間、カリキュラム局（DC）や国立教育イノベーション研究センター（CNIPE）と意見交換を行ったり、未定版で試用を行ったりして、改善の努力を重ね、質の高い教材の作成に努めた。

開発された補助教材は図 3 の写真のような 5 冊 1 セットの算数問題集である。その構成は次の

<sup>2</sup> 2018/2019 年度から小学 1 年・2 年のカリキュラムは改訂版が施行される。したがって、それら 2 学年については、2017/2018 年度まで有効なという意味となる。

とおりで、小学算数の現行カリキュラムに記載されている全ての学習内容を、学習学年別ではなく、算数教育の原理に基づく系統順に並べて、あらゆる学年の児童生徒が利用できるものとした。

#### PEEQ 算数問題集の構成

- 「数と計算」領域
  - 整数のたし算とひき算
  - 整数のかけ算とわり算
  - 小数と分数
- 「図形」領域
- 「量と測定」領域



図 3 : PEEQ 算数問題集

同問題集を教員が容易に使用することができるように、教員用の「問題集使用法ガイドブック」も併せて開発された。ガイドブックに記載された、推奨される主な問題集の使い方は以下のとおりである。使用法の説明は、教材配布時に校長や教員に対して行った。

- 毎日の算数の授業開始時 10～15 分間の反復練習
- 複式学級の授業で、他の学年への指導を教員が行っている最中の、自習用の教材として利用
- 各学年の初めに診断評価を行うための評価教材として利用
- 授業中の算数の概念学習の後の数学化（応用）の時間に練習する問題として利用
- 自宅学習のための宿題として利用

第 1 フェーズ（旧シャウィア・ウルディガ州とドゥカラ・アブダ州）では、問題集を対象学校群内の全ての小学校に 1 年生～6 年生の児童数分を配布した（表 10 参照）。

表 10 : 第 1 フェーズの県別算数問題集配布数

| 県        | 配布部数                   |                        |           |                 |        |          |                        |                       |
|----------|------------------------|------------------------|-----------|-----------------|--------|----------|------------------------|-----------------------|
|          | 整数の<br>足し算<br>と<br>引き算 | 整数の<br>掛け算<br>と<br>割り算 | 小数と<br>分数 | 数と<br>計算<br>解答集 | 図形     | 量と<br>測定 | 図形・<br>量と測<br>定<br>解答集 | 教員向<br>け<br>使用ガ<br>イド |
| セタット     | 2,700                  | 2,200                  | 1,300     | 600             | 2,700  | 2,700    | 600                    | 140                   |
| ベルシッド    | 5,700                  | 4,700                  | 2,800     | 1,200           | 5,700  | 5,700    | 1,200                  | 240                   |
| エルジャディーダ | 9,400                  | 7,700                  | 4,600     | 2,050           | 9,400  | 9,400    | 2,050                  | 410                   |
| シディブヌール  | 3,700                  | 3,100                  | 2,000     | 900             | 3,700  | 3,700    | 900                    | 200                   |
| 合計       | 21,500                 | 17,700                 | 10,700    | 4,750           | 21,500 | 21,500   | 4,750                  | 990                   |

出所：プロジェクトチームにより作成

第2フェーズでは、診断テストの結果に基づきつまずきの治療のために問題集を使用するという観点から、2016年9月に診断テストを行った児童に対して、算数問題集を配布した（表11参照）。その後、2017年9月には、DVDに納めた電子コピー版として印刷用の用紙やインクカートリッジと共に、対象学校群内の全ての小中学校に配布した。

表11：第2フェーズの県別算数問題集配布数

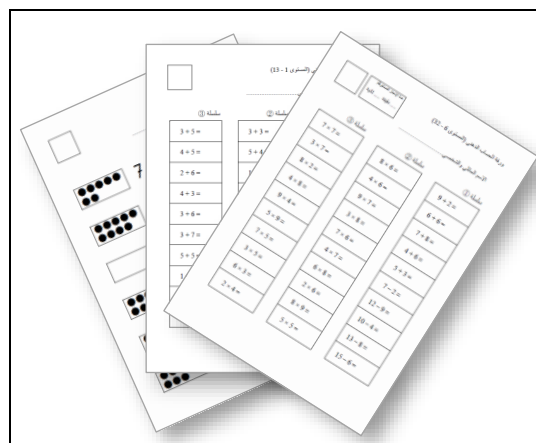
| 県       | 配布部数                   |                        |           |                 |       |          |                        |                       |
|---------|------------------------|------------------------|-----------|-----------------|-------|----------|------------------------|-----------------------|
|         | 整数の<br>足し算<br>と<br>引き算 | 整数の<br>掛け算<br>と<br>割り算 | 小数と<br>分数 | 数と<br>計算<br>解答集 | 図形    | 量と<br>測定 | 図形・<br>量と測<br>定<br>解答集 | 教員向<br>け<br>使用ガ<br>イド |
| シディスリマン | 650                    | 650                    | 650       | 45              | 650   | 650      | 45                     | 45                    |
| シディカセム  | 600                    | 600                    | 600       | 40              | 600   | 600      | 40                     | 40                    |
| アルハウズ   | 350                    | 350                    | 350       | 30              | 350   | 350      | 30                     | 30                    |
| シシャウア   | 300                    | 300                    | 300       | 25              | 300   | 300      | 25                     | 25                    |
| 合計      | 1,900                  | 1,900                  | 1,900     | 140             | 1,900 | 1,900    | 140                    | 140                   |

出所：プロジェクトチームにより作成

次に、2016年9月・10月の診断テストの結果、特に学習内容の系統性が重要な算数において、基礎的な計算能力の不足が、その後の学習内容の習得に対する大きな障害となっていることが判明した。そうしたつまずきの解消のために有効と思われる数字カードと暗算プリントを、「基礎計算力習熟用補助教材」として、使用法のガイドブックとともに開発した（図4参照）。

これらの教材を使用して、毎日算数の授業の初めの5分間を暗算練習の時間にあて、全ての計算の基礎となる9+9までのたし算、18-9までのひき算、かけ算九九の暗算を素早く行う力を習熟・定着させること提唱し、パイロット校で試行した。

印刷された数字カードと使用法ガイドブックは、2017年9月からの新学年度に、診断テストを行ったパイロット校（小学校32校）を対象に配布された（表12参照）。2017年9月から年間を通じて、数字カードの使用法についての指導を、プロジェクトチームが教員に対して行った。また、使用法ガイドブックはその後、改訂が加えられ、後述する『公平で質の高い教育振興のための実践ガイドブック』の1分冊として納められ、2018年7月、対象校全校に配布された。



出所：プロジェクトチームにより作成

図4：数字カード（右）と暗算プリント（左）

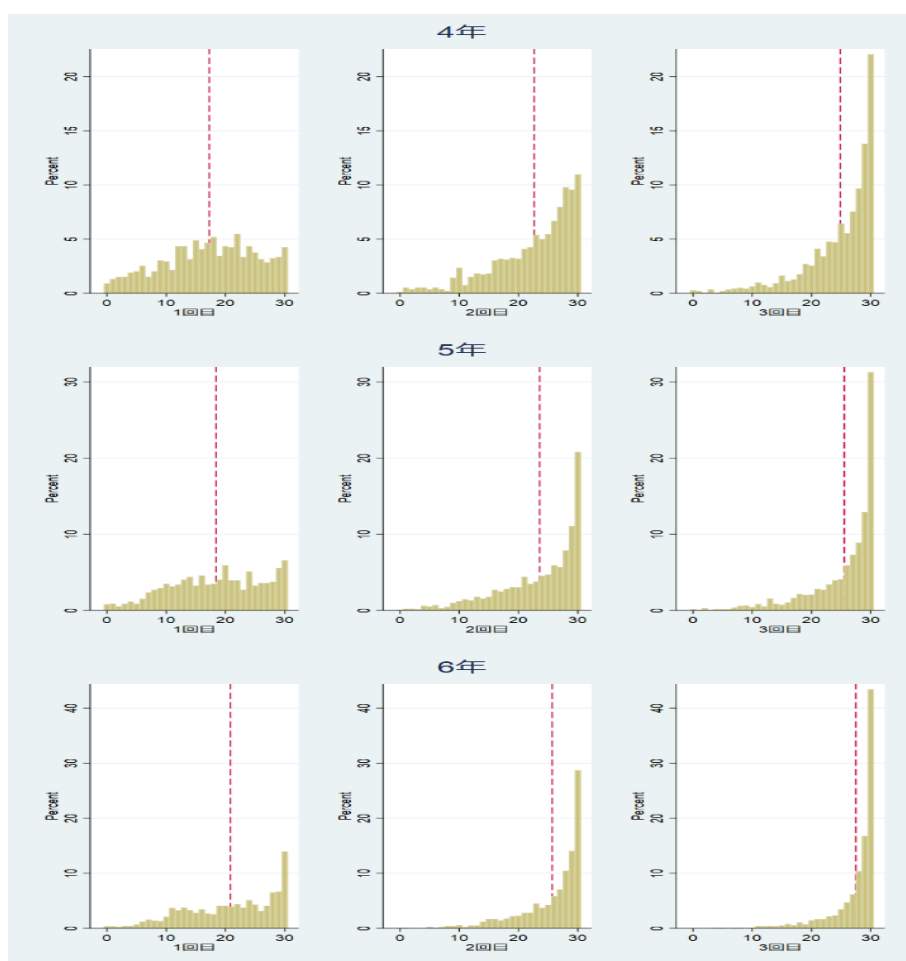
表12：毎日5分間暗算練習のパイロット校

| 州           | 県                         | 学校名                                 |
|-------------|---------------------------|-------------------------------------|
| カサブランカ・セタット | セタット                      | Labioud Centre 小学校、Ouled Yaich 分校   |
|             |                           | Lakhrwaa 小学校、Laamarat 分校            |
|             | ベルシッド                     | Hay Hassani 小学校、Ibn Elhaytam 小学校    |
|             |                           | Laghnimiine Centre 小学校、Ezzmamra 小学校 |
|             | エルジャディーダ                  | Laazizate 小学校、Jouamaa 分校            |
|             |                           | Tnine Hachtouka 小学校、Ezzouazi 分校     |
| シディベヌール     | Lakhoulda 小学校、Lahmamna 分校 |                                     |
|             | Bnihlal 小学校、Lamribtate 分校 |                                     |
| ラバト・サレ・ケニトラ | シディスリマン                   | 2 Mars 小学校、Oulad Ben Dib 分校         |
|             |                           | PAM 小学校、Sidi Omar Chelh 分校          |
|             | シディカセム                    | Ibnel Khatib 小学校、Wlad Sghiyer 分校    |
|             |                           | Fatima Fihriya 小学校・Lafquir Allal 分校 |
| マラケシュ・サフィ   | アルハウズ                     | Aitwakstite 小学校・Izrafen 分校          |
|             |                           | Tamakoste 小学校・Toug 分校               |
|             | シシャウア                     | Tazidra 小学校・Diran 分校                |
|             |                           | Affetas 小学校・Tabia 分校                |

出所：プロジェクトチームにより作成

数字カード・暗算プリントを用いた毎日5分間の暗算練習の効果を検証するため、介入前（2017年9月・10月）、第1学期終了時（2018年1月）、エンドライン調査時（2018年4月）の3回にわたり、基礎計算力の習熟度<sup>3</sup>を測るテストを実施した。その結果、図5に示すとおり、飛躍的に基礎計算力が上昇し、4年生以上の児童の平均正答率は、67%から87%に上昇した。

<sup>3</sup> 「基礎計算力の習熟度」はプロジェクトの基本文書であるPDMにより、9+9までのたし算、18-9までのひき算、かけ算九九の問題を含む小テストにより測定すると定められている。



出所：PEEQで実施したテスト結果に基づきプロジェクトチームにより作成

注釈：点線の垂直線は、各グループの平均値を示している。

図5：基礎計算力テストにおける得点別児童数割合の分布（30点満点）

さらに、既習事項確認テストの結果に基づき、児童がつまづきやすいポイントである「筆算における位取り」「くり上がりのあるたし算」の治療用教材を作成し、表12に示したパイロット校で、2018年2月から4月の間に試行した。

#### (1-7) MENFPESRS/AREFが、学びを改善する効果的な教授法、授業技術を検討する

プロジェクト設計の過程において、教育改善のための方策のひとつとして、「誤答分析」がひとつのキーワードとなった。日本人専門家とモロッコ側のパートナーは、学校現場での教育の現状を確認するために、プロジェクト対象地域にある小中学校において、プロジェクト開始直後から数度にわたり、授業観察を行った。授業観察の結果、「誤答を含む児童生徒の考え方を活かした授業づくり」が十分なされていないことが判明し、「誤答の教育学」に基づく教育改善が有効なのではないかとの仮説が立てられた。この方針は、2014年10月のプロジェクト概要書策定ワークショップで検討され、同年12月の第1回合同調整委員会（JCC）で承認された。

2015年3月の診断テストの結果を誤答分析した結果は、活動(1-5)に関する報告の中でも述べた

ように、MENFPESRS が承認した報告書に取りまとめられた。その中で、各問題の典型的な誤答について、想定される理由と、そうした誤答を生まないための教育方法改善に向けた助言が記載された。後述するように、こうした分析結果は、報告書発表後に実施された一連の教員研修において活用され、教育方法の改善に役立てられた。

一方、モロッコにおける既習事項確認テスト実施経験の中で、テスト結果を教育現場でどのように活用するかという課題が、長年解決されずに存在していた。2016年9月・10月の診断テストの結果もまた、分析は中央レベルでプロジェクトチームによって行われたが、その分析結果を活用して授業改善に結びつけるためのワークショップを、各テスト実施校において開催することが企図された。将来的な広域への普及もめざして、こうしたワークショップの開催方法を現場の教員に伝達するため、「教育・学習プロセスの改善に向けた誤答の教育学実践のための研修モジュール」を開発することとなり、2016年11月から12月にかけて、3名の日本人専門家と共に、CNEEO や DC の職員、8名のモロッコ人視学官らにより開発が行われた。その内容の概要は次のとおりである。

- 理論編 誤答の分析学
  - 学習における誤答
  - 教育・学習プロセス改善のための誤答の活用
- 実践編 児童生徒の誤答を活用した教育・学習改善のためのワークショップ開催方法  
補助教材の適切な活用方法

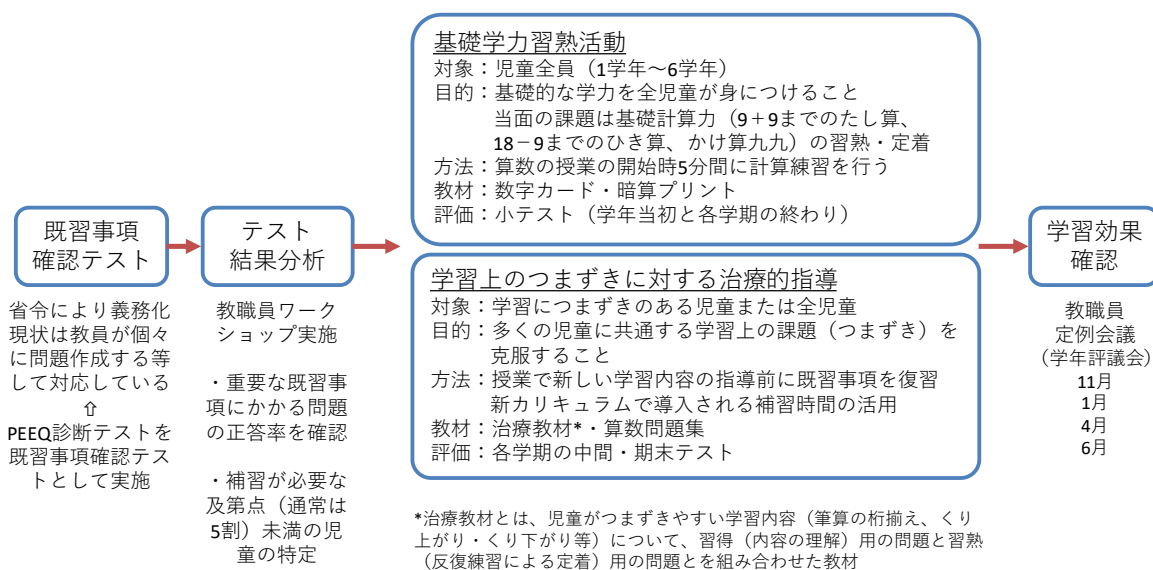
なお、同研修モジュールの想定されている利用方法は、視学官が学校を訪れ教員を指導するときに利用するというものである。この印刷物の研修モジュールを補完し、仮に視学官が学校を訪れて研修を行うことができなくても、教員らの手によりテスト結果の分析ワークショップができるようにするため、あるいは視聴覚に訴えることで視学官による研修を一層分かりやすくするため、さらにはいつでも繰り返し研修内容を確認することができるようにするため、研修モジュールのビデオ版も開発された。内容は印刷版とほぼ同様であるが、実践編により重点を置くとともに、分かりやすいものとなっている。印刷版とビデオ版のモジュールは、2017年9月に、診断テスト用紙（MENFPESRS の既習事項確認テストと統合され「既習事項診断テスト」と呼ばれる）と共に、プロジェクト対象校に配布された。

以上のような経緯を経、また2016年10月のJICA本部による運営指導調査からの提言を踏まえ、全国的な普及に向けて、PEEQにより導入された教育の質改善にかかる諸活動のパッケージ化が進められた。当初、プロジェクトが介入する範囲としては、前期中等レベルの数学教育や初等理科教育も含まれており、プロジェクトでも可能な限りの支援を行ってきたが、普及させるパッケージとしては、初等算数教育に的を絞ることになった。プロジェクトの中で開発された副教材のほとんどが初等算数に関わるものであり、それ以上に介入の範囲を広げることは、効果が見込めるか否か（有効性）という見地から慎重になることが必要であった。

図6に示すのが、プロジェクト終了後も引き続きMENFPESRSが全国普及を推進する「初等算



数教育における基礎学力評価習熟のための教育モデル<sup>4</sup>」である。



出所：MENFPESRS「初等算数教育における基礎学力評価習熟のための教育モデル全国普及計画」、2017年6月（和訳はプロジェクトチーム）

図6：初等算数教育における基礎学力評価習熟のための教育モデル

**【理科】**

プロジェクトによる初等理科教育に対する介入は、2015年の診断テストにおける小学5年生・6年生のテスト結果の誤答分析、並びにそれに基づく教育改善への助言、そして2016年の診断テストにおける小学5年生のテスト結果の分析と関連する助言であった。2015年診断テストを実施した後、後述する理科教育改善のためのワークショップが開催され、参加した視学官や教員らが、現状と比べて観察や実験をより重視した授業案を作成した。彼らが作成した授業案の数は30以上に上り、こうした研修が組織的に普及していけば、教育改革に具体的なインパクトを与えうる可能性はあった。

さらに、2016年診断テストの結果に基づく提言には、次のようなものが含まれている。

- ・ 理科教育に科学的アプローチ（探求や実験に基づく学習）を採用する。
- ・ 授業を行う際に学校の周囲にある素材を活用する。

しかしながら現状と比較して、こうしたアプローチを導入した授業を構築するためには、根本的な教育内容や教育方法の見直し、継続的で大規模な教員研修を行う必要があり、PEEQの枠組みで行うのは現実的に困難であった。実際に、それを可能とするような日本側からの投入

<sup>4</sup> 「教育モデル」を意味する *modèle pédagogique* という語は、教育改革に係る最高位の政策文書である *Vision Stratégique de la Réforme 2015-2030* において、教育内容や教育方法を含む国内の教育全体のあり方という意味合いで使われていることから、本件では使用しない方が混乱を避けるうえで望ましいということが分かった。よって、仏語並びに対応するアラビア語では、「進め方」を意味する *démarche* という語を使うことになった。ただし、本案件の中で、日本語では引き続き「教育モデル」を訳語として使うこととする。

が用意されていた訳ではないのである。

### 【算数・理科共通】

一方でMENFPESRS、特にカリキュラム局（DC）は、PEEQプロジェクトの果実を全国的に普及し、しかも一過性の普及でなく永続性のあるものとするために、現在ちょうど改訂中であるカリキュラム並びにそれに基づく教科書の中に、PEEQの紹介した教育手法を統合することを推し進めた。小学1年・2年のカリキュラム及び教科書は、2018/2019年度から改訂版が施行されることが決まっていたので、2017年10月～2018年4月にかけて、日本人専門家から改訂の方向性や改訂すべき学習内容に関する助言を聞き、それをカリキュラム改訂作業に反映させた。とりわけ算数については、上述した「初等算数教育における基礎学力評価習熟のための教育モデル」を全面的に取り入れた小学1・2年用改訂版カリキュラムが、日本人専門家とともに、これまでプロジェクトに関与してきた視学官が参加したワークショップで2018年2月に策定され、公式な意見聴取のプロセスを経て最終化された。理科の改訂版カリキュラムも、日本人専門家からの助言を積極的に取り入れたものとなった。

さらに2018年4月7日～9日には、DCが教科書執筆者を対象とする「初等教育第1・第2学年の算数・理科の教科書改訂ワークショップ」を開催し、日本人専門家が執筆者に以下に関して技術移転を行った。PEEQの教育方法が反映された改訂版教科書が開発されることが期待されている。

- 教科書改訂の背景と方針
- PEEQの実績と普及モデル
- 改訂版教科書（小学1・2年、算数・理科）の構造と内容構成
- 改訂版教科書（同上）のページ構成

(I-8) 担当視学官が通常の視学業務の一環として上記（学びを改善する効果的な教授法、授業技術）を紹介する

上述した「学びを改善する効果的な教授法、授業技術」、すなわち具体的に言えば「初等算数教育における基礎学力評価習熟のための教育モデル」の視学官による学校現場への伝達は、本プロジェクトの枠組みの中では、不定期に行われる通常の視学業務の一環というよりむしろ、教員への研修という形で実践された。もちろん、視学官の本来の役割として教員への指導が含まれており、教員への個別の指導とするか、集合研修の形態をとるかは、視学官の裁量に任されているので、「研修」もまた通常の視学業務の一環と呼んで差し支えないのであるが、ここでは活動(I-10)の研修会実施の項目の中で、視学官のPEEQへの貢献を報告する。

(I-9) 日本人専門家が視学官とCRMEF教官に対して研修会を実施する

本プロジェクトの実施期間を通じ、プロジェクトの活動としての、教育方法に係る教員対象の集合研修は、計4回実施された。2015年2月、2015年10月、2016年3月、そして2017年2月～4月である。それぞれの教員を対象とした研修会の実施に先立ち、その内容を検討し、視学官やCRMEF教官が同研修会におけるファシリテーターの役割を果たせるようにするため、研修会

あるいは協議会を行った。表 13 に実施概要の一覧を示す。

表 13 : 視学官・CRMEF 教官対象研修会実施概要

| 回 | 日程                          | 会場                        | 参加者  | 主な内容   |
|---|-----------------------------|---------------------------|--|--|
| 1 | 2015年2月<br>11日              | シャウィア・<br>ウルディガ州<br>AREF  | AREF 職員 1 名、視学官<br>4 名、CRMEF 講師 3 名、<br>Delegation 職員 1 名、専<br>門家チーム 3 名 (計 12<br>名)                   | ビデオによる日本の小学校の算数の<br>授業 (単式・複式)、モロッコの複式<br>授業の観察・協議   |
|   | 2015年2月<br>16日              | ドゥカラ・ア<br>ブダ州 AREF        | 視学官 7 名、CRMEF 講<br>師 1 名、専門家チーム 4<br>名 (計 12 名)  | シャウィア・ウルディガの研修会で<br>作成した模擬授業のビデオの視聴、<br>モロッコでの授業改善点の協議、ビ<br>デオによる日本の小学校の算数の授<br>業 (単式・複式) の観察・協議 |
| 2 | 2015 年 10<br>月 12 日         | シャウィア・<br>ウルディガ州<br>AREF  | AREF 職員 2 名、視学官<br>5 名、CRMEF1 名、<br>Delegation 職員 2 名、専<br>門家チーム 6 名<br>(計 16 名)                       | 教員を対象とした研修会の実施に先<br>立ち、その内容を検討し、視学官や<br>CRMEF 教官が同研修会におけるフ<br>ァシリテーターの役割を果たせるよ<br>うにするための協議      |
|   | 2015 年 10<br>月 19 日         | ドゥカラ・ア<br>ブダ州 AREF        | AREF 職員 1 名、視学官<br>3 名、CRMEF 教官 2 名、<br>専門家チーム 5 名 (計 11<br>名)   |  |
| 3 | 2016年2月<br>29日              | 旧ドゥカラ・<br>アブダ州<br>AREF    | 州コーディネーター1<br>名、視学官 8 名、CRMEF<br>教官 1 名、専門家チーム<br>8 名 (計 18 名)   | 教員を対象とした研修会の実施に先<br>立ち、その内容を検討し、視学官や<br>CRMEF 教官が同研修会におけるフ<br>ァシリテーターの役割を果たせるよ<br>うにするための協議      |
|   | 2016年3月<br>14日              | セタット県教<br>育局              | MENFP カリキュラム局<br>職員 1 名、PEEQ 州およ<br>び県コーディネーター3<br>名、視学官 9 名、CRMEF3<br>名、プロジェクト専門家<br>チーム 4 名 (計 20 名) |  |
| 4 | 2017年1月<br>19日～20<br>日      | CNEEO 会 議<br>室            | ファシリテーター4 名、<br>運営者 3 名、州視学官コ<br>ーディネーター8 名  | ナショナルチーム (モジュール開発<br>者) による中央レベルでの州視学官<br>コーディネーターへの講師養成研修                                       |
|   | 2017 年 1<br>月 26 日～<br>27 日 | カサブラン<br>カ・セタット<br>州 AREF | ファシリテーター3 名、<br>セタット県、ベルシッド<br>県、エルジャディーダ<br>県、シディベヌール県に<br>おける診断テスト実施<br>校を担当する学区担当<br>視学官            |  |
|   | 2017 年 1<br>月 26 日～<br>27 日 | シシャウア県<br>教育局             | ファシリテーター3 名、<br>アルハウズ県、シシャウ<br>ア県における診断テス<br>ト実施校を担当する学<br>区担当視学官                                      |  |

|                |            |   |  |
|----------------|------------|---|--|
| 2017年3月16日～17日 | シディカセム県教育局 | ファシリテーター2名、シディスリマン県、シディカセム県における診断テスト実施校を担当する学区担当視学官 |  |
|----------------|------------|---|--|

出所：プロジェクトチームにて作成

(1-10) 研修を受けた視学官と CRMEF 教官が日本人専門家の支援を受けつつ教員に対して研修会を実施する

教育の質の向上のために、表 14 の要領にて教員を対象とした第 1 回から第 3 回までの研修会が行われた。これら第 1 ラウンドに行われた研修は、いずれも県レベル（2 県が合同で開催する場合もあった）で行われ、各学校から代表の教員が参加した。また、2017 年 2 月から 4 月には、「教育・学習プロセスの改善に向けた誤答の教育学実践のための研修モジュール」に沿って、視学官の指導の下に学校レベルで誤答分析のワークショップが、表 15 のとおり実施された。会場については、当該学校で実施することが想定されていたが、各県教育局の判断により、より効果的であると思われる場合は、県教育局で複数の学校の教員を集めて行う場合もあった。

表 14：視学官・CRMEF 教官対象研修会実施概要

| 回 | 日程              | 会場                                 | 参加者  | 主な内容  |
|---|-----------------|------------------------------------|--|---|
| 1 | 2015年2月12日、13日  | セタット県 Sidi Hajjaj 中学校(バルシッド県も合同開催) | 教員 39 名、校長 2 名、学監 2 名、視学官 4 名、PTA 代表等 4 名、AREF 職員 1 名、専門家チーム 6 名 (計 58 名)      | ビデオによる日本の小学校の算数の授業(単式・複式)、専門家による模擬事業、グループ毎に模擬授業のビデオ制作   |
|   | 2015年2月17日、18日  | ドゥカラ・アブダ州 CRMEF(エルジャディーダ県)         | 教員 64 名、視学官 2 名、CRMEF 講師 1 名、AREF 職員 1 名、Delegation 職員 1 名、専門家チーム 4 名 (計 73 名) |   |
|   | 2015年2月19日、20日  | シディブヌール県 Le 30 juillet 中学校         | 教員 46 名、視学官 1 名、AREF 職員 1 名、Delegation 職員 1 名、専門家チーム 4 名 (計 53 名)              |   |
| 2 | 2015年10月13日、14日 | セタット県 Al Qodos 中学校                 | 教員 17 名、視学官 1 名、CRMEF 教官 2 名、専門家チーム 6 名 (計 26 名)                               | 1. 児童の習熟度に関して、期待値と現実にギャップがあることを知る。<br>2. 誤答を分類することによって、児童に対する指導の焦点化が図れる。<br>3. テスト結果の分析を行い、指導の問題点が指摘できる。<br>4. 分析をもとに、具体的な授業改善ができる。 |
|   | 2015年10月16日、17日 | バルシッド県内学校                          | 教員 18 名、視学官 2 名、Delegation 職員 1 名、専門家チーム 5 名 (計 26 名)                          |   |
|   | 2015年10月20日、21日 | ドゥカラ・アブダ州 CRMEF(エルジャディーダ県)         | 教員 42 名、AREF 職員 1 名、視学官 2 名、CRMEF 教官 2 名、Delegation 職員 1 名、専門家チーム 5 名 (計 53 名) |   |
|   | 2015年10月22日、23日 | シディブヌール県 Le 30 juillet 中学校         | 教員 18 名、AREF 職員 1 名、CRMEF 教官 1 名、Delegation 職員 1 名、専門家チーム 3 名 (計 24 名)         |   |

|   |                    |                                   |  |   |
|---|--------------------|-----------------------------------|--|---|
| 3 | 2016年3月<br>1日、2日   | エルジャディー<br>ダ CRMEF                | 教員 48 名、州コーディネーター1名、視学官3名、CRMEF 教官1名、県教育局職員1名、専門家チーム7名(計61名) | 1. 探究的な理科学習の授業構成を知る。<br>2. 児童には、児童自らが考えた科学概念があることを知る。<br>3. 理科学習とは、児童自らがもつ科学概念(素朴概念)を科学概念に変換する学習であることを知る。<br>4. いろいろな実験方法を知り、その生かし方を考える。<br>5. 探究的な学習に基づく指導案を作成する。<br>6. 授業構成に即したワークシートを作成する。 |
|   | 2016年3月<br>3日、4日   | シディベヌール<br>県 Le 30 juillet<br>中学校 | 教員 28 名、州コーディネーター1名、視学官3名、県教育局職員1名、専門家チーム7名(計40名)            |   |
|   | 2016年3月<br>15日、16日 | セタット県教育<br>局                      | 教員 13 名、CRMEF 教官2名、専門家チーム3名(計18名)                            |   |
|   | 2016年3月<br>17日、18日 | ベルシッド県<br>Imam Malik 高<br>校       | 教員 74 名、視学官3名、県教育局職員1名、専門家チーム4名(計82名)                        |   |

出所：プロジェクトチームにて作成

表 15：教育・学習プロセスの改善に向けた誤答の教育学実践のための研修実施概要

| 州                   | 県                          | 学校名                                  | 日程        | 参加者数 | 講師人数 |    |   |
|---------------------|----------------------------|--------------------------------------|-----------|------|------|----|---|
| カサブラ<br>ンカ・セ<br>タット | セタット                       | Lakhrwaa Centre 小学校                  | 3/11、3/13 | 7    | 2    |    |   |
|                     |                            | Laamarat 分校                          |           |      |      |    |   |
|                     |                            | Laksass 分校                           |           |      |      |    |   |
|                     |                            | Labioud Centre 小学校                   | 3/17、3/20 |      |      |    |   |
|                     |                            | Ouled Yaich 分校                       |           |      |      |    |   |
|                     |                            | Oulad Bouamar 分校                     |           |      |      |    |   |
|                     | ベルシッド                      | Laghnimine Centre 小学校                | 3/3~4     | 30   | 3    |    |   |
|                     |                            | Ezzmamra 分校 (Lebrahma 小学校)           |           |      |      |    |   |
|                     |                            | El Hay El Hassani 小学校                | 3/3~4     |      |      | 36 | 2 |
|                     |                            | Ibnou Lhaytem 小学校                    |           |      |      |    |   |
|                     | エルジャ<br>ディー<br>ダ           | Laazizate 小学校                        | 3/9~10    | 6    | 1    |    |   |
|                     |                            | Jouamaa 分校 (Lakrarba 小学校)            |           |      |      |    |   |
|                     |                            | Tnine Hachtouka 小学校                  |           |      |      |    |   |
|                     |                            | Ezzouazi 分校 (Sidi Mhamed Moussa 小学校) | 3/3~4     |      |      |    |   |
| シディベ<br>ヌール         | Ibnou Sina 中学校             | 3/17                                 | 30        | 2    |      |    |   |
|                     | Baroudi 中学校                |                                      |           |      |      |    |   |
|                     | Lakhoulda 小学校              |                                      |           |      |      |    |   |
|                     | Lahmamna 分校 (Errachad 小学校) |                                      |           |      |      |    |   |
|                     | Lebzaghla 小学校              |                                      |           |      |      |    |   |
|                     | Bni Hlal 小学校               |                                      |           |      |      |    |   |
|                     | Lamribtate 分校              |                                      |           |      |      |    |   |
| ラバト・サ<br>レ・ケニ<br>トラ | シディス<br>リマン                | El Kceibya 中等教育学校                    | 4/3       | 13   | 2    |    |   |
|                     |                            | Safsaf 中学校                           |           |      |      |    |   |
|                     |                            | Pam 小学校                              |           |      |      |    |   |
|                     | Sidi Omar Chelh 分校         | 3/29                                 | 37        | 2    |      |    |   |

|                 |        |                        |           |    |   |
|-----------------|--------|------------------------|-----------|----|---|
|                 | シディカセム | 2 Mars 小学校             |           |    |   |
|                 |        | Oulad Ben Dib 分校       |           |    |   |
|                 |        | Dakhla 中学校             | 3/25、3/27 | 24 | 3 |
|                 |        | Fatima Fihriya 小学校     |           |    |   |
|                 |        | Walili 小学校             |           |    |   |
|                 |        | Lafquir Allal 分校       |           |    |   |
|                 |        | Al Kindi 分校            | 3/25、3/27 | 47 | 3 |
|                 |        | Ibn El Khatib 小学校      |           |    |   |
| Wlad Sghiyer 分校 |        |                        |           |    |   |
| マラケシュ・サファイ      | アルハウズ  | Tamazouzte 中学校         | 3/17      | 8  | 1 |
|                 |        | Houman El Fetouaki 中学校 | 3/6~7     | 19 | 1 |
|                 |        | Tamakoste 小学校          | 3月        |    |   |
|                 |        | Toug 分校                |           |    |   |
|                 |        | Ait Ouakstit 小学校       | 3月        |    |   |
|                 |        | Izrafen 分校             |           |    |   |
|                 | シシャウア  | Mohamed V 中学校          | 2/17      | 4  | 1 |
|                 |        | Timzgadiouine 中学校      | 2/28      | 6  | 1 |
|                 |        | Affetas 小学校            | 3月        |    |   |
|                 |        | Tabia 分校               |           |    |   |
|                 |        | Tazidra 小学校            |           |    |   |
|                 |        | Diran 分校               | 2/22~23   | 19 | 2 |

出所：プロジェクトチームにて作成

#### (1-11) 対象教員が授業計画を改善する

活動(1-10)に示した教員研修会を通じ、参加した教員は、誤答分析により明らかにされた児童生徒がつまづきやすいポイントに配慮して、改善された授業計画を作成した。

2015年2月と10月の教員研修に参加した教員による授業を、教員の勤務校を訪ねて観察し、研修の成果を確認したところ、児童の間違えやすいポイントに留意して丁寧に説明したり、児童の間違えた回答についてその理由をクラス皆で検討して理解を深めたりするなど、研修による授業改善の効果を確認することができた。

#### (1-12) 担当視学官が進捗を報告する

2017年2月から4月に実施された教員研修は、州レベルで研修を受けた学区担当視学官の指導によって、一部例外を除き各学校で開催されたものである。研修会を実施した視学官は、県教育局に報告を行い、研修会の成果等を伝えた。この業務完了報告書に記載された情報も、このようにして担当視学官からの報告によって集められたものである。

また、プロジェクトチームの日本人専門家やローカルスタッフが、学校を訪問してモニタリングを行う際に、その学区を担当している視学官とともに訪れることもしばしばあった。例えば、2016年5月から6月には、数か月前に行った補助教材配布の効果を確認するために、視学官と共

にプロジェクトチームが、問題集を使用しているクラスの観察、校長及び担当教員へのインタビュー、記載式のアンケート調査を行った。

しかしながら一方で、視学官が完全に通常の職務として進捗確認をするためには、その確認の対象が国の教育制度の中に位置づけられている必要がある。すなわち、視学官は教員をカリキュラムどおりの授業を行っているか否かという視点で評価するのであるから、カリキュラム中に「初等算数教育における基礎学力評価習熟のための教育モデル」が統合されていれば、必然的にそれに沿って視学活動を行うことになる。そのような意味から、今後はカリキュラム改訂によって、視学官が当該教育モデルをモニタリングする蓋然性が一層高くなる。

## (2) 成果 2 に係る活動

*成果 2：教育のアクセス及び質における格差是正のための活動を推進する学校運営の仕組みが試行され、採用される。*

成果 2 に係る活動については、プロジェクト開始当初からさまざまな変遷を経て、最終的な形に落ち着いた。プロジェクト設計時から開始直後までは、就学を阻害し教育へのアクセスの公平性を損なう要因を解決するための活動について、行政が学校を資金面で支援する仕組みを構築することに重点が置かれていた。しかしながらこの構想は、カナダ国際開発庁 (CIDA) のモロッコ国学校運営支援プロジェクト (PAGESM) を通じて強化された、学校補助金を伴う「学校プロジェクト」の仕組みが、2014 年 11 月に教育大臣が発出した通達によって、公式に全国普及されたことにより、新たな補助金制度の構築の必要性がなくなり、変更を余儀なくされた。

学校補助金の仕組みづくりとは異なる活動を行うことになり、PEEQ は、既存の学校プロジェクトの仕組みを活用し、就学を促進する活動の具体的な好事例を作り出すことに、その趣旨を変更した。というのも、学校プロジェクトの仕組みは確立したかに見えたが、その枠組みを活用した具体的な活動事例は、まだほとんど存在していなかったからである。さらに、MENFPESRS が学校プロジェクトの内容を、「児童の学習改善に資するもの」と指定したことから、本来はさまざまな教育活動を行える枠組みであるにもかかわらず、どの学校の計画も教科教育の改善・強化のみに集中している状況だったので、「自己肯定感」の向上などにより就学への動機づけを高めようとする PEEQ の活動は、活動の多様性の観点から、むしろ歓迎されたのである。これらの活動は「学校プロジェクト PEEQ 軸」と名付けられた。

この教育へのアクセス面を支援する活動は、プロジェクトの「アクセスコンポーネント」と呼ばれていた。しかしながら、「アクセス」という語が学校までの距離の遠さなど物理的な条件による通学の可否を連想させる一方、PEEQ では交通手段や寄宿舎の確保等の高額な解決手段を支援できないため、次第に「エクイティコンポーネント」と呼ぶようになった。2015 年 12 月 18 日に開催された、プロジェクト運営委員会において、エクイティコンポーネントの目的を「教育の公平性の保障に貢献するため、児童生徒の自己肯定感向上や保護者、教員の意識改革に役立つ教育活動のモデルを作り、児童生徒が意欲的に学習に参加する教育の環境に係る施策を開発し、提言すること」と整理した。

ところが、2016 年 10 月の JICA 本部の運営指導調査時にモロッコ側、日本側の双方により大筋

で合意され、正式には2017年10月23日付で署名されたPDM第2版への改定時に、「成果2」は大きな変更を加えられた。すなわち、プロジェクト開始当初からPDM改訂までは、成果1は教育の質の改善に関わるもの、成果2は教育の公平性、特に就学（アクセス）面での公平性に関わるものという区分けがなされていたが、PDM第2版からは、成果2は教育のアクセスにも質にも関係する学校運営の改善であると変更されたのである。確かに、ひとつのプロジェクトが同じ学校を対象に、全くことなる二つのコンポーネントを支援している状況は多少の混乱を招いていたので、二つのコンポーネントの統合は、当初より求められていることであった。

#### (2-1) MENFPESRS, AREF, 県教育局, 学校レベルの、既往の学校運営の改善のための実践を把握する

MENFPESRSならびに関係するAREF、県教育局、学校との協議により、JICA専門家チームは、困難校に対する教育へのアクセスならびに中途退学予防への支援活動の実践についての情報を得た。取得した情報は特に以下の事業等に関するものである。

- 2014年11月20日に全国的な開始が公式に通達された学校プロジェクト
- ノンフォーマル教育局（DENF）の「支援プログラム（Programme d'accompagnement）」
- カナダ国際開発庁のモロッコ国学校運営支援プロジェクト（PAGESM）
- UNICEFのINSAFプログラム

2016年6月に、MENFPESRS学校生活局（DVS）と学校プロジェクトに関して意見交換をしたところ、2014年11月に省の通達が発出されて以来、各学校が作成し県教育局へ提出済みの学校プロジェクトに対する助成金支給が遅延していることについて、以下のような主要課題が指摘された。

- 地方分権が進む中、学校プロジェクト予算の執行はAREF、県教育局の裁量範囲になっているため、中央省庁として強制はできない。
- プロジェクト実施のための研修は実施されているものの、学校側が予算執行の方法に精通しておらず、実際に執行していない場合もある。

2016年11月、学校プロジェクトの制度面・運用面での課題と、それらに対処するために必要かつPEEQとして可能な技術協力のあり方を検討するため、AREFや県教育局と協議を行い、以下のような課題や期待が表明された。

- 学校プロジェクトは、2030年までの教育改革国家戦略に学校の自立性を高める学校運営改善の仕組みとして組み込まれている（特定の活動への補助金制度ではない）。
- 課題としては、中央レベルからの指示や予算配分の停滞、制度的な機能不全、各学校プロジェクトの更新の必要性、予算不足、ベテラン校長を含むキーパーソンへの異動、新規着任者への研修の必要性等がある。
- 現行の支援に加えて、全体の仕組みの検証に基づく関係者の役割設定の見直し、現場で活用できる実用的なマニュアル、効率的なモニタリング・ツール、学校での活動のためのサポート・ツールの開発などをPEEQに期待する。



(2-2) 学習到達度や教育の内部効率性（特に小学校から中学校への進学、女子就学）に関して底上げを要する学校群を指定する

プロジェクト対象学校群の選定は、教育の質と教育へのアクセスの両面から検討し、一括して行われたので、本項目に関する活動は、活動(1-2)の該当部分を参照のこと。

(2-3) 対象学校群における教育改善に関する現在の活動を調査する

学校プロジェクトの枠組みを用いて各種教育活動を支援する前に、質問票調査やインタビューにより、現状調査を行った。多くの学校が、既に2014年11月のMENFPESRSの省通達に従い学校プロジェクトを計画し県教育局に提出していたが、その後の補助金支給の手続きが進んでいない状況が明らかになった。また、大多数の学校プロジェクトはアラビア語とフランス語の読み書きや、算数・数学に関する補習活動の計画であった。

また2016年10月には、調査対象地域の小学校から中学校への進級や中学校への就学を阻止する制約条件について考察し、特に女子生徒の中退を減らし、就学を高める効果的な対策案について提言することを目的として、女子就学の制約条件に関する調査を行った（調査結果は「4-2 ジェンダー・平和構築・貧困削減に対する配慮の実績」参照）。

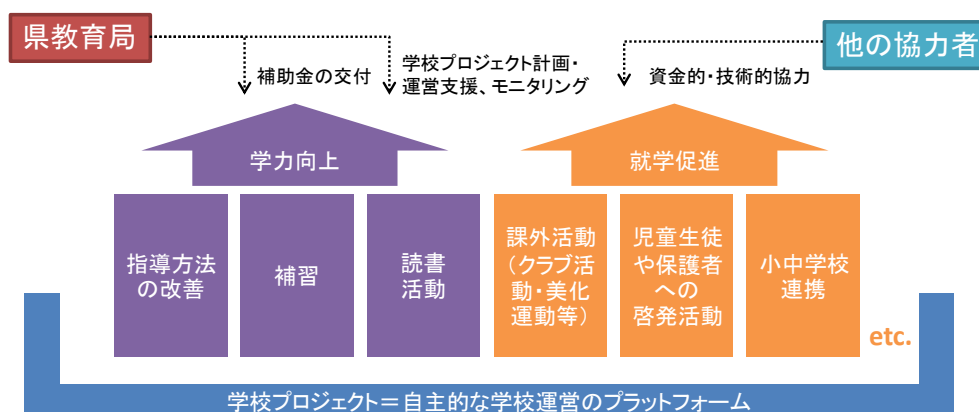
(2-4) AREF、県教育局、学校レベルで学校プロジェクトの計画・実施・モニタリングを強化するための適切なツールと仕組みを開発する

DVS、CNEEO、DC等と共に、「公平で質の高い教育改革のための実践ガイドブック」を開発し配布した。本ガイドブックは、学校プロジェクトの枠組みを用い、教育の質の向上や児童生徒の就学促進を図る教育活動を、学校レベルで計画・実施・モニタリングすることを支援するため、PEEQで紹介、導入されたさまざまな教育学習活動の実施方法を網羅したものである。ガイドブックは以下の小冊子により構成されている。

- ① はじめに：この実践ガイドの使い方
  - ② 学校プロジェクトの計画・実施のための実践ガイド（年間活動計画を含む）
  - ③ 初等算数教育における基礎学力習熟のための教育モデル実践ガイド
  - ④ 授業のはじまり5分間の計算練習：数字カードと暗算プリント活用ガイド
  - ⑤ 既習事項確認テスト実施及び結果活用ガイド
  - ⑥ 算数問題集活用ガイド
  - ⑦ 読書活動実践ガイド
  - ⑧ 課外活動実践ガイド
  - ⑨ 教育の重要性にかかる意識向上活動実践ガイド
  - ⑩ 小中学校連携実践ガイド
- 付録：DVD（視聴覚資料を含む全教材）

図7は、上記ガイドが提唱する学校プロジェクトを学校運営のプラットフォームと位置付けて、

さまざまな教育活動を実践する仕組みを示している。学校プロジェクトは、モロッコ政府の教育セクターにおける長期政策「公平で質が高く発展に資する学校をめざして 改革の戦略的ビジョン2015年～2030年」の中で、「学校の向上に関わる全ての関係者の参加を促す継続的な発展と優れた統治の仕組み」であると、学校運営を改善するための中核的な手段としての位置付を与えられており、そうした政策に沿ってPEEQでも学校プロジェクトの実施を推進した。



出所：プロジェクトチームにより作成

図7：学校プロジェクトをプラットフォームとする学校運営の仕組み

#### (2-5) 対象学校群の小学校・中学校に対して説明会を実施する

2015年2月16日から26日まで、「就学促進活動計画ワークショップ」が、プロジェクト支援対象の8つの学校群において実施された（表16参照）。ワークショップには、校長、教員・親・学校運営委員会（CGE）・地元の協会の代表などが参加し、PEEQの学校交付金をどのように受領し、活動（学校プロジェクトのサブ・プロジェクト）を実施することができるか学んだ。

表16：第1ラウンド就学促進活動計画ワークショップ実施概要

| 月日    | 州            | 県         | 学校群                  | 参加者数 |
|-------|--------------|-----------|----------------------|------|
| 2月16日 | シャウイア・ウルディガ州 | セタット県     | Hasan Lawal          | 28名  |
| 2月17日 |              |           | Sidi Hajjaj          | 30名  |
| 2月18日 |              | ベルシッド県    | Ibnou Sina           | 39名  |
| 2月19日 |              |           | Ezzakartouni         | 23名  |
| 2月23日 | ドゥカラ・アブダ州    | エルジャディーダ県 | El Ouard             | 37名  |
| 2月24日 |              |           | Khaled Ibn Eloulalid | 42名  |
| 2月25日 |              | シディベヌール県  | Baroudi              | 26名  |
| 2月26日 |              |           | Ibnou Sina           | 21名  |

出所：プロジェクトチームにより作成

ワークショップの内容は以下のとおりであった。

<sup>5</sup> 原文は« levier de développement continu et de bonne gouvernance en favorisant la participation de toutes les parties impliquées dans la promotion de l'établissement » (Conseil Supérieur de l'Éducation, de la Formation et de la Recherche Scientifique. (2015). *Pour une Ecole de l'Équité, de la Qualité et de la Promotion : Vision Stratégique de la Réforme 2015-2030*, p.57.)

- 1) プロジェクトの全体説明
- 2) アクセスコンポーネントの方針と実施方法
- 3) 校長による過去の学校プロジェクトの経験共有
- 4) 重点テーマである「小中連携促進」「自己有用感向上のための活動」「ノンフォーマル教育局の推進する支援プログラム」についての解説・活動例紹介
- 5) 助成対象活動案についての協議・発表
- 6) 学校補助金の申請・交付手順についての説明

2016年9月21日から30日まで、学校プロジェクト PEEQ 軸の年間活動計画の作成・実施の仕方に関する指導、および試行期の経験共有のための研修会を表 17 のとおり実施した。

表 17：第 2 ラウンド学校プロジェクト年活動計画研修会実施概要

| 月日    | 会場                            | 参加者   |
|-------|-------------------------------|---|
| 9月21日 | マラケシュ・サフィ州 AREF               | 9名＝PEEQ 州／県コーディネーター、学校プロジェクト州／県コーディネーター、支援員 (A/A) 等                 |
| 9月22日 | マラケシュ・サフィ州 AREF               | 22名＝対象 8 校の学校長および教員、1 日目に参加したコーディネーター等                              |
| 9月26日 | カサブランカ・セタット州 AREF             | 17名＝PEEQ 州／県コーディネーター、学校プロジェクト県コーディネーター、A/A 等                        |
| 9月27日 | セタット県 (カサブランカ・セタット州) 県教育局     | 16名＝対象 7 校の学校長および教員、1 日目に参加したコーディネーター等                              |
| 9月28日 | エルジャディーダ県 (カサブランカ・セタット州) 県教育局 | 22名＝対象 8 校の学校長および教員、1 日目に参加したコーディネーター等                              |
| 9月29日 | ラバト・サレ・ケニトラ州 AREF (アネックス)     | 11名＝PEEQ 州／県コーディネーター、学校プロジェクト・ナショナルコーディネーター、学校プロジェクト県コーディネーター、A/A 等 |
| 9月30日 | ラバト・サレ・ケニトラ州 AREF (アネックス)     | 23名＝対象 8 校の学校長および教員、1 日目に参加したコーディネーター等                              |

注：各州とも第 1 日は PEEQ 州／県コーディネーター、学校プロジェクト州／県コーディネーター、A/A に対する講師養成研修、第 2 日 (及び第 3 日) は、それら講師と日本人専門家による学校長及び教員への研修とした。

出所：プロジェクトチームにより作成

研修会の内容は以下のとおりであった。

- 1) 県内の全体的な学校プロジェクト進捗状況
- 2) 試行期対象校 (カサブランカ・セタット州の対象 11 校) の経験共有
- 3) 教育活動の創造とまとめ (講義)
- 4) 学校プロジェクト PEEQ 軸の活動計画の方向性や課題等について協議 (ワークショップ)
- 5) 契約手続きの説明

2017年9月20日から23日まで、学校プロジェクトの年間活動計画のあり方とその作成手順等を説明するための校長向け研修会を、表 18 のとおり県ごとに実施した。対象校は、カサブランカ・セタット州、ラバト・サレ・ケニトラ州、マラケシュ・サフィ州の 3 州における対象 8 県か

ら、プロジェクトの対象となっている 16 の学校群内にある全ての小中学校で、計 111 校である（小学校は本校と分校を合わせて 1 校と計算）。従来は主に各学校群から 3 校ずつのパイロット校を中心に支援をしてきたが、PEEQ プロジェクトの実施最終年を迎え、今後の広域への普及の足掛かりとするために、支援対象の学校数を大幅に増やした。

2017/2018 年度には、PEEQ は学校プロジェクトの枠組みで、「初等算数教育における基礎学力評価習熟のための教育モデル」の実施を支援することとしたため、既習事項診断テストや補助教材の活用方法などについての説明も行われた。

表 18：学校プロジェクト年間活動計画策定ワークショップ実施概要

| 月日    | 州           | 県        | 会場                | 参加者   |
|-------|-------------|----------|-------------------|---|
| 9月20日 | カサブランカ・セタット | セタット     | セタット県教育局          | セタット県教育局長、学校プロジェクトおよび PEEQ 県コーディネーター、AREF 職員 2 名、視学官 1 名、学校長および教員 5 名（対象学校 6 校中 2 校が欠席） |
| 9月19日 |             | ベルシッド    | 県内の専門学校           | 元 PEEQ 県コーディネーター、視学官 7 名、学校長および教員 20 名（対象学校全校（9 校）出席）                                   |
| 9月21日 |             | エルジャディーダ | 州 AREF エルジャディーダ分室 | PEEQ 県コーディネーター、旧 PEEQ 州コーディネーター（現県教育局職員）、視学官 2 名、学校長 10 名（対象校 19 校中 9 校が欠席）             |
| 9月25日 |             | シディベヌール  | 県内の中学校            | PEEQ 県コーディネーター、視学官 2 名、校長 17 名（対象 8 校中 1 校が欠席、周辺校からも 10 名が参加）                           |
| 9月19日 | ラバト・サレ・ケニトラ | シディスリマン  | 県内の中学校            | PEEQ 県コーディネーター、学校長 9 名（対象学校 10 校中 1 校が欠席）   |
| 9月20日 |             | シディカセム   | 県教育局視学官事務所        | PEEQ 県コーディネーター、県教育局職員、視学官 7 名、学校長 12 名（対象学校 13 校中 1 校が欠席）                               |
| 9月21日 | マラケシュ・サフィ   | アルハウズ    | 県内の私立学校           | 学校プロジェクト県コーディネーター、PEEQ 県コーディネーター、学校長および教員 19 名（対象学校 20 校中 1 校が欠席）、他 2 名（会場の学校から）        |
| 9月23日 |             | シシャウア    | シシャウア県教育局         | 県教育局長、学校プロジェクト県コーディネーター、視学官 2 名、学校長および教員 25 名（元 Tazedra 小学校教員含む）（対象学校 26 校中 5 校が欠席）     |

研修に際し、これまでプロジェクトで開発した教材等の資料一式を DVD に収めて配布した。当該 DVD は「PEEQ Portfolio」と名付けられ、収納資料は以下のとおりである。

- JICA モロッコの教育分野における協力事業（ビデオ）
- 「生徒の誤答を活用した教育改善」ワークショップ研修用教材（ビデオ版・冊子版）
- 既習事項確認診断テスト（テスト問題、解答、分析用ワークシート、実施要領）
- 診断テスト結果分析報告書（2015 年版・2016/2017 年度版）
- 算数問題集（問題集 5 分冊、回答集 2 分冊、使用法ガイド）
- 数字カード（教員用、生徒用、使用法ガイド）

- 年間活動計画策定用フォーム（学校プロジェクト要約、年間活動計画、PEEQ 補習活動支援要請書）

(2-6) 各学校が、特に生徒の学習改善や退学リスクの低減に資する就学促進活動を提案する

各支援対象校で、校長、教員、学校運営評議会により活動計画策定作業が進められた。各学校への指導・支援は、日本人専門家の協力を得ながら、学校プロジェクト県コーディネーター、PEEQ 県コーディネーター、支援員（A/A）が行った。校内で学校運営評議会により仮承認された計画は、県教育局へ提出された。

(2-7) 学校プロジェクト実施に補助金を支給する

(2-8) 学校が学校プロジェクトを実施する

学校プロジェクト PEEQ 軸（就学促進活動）のための学校補助金支給に係る契約書は、県教育局、学校支援協会、JICA 専門家チームの 3 者間で締結した。契約書の雛型は、MENFPESRS 法務・係争局、技術教育学校生活局、AREF、県教育局等と調整し作成した。また、契約書の付属文書となる『PEEQ 学校交付金手続きマニュアル』も整備した。

助成の実施手順は以下のとおりである。

- 1) JICA 専門家と県教育局の支援により、各学校が学校プロジェクト PEEQ 軸の活動計画を策定する。
- 2) 学校プロジェクトが、学校運営委員会により協議され、承認される。
- 3) 学校長が所管の県教育局に事業計画を提出する。
- 4) 県教育局の運営委員会で事業計画が承認される。
- 5) PEEQ 軸への補助金にかかる契約が、県教育局、学校支援協会、JICA 専門家チームとの間で締結される。
- 6) 学校プロジェクト PEEQ 軸の実施のための補助金が、JICA 専門家チームから学校支援協会に交付される。
- 7) 学校支援協会は、学校プロジェクトの実施を支援する。
- 8) 学校プロジェクト PEEQ 軸の実施は、県教育局と JICA 専門家チームが協力してモニタリングを行う。
- 9) 学校支援協会は活動報告と財務報告を提出する。

第 1 ラウンドでは、2015 年 11 月から 2017 年 4 月にかけて、表 19 のとおり 11 の学校プロジェクト PEEQ 軸の契約が締結され、さまざまな教育活動が実施された。

表 19：第 1 ラウンド学校プロジェクト PEEQ 軸活動一覧

| 県名   | 学校名              | 活動内容                    | 契約締結月日             | 事業完了月          | 補助金支払額 (DH) |
|------|------------------|-------------------------|--------------------|----------------|-------------|
| セタット | Hassan Lawal 中学校 | ①学習意欲の向上<br>・空間の創設=環境整備 | 2015 年<br>12 月 4 日 | 2016 年<br>12 月 | 7,480       |

|       |                       |  |                |             |        |
|-------|-----------------------|--|----------------|-------------|--------|
|       |                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞の作成</li> <li>・庭園活動</li> <li>・絵画活動</li> <li>②小中連携</li> <li>・サッカー交流試合</li> <li>・文化祭</li> <li>・学校訪問（小学生→中学校）</li> <li>・小学6年生歓迎会</li> </ul>  |                |             |        |
|       | Lakhrwaa<br>小学校       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・美化活動</li> <li>・文化活動（児童の権利）</li> <li>・リサイクル活動</li> <li>・ゲーム</li> <li>・遠足</li> <li>・映画</li> <li>・演劇・合唱・表現</li> <li>・（校内の）女子生徒への啓発</li> <li>・発表会</li> </ul>                               | 2015年<br>12月4日 | 2017年1<br>月 | 13,100 |
|       | Sidi Hajjaj<br>中学校    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校運営評議会（CGE）との会議</li> <li>・本購入準備</li> <li>・本の購入</li> <li>・学級文庫の創設</li> <li>・学級係の創設</li> <li>・10分間読書</li> <li>・読書の中身についての問答</li> </ul>  | 2016年<br>1月18日 | 2017年1<br>月 | 8,000  |
|       | Labioud 小学校           | <ul style="list-style-type: none"> <li>①自己肯定感向上</li> <li>・絵画 ・手工芸</li> <li>・庭園 ・展覧会（保護者等向け）</li> <li>②学習意欲の向上</li> <li>・本棚・本等の購入</li> <li>・10分間読書（本の要約を含む）</li> <li>③中学進学率の向上</li> <li>・中学校訪問（食事・文化祭）</li> </ul>               | 2016年<br>4月19日 | 2017年1<br>月 | 11,785 |
| ベルシッド | Ezzarktouni<br>中学校    | <ul style="list-style-type: none"> <li>①環境クラブ活動（庭園活動）</li> <li>・クラブの立ち上げ ・部員の確定</li> <li>・必要な用具の購入 ・生徒の役割決め</li> <li>・庭園の世話</li> <li>②図書活動＝本の購入</li> </ul>   | 2016年<br>4月19日 | 2017年1<br>月 | 8,000  |
|       | Hay El Hassani<br>小学校 | <ul style="list-style-type: none"> <li>①環境クラブ</li> <li>・環境クラブの設立</li> <li>・教室整備のための備品（装飾品等）購入</li> <li>・備品の配置</li> <li>②図書クラブ</li> <li>・自己肯定感の向上</li> <li>・学校運営評議会（CGE）との打ち合わせ</li> <li>・図書クラブの設立</li> <li>・学級図書の充実</li> </ul> | 2016年<br>1月1日  | 2017年1<br>月 | 8,000  |

|         |                              |  |                 |              |        |
|---------|------------------------------|--|-----------------|--------------|--------|
|         | Ibnou Lhaytem<br>小学校         | ①学力向上<br>・10分間読書 ・自宅での読書<br>・読書コンクール<br>・推薦図書の見せ<br>②(図書活動による)自己肯定感の<br>向上<br>・口頭でのプレゼンテーション<br>・読書コンクール<br>・最終発表会 | 2016年<br>1月1日   | 2016年<br>12月 | 6,400  |
| エルジャデーダ | Khalid Ibnou<br>Eloualid 中学校 | (心理カウンセラーを活用した)<br>演劇活動  | 2016年<br>3月22日  | 2017年1<br>月  | 7,700  |
|         | Jouamaa 分校<br>[Lakrarba 小学校] | ①庭園・演劇活動<br>②スポーツ・芸術活動   | 2015年<br>11月24日 | 2016年<br>11月 | 4,000  |
| シディベヌール | Ibnou Sina<br>中学校            | ①保護者向けの演劇&茶話会<br>②Child to Child<br>③授業参観  | 2015年<br>11月24日 | 2016年<br>11月 | 6,850  |
|         | Bni Hlal 小学校                 | ①読書(本選定購入・25分読<br>書・自宅・コンクール&授与式)<br>②書き(25分書き・本の作成・コ<br>ンクール及び授与式<br>③①、②の共有                                      | 2016年<br>1月15日  | 2017年7<br>月  | 9,600  |
| 合計      |                              |  |                 |              | 90,915 |

出所：プロジェクトチームにより作成

第2ラウンド対象校を含め、2016/2017年度には、学校プロジェクト PEEQ 軸の実施のために、29のプロジェクトに関する契約書を締結し、補助金を支給した。支援を行った活動の概要は表20のとおりである。

表20：2016/2017年度学校プロジェクト PEEQ 軸活動一覧

| 県名    | 学校名                  | 活動内容  | 契約締結<br>月日     | 事業<br>完了月   | 補助金<br>支払額<br>(DH) |
|-------|----------------------|---|----------------|-------------|--------------------|
| セタット  | Sidi Hajaj 中学校       | ・10分間読書(毎日)<br>・30分/1時間読書(毎週末)<br>・読書活動の表彰  | 2017年<br>1月18日 | 2017年<br>5月 | 3,200              |
|       | Labioud 小学校          | ・総合活動(庭園、絵画、環境<br>活動)<br>・10分間読書<br>・小中連携(中学校訪問)  | 2017年<br>2月1日  | 2017年<br>5月 | 4,800              |
|       | Hassan Lawal 中<br>学校 | ・学習意欲の向上(学習空間創<br>設=環境整備、新聞作成、庭園<br>活動、絵画活動、ロールモデ<br>ル活動)<br>・小中連携(サッカー交流試<br>合、小学6年生歓迎会) | 2017年<br>12月4日 | 2017年<br>5月 | 5,890              |
| ベルシッド | Ezzarktouni 中学校      | ・図書委員会の設立(生徒の役<br>割分担等含む)<br>・小説読みと内容に係るディス<br>カッション<br>・改善点リストの作成                        | 2017年<br>2月6日  | 2017年<br>5月 | 8,000              |

|              |   |  |                 |             |       |
|--------------|---|--|-----------------|-------------|-------|
|              | Hay Hassani 小学校                                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>環境クラブ (植樹、植物の世話、自然科学に係る授業、野外授業)</li> <li>図書クラブ (プレゼンテーション、映画鑑賞、15分読書、図書館訪問)</li> </ul>  | 2017年<br>1月17日  | 2017年<br>5月 | 7,353 |
|              | Ibn Elhaytam 小学校                                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>読書活動 (保護者との協議、本の内容確認、10分間読書、学級文庫への登録、仏語能力向上、カード作り、演劇、公立図書館訪問、自宅読書、壁新聞、イベント開催)</li> </ul>  | 2017年<br>1月18日  | 2017年<br>5月 | 4,200 |
| エルジャデ<br>イード | Khalid Ibn Eloualid 中学校                               | <ul style="list-style-type: none"> <li>心理カウンセラーを活用した演劇活動</li> </ul>  | 2017年<br>3月22日  | 2017年<br>5月 | 4,560 |
|              | Jouamaa 分校<br>(Lakrarba 小学校)                          | <ul style="list-style-type: none"> <li>課外活動 (演劇、詩、歌唱、美術、手洗い、環境美化、庭園活動、スポーツ、読書)</li> </ul>  | 2016年<br>11月24日 | 2017年<br>5月 | 2,167 |
|              | Lakrarba 小学校  | <ul style="list-style-type: none"> <li>植樹&amp;庭園活動 (定期的な植物の世話)</li> <li>美化活動 (ゴミ箱設置、グループ活動、定期的な清掃)</li> <li>校内ラジオ放送/放送委員会活動 (放送内容: 歌唱; 人間関係; 各活動; ディスカッション; 環境保護; 人権)</li> </ul> | 2016年<br>11月24日 | 2017年<br>5月 | 3,233 |
|              | Laazizate 小学校   | <ul style="list-style-type: none"> <li>庭園活動 (庭師による指導、定期的な植物の世話)</li> </ul>   | 2016年<br>11月24日 | 2017年<br>5月 | 4,000 |
| シディバヌ<br>ール  | Ibnou Sina 中学校  | <ul style="list-style-type: none"> <li>教育啓発活動 (保護者への呼びかけ、ロールモデル (=医者)、戻ってきた生徒へのアフターケア)</li> <li>小中連携 (サッカー交流試合、学校訪問)</li> </ul>  | 2017年<br>3月10日  | 2017年<br>5月 | 6,560 |
|              | Lakhoualda 小学校  | <ul style="list-style-type: none"> <li>図書館の整備 (図書委員の選定、本の購入等)</li> </ul>   | 2016年<br>11月22日 | 2017年<br>5月 | 6,400 |
|              | Lahmamna 分校<br>(Erracad 小学校)                          | <ul style="list-style-type: none"> <li>学級文庫 (本購入、本の紹介、10分間読書、コンクール)</li> <li>演劇 (役決め、台詞練習、発表)</li> </ul>   | 2016年<br>11月22日 | 2017年<br>5月 | 3,186 |
| シディスリ<br>マン  | Safsaf 中学校  | <ul style="list-style-type: none"> <li>演劇、文化、芸術活動クラブ</li> <li>環境クラブ</li> <li>スポーツ・健康クラブ</li> </ul>   | 2016年<br>12月1日  | 2017年<br>5月 | 7,944 |
|              | 2 Mars Hawech Sidi<br>Gaddar 小学校、<br>Oulad Ben Dib 分校 | <ul style="list-style-type: none"> <li>補習活動 (仏語の読み書き、算数)</li> </ul>  | 2016年<br>12月1日  | 2017年<br>5月 | 3,200 |
|              | El Kceibya 中等学校                                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>演劇、文化、芸術活動クラブ</li> <li>環境クラブ</li> <li>スポーツ・健康クラブ</li> </ul>   | 2016年<br>12月1日  | 2017年<br>5月 | 8,000 |
|              | PAM 小学校、Sidi<br>Omar Chelh 分校                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>啓発イベント (教員・障害児・言語・女子権利・暴力による被害を受けた子ども等をテーマ)</li> <li>課外活動 (絵画活動、スポーツ、清掃、環境保護活動)</li> </ul>  | 2017年<br>1月2日   | 2017年<br>5月 | 7,998 |



|        |                                     |   |                |             |       |
|--------|-------------------------------------|---|----------------|-------------|-------|
| シディカセム | Al Kindi 中学校                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>環境 (COP22、コミック作り、庭園、保健、リサイクル、教室清掃)</li> <li>生徒の長所を伸ばす活動 (チェス、算数、演劇、詩)</li> <li>文化活動 (サッカー、壁紙作り、文化紹介、演劇)</li> <li>社会活動 (禁煙防止活動 (ドキュメンタリー、プレゼン、演劇、作文))</li> </ul>                  | 2016年<br>11月1日 | 2017年<br>5月 | 3,200 |
|        | Ibn El Khatib 小学校、Oulad Sghir 分校    | <ul style="list-style-type: none"> <li>読み書き、表現力に係る活動 (読書、壁画、コンクール、プレゼンテーション)</li> <li>環境 (トイレ掃除、農業、植物の世話)</li> </ul>  | 2016年<br>12月1日 | 2017年<br>5月 | 7,992 |
|        | Dakhla 中学校                          | <ul style="list-style-type: none"> <li>読書能力向上 (学級文庫、読書、演劇)</li> <li>課外活動促進 (絵画活動)</li> </ul>  | 2017年<br>1月1日  | 2017年<br>5月 | 8,000 |
|        | Fatima Fihriya 小学校、Lafquir Allal 分校 | <ul style="list-style-type: none"> <li>環境 (汚染、清掃、植物 (植樹、水やり)、庭園、リサイクル、新聞、ビデオ)</li> <li>健康・スポーツ (写真会、研修会、家族との協議、スポーツ大会)</li> <li>文化 (演劇、博物館訪問、コンクール (アラビア語・仏語)、絵画、ラジオ放送、新聞作り)</li> <li>人権啓発活動 (プレゼンテーション、研修会)</li> </ul> | 2017年<br>1月1日  | 2017年<br>5月 | 6,400 |
| アルハウス  | Tamazouzte 中学校                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>課外活動 (庭園活動、清掃活動、スポーツ、絵画、文化活動、遠足)</li> </ul>  | 2016年<br>11月1日 | 2017年<br>5月 | 3,200 |
|        | Tamakoste 小学校、Toug 分校               | <ul style="list-style-type: none"> <li>不就学児童対象 (保護者訪問、Child to Child、交流会)</li> <li>校内児童対象 (読書 (図書館活用)、学校コミュニティとの交流、歌唱、演劇、規律修得、ミニサッカー)</li> </ul>  | 2017年<br>12月1日 | 2017年<br>5月 | 7,020 |
|        | Houman El Fetouaki 中学校              | <ul style="list-style-type: none"> <li>小中連携 (中学への進学意欲向上)</li> <li>課外活動 (自己肯定感の向上・不就学防止)</li> </ul>  | 2017年<br>1月2日  | 2017年<br>5月 | 6,400 |
|        | Aitwakstite 小学校、Izrafen 分校          | <ul style="list-style-type: none"> <li>補習活動 (算数、読書 (全学年を対象に学級文庫を活用)、表現) ※全活動小中連携活動含む</li> </ul>   | 2017年<br>1月2日  | 2017年<br>5月 | 6,400 |

|       |                          |  |                |             |         |
|-------|--------------------------|--|----------------|-------------|---------|
| シジャウア | Mohamed V 中学校            | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 小中連携（中学校生活のビデオ鑑賞、中学校訪問、サッカー大会）</li> <li>• 自己肯定感の向上（庭園活動、市民権に係るクラブ活動、算数コンクール、文化祭、表現・歌唱に係る研修会、清掃、演劇）</li> <li>• 不就学の予防と改善（中学校寮訪問、不就学児童の家族訪問、児童権利の向上）</li> </ul> | 2016年<br>12月1日 | 2017年<br>5月 | 3,200   |
|       | AFFETAS 小学校、<br>Tabia 分校 | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 読み書き能力向上（学級文庫活動）</li> <li>• 愛校心の育成（環境活動、スポーツ、絵画、保健活動、文化祭）</li> </ul>  | 2017年<br>1月10日 | 2017年<br>5月 | 3,200   |
|       | Timzgadiwine 中学校         | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 中途退学の減少（両親訪問、茶話会、学籍登録と学用品配布、保健キャンペーン、補習）</li> <li>• 魅力的な学校空間の創設（庭園活動、清掃、サッカー（男子）、ハンドボール（女子））</li> </ul>   | 2017年<br>1月10日 | 2017年<br>5月 | 3,200   |
|       | TAZIDRA 小学校、<br>Diran 分校 | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 学力向上と複式学級の運営向上（保護者との協議、課外授業、学習意欲向上、誤答分析、複式学級の運営向上）</li> <li>• 社会意識の向上と進学促進（他者の尊重、清掃、交通安全、環境、家族・コミュニティとの連帯、煙草禁止、進学促進）</li> </ul>                               | 2017年<br>1月10日 | 2017年<br>5月 | 3,200   |
| 合計    |                          |  |                |             | 152,103 |

出所：プロジェクトチームにより作成

2017/2018 学年度における PEEQ の学校プロジェクト支援は、プロジェクトで開発された補助教材を活用した学習支援活動に対して行うこととし、そのために必要となる紙とインクカートリッジを現物で支給した。2017年9月に行った校長向け研修会にて、プロジェクト対象学校群内にある111校を対象に、既習事項確認テストの結果を踏まえた学習支援活動の計画立案方法などを伝えた。研修を受けた学校のうち76校から、学校プロジェクトの概要、年間活動計画、計画に即した紙とインクカートリッジの要請が提出された。その後、県教育局と調整を行い、表21に示すと通りの支援を行った。

表 21：2017/2018 年度学校プロジェクト PEEQ 軸支援一覧

| 州           | 県     | 学校名                       | 用紙数（束） | インクカートリッジ数（個） |
|-------------|-------|---------------------------|--------|---------------|
| カサブランカ・セタット | セタット  | Sidi Hajjaj 小学校           | 62     | 10            |
|             |       | Labioud 小学校               | 14     | 7             |
|             |       | Hassan Lawal 中学校          | 20     | 9             |
|             |       | Lakhrwaa (Boukarkour) 小学校 | 92     | 10            |
|             | ベルシッド | Zerquettouni 中学校          | 29     | 10            |

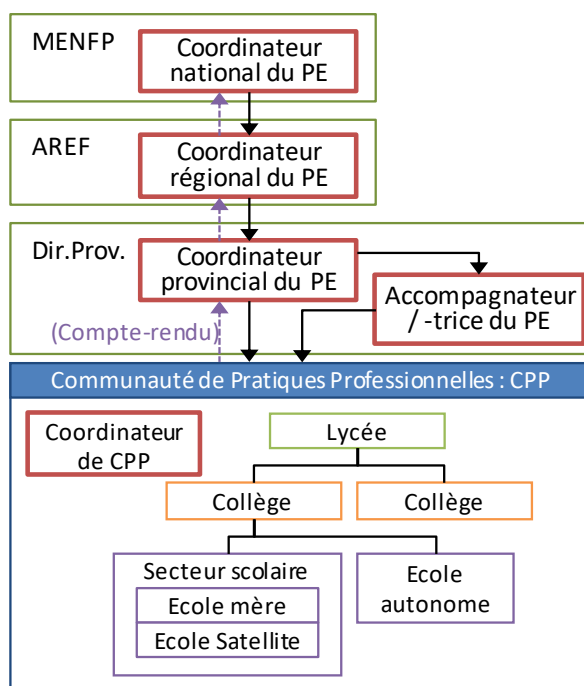
|                   |                          |  |                    |    |
|-------------------|--------------------------|--|--------------------|----|
|                   |                          | Hay Hassani 小学校                            | 90                 | 4  |
|                   |                          | Ibn Elhaytam 小学校                           | 108                | 4  |
|                   |                          | Taha Houssain 小学校                          | 42                 | 4  |
|                   |                          | Ibn Sina 中学校                               | 128                | 4  |
|                   |                          | Ezzmamra 小学校                               | 34                 | 4  |
|                   |                          | Lamaachate 小学校                             | 68                 | 5  |
|                   |                          | Laghnimiine 小学校                            | 9                  | 4  |
|                   |                          | Bir Khriiss 小学校                            | 8                  | 4  |
|                   | エルジャディーダ                 | Laazizate 小学校                              | 158                | 5  |
|                   |                          | Lakrarba 小学校                               | 110                | 3  |
|                   |                          | Sidi M Hamed Akhdim 小学校                    | 195                | 4  |
|                   |                          | Ennour 分校 (Oulad Daoud 小学校)                | 47                 | 2  |
|                   |                          | Esslamna Et Lamhiate 分校 (Sidi Bounaim 小学校) | 203                | 2  |
|                   |                          | Lablalte 小学校                               | 33                 | 4  |
|                   |                          | シディバヌール                                    | Ibn Sina 中学校       | 53 |
|                   | Lahdadja 小学校             |  | 50                 | 4  |
|                   | Lakhoualda 小学校           |  | 126                | 8  |
|                   | Lhamna 分校 (Errachad 小学校) |  | 37                 | 5  |
|                   | Baroudi 中学校              |  | 41                 | 6  |
|                   | Zyayna 小学校               |  | 87                 | 10 |
| Bni Hlal 小学校      | 41                       |  | 4                  |    |
| Nouaama 小学校       | 47                       |  | 10                 |    |
| ラバト・サレ・ケニトラ       | シディスリマン                  |  | El Ksaibiya 中等教育学校 | 27 |
|                   |                          | PAM 小学校                                    | 23                 | 4  |
|                   |                          | Zhana Sidi Yahya 小学校                       | 25                 | 4  |
|                   |                          | Lala Yattou 小学校                            | 18                 | 3  |
|                   |                          | Zaabla 小学校                                 | 16                 | 3  |
|                   |                          | Safsaf 中学校                                 | 41                 | 7  |
|                   |                          | 2 Mars Hawech Sidi Gaddar 小学校              | 35                 | 6  |
|                   |                          | Oulad Lagzouli 2 小学校                       | 18                 | 3  |
|                   |                          | Beggara 小学校                                | 16                 | 3  |
|                   |                          | Ettorchane 小学校                             | 34                 | 6  |
|                   | シディカセム                   | Al Kindi 中学校                               | 70                 | 10 |
|                   |                          | Ibn Khatib 小学校                             | 143                | 10 |
|                   |                          | Oulad Ghida 小学校                            | 6                  | 1  |
|                   |                          | Abou Bakaa Al Randi 小学校                    | 52                 | 3  |
|                   |                          | Sidi Lkamel 小学校                            | 8                  | 1  |
|                   |                          | Banasa 小学校                                 | 61                 | 10 |
|                   |                          | Dakhla 中学校                                 | 43                 | 10 |
|                   |                          | Fatima Fihriya 小学校                         | 13                 | 1  |
|                   |                          | Oualili 小学校                                | 34                 | 2  |
|                   |                          | Ibn Battouta 小学校                           | 26                 | 10 |
| アラハズ              | Houmane Alfatouaki 中学校   | 11   | 4                  |    |
|                   | Tighdouine 小学校           | 9  | 3                  |    |
|                   | Tolozine 小学校             | 19   | 7                  |    |
|                   | Ait Anzal Al Jabal 小学校   | 7  | 3                  |    |
|                   | Ait Ouagstit 小学校         | 54   | 10                 |    |
|                   | Ait Aacha 小学校            | 10   | 4                  |    |
|                   | Tassourte 1 小学校          | 6  | 3                  |    |
|                   | Ansa 小学校                 | 9  | 4                  |    |
|                   | Talat Ast 小学校            | 14   | 7                  |    |
|                   | Tamazouzte 中学校           | 44   | 10                 |    |
| Tamazouzte 小学校    | 14                       | 7  |                    |    |
| Bouaouide 小学校     | 5                        | 2  |                    |    |
| Laaouina 小学校      | 13                       | 4  |                    |    |
| Zetoula 小学校       | 9                        | 3  |                    |    |
| Iguerferouane 小学校 | 5                        | 3  |                    |    |

|       |                        |       |     |
|-------|------------------------|-------|-----|
| シシャウア | Datou Netakayne 小学校    | 20    | 10  |
|       | Ait Aabed 小学校          | 12    | 5   |
|       | Sebt Iguerferouane 小学校 | 12    | 6   |
|       | Igrouka 小学校            | 5     | 2   |
|       | Tamakouste 小学校         | 16    | 8   |
|       | Timzgadiouine 中学校      | 40    | 10  |
|       | Ait Ouaarab 小学校        | 14    | 7   |
|       | Imlalen 小学校            | 18    | 9   |
|       | Ihardanen 小学校          | 19    | 5   |
|       | Mohamed V 中学校          | 24    | 10  |
|       | Tinelleft 小学校          | 26    | 10  |
|       | 合計                     | 3,141 | 515 |

出所：プロジェクトチームにより作成

(2-9) AREF と県教育局が活動の実施状況をモニター、評価する

MENFP の「学校プロジェクト」は下図のような組織で運営されており、PEEQ でも可能な限り既存の組織を活用してモニタリング・支援を行った。特に、州及び県レベルの学校プロジェクト・コーディネーターとは、各レベルの PEEQ コーディネーターとも連携・調整しながら、協力して事業を進めた。また学校プロジェクトの支援員 (A/A) は「担当視学官」であり、計画策定支援・活動モニタリングに従事している。



出所：プロジェクトチームにより作成

図 8：学校プロジェクト運営組織図

(2-10) PEEQ の支援により各学校が実施した活動を共有するために、好事例の報告書を発行するとともに関係者の会合を実施する

2016年2月、第1ラウンドの学校プロジェクト PEEQ 軸への補助金支給契約が、対象校の多く

で締結され、それらの活動が開始された時期において、対象校の校長や教員を集め、各校が取り組もうとしている活動を互いに紹介し合い、今後の活動の進め方を確認するためのワークショップが開催された（表 22 参照）。ここでは、児童生徒の変化に着目した活動目標の重要性が強調された。

表 22：第 1 ラウンド・エクイティコンポーネント第 1 回研修会実施概要

| 月日    | 会場              | 参加校  | 参加者  | 内容  |
|-------|-----------------|--|--|---|
| 2月23日 | 旧ドゥカラ・アブダ州 AREF | (エルジャディーダ県)<br>Jouamaa 小学校 (分校)、Khalid Ibn El Oualid 中学校<br>(シディベヌール県)<br>Ibnou Sina 中学校、Bni Hlal 小学校    | 校長・担当教員・視学官の計 12 名<br>州及び県のプロジェクト・コーディネーター 3 名 | 1) 教育活動の教育的意味および学校教育目標と教育活動目標の設定<br>2) 試行期の活動計画 |
| 2月29日 | セタット県教育局        | (セタット県)<br>Hassan Lawal 中学校、Sidi Hajjaj 中学校、Labioud 小学校<br>(ベルシッド県)<br>Ibn El Haitem 小学校、Hay Hassani 小学校 | 校長・担当教員の計 10 名<br>県コーディネーター 2 名                |   |

出所：プロジェクトチームにより作成

2016 年 4 月、第 1 ラウンドにおける学校プロジェクト PEEQ 軸の経験共有のため、表 23 の要領で、エクイティコンポーネント第 2 回研修会が開催された。

表 23：第 1 ラウンド・エクイティコンポーネント第 2 回研修会実施概要

| 月日    | 会場                | 参加校  | 参加者                                       | 内容   |
|-------|-------------------|--|---|--|
| 4月26日 | カサブランカ・セタット州 AREF | (セタット県)<br>Sidi Hajjaj 中学校、Labioud 小学校、Hassan Lawal 中学校、Lakhrawa 小学校<br>(ベルシッド県)<br>Ezzarktouni 中学校、Hay Hassani 小学校、Ibn El Haitem 小学校<br>(シディベヌール県)<br>Ibnou Sina 中学校、Bni Hlal 小学校<br>(エルジャディーダ県)<br>Khalid Ibn El Oualid 中学校、Jouamaa 小学校 (分校) | 校長および担当教員計 23 名<br>その他参加者：州・県コーディネーター 5 名 | 1) 学校プロジェクト PEEQ 軸の活動に係る経験の共有（報告書作成指導を含む）<br>2) 日本の教育経験に基づく読書指導の方法論の説明 |

出所：プロジェクトチームにより作成

2017 年 11 月、各学校が策定した年間活動計画に関し、校長同士で共有し互いに研鑽すること、学校プロジェクト・コーディネーター、PEEQ コーディネーター等を中心とした AREF、県教育局からそのフィードバックを得ることを目的に、表 24 のとおり研修会を実施した。

表 24 : 2017/2018 年度学校プロジェクト PEEQ 軸計画共有研修会実施概要

| 月日     | 州                   | 県                                | 会場                                | 参加者  | 内容   |
|--------|---------------------|----------------------------------|-----------------------------------|--|--|
| 11月11日 | カサブラ<br>ンカ・セ<br>タット | セ タ ッ<br>ト、ベル<br>シッド             | セ タ ッ<br>ト<br>県教育局                | 学校長 4 名、教員 3 名   | 1) 年間活動計<br>画の発表およ<br>びそのフィー<br>ドバック・コ<br>メント<br>2) 今後の予定<br>(紙・カート<br>リッジ調達手<br>順、モニタリ<br>ング方法の確<br>認等) |
| 11月10日 |                     | エルジャ<br>ディー<br>ダ、シデ<br>ィベヌ<br>ール | 州 AREF エ<br>ルジャ<br>ディー<br>ダ分<br>室 | 学校プロジェクト県コー<br>ディネーター (エルジャ<br>ディーダ)、<br>PEEQ 県コーディネーター (エ<br>ルジャディーダ)、<br>PEEQ 県コ<br>ーディネーター (シ<br>ディベヌール)、<br>学校長 18 名、教員 1 名                                      |  |
| 11月7日  | ラバト・<br>サレ・ケ<br>ニトラ | シディ<br>スリ<br>マン、<br>シディ<br>カセム   | 州 AREF ケ<br>ニトラ分<br>室             | PEEQ 州コーディネーター、<br>学校プロジェクト県コー<br>ディネーター (シディ<br>スリマン)、<br>PEEQ 県コーディネーター (シ<br>ディスリマン)、<br>PEEQ 県コ<br>ーディネーター (シ<br>ディカセム)、<br>視学官 5 名、学校長 22 名                     |  |
| 11月9日  | マラケ<br>シュ・サ<br>ファイ  | アルハ<br>ウス、<br>シシ<br>ャウア          | 州 AREF                            | 学校プロジェクト州コー<br>ディネーター、<br>PEEQ 州コーディ<br>ネーター、<br>学校プロジェクト<br>県コーディネーター<br>(アルハウス)、<br>PEEQ 県コー<br>ディネーター (ア<br>ルハウス)、<br>PEEQ 県コ<br>ーディネーター (シ<br>シャウア)、<br>学校長 13 名 |  |

出所：プロジェクトチームにより作成

2018年4月、学校レベルにおける PEEQ 活動の成果を全般的に共有するため、表 25 のとおり全プロジェクト対象校の校長を招聘してワークショップを実施した。

表 25 : 2017/2018 年度 PEEQ 経験共有ワークショップ実施概要

| 月日    | 州                   | 県                | 会場  | 参加者  | 内容  |
|-------|---------------------|------------------|---|--|---|
| 4月16日 | カサブラ<br>ンカ・セ<br>タット | セタット             | セタット<br>県教育局                              | PEEQ 県コーディネーター、<br>視学官 1 名、学校長 5 名   | 1) 年間教育<br>活動の成果に<br>係る共有<br>2) 算数の基<br>礎学力評価習<br>熟のための教<br>育モデルの紹<br>介<br>3) 今後の学<br>校プロジェクト<br>の内容と進<br>め方に係る意<br>見交換 |
| 4月16日 |                     | ベルシ<br>ッド        | 公立高校<br>施設内                               | 学校プロジェクト県コー<br>ディネーター、<br>PEEQ 県コーディ<br>ネーター、<br>元 PEEQ 県コー<br>ディネーター、<br>視学官 5 名、<br>学校長 9 名、<br>教員 2 名 |   |
| 4月17日 |                     | エルジャ<br>ディー<br>ダ | 旧ドゥ<br>カラ・<br>アブ<br>ダ<br>州 AREF<br>庁<br>舎 | エルジャディー<br>ダ県教育局長、<br>PEEQ 県コー<br>ディネーター、<br>県教育局職員、<br>学校長 10 名、<br>視学官 1 名                             |   |
| 4月16日 |                     | シディ<br>ベヌ<br>ール  | 公立中<br>学校                                 | シディベヌール<br>県教育局長、<br>PEEQ 県コー<br>ディネーター、<br>県教育局職員、<br>学校長 8 名   |   |

|       |             |         |            |   |
|-------|-------------|---------|------------|---|
| 4月18日 | ラバト・サレ・ケニトラ | シディスリマン | 研修センター     | シディスリマン県教育局長、PEEQ 県コーディネーター、県教育局職員、学校長 10 名、視学官 2 名     |
| 4月19日 |             | シディカセム  | 県教育局視学官事務所 | シディカセム県教育局長、学校生活局長、PEEQ 県コーディネーター、学校長 13 名、視学官 6 名      |
| 4月17日 | マラケシュ・サファイ  | アルハウズ   | 公立高校敷地内    | 学校プロジェクト県コーディネーター、PEEQ 県コーディネーター、県教育局職員、学校長 14 名、教員 1 名 |
| 4月18日 |             | シシャウア   | シシャウア県教育局  | 学校プロジェクト県コーディネーター、PEEQ 県コーディネーター、視学官 1 名、学校長 16 名       |

出所：プロジェクトチームにより作成

これら、学校プロジェクト PEEQ 軸の活動の経験を取りまとめ、他校が類似の活動に取り組もうとする際の参考に供するため、日本人専門家による 4 校の調査報告書と、12 校から寄せられた活動報告書をひとつに取りまとめた、「学校プロジェクト PEEQ 軸事例集」を作成し配布した。

### (3) 成果 3 に係る活動

成果 3：AREF 内の他地域への施策継続及び MENFP による他 AREF 展開の準備が整う。

#### (3-1) AREF が対象 AREF 内における展開計画を策定する

2018 年 8 月 28 日、MENFPESRS から、後述する「初等算数教育における基礎学力評価習熟のための教育モデル全国普及計画」の実施を関係各局に求める通達が発出され、その中で、各 AREF が州年間行動計画の中に同モデル普及の計画を含めるよう要請された。各 AREF の年間行動計画は 2018 年 12 月までに作成される。また、同じく全国計画は、小学 5・6 年用の改訂版教科書が配布される予定の 2020/2021 年度には、教育モデルが全ての学校、全ての学級で実践されるように、初等算数教育の学区担当視学官が所管の全学校に対する指導を行うよう求めている。

さらに、2018 年 7 月 18 日から 20 日までの 3 日間にわたり、MENFPESRS では、全国 12 州の AREF 局長並びに 82 県の県教育局長を集め、2017/2018 年度の総括ならびに 2018/2019 年度計画の説明が行われた。その中で、PEEQ により導入された教育モデルが小学 1・2 年用の改訂版カリキュラムに統合され、2018/2019 年度からは新たな教科書にその内容が反映されるため、各州・各県でその実施を徹底するよう、大臣自らが指示を出した。AREF の年間活動計画には、こうした指示に基づき PEEQ の教育モデルの普及について記載されることになる。さらに 7 月 26 日には PEEQ プロジェクトの終了式典並びに全国セミナーが開催された。セミナーの中でも、全国普及に必要な施策について協議された。

## (3-2) MENFPESRS がモロッコ国内における展開計画を策定する

2015年10月2日、JICA本部の運営指導調査の実施に合わせ、当時のRachid BELMOKHTAR 国民教育・職業訓練大臣とJICA調査団、JICAモロッコ事務所、プロジェクト専門家チームが会見し、PEEQの進捗を報告するとともに、今後の進め方について意見交換を行った。その中で大臣からは、学校現場での活動を重視し、現場を良く知る教員や視学官から、誤答分析の結果を踏まえた授業改善の方法についての意見を聞くよう指示が出された。さらに大臣は、PEEQの活動をプロジェクト対象校以外にも普及させる必要があると述べ、これらの指示を受け、後述する「誤答分析に基づく授業改善にかかる全国ワークショップ」が2015年10月21日・22日に開催された。

その後2015年12月にDSSPは、「PEEQプロジェクトの全国展開の手順に係る概要書 (Termes de Référence)」を起草し、省レベルでの承認をめざした。しかしながら、2016年10月の運営指導調査の際には、DSSP局長から、フィージビリティの評価を行い新たな普及計画を策定することが必要であるとの意向が表明された。

2017年6月には、再びMENFPESRSとJICAモロッコ事務所の責任者間の会見が行われ、PEEQに係る活動の全国的な普及について話し合われた。会見の結論としてMohamed HASSAD大臣(当時)は、診断評価の手法を取り入れた既習事項確認テストとその結果を活用した指導方法の改善を、2018/2019年度から全国的に普及させるために、研修等を通じた準備を2017/2018年度中に行うよう指示した。

その後、2017年10月12日にJCCが開催され、PEEQ活動の全国普及についての協議がなされ、以下のような結論に至った。会議後、HASSAD大臣はこれらの結論を承認し、普及の推進と加速を指示した。

- 1) PEEQで開発した数字カードと問題集を活用した算数の授業開始時5分間の計算練習を2017/2018年度から普及開始
- 2) 誤答の教育学を適用した診断テスト結果に基づく学習改善を2018/2019年度から普及開始
- 3) 誤答の教育学について州および県レベルの講師養成研修並びに教員研修を2017/2018年度中に実施
- 4) 教育省によって策定された課程に基づくカリキュラム改訂について、JICA専門家の支援を受け、2017/2018年度から開始
- 5) 中央・州・県・学校レベルの全関係者の代表が参加するワークショップ開催し、上記決定事項の実施方法について確定

2018年2月26日、新たに着任したSaaid AMZAZI大臣とJICAモロッコ所長の会見が行われた。大臣は、エンドライン調査を通じてPEEQの効果が明らかになることへの期待感を示すとともに、案件終了後も継続的に日本側の協力を得たいと述べ、カリキュラムや教科書への反映を通じて全国普及を図ることに意欲を示した。さらに、MENFPESRSの関係者がPEEQの成果を収得し自らのものとするのが重要であると述べた。

こうした大臣の意向にも合致する形で、MENFPESRSは2018年2月14日～16日に、PEEQが



推進した「初等算数教育における基礎学力評価習熟のための教育モデル」を小学1・2年の算数教育のカリキュラムに統合させるため、日本人専門家を招聘してワークショップを開催した。2月のワークショップや、その後の日本人専門家からの助言等を踏まえ、4月初旬までに小学1・2年の算数と理科の改訂版カリキュラムが最終化された。それらに基づき改訂される教科書の、執筆者に対する技術移転をするためのワークショップが、同年4月7日～9日に開催された。日本人専門家からの助言を受けて、PEEQの成果を統合した小学1・2年生用の改訂版教科書が、2018/2019年度からモロッコ全土で使用される。同様に小学3・4年生用の改訂版カリキュラムと改訂版教科書が2019/2020年度から、小学5・6年生用の改訂版カリキュラムと改訂版教科書が2020/2021年度から採用される。したがって、カリキュラム・教科書改訂の進度に合わせる形で、全国の小学生PEEQの事業成果が反映された教育、特に「初等算数教育における基礎学力評価習熟のための教育モデル」が適用された教育を受けることができるようになる。

なお、改訂版カリキュラムの旧版と比した変更点を通知するための教育省通達が、2018年8月28日に発出された。この中で、特に算数のカリキュラムの変更点に関する文中では、「初等算数教育における基礎学力評価習熟のための教育モデル」に関する説明がなされた。

一方、MENFPESRSは、PEEQによる介入の中でも特に優先度が高く効果が認められた「初等算数教育における基礎学力評価習熟のための教育モデル」を全国的に普及させるための、全国普及計画を策定した。同文書は、2018年5月3日のプロジェクト運営委員会、6月25日の合同調整委員会（JCC）を経て、MENFPESRS次官により承認された。普及計画は、「全国普及の背景と理由」「普及すべき教育モデル」「PEEQが導入した教育モデルの全国普及の戦略」の3章で構成されており、普及に必要な各関係部局の役割や、見込まれる必要経費を含む、総合的な行動計画となっている。

2018年8月28日、同全国普及計画を実行に移すための省通達が、全国12の全AFERに対して発出された。

### (3-3) 日本人専門家が、MENFPESRS/AREFの予算編纂を支援する

上述のとおり、「初等算数教育における基礎学力評価習熟のための教育モデル全国普及計画」には、同モデルの実施に必要な教材作成費等が含まれている。見積もりの作成には、日本人専門家が支援を行った。

### (3-4) 関係者を招いてワークショップを開催する

2015年10月2日に行われた教育大臣への報告の際に同大臣が述べた指示に基づき、MENFPESRSは2015年10月21日・22日の二日間、「誤答分析に基づく授業改善にかかる全国ワークショップ」を実施した。というのも、大臣からの指示が、誤答分析の結果を踏まえた授業改善を実現するために、教育現場の実情を最も良く把握している教員ならびに視学官の意見を傾聴することであったからである。ワークショップでは、診断テストにおける各問題の正答率の予想、典型的な誤答の予想、実際の誤答を踏まえた改善内容を含む指導案の作成等が行われた。ワークショップの閉会式において、教育大臣は特に同様の活動の継続の必要性について繰り返し強調し、

同ワークショップに参加した教員らのネットワークの構築についても指示をした。

参加者は、PEEQ プロジェクトの非対象州を含む次の 8 州（旧行政区画）から、算数・理科の視学官各 1 名及び小学校教員各 2 名（計 6 名）ずつで、全州合計 48 名であった：

[参加州]

シャウィア・ウルディガ州、ドゥカラ・アブダ州、マラケシュ・テンシフト・アル・ハウズ州、ガープ・シャラルダ・ベニハッサン州、スス・マサ・ドラ州、タドラ・アジラル州、ゲルミン・エスマラ州、ラバト・サレ・ゼムール・ザイール州

2017 年 10 月 12 日の JCC での結論に基づき、MENFPESRS は同年 12 月 11 日、プロジェクトの対象となっている 3 つの州（カサブランカ・セタット、ラバト・サレ・ケニトラ、マラケシュ・サフィ）の中の全県（プロジェクト対象県 8 県の他に 23 県、計 31 県）を対象とした、PEEQ 活動普及セミナーを開催した。参加者は、中央・州・県レベルの行政官や視学官約 80 名であった。以下の目的のもと、プロジェクト概要及び実績紹介、既習事項確認テスト（診断テスト）の解説、基礎計算力習熟活動の説明、PEEQ 活動普及計画の協議等がなされた。

[セミナーの目的]

- PEEQ プロジェクトの目的及びパイロット事業対象学校群での成果を広く認知させること
- プロジェクト対象県以外に教材等の成果物や事業実施経験を共有すること
- プロジェクトで導入した教育方法について関係者を指導すること
- 国レベル・州レベルの PEEQ 活動普及計画を協議すること

2018 年 7 月 19 日、「初等算数教育における基礎学力評価習熟のための教育モデル」を中心とした、2018/2019 年度から施行される改訂版カリキュラム（小学 1・2 年対象）に対する PEEQ の貢献事項にかかるワークショップが、MENFPESRS により実施された。MENFPESRS 側からは次官ならびに関係局長が出席し、国内の全 12 州から、AREF 局長、並びに実際に普及活動を担う 62 名の普及視学官（inspecteur démultiplicateur）が参加した。同ワークショップの中では、PEEQ の教育モデルを州年間教育計画の中に盛り込んで実践するよう、次官から各 AREF 局長に指示が出されるとともに、視学官やプロジェクトの専門家・現地傭人らが、同モデルの具体的な実践方法を説明し、参加者とその普及方法を協議した。

さらに、2018 年 7 月 26 日には、「公平な教育振興プロジェクト（PEEQ）終了式典並びに全国セミナー」が開催された。同セミナーでは、「基礎学力評価習熟のための教育モデル全国普及計画」を共有し、同モデルの有効性を示して普及に向けた道筋を示すとともに、プロジェクトのその他の成果、特に学校プロジェクトの枠組みを用いた各種教育活動の成果についても報告され、その推進を図るものであった。同セミナーへは報道機関や他ドナーからの参加も多く、世論喚起を通じた同モデルの普及・推進にも効果的なものであった。

参加者は、中央・州・県レベルの行政官や視学官約 60 名であった。

## 2. プロジェクトの達成度

### 2-1 成果と指標

#### 【成果 1】

生徒の学習到達度の格差是正のための措置（主に診断テスト、誤答分析、授業案改善、補助教材を活用した生徒の学習支援、モニタリング体制からなる）が試行され、採用される<sup>6</sup>

<指標と達成度>

(1-1-1) 業務実施要領が作成される

プロジェクトの実施を通じて以下のガイドブックが作成された。

- 初等算数教育における基礎学力習熟のための教育モデル実践ガイド
- 授業のはじまり 5 分間の計算練習：数字カードと暗算プリント活用ガイド
- 既習事項確認テスト実施及び結果活用ガイド
- 算数問題集活用ガイド
- 児童生徒の誤答を活用した教育改善に係る教員研修モジュール（冊子版及びビデオ版）

(1-1-2) PEEQ が導入した児童生徒の学習到達度改善のための施策が関係機関により承認される

MENFPESRS によって改訂が進められている初等教育カリキュラムに、PEEQ が導入した「初等算数教育における基礎学力評価習熟のための教育モデル」を統合する作業が進められている。小学 1 年・2 年の改訂版カリキュラムへの統合は完了し、2018/2019 学年度からモロッコ全土の小学校において実施される。その後、小学 3・4 年のカリキュラムは 2019/2020 学年度から、小学 5・6 年のカリキュラムは 2020/2021 学年度からそれぞれ実施される。

このように、カリキュラムに統合されるということは、MENFPESRS により PEEQ の教育モデルが承認されたことを表している。

(1-2-1) 生徒の学習到達度改善のためのプロジェクトによる介入の有効性が PEEQ の枠組で実施する診断テストを通じて確認される（目標値：20 点未満の児童生徒の割合が半減する）

2017 年 5～6 月（年度末）に行った診断テストの結果を、2016 年 9～10 月（年度初め）の同様の診断テストの結果と比較したところ、表 26 のとおりいずれも目標値の半減を達成した。ただし、可能な範囲で非対象校との比較をしたところ、統計的な有意差を検出するまでには至らなかった。

<sup>6</sup> 施策が試行されるのは、各県 2 つずつ選出された学校群内のプロジェクト対象校においてであり、試行された施策を採用するか否かを判断するのは、指標 1-1-2 にあるとおり MENFPESRS である。

表 26 : 診断テストにおける正答率 20%以下の児童生徒の割合の変化

| テスト種別  | 正答率 20%以下の児童生徒の割合 |            |
|--------|-------------------|------------|
|        | 2016年 9～10月       | 2017年 5～6月 |
| 小学3年算数 | 19.3%             | 1.1%       |
| 小学5年算数 | 16.1%             | 0.0%       |
| 中学1年数学 | 29.5%             | 5.3%       |
| 小学5年理科 | 7.2%              | 0.0%       |

(1-2-2) 2016年 PEEQ 診断テストの対象校において、「基礎的な計算問題の習熟度<sup>7</sup>」が小学4年生以上で85%以上となる

2018年4月、2016年 PEEQ 診断テストの対象校の小学4年生から6年生 4,135人を対象にして、「9+9」までの整数のたし算、「18-9」までの整数のひき算、かけ算九九に関する小テストを行った。その結果、小学4年生以上の平均正答率は「86.5%」であった。よって PDM 指標の目標を達成した。

(1-3-1) プロジェクト対象校の80%以上で、診断テストの結果を活用した、教育改善のためのワークショップが開催される

2018年4月に実施したエンドライン調査結果によれば、2017/2018年度に既習事項診断テストの結果を活用した教育改善のためのワークショップを行った学校は、プロジェクト対象校の111校の中で、調査票を回収できた95校のうち61.1% (58校)であった。これを、年度初めにテストを実施した79校からの割合でみると73.4%であった。よって、PDM 指標の目標値である80%以上という水準には到達できなかった。

既習事項確認テストの結果の有効活用は、長年の課題であることは既述のとおりである。「初等算数教育における基礎学力評価習熟のための教育モデル」の2つ目のステップに位置づけられているテスト結果の分析を、ワークショップを開催して行うことができたのは、テスト実施校の約7割であり、さらなる推進が求められる。

(1-3-2) 上記ワークショップ開催校の80%以上で、計画された教育改善の方策が実践される

2018年4月に実施したエンドライン調査結果によれば、上記ワークショップを開催した58校のうち、回答がなかった1校(1.7%)を除いたすべての学校で、(1)授業中の指導方法の改善(69.0%)、(2)つまづいている児童生徒への補習の実施(77.6%)、(3)全児童生徒を対象とした習熟活動の実施(55.2%)のいずれかもしくは複数の方法により、ワークショップの結果を活用した教育改善を行った。よって、目標値80%に対して達成値は98.3%であった。

<sup>7</sup> 「9+9」までの整数のたし算、「18-9」までの整数のひき算、かけ算九九に関する小テストの平均正答率で測定する。

(1-4-1) 診断テスト（既習事項確認テスト）の実施と教員の教育実践におけるテスト結果の活用が、視学官が学校で実施する恒常的なモニタリングの対象として、業務分掌に係る指示書に明記される

視学官の中核的な業務である教員の評価は、一義的に、カリキュラムに記載されている教育内容や教育方法に基づいて教員が指導を行っているかどうかを基準となる。したがって、「初等算数教育における基礎学力評価習熟のための教育モデル」がカリキュラムに統合されるということは、基本的に視学官のモニタリングの対象となることを意味する。よって、少なくとも初等第1・第2学年については、カリキュラムが求めている「教育モデル」に基づいた教育実践が行われているかどうか、視学官の確認事項に含まれることになる。今後、第3学年以上についても、同様の措置が取られることになる。

その他、2017/2019年度の初めには、当時の MENFPESRS 大臣の指示により、視学官は所管学区内の全ての学校について、各学校が新年度開始前に発出された省令に基づく措置を実行しているか確認をした。同省令には、既習事項確認テストの実施も含まれており、少なくともテストについては既に明示的に視学官の所掌業務の一部となっている。

(1-4-2) プロジェクト対象校全てにおいて、視学官による学校訪問を通じた通常の視学業務の中で、少なくとも年1回、上記モニタリングが行われる

2018年4月に実施したエンドライン調査によれば、プロジェクト対象校（回答数95）における、視学官による学校訪問を通じた視学業務の頻度は表27のとおりであった。

表27：プロジェクト対象校への視学官の訪問頻度

| 月2回以上     | 月1回       | 2カ月に1回      | 3-4カ月に1回    | それ以下        | 一度も来ない    | 回答なし        |
|-----------|-----------|-------------|-------------|-------------|-----------|-------------|
| 6.3% (6校) | 9.5% (9校) | 26.3% (25校) | 15.8% (15校) | 16.8% (16校) | 4.2% (4校) | 21.1% (20校) |

出所：エンドライン調査結果に基づきプロジェクトチームが作成

回答なしの20校と「一度も来ない」の4校を合わせて全体の4分の1の数に上る。一方、視学官の数の減少に伴う負担増なども指摘されており、モロッコ国内における視学官制度の適切な運用が求められる。

以上で述べた成果1に係る各指標の到達度を一覧にまとめると表28のとおりとなる。

表28：成果1にかかる指標の到達度合い

| 指標番号  | 目標値              | 達成値            | 到達度合い |
|-------|------------------|----------------|-------|
| 1-1-1 | 実施要領作成           | 作成済み           | 100%  |
| 1-1-2 | 施策承認             | 承認済み           | 100%  |
| 1-2-1 | 20点未満児童生徒割合半減    | 全テストで目標値を上回る減少 | 100%  |
| 1-2-2 | 基礎的計算問題習熟度 85%以上 | 86.5%          | 100%  |

|       |                                      |  |         |
|-------|--------------------------------------|--|---------|
| 1-3-1 | ワークショップ開催校 80%以上                     | 61.1%  | 76%     |
| 1-3-2 | 教育実践実施校 80%以上                        | 98.3%  | 100%    |
| 1-4-1 | 既習事項確認テスト実施とその結果活用を視学官のモニタリング業務分掌に明記 | 既習事項確認テストは既に明記<br>結果の活用は、1・2年はカリキュラムへの統合により達成、3・4年は今後達成見込み | 7割程度と判断 |
| 1-4-2 | 年1回以上のモニタリング実施                       | 一度も来ない、回答なしを合わせて25.3%                                      | 7割程度と判断 |

以上より、仮に成果1に係る全ての指標の平均値を取るとすれば、高い到達度の目安と設定されている80%を超えるので、成果1の到達度合いは高いと判断される。

## 【成果2】

教育のアクセス及び質における格差是正のための活動を推進する学校運営の仕組みが試行され、採用される<sup>8</sup>

<指標と達成度>

(2-1) PEEQの補助金支給契約対象の学校プロジェクト(PEEQ軸)のうち、少なくとも90%のプロジェクトにおいては、就学促進や学力向上にかかる計画された全ての活動が実施される

PEEQの第1ラウンドで補助金を支給した11の学校プロジェクトについては、1校を除くすべての学校で、計画されたすべての活動が実行され目標が達成された。活動目標を達成した学校の割合は約91%であった。第2ラウンドで補助金を支給した29の学校プロジェクトについては、全ての学校から活動報告書を受領し、計画された全ての活動が実施されたことを確認した。

(2-2) 学校プロジェクト実践ガイドブックが、プロジェクト対象学校群内の小・中学校の全て(プロジェクト対象校)に、教育省の公式な文書として共有される

DVS、CNEEO、DC等と共に、「公平で質の高い教育改革のための実践ガイドブック」を開発し、2018年7月、プロジェクトの対象学校群内111校全校に配布した。本ガイドブックは、学校プロジェクトの枠組みを用い、教育の質の向上や児童生徒の就学促進を図る教育活動を、学校レベルで計画・実施・モニタリングすることを支援するため、PEEQで紹介、導入されたさまざまな教育学習活動の実施方法を網羅したものである。ガイドブックは以下の小冊子により構成されている。

- ① はじめに：この実践ガイドの使い方
- ② 学校プロジェクトの計画・実施のための実践ガイド(年間活動計画を含む)

<sup>8</sup> 成果1同様、施策が試行されるのは、各県2つずつ選出された学校群内のプロジェクト対象校においてであり、試行された施策を採用するか否かを判断するのはMENFPESRSである。

- ③ 初等算数教育における基礎学力習熟のための教育モデル実践ガイド
  - ④ 授業のはじまり 5 分間の計算練習：数字カードと暗算プリント活用ガイド
  - ⑤ 既習事項確認テスト実施及び結果活用ガイド
  - ⑥ 算数問題集活用ガイド
  - ⑦ 読書活動実践ガイド
  - ⑧ 課外活動実践ガイド
  - ⑨ 教育の重要性にかかる意識向上活動実践ガイド
  - ⑩ 小中学校連携実践ガイド
- 付録：DVD（視聴覚資料を含む全教材）

(2-3-1) プロジェクト対象校の90%以上の校長が、学校運営に係る研修を受講する

2017年9月に実施した学校運営に係る研修会に参加した校長は、プロジェクト対象校111校（中学校及び小学校本校の数）のうち、91校で82%であった。ただし、その時点で新任校長が任命されていなかった学校が5校あり、それを考慮すると86%であった。90%の達成目標には至らなかったが、その後県教育局から情報や資料を提供してフォローアップを行った。

(2-3-2) 校長が学校運営に係る研修を受講した学校のうち90%以上で、教育の質とアクセスの改善に資する年間活動計画（学校プロジェクト）が策定される

研修参加校91校に対して、76校からの年間活動計画を受領した。その割合は、84%であった。ただし、年間活動計画策定については、全学校の義務としてMENFPESRSからの通達によって指示がなされているため、プロジェクトとして未受領の学校においても策定されている可能性がある。また、2018年4月に実施したエンドライン調査結果では、「あなたの学校では、2017/2018年度に年間活動計画を作成しましたか。」の質問に回答した95校のうち、81校が年間活動計画を策定したと回答し、その割合は85%であった。

(2-3-3) 上記年間活動計画を策定した学校のうち少なくとも70%で、計画に照らし合わせて活動目標が達成される。

2018年4月に実施したエンドライン調査によれば、2017/2018年度がまだ終了していない段階での見込みではあるが、「年度末（2018年6月）には、年間活動目標を達成できそうですか。」の質問に回答した81校（年間活動計画を策定した全学校数）のうち、13校が「とてもあてはまる」、53校が「あてはまる」と回答し、その割合はそれぞれ16%、65%であった。両者を足せば81%となり目標値が達成されたことになるが、単に「あてはまる」と回答した学校で、完全には活動目標が達成されない可能性があることを考慮すれば、慎重な評価が必要となる。

以上で述べた成果2に係る各指標の到達度を一覧にまとめると表29のとおりとなる。

表 29：成果 2 にかかる指標の到達度合い

| 指標番号  | 目標値                 | 達成値                                      | 到達度合い |
|-------|---------------------|--|-------|
| 2-1   | 補助金支給プロジェクト 90%以上実施 | 第 1 ラウンド 91%<br>第 2 ラウンド 100%            | 100%  |
| 2-2   | ガイドブック対象校全校配布       | 配布済み                                     | 100%  |
| 2-3-1 | 対象校 90%以上研修受講       | 82%                                      | 91%   |
| 2-3-2 | 研修受講校 90%以上が活動計画策定  | 84%                                      | 93%   |
| 2-3-3 | 計画策定校 70%以上で目標達成    | 目標達成可否の質問に「とてもあてはまる」16%、「あてはまる」65%、計 81% | 100%  |

以上より、仮に成果 2 に係る全ての指標の平均値を取るとすれば、高い到達度の目安と設定されている 80%を超えるので、成果 2 の到達度合いは高いと判断される。

### 【成果 3】

AREF 内の他地域への施策継続及び MENFPESRS による他 AREF 展開の準備が整う<sup>9</sup>。

<指標と達成度>

(3-1) AREF と MENFPESRS の計画が策定される

MENFPESRS の「初等算数教育における基礎学力評価習熟のための教育モデル全国普及計画」が策定され、2018 年 6 月 25 日の JCC 会議において一部修正付帯条件付きで承認され、その後 JCC 委員により修正項目が確認された。

2018 年 8 月 28 日、MENFPESRS から「初等算数教育における基礎学力評価習熟のための教育モデル全国普及計画」の実施を関係各局に求める通達が発出され、その中で、各 AREF が州年間行動計画の中に同モデル普及の計画を含めるよう要請された。

2018 年 7 月 19 日には同教育モデルに関する全国 12 州の代表を集めたワークショップが開催された。ワークショップの中で、MENFPESRS 次官は全 12 州の AREF 代表者らに対し、各州の年間活動計画の中で同モデルの普及を図るよう指示した。

ただし、プロジェクト完了時点では、AREF の計画は未完成である。AREF の年間計画は、次期会計年度が 2019 年 1 月から始まるのに合わせ、2018 年 12 月までに策定されることになる。

(3-2) すべての州でプロジェクト伝達チームが組織される

PEEQ で導入された活動の普及のためには、PEEQ を実施あるいは普及するための特別の組織を設置するのではなく、既存の行政組織を最大限活用することが効率的であるとの認識のもと、2016 年 10 月の運営指導調査で「PEEQ 事業普及のための暫定組織図」が合意された。今後とも同

<sup>9</sup> 成果 3 の「展開の準備が整う」とは、PEEQ が導入した教育モデルについて、MENFPESRS による全国普及計画、各州 AREF による州普及計画が策定されるとともに、その計画を実施するための組織が AREF 内で設置され、計画に沿った普及活動が実施されている状態のことを指す。



組織図に則り事業普及を行っていく。特に、AREF 並びに県教育局のそれぞれ教務課及び教務係の重要性が認識されている。

また、「初等算数教育における基礎学力評価習熟のための教育モデル」は、改訂カリキュラムに統合されたかたちで普及されるので、視学官がカリキュラム改訂事項を伝達していく仕組みが適用される。具体的には、全国で 62 名の普及視学官が選出され、彼らが全視学官約 800 名にカリキュラム改訂事項を共有し、同視学官は全国の小学校で教員に対する指導を行うという流れが確立した。

### (3-3) すべての州でプロジェクト伝達プロセスが実行される

MENFPESRS は 2017 年 12 月 11 日、プロジェクトの対象となっている 3 つの州（カサブランカ・セタット、ラバト・サレ・ケニトラ、マラケシュ・サフィ）の中の全県（プロジェクト対象県 8 県の他に 23 県、計 31 県）を対象とした、PEEQ 活動普及セミナーを開催した。参加者は、中央・州・県レベルの行政官や視学官約 80 名であった（「1-3 活動」参照）。こうした動きは、州内の伝達プロセスの端緒である。

さらに、指標(3-2)の達成度の項で述べた 62 名の普及視学官への研修は、7 月 17 日～20 日に実施され、そのうち 19 日は PEEQ の教育モデルに関するワークショップが行われた。これらの研修内容は各州において全視学官に共有され、2018/2019 年度の開始当初、2018 年 9 月 24 日から 10 月 29 日までの間に教員への指導が行われることが決定している。この流れは、2019/2020 年度の小学 3・4 年のカリキュラム改訂、2020/2021 年度の小学 5・6 年のカリキュラム改訂に合わせ、向後 3 年間繰り返されることになっている。

以上のように「伝達プロセス」は着実に開始されたが、その歩みの多くはプロジェクト終了後に継続して行われるものである。

以上で述べた成果 3 に係る各指標の到達度を一覧にまとめると表 30 のとおりとなる。

表 30 : 成果 3 にかかる指標の到達度合い

| 指標番号 | 目標値                      | 達成値                      | 到達度合い    |
|------|--------------------------|--------------------------|----------|
| 3-1  | AREF と MENFPESRS の普及計画策定 | MENFPESRS 完了<br>AREF 未完了 | 5 割程度と判断 |
| 3-2  | 伝達チームの組織                 | 完了                       | 100%     |
| 3-3  | 伝達プロセスの実行                | 着実に開始されるも<br>実施の多くは案件終了後 | 5 割程度と判断 |

以上より、仮に成果 3 に係る全ての指標の平均値を取るとすれば、中程度の到達度の目安と設定されている 50%から 80%の範囲にあてはまるので、成果 3 の到達度合いは中程度と判断される。

## 2-2 プロジェクト目標と指標

### 【プロジェクト目標】

国民教育・職業訓練・高等教育・科学研究省が、教育に係る格差の緩和に取り組むAREFを支援する

<指標と達成度>

MENFPESRSによるAREF支援のための参照枠組みが策定される

PDMにはプロジェクト目標の達成度を測る指標として、「MENFPESRSによるAREF支援のための参照枠組みが策定される」こととなっている。ここでの「参照枠組み」は、PEEQの教育モデルを全国的に普及することを指示するMENFPESRSの通達を意味する。その詳細は、実施体制や予算措置を含め、「成果3」として策定される普及計画に規定される。

一方、プロジェクト設計時より、この指標が具体的に何を意味するのかについて、十分明確にされぬままプロジェクト終盤を迎えてしまった。プロジェクト目標プロジェクトモニタリングシート第5号(2017年2月)及び第6号(2017年7月)には、この参照枠組みは「普及計画」を意味するものと記されている。その後、モロッコ側カウンターパート機関とプロジェクト専門家チームとの協議、JICA本部と専門家チームとの協議などを経て、2018年2月のモロッコ側プロジェクト責任者と日本側チーフアドバイザーとの会合の際に、上述のとおりMENFPESRSの通達をもって、プロジェクト目標の達成度を測る指標とすることが確認された。

PEEQによる介入のうち、全国普及の対象となる教育モデルあるいは教育実践については、次のような経緯で「初等算数教育における基礎学力評価習熟のための教育モデル」とすることとなった。本プロジェクトは当初、「質コンポーネント」と「エクイティ(アクセス)コンポーネント」に分かれ、それぞれが別のアプローチを用いて学校への介入を行った。その後のPDMの改訂によって、両者を統一し、学校プロジェクトという枠組みを活用して、公平で質の高い教育を実現するための学校運営の改善を支援することになった。そうした流れの中でMENFPESRSは、学校プロジェクトの枠組みの中で実践できるさまざまな教育活動を例示しプロジェクト対象地域外へも普及(disséminer)する一方で、特に初等算数教育については、「基礎学力評価習熟のための教育モデル」を確立して全国普及(généraliser)することを決定した。

これは、学校プロジェクトの運営に関する枠組みは既に確立されているとともに、その活動内容は、各学校がそれぞれの現状に応じて計画することが求められているため、上意下達式に特定の教育活動の実施を強制することは適切ではないためである。一方、PEEQの介入の中で、特に初等算数教育の教育モデルが確立され全国普及されることになったのは、プロジェクト実施の過程で、最も集中的に支援が行われ、効果が証明できた領域だったからである。

こうした経緯を踏まえ、2018年8月28日、「初等算数教育における基礎学力評価習熟のための教育モデル全国普及計画」を実施するための通達が、MENFPESRS大臣より全国のAREF局長に向けて発出された。さらに、改訂版カリキュラムの旧版と比した変更点を通知するための教育省通達も、2018年8月28日に発出された。この中で、特に算数教育のカリキュラム改訂に係る文

中で、「初等算数教育における基礎学力評価習熟のための教育モデル」に関する説明がなされた。

以上により、設定された指標の達成度合いについては、「参照枠組み」として設定された通達が実際に発出されたため 100%の達成度であると判断され、同指標のみに基づき判断すれば、プロジェクト目標の達成度合いは高いと言える。ただしプロジェクト目標は、MENFPESRS が「教育に係る格差の緩和に取り組む AREF を支援する」と設定されているので、「初等算数教育における基礎学力評価習熟のための教育モデル」に関する AREF の普及計画が完成していない現状では、慎重な判断が求められる。

### 3. PDM 改訂の変遷

#### 1) PDM 暫定版 (ver. 0) から第 1 版への改訂

プロジェクト設計のプロセスを通じ暫定版として策定され、2014 年 5 月にモロッコ側・日本側の双方で署名された討議議事録 (R/D) により合意された PDM ver.0 は、2014 年 10 月の「プロジェクト概要書策定ワークショップ」の中で精査され、同年 12 月 4 日に開催された合同調整委員会において第 1 版 (PDM ver. 1) として承認された。暫定版から第 1 版への改訂事項とその理由は、表 31 に示すとおりである (PDM ver. 0 および PDM ver. 1 は別添資料参照)。

表 31 : PDM ver. 0 から PDM ver. 1 への改訂事項とその理由

| 項目  | PDM ver.0   | PDM ver.1  | 改訂の理由   |
|---|---|--|---|
| 活動 1-1 から 1-9 までに付いていたサブタイトルの変更   | “Restoring basic academic skill”,<br>“Pedagogical guidanc, “Facilitating learning organization”   | Exploration and diagnosis,<br>Information, Development, On-the-spot Guidance, Monitoring   | 活動の内容面での区分よりも活動手順に沿った区分の方が理解をより容易にするため。   |
| 活動 1-9, 1-10 の位置の変更   | “1-9 Japanese experts conduct...”,<br>“1-10 MENFP personnel facilitate...”  | “1-3 Japanese experts conduct...”,<br>“1-4 MENFP personnel facilitate...”  | 上記により活動の区分 (サブタイトル) を変更した結果、旧 1-9 と 1-10 はプロジェクトの各ラウンドの当初に行われる必要があるため。  |
| 活動 1-2, 2-2 において支援対象が学校群であることを明示  | Identify lower secondary schools that need interventions...   | Identify lower secondary schools and their affiliated primary schools (bassins scolaires) that need interventions...   | 支援対象は中学校に限定されないため。  |
| 旧 1-9 (新 1-3) の会合の対象に AREF/CRMEF/Delegation を追加<br>旧 1-10 (新 1-3) の会合の対象に CRMEF を追加 | 1-9 Japanese experts conduct learning/briefing session for MENFP personnel<br>1-10 MENFP personnel facilitate learning/briefing session for AREF/Delegation | 1-3 Japanese experts conduct learning/briefing session for MENFP/AREF/<br>CRMEF/Delegation personnel<br>1-4 MENFP personnel facilitate learning/briefing session for AREF/CRMEF/Delegation | 教員養成機関である CRMEF (Centre régional des métiers de l'éducation et de la formation) は、州レベルに置かれた機関であるが AREF の傘下ではなく、MENFP の中央職員養成ユニットの直轄であるため、AREF とは別途列記する必要がある。また、日本人専門家から中央政府の職員、中央政府の職員から地方 (AREF, Delegation) の職員への伝達というだけでなく、日本人専門家から直接地方への伝達を行う必要があるため、1-3 にも地方の関係諸機関を列記した。 |

| 項目                                   | PDM ver.0  | PDM ver.1   | 改訂の理由   |
|--------------------------------------|--|---|---|
| 職教員研修会の追加                            | 記載なし   | 1-9 Japanese experts conduct training for the inspectors and CRMEF trainers<br>1-10 The trained inspectors and CRMEF trainers conduct training for teachers with support of Japanese experts  | PDM Ver.0 では、視学官が通常業務の一環として教授法等を紹介することとなっていたが、それのみでは十分な授業改善の効果を期待することはできないと判断されたため、事業計画の中にも現職教員研修会の実施を盛り込んだ。それを PDM 上でも明示するために、1-9、1-10 を追記した。  |
| 活動 2-1 の enrolment campaign という表現の修正 | Study current practice of enrolment campaign and support for disadvantaged schools.  | Study current practice concerning students' access to schools and retention and support for disadvantaged schools.  | アクセスコンポーネントにかかる活動が就学キャンペーンに限定されないため、学校へのアクセス及び退学阻止と修正した。  |
| ベースライン調査に関する活動の明示                    | 記載なし   | 2-3 Carry out survey on current activities concerning access and retention in the selected lower secondary schools and its affiliated primary schools (bassins scolaires)   | 2-1 の現状把握の活動は、必ずしも対象学校群のベースライン調査の実施を表現していないため、調査を別途明示した。  |
| 既存の仕組みを活用した就学促進活動の実施                 | 2-3 Hold orientation meeting for identified lower secondary schools and its affiliated primary schools to organize campaign teams<br>2-4 The teams propose action plan...<br>2-5 AREF provides grant to implement the plan<br>2-6 The team/ school implements the plan | 2-4 Hold orientation workshop for the identified lower secondary schools and its affiliated primary schools to develop and improve school project<br>2-5 The schools propose school project...<br>2-6 AREF provides grant to implement the school project<br>2-7 The schools implement the school project   | 着任後の調査により、アクセスコンポーネントに関係した活動として、既に国家政策の中に位置づけられた「学校プロジェクト」という活動があり、それは学校が母体となり「学校運営委員会」および「学校支援協会」といった機関が計画・実施に関与している。これらの事実から、新たに「地域啓発チーム」という組織を作り、就学促進のための計画を立てるより、既存の仕組みに則った支援のほうが効果的・効率的であるとの結論に至った。そのため、campaign team は school に、action plan (または plan) は school project に置き換えた。 |
| 評価指標の明確化                             | (上位目標の指標)<br>Number of targeted schools in the extended areas  | (上位目標の指標)<br>Number of targeted schools in the extended areas (Target value: XX % of all primary and lower secondary schools)   | 目標の明確化と測定可能性の向上のため (ただし到達目標値の設定は2017年3月までに決定する)。  |
| 評価指標の明確化                             | (成果 1 の指標)<br>Executing guidelines is developed<br>Changes in repetition<br>Changes in student scores in the identified areas that students do not perform well  | (成果 1 の指標)<br>1-1 Executing guidelines is developed<br>1-2 The repetition rate of students in targeted school (Target value: the repetition rate decreases to XX % in targeted primary school and to YY% in targeted lower secondary school)<br>1-3 The percentage of students with a score greater than or equal to 5 out of 10 in mathematics and science in the final examination of the sixth grade of primary school, and the percentage of students with a score greater than or equal to 10 out of 20 in mathematics, physics, chemistry, biology, and earth science in the final examination of the third grade of lower secondary school (Target value: the percentage in targeted primary school increases by XX % and in |   |

| 項目       | PDM ver.0  | PDM ver.1  | 改訂の理由  |
|----------|--|--|--|
|          |  | targeted lower secondary school by XX% )<br>1-4 The students' score in the mathematics and science test developed and implemented by PEEQ (Target value: the rate of increase in the students' scores is XX% in targeted primary school and YY % in targeted lower secondary school)   |  |
| 評価指標の明確化 | (成果2の指標)<br>Executing guidelines is developed<br>Changes in primary – junior secondary retention and girls enrolment)                          | (成果2の指標)<br>2-1 Executing guidelines is developed<br>2-2 The rate of students dropped-out (Target value: the rate of students dropped-out decreases by XX% in targeted primary school and by YY% in targeted lower secondary school)<br>2-3 The girls enrolment rate in lower secondary school (Target value: the girls enrolment rate increased to XX % in targeted lower secondary school) | 目標の明確化と測定可能性の向上のため（ただし到達目標値の設定は2017年3月までに決定する）。  |
| 評価指標の明確化 | (成果3の指標)<br>Replication plan is developed<br>Responsible person in charge has clear understandings what to do next                             | (成果3の指標)<br>3-1 The plan is developed by AREF and MENFP.<br>3-2 A dissemination team of the project is organized in every region.<br>3-3 The dissemination process of the project is implemented in all regions.   | 目標の明確化と測定可能性の向上のため（ただし到達目標値の設定は2017年3月までに決定する）。  |
| 外部条件の適正化 | (成果の外部条件)<br>MENFP and AREF Officers do not change<br><br>(前提条件)<br>Moroccan education strategy / mid-term plan PAMT (2013-2016) don't change. | (成果の外部条件)<br>There is no significant change in the organizational structure of MENFP and AREF<br><br>(前提条件)<br>The general principle of Moroccan education strategy / mid-term plan PAMT (2013-2016) does not change.  | 成果の外部条件については、公務員の人事異動は必然的に起こり得るため外部条件とするに相応しくないため、人事異動があったとしても組織に蓄積された記憶として事業継続が可能となるよう、組織機構の大幅な変更がないことを外部条件とした。前提条件としては、既に現在PAMTは改訂中であるため、その変更がないことを前提条件とすることはできず、それらで定められた中心的な方向性に変更がないことを前提条件とした。 |

## 2) PDM 第1版から第2版への改訂

2016年10月12日から22日まで、JICAの運営指導調査が実施され、プロジェクトの進捗状況の確認及び今後の課題に係る協議が行われた。その中で、PDMの見直しも行われ、その改訂の方向性について大筋でモロッコ側・日本側の双方が合意した。その後、JICA、モロッコ側カウンターパート、専門家チームの間での協議、手続きを経、2017年10月23日でPDM改訂に係る協議議事録(M/M)が署名された。第1版から第2版への改訂事項とその理由は、表32に示すとおりである(PDM ver. 1 および PDM ver. 2 は別添資料参照)。

表 32 : PDM ver. 1 から PDM ver. 2 への改訂事項とその理由

| 項目                         | PDM ver.1  | PDM ver.2   | 改訂の理由   |
|----------------------------|--|---|---|
| カウンターパート機関の名称変更 (PDM 内全箇所) | Executing Bodes: Ministry of Education and Vocational Training (Ministère de l'Education Nationale et de la Formation Professionnelle: MENFP)  | Executing Bodes: Ministry of Education, Vocational Training, Higher Education and Scientific Research (Ministère de l'Education Nationale, de la Formation Professionnelle, de l'Enseignement Supérieur et de la Recherche Scientifique: MENFPESRS)   | カウンターパート機関の名称が「国民教育・職業訓練省」から「国民教育・職業訓練・高等教育・科学研究省」へ、「県教育支局 (Délégation)」から「県教育局 (Direction Provinciale)」へ変更になったため。        |
|                            | MENFP  | MENFPESRS   |   |
|                            | Delegation   | Direction Provinciale   |   |
| 成果 1                       | Measures to mitigate school disparities in learning achievement are tried out and set  | Measures to mitigate school disparities in learning achievement, composed mainly of diagnostic test, error analysis, preparation of lesson plans, learning support by the use of supplementary tools, and monitoring-support system, are tried out and set  | 学力格差是正のための方法論をより明確に PDM 上で規定するため。   |
| 成果 1 の指標                   | <p>1-1 Executing guidelines is developed</p> <p>1-2 The repetition rate of students in targeted school (Target value: the repetition rate decreases to XX % in targeted primary school and to YY % in targeted lower secondary school)</p> <p>1-3 The percentage of students with a score greater than or equal to 5 out of 10 in mathematics and science in the final examination of the sixth grade of primary school, and the percentage of students with a score greater than or equal to 10 out of 20 in mathematics, physics, chemistry, biology, and earth science in the final examination of the third grade of lower secondary school (Target value: the percentage in targeted primary school increases by XX % and in targeted lower secondary school by XX% )</p> <p>1-4 The students' score in the mathematics and science test developed and implemented by PEEQ (Target value: the rate of increase in the students' scores is XX% in targeted primary school and YY % in targeted lower secondary school)</p> | <p>1-1-1 Executing guidelines is developed</p> <p>1-1-2 The measures to improve students' learning achievement which has been introduced by PEEQ are adopted by the MENFPESRS.</p> <p>1-2-1 The effectiveness of the project intervention for improving students' learning achievement is confirmed by means of diagnostic test executed under PEEQ. (Target value: the percentage of the students with a score less than 20/100 decrease by half.)</p> <p>1-2-2 The "rate of mastery of basic calculation skills" reaches 85% or more for the students over 4th grade in the target primary schools of the PEEQ diagnostic test 2016.</p> <p>1-3-1 In 80% of the project target schools or more, a workshop for the improvement of education<sup>4</sup> by the use of the diagnostic test results is carried out.</p> <p>1-3-2 The planned measures for education improvement are implemented in 80% or more of the schools where the above-mentioned workshop has been carried out.</p> <p>1-4-1 Execution of diagnostic test (prerequisite test) and utilization of its results in teachers' teaching practices takes part in the subjects of regular monitoring and support that pedagogical inspectors carry out at school.</p> <p>1-4-2 The above mentioned monitoring is carried out at least once a year through an inspector's school visit to every project target school.</p> | 既定された成果を測る指標として、より適切なものを設定するため。第 1 版で設定されていた、留年率の低下、修了試験での成績向上などは、プロジェクトのインパクトとして将来的に発現が期待されるものであり、成果 1 の指標としては適切性に欠けていた。 |
| 成果 2                       | Measures to mitigate school disparities in enrolment are tried out and set   | School management mechanism to promote activities aiming at mitigating disparities in access to and quality of education is tried out and set   | 教育の質と教育へのアクセスの双方に関する介入を統合し、学校運営の改善を支援することをめざすことになったため。  |
| 成果 2 の指標                   | 2-1 Executing guidelines is developed  | 2-1 All the planned activities for the improvement of school enrolment and learning achievement are   | 変更された成果 2 の達成度を測る指標として相応しいものに改  |

| 項目             | PDM ver.1  | PDM ver.2   | 改訂の理由  |
|----------------|--|---|--|
|                | <p>2-2 The rate of students dropped-out (Target value: the rate of students dropped-out decreases by XX% in targeted primary school and by YY% in targeted lower secondary school)</p> <p>2-3 The girls registration rate in lower secondary school (Target value: the girls registration rate increased to XX % in targeted lower secondary school)</p> | <p>carried out in at least 90% of school projects under the contract for PEEQ's grant provision (PEEQ Axis).</p> <p>2-2 A manual of school project implementation<sup>5</sup> is shared, as a MENFPESRS's official document, by all the primary and lower secondary schools within the project target school areas (i.e. project target schools).</p> <p>2-3-1 90% of headmasters or more of the project target schools receive training on school management.</p> <p>2-3-2 At 90% of schools or more of which the headmasters have received training on school management, an annual action plan (school project) to improve the quality of and the access to education is developed.</p> <p>2-3-3 At 70% of schools or more in which the above mentioned annual action plan has been developed, the objectives are achieved by reference to the plan.</p> | 訂された。  |
| 成果1の指標の入手手段の追加 | Project Monitoring Sheet   | Project Monitoring Sheet<br>Prerequisite evaluation's report<br>Diagnostic test<br>Quiz<br>Questionnaire<br>Inspectors monitoring report to the Direction Provinciale   | 成果指標の変更に伴い、適切な入手手段を記載した。                           |
| 成果2の指標の入手手段の追加 | Project Monitoring Sheet   | Report of school submitted to the Direction Provinciale<br>Project Monitoring Sheet<br>Action Plan of school submitted to the Direction Provinciale   |  |
| 活動3-2, 3-4の削除  | 活動3-2 AREF revises TOR of related personnel to implement PEEQ activities   | 削除<br>(連動して活動番号の繰り上げ)   | 現行の行政組織、行政官の業務所掌を尊重してプロジェクトの執行をする方が効率的であると判断されたため。 |
|                | 活動3-4 MENFP revises TOR of related personnel to implement PEEQ activities  | 削除<br>(連動して活動番号の繰り上げ)   |  |

## 4. その他

### 4-1 環境社会配慮の実績

該当なし

### 4-2 ジェンダー・平和構築・貧困削減に対する配慮の実績

公平な教育の振興をめざした本プロジェクトにおいて、就学に関する性格差の低減は重要な目標の一つであった。プロジェクトは、教育の質と教育へのアクセスに関する格差低減という二つの面から教育改善にアプローチし、特に女子の中途退学リスクを軽減するとともに中学への進学

を推進することで、女子就学率の改善をめざした。そのため、プロジェクト対象地（あらかじめ設定されていた対象州の中での県教育局および学校群）の選定プロセスにおいて、児童生徒数のジェンダー格差指標を採用し、女子の就学に課題が大きい学校群を選定して支援を行った。

プロジェクトの対象となった学校群や個別の学校において、女子の就学状況やその阻害要因についての調査を複数回にわたり（2015年6月、2015年9月～11月、2016年10月）行ったところ、次のような実情が明らかになった。

- 児童生徒数の男女比は、女子の割合が中学校では42%、小学校では45%であった（第1ラウンド（2014年9月～）におけるプロジェクト対象校）。学校群ごとの小学校女子児童の割合は44%～48%と群ごとの差は小さいが、小学校ごとのデータを確認すると、女子の割合が40%に満たない分校があるなど、学校間の格差が大きいことが判明した。
- 女子生徒の割合が少ない中学校訪問の際、女子の中学進学を阻む要因として、1) 通学距離（寄宿舎の不足・通学バスの不在・治安上の問題）、2) 家庭の貧困（学費が支払えない）、3) 生徒の学力不足、4) 保護者の意識（男女交際への不安・早婚）が言及された。
  - 女子の中学校進学を妨げている根本的な要因は、学校が遠く、交通手段がないことと、家庭の経済的理由の2つに集約することができるものの、同様の条件下でも就学している児童としていない児童とがいることから、「家族の教育に対する考え方、ジェンダー・社会規範と教育の間の優先順位」が影響している。
  - 意識が高い保護者は、寄宿舎に子どもを入れられない場合は、女子生徒であっても下宿させて進学させるが、保護者によってはその選択しない者もいる。
  - 成績が悪いと学校を辞めさせる傾向にある。
- 小学校修了試験を合格したにも関わらず中学校に進学しない生徒（教育省 MASSAR データによると進学率は介入校 88.34%、対象州全体 89.53%）については、学校関係者の認識では、社会文化的要因よりも交通手段や寄宿舎の不足などの物理的なアクセスを問題とする場合が多い。ただし、性別にかかわらず、家庭内労働や就業が非就学の理由と考えられている地域もあった。
- 近年設立された中学校2校の例から、中学校設立直後は女子就学者の割合が少なく、徐々に増加する傾向が確認された。現在、モロッコでは中等教育へのアクセス増加期にあり、農村部においても女子就学の過渡期にあると言える。
- トイレの不足に言及した学校もあった。思春期を迎える小学生高学年・中学生女子にとって清潔なトイレを整備することも、就学率向上の重要な要素である可能性がある。

女子就学の制約条件に関する調査の結果を踏まえて、学校プロジェクト PEEQ 軸の活動として、いくつかの学校で女子就学を促進するための活動が行われ、PEEQ プロジェクトは、それらの活動の実施を技術面、資金面から支援した。特に、公平な就学機会の保障という視点から、脆弱性の高い女子の就学促進に焦点を当てた活動として、人権についての啓発活動や、社会で活躍する女性のロールモデルとの交流、中途退学した女子への再入学を促す働きかけなどが含まれた。



それらの女子就学促進活動の成果と、そこから得られた教訓に係る調査を、2018年1月に実施した。調査結果は、エンドライン調査報告書の一部として取りまとめられた。なお、調査から得られた重要な教訓としては、の4つが導き出された。

- 保護者やコミュニティの巻き込みの必要性
- 活動の効果を上げるために必要な教員や児童生徒によるディスカッションの重要性
- 生徒の自己肯定感の醸成につながる創造的な活動の重要性
- 目的意識を明確にした計画的な取り組みの必要性

### III. 合同レビュー結果

#### 1. DAC 評価項目によるレビュー結果

##### (1) 妥当性

###### 【開発政策との整合性】

プロジェクト設計時には、本プロジェクトは MENFP（当時）の中期開発計計画（PAMT 2013-2016）に沿うものであるという位置づけで設計されたが、開始時には既に PAMT の見直し作業が始まっていた。PAMT の見直し後、MENFP の 2015～2018 年の優先施策（Mesures Prioritaires 2015-2018）が策定され、全部で 19 の優先的に取り組むべき施策が特定された。

教育の質と公平性の改善を通じて教育格差の低減をめざす PEEQ は、それらの方向性と一致しており、特に、優先施策のうち以下の施策 1、2、15、17 との関連性が高いことが、2015 年 9 月 11 日のプロジェクト運営委員会において確認された。それぞれの施策に関する責任部局と、期待される成果のうち、PEEQ と関連性が特に高いと位置づけられたものは以下のとおりである。

###### 【施策 1. 小学校の最初の 4 学年の新しい教育課程】（カリキュラム局）

- 成果 2： 新しい効率的な教育活動の開発
- 成果 3： 教師への教授法指導の徹底
- 成果 4： 小学 4 年修了前までの、読み書き、算数、理科における児童の学習成果の改善

###### 【施策 2. 各教育段階の修了基準】（戦略統計計画局）

- 成果 1： 次の教育段階で成功するための基礎学力の習得
- 成果 2： 主な教科で困難を抱える児童生徒の特定と支援
- 成果 5： 教師の指導能力強化と、評価、追加支援、情報システム活用にかかる教務管理能力の強化

###### 【施策 15.活動を通じた支援と研修】（国立教育イノベーション研究センター）

- 成果 1： 教員支援実施制度の開発

###### 【施策 17.学校運営】（技術教育学校生活局）

- 成果 1： 学校運営機関及び運営支援機関の権限、役割および機能の強化
- 成果 3： 校長のマネジメント能力改善
- 成果 4： 学校プロジェクトの制度開発と実施

そして 2015 年 9 月、教育訓練科学研究上級評議会（Conseil Supérieur de l' Education, de la Formation et de la Recherche Scientifique）により、「公平で質が高く発展に資する学校をめざして 改革の戦略的ビジョン 2015 年～2030 年（Pour une Ecole de l'Equité, de la Qualité et de la Promotion : Vision Stratégique de la Réforme 2015-2030）」が、長期的な国家戦略として発表された。また、それを実現するための 16 の統合プロジェクトも策定された（表 33 参照）。2017 年 2 月 21 日に行われた合同調整委員会（JCC）第 5 回会議では、PEEQ とそれら統合プロジェクトの関係性についての検証がなされ、第 2、7、8、9、10 との整合性が高いことが、MENFPESRS により確認された。

表 33 : 戦略的ビジョン 2015-2030 統合プロジェクト一覧

| 介入領域         | 統合プロジェクト                     |
|--------------|------------------------------|
| 1. 機会の公平と平等  | 1. 学校教育提供の振興と多様化             |
|              | 2. 農村及び都市周辺部、貧困地域での就学促進      |
|              | 3. 障害や特別なニーズを持った児童への就学保障     |
|              | 4. 補足教育の確保とノンフォーマル教育の有効性の改善  |
|              | 5. 教育訓練機関の総合的な補修             |
|              | 6. 私学振興と多様化                  |
| 2. 教育訓練の質の向上 | 7. 教育モデルの開発                  |
|              | 8. 教育訓練従事者に係る改革とキャリアパス管理の推進  |
|              | 9. 学校内での教育的活動の推進             |
|              | 10. 評価・試験・進路指導システムの刷新        |
|              | 11. 就学全教育の推進と普及の加速化          |
|              | 12. 学校への情報通信技術の統合            |
| 3. ガバナンスと動員  | 13. 人材管理の推進                  |
|              | 14. ガバナンスの発展と契約方式の制度化        |
|              | 15. モロッコの学校を取り巻く関係者とパートナーの動員 |
|              | 16. 教育訓練の情報システムの強化           |

以上のように、PEEQ がモロッコ国の教育開発政策と整合性が高いプロジェクトであることは、事業実施中に繰り返し確認され、上記戦略的ビジョンは 2030 年まで有効な政策であることから、プロジェクト完了時においても、引き続き開発政策との整合性が高いとすることができる。

#### 【開発ニーズとの整合性】

プロジェクト設計時に作成された事業事前評価表によれば、本プロジェクトの実施に係る開発ニーズとして、特に前期中等教育のアクセス及び質における下記のような課題が指摘されていた。

- 前期中等教育普及の遅れ：純就学率 53.9%(2012 年)
- 前期中等教育の都市部－農村部の格差（特に女子）：都市部女子の純就学率 78.7%に対し農村部は 23.6%（2011/12）
- 前期中等教育の留年率、退学率の高さ：留年率 16.0%・退学率 10.4%（2011/12）
- 学力の低さ：国際数学・理科教育調査（TIMSS）の 2011 年の結果（中学 2 年生）：  
42 カ国中、数学は 40 位、理科は 41 位

これらの課題は中学校教育への介入のみで解決されるものではなく、中学へ生徒を送り込む小学校レベルからの教育改善が必要であるという考えに基づき、学校群（中学校と中学校区内の小中学校全体）を支援の対象とした。

プロジェクトの対象は、あらかじめ選定された州の中で、統計的な指標を用いて、教育の質とアクセスの面から最も困難な 2 つの県、及びその県内で最も困難な 2 つの学校群が選ばれた。教育格差の是正をめざしたプロジェクトとして、最も困難なターゲットを選定したことは、開発ニーズとの整合性という意味から、適切であったとすることができる。

さらに、プロジェクト活動の一部として、PEEQ では 2015 年 3 月と 2016 年 9 月・10 月に、支援対象校で診断テストを行った。2016 年に実施したテストの、小学 3 年算数、小学 5 年算数、中学 1 年数学、小学 5 年理科の平均正答率は、それぞれ 39.5%、39.5%、31.9%、50.0%であり、全ての

問題が、児童生徒の属する学年より1つ前の学年までの既習事項であることを考えれば、学力向上の必要性が極めて高いことが分かる。さらに、問題の内容の学習学年別に分析した結果を見ると、例えばテストを受けた小学校5年生の、小学1年の学習内容の問題の平均正答率は81.4%、小学2年の学習内容の問題の平均正答率は52.8%で、テスト問題の内容の学習学年が上がるごとに正答率は低下している。この診断テストを通じて、小学校の低学年で基礎学力の習熟につまずいた児童生徒が、その後の学習で困難さが積み上がっていく様子が確認できた。こうしたことから、基礎学力向上の緊急性は極めて高く、教育分野の開発ニーズに合致したプロジェクトであったと判断できる。

以上から、本プロジェクトの「妥当性」は高いと判断される。

## (2) 有効性

有効性は、プロジェクト実施の結果としてプロジェクト目標が達成されたかをもって測ることになっている。本プロジェクトの目標は「国民教育・職業訓練・高等教育・科学研究省が、教育に係る格差の緩和に取り組む AREF を支援する」であり、その達成度を測るための指標は「MENFPESRS による AREF 支援のための参照枠組みが策定される」である。ここでの「参照枠組み」は、PEEQ が導入した教育モデル（初等算数教育における基礎学力評価習熟のための教育モデル）の全国的な普及を指示する MENFPESRS の通達を意味することが、2018年2月23日のモロッコ側プロジェクト責任者と日本側専門家チームリーダーとの協議で確認され、その後 JICA の合意も得ている。そして当該通達は、2018年8月28日付で発出された。

次に、そのプロジェクト目標の達成が、プロジェクトが産出した成果に起因するものであるかを確認するため、PDM で設定された成果の達成状況を確認する。第2章「2-1 成果と指標」で確認したとおり、以下の3つの成果の達成度合いは、成果1と成果2が「高い」、成果3が「中程度」であった。

- 成果1：生徒の学習到達度の格差是正のための措置（主に診断テスト、誤答分析、授業案改善、補助教材を活用した生徒の学習支援、モニタリング体制からなる）が試行され、採用される
- 成果2：教育のアクセス及び質における格差是正のための活動を推進する学校運営の仕組みが試行され、採用される。
- 成果3：AREF 内の他地域への施策継続及び MENFP による他 AREF 展開の準備が整う。

とりわけ、成果3のうち、AREF による州普及計画の策定が完了しておらず、伝達プロセスも開始されたばかりであることから、「AREF 内の他地域への施策継続の準備が整う」という重要な成果が未達成である。AREF レベルでの普及計画は、プロジェクト実施期間中には策定が始まったところで、プロジェクト完了直後の2018年9月から12月に最終化されることになっている。

このように、成果の一部が未完了であっても、プロジェクト目標を測るための指標が達成されたように見えるのには、次のような理由が考えられる。プロジェクト設計の段階では、プロジェ

クト対象の各州の計画ができた上で、それらを支持するものとして全国普及計画が策定されるというプロセスが想定されていた。それは、活動 (3-1) が州の計画策定、活動 (3-2) が国の計画策定と定められていることから類推できる。しかしながら、プロジェクト実施の過程において、まずは国の全国普及計画が策定されることが先決であり、それに基づき各州が州内の普及計画を立てるという手順の方が、現実に適合していることが判明した。したがって、プロジェクト目標であるところの参照枠組みができた次段階として、成果3の中に含まれている州の計画策定が始まったのである。このように、プロジェクト目標の達成がプロジェクト完了間際であったため、それに続くところの州普及計画の策定は完了していないという状況が発生した。

よって、プロジェクト目標達成の指標とされた「参照枠組み」としての省通達が発出されたとしても、その実効性を保証するためには、今後、各州における詳細な行動計画が策定され実行されることが重要であるという点に留意が必要である。

なお、本プロジェクトは日本国の円借款「基礎教育セクター支援事業」（教育セクタープログラムローンと中学校建設を組み合わせたハイブリッド型円借款）との相乗効果が期待されていた。しかしながら、円借款により建設された中学校が本プロジェクトの対象校となつたのではなく、プログラムローンで貸与された予算が直接 PEEQ プロジェクトの実施や普及に投入された訳ではないので、相乗効果というよりむしろ、相互補完効果ではなかったかと思われる。すなわち、本プロジェクトでは中学校への就学促進という課題に対し、学内での教育活動を通じて児童生徒の自己肯定感・自己有用感を高めて就学意欲を強化するというアプローチを用いたのに対し、円借款での中学校建設により物理的な学校不足を解消することにより就学を促進することができた。また、プログラムローンのトリガーアクションのひとつとして「学校プロジェクト」の制度づくりが設定されていたが、できあがった制度を活用して具体的な活動の実例を示す必要があったため、本プロジェクトは、学校プロジェクト PEEQ 軸としてさまざまな教育活動の事例づくりを支援した。このように、本プロジェクトと円借款「基礎教育セクター支援事業」との間には相互補完効果があったと認められる。

以上から、プロジェクト目標を達成したと判断するには、中央レベルの枠組みの実効性を保証するための州レベルの計画が十分に策定されておらず、本プロジェクトの有効性は中程度であった。

### (3) 効率性

#### 【事業費】

事前評価表に示された事業費の計画と事業期間に投入された事業費の実績を比較し、事業費が計画以内であったかを検証する。

計画：約 430 百万円（事前評価表に示された「総事業費（日本側）」）

実績：約 429 百万円（第2章「1-1 日本側の投入」より、(1) 日本側投入額、(4) 機材供与、(5) 在外事業強化費の合計額）

以上のように、事業費はほぼ計画以内であった。

### 【事業期間】

事前評価表に示された事業期間の計画と実際に事業が実施された期間（実績）を比較し、事業期間が計画以内であったかを検証する。

計画：2014年9月～2018年8月（計48カ月）

実績：2014年9月～2018年8月（計48カ月）

以上のように、事業期間は計画どおりであった。

### 【因果関係】

成果を産出するために必要な活動、適時・適切な量・質の投入であったかを検証する。

有効性の項で確認したように、成果3のうち、州レベルの普及計画が未策定で普及活動が具体的に開始されたとは言えないことから、ほぼ計画どおりの事業費と事業期間を費やしたものの、成果が計画どおりに産出されなかったため、プロジェクト運営の効率性に問題があったと言わざるを得ない。

では、活動や投入が成果にどれだけ効率的に転換されたかを検証すると、その結果は次のとおりである。

プロジェクトで実施された、あるいはされる予定であった活動は、期待された成果の産出のための手段として論理的に配置されており、適切であったと考える。それでは、なぜ計画された事業期間内に完了できなかったのかについて、考えられる主な要因は以下のとおりである。

- 普及モデルの確立に事業終了間際まで費やしたこと：

2016年10月の運営指導調査では、普及モデルの有効性の評価を2017年8月までに終え、同年9月には普及戦略の策定をめざすことが合意された。しかし一方で、普及する教育モデルの確立と有効性の検証を優先させ、拙速な拡大は避けるべきだという認識も、日本側、モロッコ側で共有された。そうした背景から、児童の学習改善により効果的な介入をめざし、2017年9月から新たな習熟活動の導入を初め、普及モデルについて当事者間で合意ができたのは2017年12月、その評価を最終的に行ったのは2018年4月であった。モデル確立から約半年の間で、国・州の普及計画を作り上げることができるという見込みは、モロッコ側と日本側とが協力し合いながら手続きを一步一步進めていかなければならないという現実を踏まえれば、楽観的過ぎたと言わざるを得ない。

- 外部要因による普及の遅れ：

第3章「2. プロジェクトの実施と成果に影響を及ぼした主要因」でも後述するが、効率的なプロジェクト実施を妨げるいくつかの外部要因があった。そこに含まれるものとしては、2016年の記録的な旱魃に起因する財政逼迫、年金制度改革をきっかけとする大量の教員の早期退職にとも

なう、臨時教員採用のための教育予算の振り向け、省の最高責任者の不在期間における重要決定事項の敬遠などがある。

以上から、費やした事業費と事業期間は計画内に収まったが、期待された成果が一部未達成であることから、成果を全て産出するためには計画を上回る投入が必要であったと判断されるため、本プロジェクトの効率性は中程度である。

#### (4) インパクト

プロジェクトがもたらすインパクトについては、プロジェクト完了時点では、主に「上位目標」の達成度合いを予測するに留めることとされている。

本プロジェクトの上位目標は、「PEEQの活動（域内教育格差を緩和する施策）が対象 AREF 内の他の学校およびモロッコ国内他州にて展開される」であり、その指標と目標値は「拡大地域における対象校の割合（目標値：2020/2021 年度に全国の小学校の 100%）」である。既に小学 1・2 年の算数のカリキュラムが改訂され、そこに基礎学力評価習熟のための教育モデルが統合されており、小学 3 年以上のカリキュラムについても、2020/2021 年度からの全学年での施行に向けて改訂が進められる。したがって、予定どおりカリキュラム・教科書改訂が進むとともに、「(2) 有効性」の項で述べたマイナス要因である州普及計画の未策定問題が解消され、策定された州計画に従い指導や教育実践が行われることを前提とすれば、上位目標達成の見込みは高いと考えられる。

詳細は「IV. プロジェクト終了後の上位目標達成に向けて」で説明している。

一方、プロジェクトによる介入の児童生徒の学力や就学に対するインパクトを検証するために、2017 年 11～12 月に MASSAR から収集したデータを、プロジェクト開始前のもの、さらにはプロジェクトの介入を行っていない学校のものとの統計的に比較して分析する「インパクト評価」を行った。その結果、表 34 が示しているとおり、小学校の修了試験の点数を指標として用いた場合には、介入の正の効果を統計的に示すことはできなかったが、表 35 が示すように、小学校から中学校への進学率を指標として用いた場合には、統計的に有意な正の効果を確認することができた。

表 34：平均値の比較（小学修了試験（算数）の点数）

| テスト<br>スコア   | 2013/14年 |       |       |                   | 2016/17年 |       |       |                  | 差の差<br>(介入効果)     |
|--------------|----------|-------|-------|-------------------|----------|-------|-------|------------------|-------------------|
|              | N        | 比較群   | 介入群   | 差                 | N        | 比較群   | 介入群   | 差                |                   |
| 比較群①<br>との比較 | 5655     | 4.383 | 4.214 | -0.168<br>(0.270) | 5791     | 4.782 | 5.164 | 0.382<br>(0.267) | 0.550<br>(0.349)  |
| 比較群②<br>との比較 | 5515     | 3.900 | 4.214 | 0.314<br>(0.278)  | 5254     | 5.029 | 5.164 | 0.136<br>(0.246) | -0.179<br>(0.317) |

注：Nはサンプルサイズを示す。括弧内には学校レベルのクラスター頑健標準誤差が示されている。\*\*\*、\*\*、\*はそれぞれ1%、5%、10%水準での統計的有意差を示す。

表 35 : 平均値の比較 (小学校から中学校への進学率)

| 進学率          | 2013/14年 |        |        |                   | 2016/17年 |        |        |                  | 差の差<br>(介入効果)      |
|--------------|----------|--------|--------|-------------------|----------|--------|--------|------------------|--------------------|
|              | N        | 比較群    | 介入群    | 差                 | N        | 比較群    | 介入群    | 差                |                    |
| 比較群①<br>との比較 | 5751     | 0.8814 | 0.8642 | -0.017<br>(0.017) | 6054     | 0.7856 | 0.8321 | 0.046<br>(0.027) | * 0.064<br>(0.029) |
| 比較群②<br>との比較 | 5612     | 0.8542 | 0.8642 | 0.010<br>(0.018)  | 5542     | 0.7985 | 0.8321 | 0.034<br>(0.028) | 0.024<br>(0.025)   |

注: Nはサンプルサイズを示す。括弧内には学校レベルのクラスター頑健標準誤差が示されている。\*\*\*、\*\*、\*はそれぞれ1%、5%、10%水準での統計的有意差を示す。

一方、プロジェクトの介入が直接影響を及ぼすことのできる学力を、MASSAR から取得できる修了試験の結果から測定することは難しいのが現実である。基礎学力の習熟を中心とする介入が修了試験の結果に影響を与えるには、その間にいくつもの段階を踏んでいかなければならないからである。したがって、2018年4月に実施したエンドライン調査において、プロジェクトで策定した「算数基礎学力テスト」をプロジェクト対象校及び非対象校で実施し、インパクトを検証した。その結果、表 36 に示すとおり、PEEQ の介入による統計的に有意な正の効果を確認することができた (詳細は『モロッコ国公平な教育振興プロジェクト エンドライン報告書』を参照)。

表 36 : 平均値の差の比較 (算数基礎学力テスト)

| 変数    | 児童数 | 比較群   | 介入群   | 差     | 標準化効果量             |      |
|-------|-----|-------|-------|-------|--------------------|------|
| 基礎計算力 | 4年生 | 2,516 | 15.72 | 24.88 | 9.16<br>(0.87) *** | 1.10 |
|       | 6年生 | 2,290 | 21.16 | 27.49 | 6.33<br>(1.07) *** | 0.77 |
| 整数の筆算 | 4年生 | 2,516 | 2.43  | 3.60  | 1.17<br>(0.23) *** | 0.59 |
|       | 6年生 | 2,290 | 4.47  | 4.86  | 0.39<br>(0.19) **  | 0.22 |

出所: PEEQ で実施したテスト結果に基づきプロジェクトチーム作成

以上より、州普及計画が未策定であるという現状に基づき判断すると、見込まれるインパクトは「やや高い」というレベルにとどまるが、上述した条件が満たされれば、本プロジェクトは高い正のインパクト発現の可能性がある。

## (5) 持続性

### 【政策・制度面】

上記「(1) 妥当性【開発政策との整合性】」で述べたとおり、MENFPESRS は本プロジェクトを、モロッコ国の長期的な国家戦略である「公平で質が高く発展に資する学校をめざして 改革の戦略的ビジョン 2015年～2030年」との整合性が極めて高いプロジェクトであると位置付けている。この戦略的ビジョンは題名のとおり 2030年までの政策を定めたものであるため、プロジェクト



終了後も、PEEQ が導入した「初等算数教育における基礎学力評価習熟のための教育モデル」の普及に対する政策的な裏付けは持続するものと見て間違いない。

また、教育モデルが改訂版カリキュラムに統合されることにより、当該カリキュラムの有効期間中を通じて、モロッコ全国の公立小学校でそれらが実施されることになり、制度面での持続性も保障される可能性が極めて高い。

一方、現職教員の能力強化の仕組みが脆弱であることは、モロッコ国における教育制度の大きな課題である。現状では、個々の視学官の資質や意識の高さに左右される度合いが大きいことから、更なる制度上の強化が求められる。

### 【実施機関の体制】

本プロジェクトでは、中央の MENFPESRS レベルにおいて、国際協力事業のフォーカルポイントである戦略統計計画局 (DSSP) が責任機関となり、関係各局を調整して事業を推進するという体制が敷かれていた。関係各局とは、国立評価試験進路指導センター (CNEEO)、カリキュラム局 (DC)、学校生活局 (DVS)、総務予算資産局 (DAGBP)、国立教育イノベーション研究センター (CNIFE)、中央職員研修ユニット (UCFC)、ノンフォーマル教育局 (DENF)、情報システム局 (DSI) など、極めて多岐にわたっている。それぞれが何らかの形で、プロジェクト終了後も教育モデルの普及に関与する可能性があり、主なものだけでも次のように挙げられる。カリキュラムへの統合を通じて普及が推進されるという観点から DC が果たす役割は大きい。既習事項確認テストの普及並びに更新は CNEEO が中心にならなければならないし、学校レベルで教育モデルを実現するために活用される学校プロジェクトの担当局は DVS である。省内で、それらの間を調整し、普及計画の実施モニタリングを行う責任機関は、教務総局 (Pôle pédagogique) であることが 2018 年 6 月 25 日の JCC にて確認された。

一方、州および県レベル、すなわち AREF や県教育局の体制は公式には確立されている。教育モデルを普及するための担当部署は、AREF では教務課 (Division des affaires pédagogiques) であり、県教育局では教務係 (Service des affaires pédagogiques) である。各学校への指導並びにモニタリングは、学区を担当する視学官が学区内の各学校を巡回して行う。ただし、視学官は県教育長と契約関係にあり、県教育局長に対して説明責任を負っている。すなわち、県内の教育行政のすべての責任者である県教育局長の指示のもと、教務課長が計画づくりや進捗管理の職務を担い、視学官が学校現場を訪れる実働部隊として働くという体制である。

ただし、体制は確立されていても、その実効性に課題が残されているのは事実であるから、上述した現職教員の能力強化の仕組みの件とも関連し、視学官の意識改革を働きかけていかなければならない。

### 【実施機関の技術】

とはいえ、モロッコの教育制度の中で、技術的な専門性を備えた主な人材は視学官である。彼らの専門性は高く、プロジェクト実施期間中も、日本人専門家は多くの視学官とともに作業を行った。今後普及される「初等算数教育における基礎学力評価習熟のための教育モデル」の構築にも、彼ら視学官が携わっており、それに従事した視学官が教育モデルの普及に努める役割も果たすならば、彼らの技術レベルに大きな不安材料はない。

ただし、それらの視学官は MENFPESRS に常駐している訳ではなく、普段はモロッコ国内のさ

まざまな場所で視学業務を行っており、必要なときにその都度招聘されている。したがって、PEEQに従事した視学官を今後も効果的に活用できるかどうか、「実施機関の技術」という観点から見た鍵となる。

#### 【実施機関の財務】

「初等算数教育における基礎学力評価習熟のための教育モデル全国普及計画」には、財務計画も含まれており、MENFPESRSの財務担当の幹部からも、省の公式な決定さえあれば、十分に負担しうる金額であるとの保証を得ている。実際に、普及に際して必要となる支出を極力抑制するための工夫（教科書に必要な要素を埋め込むなど）を施したうえでの財務計画となっており、もし普及計画がそのとおりに実施されるならば、実施機関の財務上の不安材料は大きくない。

以上より、制度面や実施機関の体制についての不確定要素が残っているため、現時点における持続性に関する評価は、中程度と判断せざるを得ないと思われる。

## 2. プロジェクトの実施と成果に影響を及ぼした主要因

計画策定やプロジェクト開始の段階で想定されたリスクや課題、及びその対応策、そしてその後のプロジェクト実施段階におけるリスク管理の結果を基に、プロジェクトに負の影響を及ぼした事項について、その主要な要因とともに記載する。

### 1) 国の教育戦略の改訂

内容面での大幅な変更が行われた訳ではないので、プロジェクトの実施に大きな負の影響を与えたとは言えないが、プロジェクトが依拠するところの国の教育戦略が、度々変更になったのは事実であった。

プロジェクト設計時には、本プロジェクトは MENFP（当時）の中期開発計計画（PAMT 2013-2016）に沿うものであるという位置づけで設計されたが、開始時には既に PAMT の見直し作業が始まっていた。PAMT の見直し後、MENFP の 2015～2018 年の優先施策（Mesures Prioritaires 2015-2018）が策定され、全部で 19 の優先的に取り組むべき施策が特定された。

そして 2015 年 9 月、教育訓練科学研究上級評議会（Conseil Supérieur de l'Éducation, de la Formation et de la Recherche Scientifique）により、「公平で質が高く発展に資する学校をめざして 改革の戦略的ビジョン 2015 年～2030 年（Pour une Ecole de l'Équité, de la Qualité et de la Promotion : Vision Stratégique de la Réforme 2015-2030）」が、長期的な国家戦略として発表された。また、それを実現するための 16 の統合プロジェクトも策定された。

このように、モロッコ国内の教育改革に対する積極的な取り組みの中で、PEEQ は依拠する計画文書が度々変更となったため、その都度、PEEQ と政策との関係性を確認し直す必要があり、事業実施の推進力が削がれるという意味で、効率性の面で多少の課題があったことは否定できない。

### 2) 現職教員研修制度の脆弱さ

モロッコにおける現職教員研修制度の脆弱さは、教育改善を支援する PEEQ プロジェクトの実施及びその成果の普及を考える上で、重要な課題として認識されていた。すなわち、PEEQ で行われる介入に教育の質と公平性の改善に対する効果が確認できたとして、それを継続的に定着させ、プロジェクトの活動の中で指導を受けた教員以外に、どのようにその方法論を伝達していくことができるかを、十分に検討する必要があった。

現状において、現職教員に対する能力向上の仕組みの中核は、学区を担当する視学官が学校を個別に訪問し、その際にその学校の教員を指導するというものである。その他、日本政府の円借款「モロッコ国基礎教育セクター支援事業」でも支援をした、教員養成機関（CRMEF）に現職教員研修の機能を持たせるという施策や、2015～2018 年優先施策で打ち出された、経験豊富な教員を支援員（accompagnateur）として任命・訓練し、同僚からの要請に応じた指導を行うという新たな制度も模索されている。このように、以下の 3 つのチャンネルを活用した教師教育が、現在モロッコでの教育人材の能力強化策である。

- 視学官による現職教員への指導・助言を継続
- CRMEF における現職教員研修の実施
- 経験豊富な教員を支援員（accompagnateur）として活用

しかしながら、こうした複数のチャンネルを併存させることにより、かえって責任の所在を曖昧にし、教員の能力強化が進行しない一因となっている面も否定できない。

### 3) 行政区画の再編

2015年2月5日に閣議決定された政令に基づき、モロッコ国内で全国的な州再編が実施され、第1ラウンドの対象であるシャウィア・ウルディガ州とドゥカラ・アブダ州はいずれも廃止され、4つの対象県（セタット、ベルシッド、エルジャディーダ、シディベヌール）は全てカサブランカ・セタット州に編入された。行政区画の変更に伴い、移行期間を経て、2016年2月から新たな州境界に基づく AREF が設置され、業務の移行が行われた。

PEEQ プロジェクトチームも同時期に、カサブランカ・セタット州 AREF との協力関係を新たに構築して、プロジェクト対象4県を含む上位の教育行政機関として、プロジェクトの実施への関与を促す努力が必要であった。それまでは、プロジェクトの対象県であったセタット県及びエルジャディーダ県の中心地に、それぞれシャウィア・ウルディガ州とドゥカラ・アブダ州の州都があり、また他の対象県もそれぞれの州都と遠くない位置関係に恵まれ、頻繁に AREF と県教育局との連絡調整が非常に円滑であった。その状態と比べると、州内に16の県教育局を抱える巨大な新カサブランカ・セタット州 AREF との関係は、州から県への連絡といった、やや事務的な関与に限定される傾向があった。単純に物理的な条件に限った話としても、4つの県からプロジェクトに参加する教員を集めてワークショップを行った際には、参加者に過大な負担を強いてしまったため、その後しばしば、旧州の枠組みにしたがって、セタットとエルジャディーダで会合を開くことがあり、その際の AREF の関与は限定的とならざるを得なかった。

もちろん、第2ラウンド以降の対象州についても改編が行われた。ただし幸いなことに、プロジェクト設計時に第2ラウンドの対象と指定された旧ガープ・シャルダ・ベニハッサン州並びに旧マラケシュ・テンシフト・アル・ハウズ州は、それぞれ新しいラバト・サレ・ケニトラ州、マラケシュ・サフィ州の一部となった。したがって、旧州の中からプロジェクトの対象となる県を選んだ際に、それらが2州にまたがって存在するという事態は危惧せず済んだ。

### 4) 外部要因による普及の遅れ

2016年、モロッコは記録的な早魃に見舞われた。そのため、渇水対策のための緊急的な財政出動が嵩み、各省とも財政上の困難が発生した。さらに、年金制度改革をきっかけとする大量の教員の早期退職があり、発生した教員不足を補うために数万人に及ぶ臨時教員の採用が行われた。これらの事象が教育省予算に与える制約条件から、PEEQ 事業の全国普及に対する楽観的な予想は難しくなった。それに伴い、2017年2月からモロッコ側の財源により実施され、日本側が側面的に技術支援を行う計画であった、第3ラウンド・第4ラウンドの4つの新たな州（旧タザ・アルホセイマ・タオウナート州、オリエンタル州、タドラ・アジラル州、スス・マサ・ドラ州）での事業展開も見直しを迫られ、予定どおりの開始は見送られた。

一方、運営指導調査やPDMの改訂に係る協議の中では、PEEQ プロジェクトの期間中、将来的に普及可能な活動モデルとその普及の仕組みの構築に集中して、活動範囲の拡大を見送ることも議論された。しかしながら、普及の流れを滞らせてはいけないとの認識により、最終的には対象地域の変更はしないことになった。ただし、普及可能な活動モデルの確立の前に、拙速な広範囲

への普及は避けるべきであるとの認識が共有されたため、2017年5～6月に実施した診断テストの結果を分析し、PEEQの効果を明らかにした上で、全国的な普及計画の一環として、第3ラウンド以降の4州についても取り組む方向性が示された。

一方、2016年10月上旬に国政選挙が実施されたが、その結果に基づき組閣が完了したのが、半年後の2017年4月であった。一般的に政権移行期間には、行政機関内では重要な決定事項が見送られる傾向がある。同様に、2017年10月から2018年1月の間にも、大臣不在の期間があった。大臣が不在の間、PEEQ活動の全国普及についての協議があまり活発に行われなかった。

2017年5～6月にPEEQの介入の有効性を裏付けるために行われた診断テストの結果は、同年9月にカウンターパートと共有された。その後、速やかに全国的な普及計画を策定して、PEEQプロジェクトの第3ラウンド対象地域に優先的に取り組むこととなっていたが、上述したさまざまな外部要因により、全国普及への取り組みは計画どおり迅速に行うことができなかった。

### 3. プロジェクトリスクマネジメントの結果に関する評価

#### (1) リスク管理の結果

上記2.のリスク管理において、モロッコ国政府及びJICAがどのような対応を取ったのか、具体的に記載する。

##### 1) 国の教育戦略の改訂への対応

プロジェクト設計当時のPDM第0版には、プロジェクト実施の「前提条件」として「モロッコの教育戦略や中期開発計画（PAMT 2013-2016）が変更されない。」と記載されていた。それに対し、PAMTの改訂作業が既に始まっていたプロジェクト開始時には、PDM第1版への改訂作業の中で、「モロッコの教育戦略や中期開発計画（PAMT 2013-2016）の全体的な方向性に変化が生じない。」に書き換えられた。さらに、PDM第1版に記載された前提条件の中の、「中期計画PAMT（2013年～2016年）」は、2017年10月23日に正式に署名された第2版で、「戦略的ビジョン2015年～2030年」に置き換えられた。PAMTから優先施策へと移行し、その後さらに戦略的ビジョンが発表されたとはいえ、モロッコ政府が日本政府にPEEQを要請した背景や、教育改革の全体的な方向性には変更がなかったからである。

さらにPEEQと教育政策の整合性を検証し、優先施策に関して言えば、PEEQプロジェクトは、全部で19ある施策のうち、特に「施策1. 小学校の最初の4学年の新しい教育課程」、「施策2. 各教育段階の修了基準」、「施策15. 活動を通じた支援と研修」、「施策17. 学校運営」との関連性が高く、そうした全省的な施策の枠組みの中で実行されることが確認された。

また、2015～2018年優先施策は戦略的ビジョンを実現するための16の統合プロジェクトに合流したため、PEEQの事業も同ビジョンに合致していると言うことができた。こうして、2017年2月21日に行われた第5回JCCミーティングでは、PEEQプロジェクトは戦略的ビジョンの統合プロジェクトに包含され、同ビジョンに適合する事業であることを、MENFPESRSが確認した。

このように、それぞれの政策文書に照らし合わせるという作業が必要となったが、モロッコ政府は、PEEQが一貫してモロッコ国の教育政策に適合したプロジェクトであると確認し続けてきた。このことは、プロジェクトの成果を広範囲に普及する場合に、省内の了解を得るために非常

に重要な点であった。

## 2) 現職教員研修制度の脆弱さへの対応

2016年10月12日から22日まで、JICAの運営指導調査が実施され、プロジェクトの進捗状況の確認及び今後の課題に係る協議が行われた。その中で、プロジェクトの中でどのような体制で対象校に介入効果を波及させていくかが、重要な議題のひとつであった。協議の結果、モロッコでは現在、教員の能力強化のためのさまざまな方法が試されているところであるが、今後の発展に期待しつつも、新しい施策に大きく依存することはリスクが高いと判断された。したがって、PEEQでは、従来から行われている、学区担当視学官の学校訪問を通じた教員への指導を中心に置き、可能な範囲で支援員 (acompagnateur) や CRMEF 教員も巻き込んでいくという形で、教員の能力強化を支援することとした。

視学官による個別の学校訪問では、全校を回るのに相当の時間がかかり効率面での課題があること、視学官の資質や意識の高さによって教員へ伝達される情報等に差が生じるなど、効果の面でも課題があることなど、改善の余地はまだ大きいのが現実である。しかしながら、長年にわたり実践され続けてきたことから、現在のところ最も確実な方法であることは間違いない。

一方、プロジェクトでは上記の効率面や効果の面での課題に対応するため、ビデオ教材により、教員がいつでも繰り返し自主的に PEEQ の方法論を学ぶことができるようにもした。ビデオ教材は、診断テストの結果の分析並びに活用方法に関するものと、数字カードの使用法に関するものの2種類が作成され、MENFPESRS のウェブサイト (<https://www.taalim.ma>) に掲載された。

## 3) 行政区画の再編への対応

2016年2月に、第1ラウンドの対象であるシャウィア・ウルディガ州 AREF とドゥカラ・アブダ州 AREF が廃止され、プロジェクト対象4県はカサブランカ・セタット州 AREF に属することになった。PEEQの業務も変化に対応し、MENFPESRS と日本人専門家チームとが協力し、情報や移転された技術の円滑な伝達が行われるよう努力した。新 AREF 設置に伴い、MENFPESRS は速やかに公文書を発出し、カサブランカ・セタット州 AREF に州 PEEQ コーディネーターが配置された。このように、事務的な引き継ぎは順調に行われたのであるが、とはいえ、プロジェクト開始より1年半の時間をかけて築き上げた人間関係や、PEEQ への参画に意欲的な人材が全て引き継がれた訳ではないので、結果的に作業効率の低下があったことは否定できない。

一方で、小中学校を管轄する県教育局レベルでの変更はなかったため、事業継続への直接的な影響は限定的であったと言える。

第2ラウンドの対象県を選定するに当たっては、2015年9月から10月の運営指導調査の際に、混乱を避けるため、プロジェクト設計時に指定されていた旧ガープ・シャルダ・ベニハッサン州並びに旧マラケシュ・テンシフト・アル・ハウズ州に属する県の中から対象県を選定することが、モロッコ側、日本側の双方で合意された。両 AREF にとっては、領内の全ての県が選考の対象とならず、旧州に属していた県のみの中から2つずつ選ばれたことを残念に思う様子も見受けられたが、MENFPESRS からの詳細な経緯説明により、混乱なく選定することができた。

## 4) 外部要因による普及の遅れへの対応

2016年10月12日から22日まで、JICAの運営指導調査が実施され、プロジェクトの進捗状況

の確認及び解決すべき課題に係る協議が行われた。その中で、普及を考慮した活動モデルの再検討や、普及計画の再構築、PDMの改訂などが話し合われ、リスクの低減措置を含む、プロジェクト目標の着実な達成に向けた方向性が示された。調査後にも継続して見直し作業等が実施されることが合意され、当面のスケジュールとして以下のとおり設定された。

- エクイティコンポーネント及び質コンポーネントの研修内容、その絞込み、実施体制の見直し：2016年12月末まで
- カウンターパートの指名：2016年12月末まで
- PDM及び活動計画の改訂（必要に応じてR/Dの改訂）のための合同調整委員会の開催：2017年1月末まで
- 各種研修資料等の見直し：2017年2月末まで
- 必要に応じて研修の追加実施：2017年3月末まで
- モデルの有効性及び効率性に係る評価：2017年8月末まで
- 普及戦略の策定：2017年9月末まで

いずれの対応策も設定された方向性に従い実施されたものの、結果的に2017年9月末までに普及戦略の策定を完了することはできなかった。その主な理由は、診断テストの結果分析を含む2016/2017年度の活動を通じて基礎学力習熟の必要性が強く認識され、2017/2018年度に新たな形の介入（数字カードと暗算プリント）を導入して活動の有効性を検証するとともに、それらを含んだ新たな教育モデルの構築を行ったからである。

一方、2017年2月21日に実施された合同調整委員会（JCC）では、モロッコ側のプロジェクト責任者（Abdelhaq El HAYANI氏）により以下のとおり、優先事項が取りまとめられた。

#### 第1 優先事項

- プロジェクトの成果物を最終化すること
- 教員用のガイドブックを作成すること
- 研修用教材を改善すること
- 学校運営のモデルに特定したガイドブックを作成すること

#### 第2 優先事項

- PEEQプロジェクトの活動範囲における成果の具体化に係る詳細なモニタリングを確実に実施し、学習の質に対するインパクトを測定することができるようにすること

#### 第3 優先事項

- PEEQプロジェクトの成果を戦略的ビジョン2015年～2030年の統合プロジェクトに統合すること

これらの優先事項には、概ね指示されたとおりに取り組まれた。そして2017年10月12日に実施された合同調整委員会（JCC）では、以下の事項が決定された。

- PEEQで開発された数字カードや問題集を使い算数の授業開始時5分間に計算練習を行う活動は、本2017/2018年度から全国普及に取り組む。

- 誤答の教育学を適用した、診断テストの結果を踏まえた学習改善への取り組みは、2018/2019年度から全国普及に取り組む。
- 誤答の教育学に関する、州・県・学区の視学官を対象とした講師養成研修、学校の教員を対象とした研修は、本2017/2018年度に実施する。
- JICA 専門家の協力のもと、MENFPESRS が策定した教育課程に基づくカリキュラム改訂へ上記内容を反映させる作業を本2017/2018年度から開始する。
- これらの決定事項の実施方法を決定するワークショップを、中央、州、県、学校レベルの関係者を集めて実施する。

これらの決定事項を強く支持した前 MENFPESRS 大臣が、JCC が開催された直後に大臣の位から去ったことは、全国普及の進捗に少なからぬ影響を与えた。その後、2018年2月の新大臣着任を機に、再び急速に前進を初め、全国普及計画の完成は、ようやくプロジェクト終了直前の2018年6月になって実現したのである。

## (2) 教訓活用の結果

本プロジェクトの「事業事前評価表」には、活用すべき過去の類似案件の教訓として、以下のように記載されている。

*JICA がモロッコで2003～2005年に実施した開発調査「地方基礎教育改善 (BEIP)」では、ローカル NGO を活用し、効果的に地域住民・コミュニティを動員し、基礎教育のアクセス改善並びに学校環境改善を支援してきた。BEIP によりその試行を支援した学校改善プロジェクトの実施は、PU においては政策の1つとして位置付けられ、全国展開が図られている。この経験から、本プロジェクトが実施するアクセス改善のための活動コンポーネントにおいても、同様にローカル NGO を活用して地域コミュニティと小中学校を巻き込んで女子教育に対する理解促進及び中学校就学向上のための学校群による問題解決力の強化が図られるよう、工夫する。*

本プロジェクトでは、まさに上記 BEIP が支援した学校改善プロジェクト（現在は「学校プロジェクト」と呼ばれている）の枠組みを活用して、各種教育活動の実践を支援した。学校プロジェクト PEEQ 軸と呼ばれたこれらの活動の中には、NGO と協力して女子の権利に関する啓発活動を行ったり、地域住民の専門性を生かして活動の指導をしてもらったりして、積極的に学校外のリソースを活用している事例が見受けられる。それらの事例を含む教育活動を実施した PEEQ 支援対象校（介入群）には、本プロジェクトの一環として実施したインパクト評価によれば、プロジェクトの介入を受けなかった学校（比較群）と比べ、小学校から中学校への進学率に統計的に有意な正の効果が見受けられた（本プロジェクト『エンドライン調査報告書』参照）。

ただし、NGO との連携は PEEQ が支援した学校プロジェクトの事例の中では、比較的可成りまれなケースであったことも事実である。なぜならば、PEEQ の実施初期に現状調査を行った際、子どもたちが喜んで通える学校づくりをするために、まずは教員と児童生徒、教員同士、そして校長と教員といった、学校内での連帯強化の必要性を感じたため、プロジェクトとして必ずしも積極的



には学外の機関との連携を推奨しなかったためである。学校プロジェクトを自分たちで計画して実施することを通じ、まずは校内での協力体制が強化されたため、参加した人びとの人間関係の深化に大きな進展が見られた（上掲書）。

一方で、同じくエンドライン調査のアンケートにより、コミュニティや保護者といった外部から学校への協力の増加を、学校側が希望していることも確認できたので、上述の事業事前評価表に書かれた活用すべき教訓としての NGO との連携は、今後取り組むべき課題として重要性を増してくるものと考えられる。

## 4. 教訓

### 1) 基礎学力習熟へ注力することの重要性

本プロジェクトでは、算数・数学の診断テストの作成に当たり、小学校低学年の学習内容から、テストを受ける児童生徒の学年のひとつ手前の学年の学習内容までを、後者を解くために必要な既習事項に着目して系統的に並べた問題を作成し、児童生徒がどこでつまづいているのかを明らかにすることを試みた。その結果、多くの児童生徒が極めて基礎的な計算能力を身に付けておらず、そのために、後に続く学習について行かれず、結果として算数・数学が苦手な科目となってしまう現状が浮き彫りになった。

こうした現状を改善することをめざし、本プロジェクトでは、児童生徒の基礎計算力の習熟を集中的に支援するため、数字カードと暗算プリントを使用した毎日5分間の暗算練習の時間を導入し、「1.DAC 評価項目によるレビュー結果 (4) インパクト」で述べたとおり、基礎学力テストで統計的にも優位な正の効果をもたらすことができた。

この経験から教訓として導き出されるのは、特に系統性の強い算数・数学教育の改善のためには、なによりもまず、基礎計算力をしっかり習熟させることの重要性である。数字カードと暗算プリントという教材を用いた理由は、それが、以下のような特徴を持った、「導入が容易で効果の大きい指導法<sup>10)</sup>」だからである。

- 取り組みがシンプルでわかりやすい。
- 子どもにとって楽しい活動なので、飽きることなく持続できる。
- 「素早く」を目標に、全員がチャレンジ精神を發揮できる。
- 5分間で実施する活動なので、通常の授業に影響しない。

さらに、暗算プリントでの練習が小テストの成績上昇につながったことから、書き取り練習の重要性も指摘される。これらの特徴を持った教材を用いた基礎計算力の習熟活動は、同様に算数の学力不振を課題とする多くの国々でも応用可能である。

### 2) 就学改善に対する教育活動の可能性

同じく「1.DAC 評価項目によるレビュー結果 (4) インパクト」で述べたとおり、本プロジェクトの対象となった介入群の学校の6年生の児童は、対象となっていない比較群の学校の6年生

<sup>10)</sup> 『数字カードと暗算プリント活用ガイド』より。下の4つの特徴も同書より引用。

の児童と比べて、卒業後に中学へ進学した割合が高く、その差は統計的にも優位であることから、介入が進学率改善に正の効果をもたらしたことが示唆されている。

本プロジェクトは、教育の質と教育へのアクセスの双方を改善することにより、教育格差を是正し、公平で質の高い教育を振興することが目的であった。そこで、質とアクセス双方の課題に対処する活動の受け皿となり得る「学校プロジェクト」の制度を活用し、さまざまな教育活動の計画・実施を支援した。その具体的な内容は、表 19、表 20 に記載されている。これらの活動を通じた児童生徒や教職員らの変化や、何がこれらの変化をもたらしたかについては『エンドライン調査報告書』にさらに詳しく述べられている。総じて述べるならば、各種教育活動を通じて、児童生徒の自己肯定感が向上して就学意欲が高まったり、児童生徒と教員との人間関係が深まることで学校が精神的な居場所として認識されたり、さらに直接的に小中学校の連携が促進されたりすることが、中学進学促進につながったと考えられる。

よって、ここで取り上げる教訓としては、初等教育の就学率は高い水準に至っても中等教育では改善の余地が大きいモロッコのような国が多く存在する中で、本プロジェクトが支援したような教育活動が、中等教育への進学促進に寄与できる可能性があることから、それらの国々においても、同様の取り組みを推奨する意味があるかもしれないということである。

### 3) 実験性の高い案件における介入アプローチの明確化及び適切なフェーズ分けの重要性

「2-2 プロジェクト目標と指標」の項で述べたとおり、本プロジェクトの目標は「MENFPESRS が、教育に係る格差の緩和に取り組む AREF を支援する」であり、その達成度を測る指標は「MENFPESRS の参照枠組みが作成される」であるが、その枠組みが意味するところは、しばらく明らかにされていなかった。さらに、教育の質や教育へのアクセスに関する格差の緩和をどのように進めようとしているのか、すなわち介入のアプローチについては、プロジェクトデザインからは明らかでない。格差緩和の施策は「試行され採用される」ものであり、プロジェクトの実施を通じて、関係者が試行錯誤をしながら最適解を見つけ出すよう期待されていた。実際に、2016 年に行った診断テストは、前年に行ったものとは異なるものであったし、基礎学力習熟に大きな効果が認められた数字カードと暗算プリントは、プロジェクトの最終年次になってようやく導入された。当初、学校補助金交付制度を確立することが期待されていたコンポーネントは、最終的にはプロジェクト・ベースの学校運営の改善を支援するものへと変貌を遂げた。言い換えれば PEEQ は、極めて実験性の高いデザインを持ったプロジェクト、すなわち試行的に導入する介入が効果的であるかどうかを見極めつつ、効果があるモデルを策定していくことが期待されたプロジェクトであった。

このようなデザインのプロジェクトは一般的に、ドナー側が予め決めた方法論を押し付けることが回避され、対象国のこれまでの経験を生かし、対象国の文脈に適った介入を作り上げることができるという意味で大変有効である。実際に、本プロジェクトの終盤で改訂中のカリキュラムや教科書に PEEQ の「教育モデル」が積極的に取り入れられたのは、それがモロッコの現状に即した、すなわち「文脈化された」介入であると判断されたからであろう。

一方で、モデルづくりのフェーズと普及拡大のフェーズを同時並行で進めるかのように、当初から 2 州 4 県にまたがる 8 つの学校群を対象とし、2 年目からすぐに対象を倍増させ、実現には至らなかったが、3 年目からさらに倍増させることが計画されていた。2016 年 10 月の JICA 本部による運営指導調査の際に、性急な普及よりモデルづくりを優先させるべきとして、第 3 フェー

ズ開始を当面見合わせる判断がなされたのであるが、「1. DAC 評価項目によるレビュー結果 (2) 有効性、(3) 効率性」の項で述べたとおり、最終的に普及への道筋をプロジェクト期間中に確実にするという成果を十分達成できなかった。

その理由のひとつとして、「(3) 効率性」の項でも述べたように、試行錯誤に時間が費やされ、モデル策定の期間が事業終了間際まで及んだことが挙げられる。こうした事態を避け、短時間で試行から普及に移行するためには、プロジェクト開始当初より試行的に導入する介入のアプローチが明確になっていなければならないだろう。もしプロジェクトデザインの段階で明確にできなかった場合には、少なくともプロジェクト開始直後に、自国もしくは他国での経験に基づき有効性が期待されるアプローチを定めるとともに、対象国の現状も十分に調査したうえで、試行される介入の具体的な方法を慎重に準備し、関係者間の合意を取り付けなければならない。そうした上で、試行を開始することが効率性を高めるために効果的であると思われる。さらに、試行フェーズと普及フェーズを明確に分離して、介入の効果を測るために必要最低限の対象を選定して試行し、必要に応じて試行結果に基づく調整を行った上で、効果が認められれば速やかに普及のフェーズに移るとというのが、合理的な方法論であろう。

こうしたプロセスが、本プロジェクトの設計及び実施過程で徹底されていなかったことが、成果を全て達成できなかった要因のひとつと捉え、他の類似案件への教訓としたい。

#### 4) 行政区画再編への対応

「3. プロジェクトリスクマネジメントの結果に関する評価」で述べたとおり、2016年2月に行政区画の再編が実施され、それに伴いある程度の作業効率の低下があったことは否定できないが、大きな混乱はなく、業務を継続することができた。この経験から、プロジェクト期間中に行政区画の再編が起きた場合にも、できるだけ業務の効率を低下させないための対応として、以下の3点が役立つことを、教訓として示す。

- 新たな行政区画における担当者を早急に任命するよう、中央レベルのカウンターパート機関に働きかけ、任命された担当者には情報や移転された技術の伝達を円滑に行う。
- 新たな行政区画における担当者をできるだけ早く訪問し、かつある程度の期間は頻繁に連絡をとり良好な人間関係を構築する。
- 当初選定されていたプロジェクト対象地域は、行政区画再編後も混乱を避けるためできるだけ維持する。

#### 5) ジェンダーへの取り組み

「II. プロジェクトの実績 4-2 ジェンダー・平和構築・貧困削減に対する配慮の実績」で述べたとおり、女子教育に係る調査を行った結果、女子の就学促進・中退防止に有効と判断された取り組みを、教訓として示す。

- 保護者やコミュニティの巻き込みの必要性
- 活動の効果を上げるために必要な教員や児童生徒によるディスカッションの重要性
- 生徒の自己肯定感の醸成につながる創造的な活動の重要性
- 目的意識を明確にした計画的な取り組みの必要性

## IV. プロジェクト終了後の上位目標達成に向けて

### 1. 上位目標達成見込み

#### 【上位目標】

PEEQ の活動（域内教育格差を緩和する施策）が対象 AREF 内の他の学校およびモロッコ国内他州にて展開される

<指標と達成見込み>

拡大地域における対象校の割合（目標値：2020/2021 年度に全国の小学校の 100%）

上位目標の指標の目標値は、PDM 第 2 版では具体的な数値が未設定だが、留意事項として、PEEQ の活動の普及計画の中で定められると記載されている。よって、2018 年 7 月に承認された「初等算数教育における基礎学力評価習熟のための教育モデルの全国普及計画」を参照すると、2020/2021 年度には小学 5・6 年生までのカリキュラムと教科書の改訂が完了し、モロッコ国中の公立小学校の全ての学年で、基礎学力評価習熟のための教育モデルが採用された新しい教科書を使った授業が行われるようになると見込まれている。したがって、目標値は「2020/2021 年度に全国の小学校の 100%」とするのが適当である。

それではその達成見込みについてだが、既に小学 1・2 年のカリキュラムは改訂され、算数のカリキュラムには基礎学力評価習熟のための教育モデルが統合されている。それに基づく改訂版教科書も、2018/2019 年度から使用されることが決定しており、改訂作業が進行中である。また、このようにカリキュラム改訂が開始されたからには、第 1・第 2 学年のみで中断するということはあり得ず、2020/2021 年度からの全学年での施行に向けて、今後も作業が進められて行くことは、ほぼ間違いない。

では、3 年生以上の算数の改訂版カリキュラム及び教科書に、PEEQ が導入した基礎学力評価習熟のための教育モデルがどれ程反映され得るかの見込みである。MENFPESRS は明確に同モデルを反映させる意思を有しており、その方法をプロジェクト実施期間中に経験した。そしてその作業は、日本人専門家の協力を得ながら、PEEQ のプロジェクト実施に深く関与した視学官らによって行われたのであるから、彼らが引き続き関与し続ければ、かなりの程度において、同モデルが反映された第 3～第 6 学年までの改訂版カリキュラムと教科書が完成する公算が高い。ただし、当然のことであるが、モロッコ側は引き続きこれらの作業に対しても、日本人専門家の協力を求めており、もしそれが実現すれば、より一層 PEEQ の成果が反映されたものができることは自明である。

上記のようなカリキュラムへの統合に加え、各学校において同教育モデルが実施されるためには、予定どおり教育モデルの普及計画が州の年間計画の中に統合され、それに沿った伝達プロセスが実際に行われることが必須である。すなわち、州レベルで選出された普及視学官が中央レベルで研修を受け、彼らが州内の全視学官に研修内容を共有するとともに、全視学官が担当する学区内の学校で教員への指導を着実にを行い、教員がそれに沿った教育実践を行わなければならない。

以上より、現時点では上位目標の達成見込みは「やや高い」というレベルにとどまるが、計画通りにカリキュラム改訂、州レベルでの普及計画策定、改訂されたカリキュラムに関する研修事業が実施されれば、上位目標の達成は十分可能である。

## 2. 目標達成に向けてのモロッコ側事業計画と実施体制

目標達成、すなわち「PEEQの活動（域内教育格差を緩和する施策）が対象 AREF 内の他の学校およびモロッコ国内他州にて展開される」ことに向けたモロッコ側事業計画は、「初等算数教育における基礎学力評価習熟のための教育モデル全国普及計画」として取りまとめられた。同計画には、全国普及に向けたタイムラインと、MENFPESRS の中央レベル、州レベル、県レベルにおける諸機関の役割が、必要な経費見込みと共に規定されている。

同計画に規定された教育モデルの普及に向けたタイムラインは、表 37 のとおりである。

表 37 : PEEQ 教育モデルの普及に向けたタイムライン

| 学年度       | 主な活動   | 研修   |
|-----------|--|--|
| 2017/2018 | <ul style="list-style-type: none"> <li>- PEEQ 対象校への電子ファイルでの配布：               <ul style="list-style-type: none"> <li>- 小学 2 年から中学 1 年までの既習事項診断テスト</li> <li>- テスト結果分析ワークショップ用研修モジュール</li> <li>- 算数問題集</li> </ul> </li> <li>- パイロット校 32 校における 5 分間暗算練習の試行</li> <li>- PEEQ 対象 3 州の全県教育局に対する普及セミナー</li> <li>- 教育モデル実践ガイドの開発</li> <li>- 小学 1・2 年の改訂版カリキュラム・教科書への統合</li> </ul>          | <ul style="list-style-type: none"> <li>- 普及視学官に対する中央レベルでの研修</li> </ul>   |
| 2018/2019 | <ul style="list-style-type: none"> <li>- MENFPESRS ウェブサイトでの配信：               <ul style="list-style-type: none"> <li>- 教育モデル実践ガイド</li> <li>- 小学 2 年から中学 1 年までの既習事項診断テスト</li> <li>- テスト結果分析ワークショップ用研修モジュール</li> <li>- 算数問題集</li> </ul> </li> <li>- 小学 1・2 年での全国普及</li> <li>- AREF による、当該教育モデルの域内普及に関する施策を含む州行動計画策定（2018 年 12 月まで）</li> <li>- 小学 3・4 年の改訂版カリキュラム・教科書への統合</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>- 学区担当視学官に対する州レベルでの研修（9 月末まで）</li> <li>- 学区担当視学官による管轄する学校の教員への小学 1・2 年の改訂版カリキュラムに関する指導</li> </ul> |
| 2019/2020 | <ul style="list-style-type: none"> <li>- 小学 3・4 年での全国普及</li> <li>- 小学 5・6 年の改訂版カリキュラム・教科書への統合</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>- 学区担当視学官による管轄する学校の教員への小学 3・4 年の改訂版カリキュラムに関する指導</li> </ul>  |
| 2020/2021 | <ul style="list-style-type: none"> <li>- 小学 5・6 年での全国普及</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>- 学区担当視学官による管轄する学校の教員への小学 5・6 年の改訂版カリキュラムに関する指導</li> </ul>  |

出所：MENFPESRS. (2018) Plan d'action national pour la généralisation de la démarche pédagogique d'évaluation et de maîtrise

des compétences de base en mathématiques du cycle primaire

また、同計画に規定されている主な機関の役割は以下のとおりである。

- カリキュラム局 (DC) : PEEQ によって導入された教育モデルを、改訂が進められているカリキュラムに統合させ、同モデルを国全体に改訂版カリキュラムの施行をもって全国普及を図る。普及視学官に対する研修会を開催し、かれらが自州内の全視学官に対する研修を行えるようにする。CNEEO と協働し既習事項確認テストの更新を行う。
- 国立評価試験進路指導センター (CNEEO) : 州試験評価センターへの指導を通じて、PEEQ のアプローチを採用した既習事項診断テストの普及に努める。改訂中のカリキュラムに準拠するように、既習事項診断テストの追加及び更新を行う。既習事項診断評価及び治療活動の教材をさらに改良するため電子化の可能性を追求する。
- 州教育局 (AREF) : 当該教育モデルの普及に係る州計画を策定する。県レベルの視学官向け研修会の実施に関する指示を発出するとともに、各県教育局に州視学官コーディネーターを同研修会のファシリテーターとして派遣する。当該教育モデルの実施に必要な予算を確保し県教育局に配分する。
- 県教育局 : AREF からの指示に基づき、全視学官を対象とする研修会を開催する。域内の校長向けに説明会を開催する。学校プロジェクトと年間活動計画の承認、支援 (必要な場合には補助金支給)、モニタリングを行う。教員への指導のために学区担当視学官による学校訪問を着実に行わせる。

なお、2018 年 6 月 25 日の JCC において、教育方法にかかる 8 つの局の調整を図る教務総局 (Pôle pédagogique) が、プロジェクト終了後の同教育モデルの普及・実施にかかるモニタリングの責任機関となることが決定した。

### 3. モロッコ側への提言

上述した「目標達成に向けてのモロッコ側事業計画と実施体制」が着実に実行されるよう、JICA は以下の点をモロッコ国 MENFPESRS に提言する。

- プロジェクト実施期間中に教材開発や誤答分析等に従事した視学官を、MENFPESRS にとっての貴重な人的資源と認識し、プロジェクト終了後にも積極的に活用すること。現在の制度では、必要な作業が発生する度に、その業務を担当する幹部の個人的な経験に基づく判断により、適切と判断された視学官が招聘されている。しかしながら、そうした人材プールを組織的に制度化し、通常の視学業務の合間に従事するのではなく、一定期間集中的に当該業務にあたるような業務委託制度を導入することが望ましいのではないかと。
- プロジェクト期間中に策定された「初等算数教育における基礎学力評価習熟のための教育モデル全国普及計画」では、現在最も一般的に浸透している視学官を通じた教員への指導を能力強化戦略の中核に置いている。また、それを補うために情報通信技術を応用して、視聴覚教材を配信することも用意した。しかしながら、モロッコの教育制度の一般的な課題として、現職教員の研修制度の脆弱さは認識されており、早急な改善が求められている。したがって、

現在の計画以上に着実に、学校現場において当該教育モデルが実践されるよう、教員研修の制度をさらに充実させることが望まれる。

- プロジェクト終了後のモニタリングを着実にを行うために、2018年6月25日のJCCにおいて決定した教務総局（Pôle pédagogique）を中心とする体制を確立することが望まれる。そのためには、同総局の調整役（Coordinator）の明確化が欠かせない。それはまた、JICAモロッコ事務所によるプロジェクト後のモニタリング、事後評価等を考慮した場合に、関連データ等の保管責任者を明確にするという趣旨からも重要である。
- 学校プロジェクトは、自校の抱える課題の解決に最良の策を見つけ、さらに魅力的な学校づくりを進めるため、学校関係者が周囲のコミュニティの支援を得つつ、学校運営に自主的かつ協力して取り組むことができる優れた制度である。しかしながら、PEEQにおける3度にわたる資金的あるいは物的支援の経験によれば、多くの学校が教育活動の実施に必要な資材を適時に得るためには、申請・承認・契約・送金・精算というプロセスが、やや重たすぎる嫌いがある。したがって、例えば、毎年必要な教育活動の資金の提供をルーティン化したり、児童生徒の学習に必要な教材を印刷するための紙やインクを、児童生徒数に応じて自動的に配布したりするなど、支援の迅速化を可能にする方策を検討すべきである。
- 基礎学力習熟の重要性が社会的に認知されるよう、情報通信技術やマスコミュニケーションを活用した周知活動を行うことが望ましい。また、同じく情報通信技術の活用により、例えば教育評価や繰り返し練習の自動化などの、教育の技術革新の可能性も秘められている。MENFPESRSが引き続き、そうしたさまざまな技術の活用方法を追求していくことは有意義なことである。

#### 4. プロジェクト終了時点から事後評価までのモニタリング計画

本節では、上位目標の達成や、インパクト及び持続性の発現に向け、JICAがプロジェクト完了後に行うべきモニタリングやフォローアップの必要性、並びにその方針を記載する。

MENFPESRSがプロジェクトの技術協力を得つつ策定した「初等算数教育における基礎学力評価習熟のための教育モデル全国普及計画」が、着実に実行されることを、JICAモロッコ事務所が継続的にモニタリングを続けることが望まれる。特に、2019/2020年度に発行される小学3・4年生の改訂版教科書にどの程度まで当該教育モデルが反映されているか、2020/2021年度に発行される小学5・6年生の改訂版教科書ではどうかということは、確認すべき重要な点である。さらに、もちろんそれらの新しい教育方法を普及させるために、視学官が全国の学校を訪れて教員に対する指導を行ったかどうか、モニタリングの対象である。

一方、モロッコ政府としては、既に2017年8月に継続的な技術支援に対する要請を、日本政府に対して提出している。上述のとおり、継続的な技術的支援があれば、上位目標の達成度はさらに上昇することは確実であるので、要請が前向きに検討されるよう期待したい。

以上

添付資料





## 添付資料1

### 専門家派遣実績（要員計画）



業務従事者の従事計画／実績表

契約件名：モロッコ国公平な教育振興プロジェクト第1年次

1. 現地業務

| 氏名<br>(担当業務)                   | 格付 | 計画／<br>実績 | 渡航<br>回数 | 2014年     |       |      |         | 2015年 |           |         |         |          |            |        | 第1年次   |      |
|--------------------------------|----|-----------|----------|-----------|-------|------|---------|-------|-----------|---------|---------|----------|------------|--------|--------|------|
|                                |    |           |          | 9         | 10    | 11   | 12      | 1     | 2         | 3       | 4       | 5        | 6          | 7      | 日数合計   | 現地   |
| 奥川 浩士<br>(チーフアドバイザー／<br>教材開発1) | 2  | 計画        | 3        | (117)     |       |      |         | (54)  |           |         | (63)    |          |            | 234    | 7.80   |      |
|                                |    | 実績        | 3        | 14        | (109) |      |         | 31    | 31        | (71)    | 11      | 9 (54)   |            |        | 234    | 7.80 |
| 石井 徹弥<br>(副総括)                 | 3  | 計画        | 2        | (14)      |       |      |         |       | (40)      |         |         |          |            | 54     | 1.80   |      |
|                                |    | 実績        | 2        | 14        | (14)  | 27   |         |       |           |         | 12 (29) |          | 9          |        | 43     | 1.43 |
| 香西 武<br>(教材開発2<br>(理数科教育))     | 3  | 計画        | 2        | (15)      |       | (15) |         |       |           |         |         |          |            | 30     | 1.00   |      |
|                                |    | 実績        | 2        | 20 (15)   |       | 4    | 22 (30) |       | (自社負担)    |         | 8 (15)  |          | 22         |        | 30     | 1.00 |
| 日下 智志<br>(教材開発3<br>(理数科教育))    | 4  | 計画        | 2        |           |       |      | (78)    |       |           | (42)    |         |          | 120        | 4.00   |        |      |
|                                |    | 実績        | 2        | 23        |       |      | (78)    |       |           | 8       |         | 4 (42) 5 |            |        | 120    | 4.00 |
| 清水 麻由<br>(学校運営)                | 4  | 計画        | 3        | (90)      |       |      | (48)    |       |           |         |         |          | 138        | 4.60   |        |      |
|                                |    | 実績        | 2        | 14        | (90)  |      |         | 12    | 12 (48)   |         | 28      |          |            | 138    | 4.60   |      |
| 堀 康廣<br>(学校運営2)                | 3  | 計画        | 1        |           |       |      |         |       |           | (18)    |         |          | 18         | 0.60   |        |      |
|                                |    | 実績        | 1        |           |       |      |         |       |           | 19 (18) |         |          | 18         | 0.60   |        |      |
| 太田 美穂<br>(女子教育)                | 3  | 計画        | 2        | (45)      |       |      |         |       |           | (45)    |         |          | 90         | 3.00   |        |      |
|                                |    | 実績        | 3        | 14        | (45)  |      |         | 28    | 6 (13)    |         | 18      |          | 13 (43) 24 |        | 101    | 3.37 |
| 西野 宏<br>(インパクト評価)              | 4  | 計画        | 1        | (15)      |       |      |         |       |           |         |         |          | 15         | 0.50   |        |      |
|                                |    | 実績        | 2        | 19 (8)    |       |      | 26      |       | 11 (8)    |         |         | 18       |            | 16     | 0.53   |      |
| 米田 勇太<br>(業務調整[自社負担])          |    | 計画        | 0        |           |       |      |         |       |           |         |         |          | (0)        | (0.00) |        |      |
|                                |    | 実績        | 2        | 30 (1.07) |       |      | 31      |       | 21 (1.27) |         |         | 30       |            | (70)   | (2.33) |      |
| 現地作業小計                         |    |           |          |           |       |      |         |       |           |         | 計画      | 699      | 23.30      |        |        |      |
|                                |    |           |          |           |       |      |         |       |           |         | 実績      | 700      | 23.33      |        |        |      |

2. 国内業務

|                                |   |    |  |         |  |    |  |        |  |   |       |        |      |        |      |        |  |        |  |        |  |        |  |   |  |
|--------------------------------|---|----|--|---------|--|----|--|--------|--|---|-------|--------|------|--------|------|--------|--|--------|--|--------|--|--------|--|---|--|
| 奥川 浩士<br>(チーフアドバイザー／<br>教材開発1) | 2 | 計画 |  | (2)     |  |    |  |        |  |   |       | (1)    |      | 3      | 0.15 |        |  |        |  |        |  |        |  |   |  |
|                                |   | 実績 |  | 8 (2)   |  | 9  |  |        |  |   | 2 (1) |        | 2    |        | 3    | 0.15   |  |        |  |        |  |        |  |   |  |
| 西野 宏<br>(インパクト評価)              | 4 | 計画 |  |         |  |    |  |        |  |   |       |        |      | 55     | 2.75 |        |  |        |  |        |  |        |  |   |  |
|                                |   | 実績 |  | 14 (17) |  | 30 |  | 27 (7) |  | 2 |       | 17 (4) |      | 20 (5) |      | 6 (10) |  | 19 (4) |  | 23 (3) |  | 12 (3) |  | 4 |  |
| 国内業務小計                         |   |    |  |         |  |    |  |        |  |   | 計画    | 58     | 2.90 |        |      |        |  |        |  |        |  |        |  |   |  |
|                                |   |    |  |         |  |    |  |        |  |   | 実績    | 57.4   | 2.87 |        |      |        |  |        |  |        |  |        |  |   |  |
| 合計                             |   |    |  |         |  |    |  |        |  |   | 計画    | 26.20  |      |        |      |        |  |        |  |        |  |        |  |   |  |
|                                |   |    |  |         |  |    |  |        |  |   | 実績    | 26.20  |      |        |      |        |  |        |  |        |  |        |  |   |  |

業務従事者の従事計画／実績表

契約件名：モロッコ国公平な教育振興プロジェクト（第2年次）

1. 現地業務

| 氏名<br>(担当業務)                  | 格付 | 計画／<br>実績 | 渡航<br>回数 | 2015年 |      |      |      |      | 2016年 |      |      |      |      | 2017年 |      |      |      |       | 第2年次 |       |    |      |      |    |      |      |      |      |      |    |     |       |      |        |       |       |       |  |
|-------------------------------|----|-----------|----------|-------|------|------|------|------|-------|------|------|------|------|-------|------|------|------|-------|------|-------|----|------|------|----|------|------|------|------|------|----|-----|-------|------|--------|-------|-------|-------|--|
|                               |    |           |          | 8     | 9    | 10   | 11   | 12   | 1     | 2    | 3    | 4    | 5    | 6     | 7    | 8    | 9    | 10    | 11   | 12    | 1  | 2    | 3    | 4  | 5    | 6    | 7    | 日数合計 | 現地   | 国内 |     |       |      |        |       |       |       |  |
| 奥川浩士<br>(チーフアドバイザー/<br>教材開発1) | 2  | 計画        | 9        |       | (55) |      | (75) |      | (46)  |      | (42) | (30) |      | (100) |      | (66) | (72) | (6)   | 492  | 16.40 |    |      |      |    |      |      |      |      |      |    |     |       |      |        |       |       |       |  |
|                               |    | 実績        | 10       | 1     | (55) | 25   | 9    | (75) | 22    | 8    | (46) | 24   | 24   | (42)  | 4    | 9    | (30) | 8     | 31   | (100) | 8  | 4    | (26) | 29 | 13   | (54) | 7    | 17   | (69) | 24 | 24  | (7)   | 30   | 504    | 16.80 |       |       |  |
| 石井徹弥<br>(副総括)                 | 3  | 計画        | 0        |       |      |      |      |      |       |      |      |      |      |       |      |      |      |       | 0    | 0.00  |    |      |      |    |      |      |      |      |      |    |     |       |      |        |       |       |       |  |
|                               |    | 実績        | 0        |       |      |      |      |      |       |      |      |      |      |       |      |      |      |       | 0    | 0.00  |    |      |      |    |      |      |      |      |      |    |     |       |      |        |       |       |       |  |
| 香西 武<br>(教材開発2<br>(理数科教育))    | 3  | 計画        | 4        |       | (15) |      |      |      | (15)  |      |      |      |      | (15)  |      |      |      | 60    | 2.00 |       |    |      |      |    |      |      |      |      |      |    |     |       |      |        |       |       |       |  |
|                               |    | 実績        | 3        |       | 11   | (15) | 25   | 10   | (12)  | 21   | 27   | (16) | 13   |       | 23   | (14) | 5    |       | 45   | 1.50  |    |      |      |    |      |      |      |      |      |    |     |       |      |        |       |       |       |  |
| 日下智志<br>(教材開発3<br>(理数科教育))    | 4  | 計画        | 5        |       | (60) |      |      |      | (45)  |      |      |      | (45) |       | (60) |      | (7)  | 217   | 7.23 |       |    |      |      |    |      |      |      |      |      |    |     |       |      |        |       |       |       |  |
|                               |    | 実績        | 5        |       | 6    | (60) | 4    |      | 8     | (45) | 23   | 16   | (45) | 29    |      | 30   | (60) | 28    | 26   | (7)   | 4  |      |      |    |      |      |      |      |      |    |     | 217   | 7.23 |        |       |       |       |  |
| 佐藤 晃<br>(教育評価)                | 3  | 計画        | 4        |       |      | (15) |      |      | (15)  |      |      |      | (15) |       | (15) |      | (15) | 60    | 2.00 |       |    |      |      |    |      |      |      |      |      |    |     |       |      |        |       |       |       |  |
|                               |    | 実績        | 4        |       |      | 15   | (15) | 29   |       | 5    | (16) | 20   |      |       | 20   | (14) | 3    |       | 19   | (15)  | 5  |      |      |    |      |      |      |      |      |    |     | 60    | 2.00 |        |       |       |       |  |
| 堀 康廣<br>(学校運営)                | 3  | 計画        | 7        |       | (15) |      | (8)  |      | (15)  |      | (8)  |      | (15) |       | (15) |      | (22) | (10)  | 93   | 3.10  |    |      |      |    |      |      |      |      |      |    |     |       |      |        |       |       |       |  |
|                               |    | 実績        | 7        |       | 18   | (15) | 1    | 13   | (8)   | 20   | 21   | (15) | 6    | 23    | (8)  | 30   |      | 18    | (15) | 2     |    | 5    | (22) | 26 |      | 28   | (15) | 11   |      |    | 98  | 3.27  |      |        |       |       |       |  |
| 太田美德<br>(女子教育)                | 3  | 計画        | 2        |       | (45) |      |      |      |       |      |      |      |      |       |      |      | (12) | 57    | 1.90 |       |    |      |      |    |      |      |      |      |      |    |     |       |      |        |       |       |       |  |
|                               |    | 実績        | 2        |       | 22   | (45) | 5    |      |       |      |      |      |      |       |      |      |      |       | 5    | (8)   | 12 |      |      |    |      |      |      |      |      |    | 53  | 1.77  |      |        |       |       |       |  |
| 野々口敦子<br>(女子教育2)              | 3  | 計画        | 1        |       |      |      |      |      |       |      |      |      |      |       | (18) |      |      | 18    | 0.60 |       |    |      |      |    |      |      |      |      |      |    |     |       |      |        |       |       |       |  |
|                               |    | 実績        | 1        |       |      |      |      |      |       |      |      |      |      |       | 6    | (18) | 23   |       | 18   | 0.60  |    |      |      |    |      |      |      |      |      |    |     |       |      |        |       |       |       |  |
| 寺岡亮輔<br>(サブプロジェクト管理)          | 5  | 計画        | 8        |       |      | (32) |      | (21) | (48)  | (27) |      | (53) | (39) | (48)  | (35) |      | 303  | 10.10 |      |       |    |      |      |    |      |      |      |      |      |    |     |       |      |        |       |       |       |  |
|                               |    | 実績        | 8        |       |      | 30   | (32) | 31   | 15    | (21) | 6    | 20   | (48) | 6     | 6    | (27) | 2    | 1     | (53) | 23    | 20 | (39) | 28   | 22 | (53) | 15   | 22   | (30) | 20   |    | 303 | 10.10 |      |        |       |       |       |  |
| 西野 宏<br>(インパクト評価)             | 4  | 計画        | 1        |       |      |      |      | (8)  |       |      |      |      |      |       |      |      |      | 8     | 0.27 |       |    |      |      |    |      |      |      |      |      |    |     |       |      |        |       |       |       |  |
|                               |    | 実績        | 1        |       |      |      |      | 10   | (8)   | 17   |      |      |      |       |      |      |      | 8     | 0.27 |       |    |      |      |    |      |      |      |      |      |    |     |       |      |        |       |       |       |  |
| 山田めぐみ<br>(研修実施モニタリング)         | 4  | 計画        | 1        |       |      |      |      |      |       |      |      |      |      |       |      |      | (25) | 25    | 0.83 |       |    |      |      |    |      |      |      |      |      |    |     |       |      |        |       |       |       |  |
|                               |    | 実績        | 1        |       |      |      |      |      |       |      |      |      |      |       |      |      |      |       |      |       |    |      |      |    |      |      |      |      |      |    |     | 25    | 0.83 |        |       |       |       |  |
|                               |    |           |          |       |      |      |      |      |       |      |      |      |      |       |      |      |      |       |      |       |    |      |      |    |      |      |      |      |      |    |     |       |      | 現地作業小計 | 計画    | 1333  | 44.43 |  |
|                               |    |           |          |       |      |      |      |      |       |      |      |      |      |       |      |      |      |       |      |       |    |      |      |    |      |      |      |      |      |    |     |       |      | 実績     | 1331  | 44.37 |       |  |

2. 国内業務

|                               |   |    |  |  |  |     |  |     |     |    |  |    |      |    |      |      |     |    |    |     |    |    |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |     |      |      |        |       |       |      |  |
|-------------------------------|---|----|--|--|--|-----|--|-----|-----|----|--|----|------|----|------|------|-----|----|----|-----|----|----|--|--|--|--|--|--|--|--|--|----|-----|------|------|--------|-------|-------|------|--|
| 奥川浩士<br>(チーフアドバイザー/<br>教材開発1) | 2 | 計画 |  |  |  |     |  | (2) |     |    |  |    | (2)  |    |      |      | (2) |    |    |     |    |    |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    | 8   | 0.40 |      |        |       |       |      |  |
|                               |   | 実績 |  |  |  |     |  | 26  | (2) | 27 |  | 18 | (4)  | 21 |      | 11   | (1) | 11 |    |     |    |    |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 31 | (1) | 31   | 8    | 0.40   |       |       |      |  |
| 石井徹弥<br>(副総括)                 | 3 | 計画 |  |  |  |     |  | (2) |     |    |  |    | (2)  |    |      |      |     |    |    |     |    |    |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    | 6   | 0.30 |      |        |       |       |      |  |
|                               |   | 実績 |  |  |  |     |  |     |     |    |  | 18 | (1)  | 18 | 14   | (1)  | 14  |    | 11 | (1) | 11 |    |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    | 7   | (1)  | 7    | 6      | 0.30  |       |      |  |
| 佐藤 晃<br>(教育評価)                | 3 | 計画 |  |  |  |     |  |     |     |    |  |    |      |    | (10) |      |     |    |    |     |    |    |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    | 10  | 0.50 |      |        |       |       |      |  |
|                               |   | 実績 |  |  |  |     |  |     |     |    |  |    |      |    |      | (10) | 18  | 19 | 22 | 26  | 29 | 31 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |     | 10   | 0.50 |        |       |       |      |  |
| 寺岡亮輔<br>(サブプロジェクト管理)          | 5 | 計画 |  |  |  |     |  |     |     |    |  |    | (12) |    |      |      |     |    |    |     |    |    |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    | 12  | 0.60 |      |        |       |       |      |  |
|                               |   | 実績 |  |  |  |     |  |     |     |    |  |    | (12) | 12 | 13   | 17   | 20  | 22 | 27 |     |    |    |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |     | 12   | 0.60 |        |       |       |      |  |
| 西野 宏<br>(インパクト評価)             | 4 | 計画 |  |  |  | (5) |  |     |     |    |  |    |      |    |      |      |     |    |    |     |    |    |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    | 5   | 0.25 |      |        |       |       |      |  |
|                               |   | 実績 |  |  |  |     |  |     |     |    |  |    | (5)  | 6  | 8    | 10   | 11  | 13 |    |     |    |    |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |     | 5    | 0.25 |        |       |       |      |  |
|                               |   |    |  |  |  |     |  |     |     |    |  |    |      |    |      |      |     |    |    |     |    |    |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |     |      |      | 国内業務小計 | 計画    | 41    | 2.05 |  |
|                               |   |    |  |  |  |     |  |     |     |    |  |    |      |    |      |      |     |    |    |     |    |    |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |     |      |      | 実績     | 41    | 2.05  |      |  |
|                               |   |    |  |  |  |     |  |     |     |    |  |    |      |    |      |      |     |    |    |     |    |    |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |     |      |      | 合計     | 計画    | 46.48 |      |  |
|                               |   |    |  |  |  |     |  |     |     |    |  |    |      |    |      |      |     |    |    |     |    |    |  |  |  |  |  |  |  |  |  |    |     |      |      | 実績     | 46.42 |       |      |  |

業務従事者の従事計画/実績表

契約件名：モロッコ国公平な教育振興プロジェクト（第3年次）

1. 現地業務

| 氏名<br>(担当業務)              | 格付 | 計画/<br>実績 | 渡航<br>回数 | 2017年 |      |      |      |      | 2018年 |      |      |      |      |        |      |                | 第3年次  |      |      |   |      |    |     |
|---------------------------|----|-----------|----------|-------|------|------|------|------|-------|------|------|------|------|--------|------|----------------|-------|------|------|---|------|----|-----|
|                           |    |           |          | 8     | 9    | 10   | 11   | 12   | 1     | 2    | 3    | 4    | 5    | 6      | 7    | 8              | 日数合計  | 現地   | 国内   |   |      |    |     |
| 奥川浩士<br>(チーフアドバイザー/教材開発1) | 2  | 計画        | 5        |       | (34) |      | (43) |      | (22)  |      | (79) |      | (8)  |        |      | 186            | 6.20  |      |      |   |      |    |     |
|                           |    | 実績        | 6        | 5     | (40) | 14   | 6    | (49) | 24    |      | 4    | (26) | 1    | 26     | (41) | 5              | 18    | (11) | 28   | 8 | (23) | 30 | 190 |
| 香西 武<br>(教材開発2(理数科教育))    | 3  | 計画        | 1        |       |      |      |      | (15) |       |      |      |      |      |        |      | 15             | 0.50  |      |      |   |      |    |     |
|                           |    | 実績        | 1        |       |      |      |      |      |       |      |      |      | 5    | (9)    | 13   |                | 9     | 0.30 |      |   |      |    |     |
| 日下智志<br>(教材開発3(理数科教育))    | 4  | 計画        | 1        |       |      |      |      | (22) |       |      |      |      |      |        |      | 22             | 0.73  |      |      |   |      |    |     |
|                           |    | 実績        | 1        |       |      |      |      | 3    | (22)  | 24   |      |      |      |        |      | 22             | 0.73  |      |      |   |      |    |     |
| 佐藤 晃<br>(教育評価)            | 3  | 計画        | 4        |       | (15) |      | (15) |      | (15)  |      | (15) |      | (15) |        | 60   | 2.00           |       |      |      |   |      |    |     |
|                           |    | 実績        | 4        |       | 1    | (15) | 15   | 3    | (15)  | 17   |      | 4    | (22) | 25     | 5    | (8)            | 12    | 60   | 2.00 |   |      |    |     |
| 堀 康廣<br>(学校運営)            | 3  | 計画        | 2        |       |      |      | (15) |      |       |      | (15) |      |      |        | 30   | 1.00           |       |      |      |   |      |    |     |
|                           |    | 実績        | 2        |       |      |      | 4    | (22) | 25    |      |      |      |      |        | 30   | 1.00           |       |      |      |   |      |    |     |
| 野々口敦子<br>(女子教育2)          | 3  | 計画        | 1        |       |      |      |      | (15) |       |      |      |      |      |        | 15   | 0.50           |       |      |      |   |      |    |     |
|                           |    | 実績        | 1        |       |      |      |      | 10   | (15)  | 24   |      |      |      |        | 15   | 0.50           |       |      |      |   |      |    |     |
| 寺岡亮輔<br>(サブプロジェクト管理)      | 5  | 計画        | 4        | (24)  |      | (21) |      | (15) |       | (48) |      |      |      | 108    | 3.60 |                |       |      |      |   |      |    |     |
|                           |    | 実績        | 4        | 5     | (24) | 28   | 23   | (26) | 17    | 7    | (25) | 31   | 13   | (33)   | 14   | (自社負担:4/15~21) | 108   | 3.60 |      |   |      |    |     |
| 西野 宏<br>(インパクト評価)         | 4  | 計画        | 2        |       |      |      | (15) |      |       | (9)  |      |      |      | 24     | 0.80 |                |       |      |      |   |      |    |     |
|                           |    | 実績        | 1        |       |      |      | 26   | (8)  | 3     |      |      |      |      | 8      | 0.27 |                |       |      |      |   |      |    |     |
| 山田めぐみ<br>(研修実施モニタリング)     | 5  | 計画        | 3        | (30)  |      |      |      | (30) |       |      |      |      | (21) | 81     | 2.70 |                |       |      |      |   |      |    |     |
|                           |    | 実績        | 3        | 18    | (32) | 19   |      | 7    | (15)  | 21   |      | 26   | (34) | 28     | 81   | 2.70           |       |      |      |   |      |    |     |
|                           |    |           |          |       |      |      |      |      |       |      |      |      |      | 現地作業小計 | 計画   | 541            | 18.03 |      |      |   |      |    |     |
|                           |    |           |          |       |      |      |      |      |       |      |      |      |      |        | 実績   | 523            | 17.43 |      |      |   |      |    |     |

2. 国内業務

|                           |   |    |  |   |     |    |       |     |                |                     |                                 |                    |                        |                                     |              |                            |                       |      |     |   |       |
|---------------------------|---|----|--|---|-----|----|-------|-----|----------------|---------------------|---------------------------------|--------------------|------------------------|-------------------------------------|--------------|----------------------------|-----------------------|------|-----|---|-------|
| 奥川浩士<br>(チーフアドバイザー/教材開発1) | 2 | 計画 |  |   |     |    |       |     |                |                     |                                 |                    |                        |                                     |              | 2                          | 0.10                  |      |     |   |       |
|                           |   | 実績 |  |   |     |    |       |     |                |                     |                                 |                    |                        |                                     |              |                            | 2                     | 0.10 |     |   |       |
| 香西 武<br>(教材開発2(理数科教育))    | 3 | 計画 |  |   |     |    |       |     |                |                     |                                 |                    |                        |                                     |              | 0                          | 0.00                  |      |     |   |       |
|                           |   | 実績 |  |   |     |    | 15,18 | (2) |                | 10                  | (2)                             | 11                 |                        |                                     |              | 4                          | 0.20                  |      |     |   |       |
| 野々口敦子<br>(女子教育2)          | 3 | 計画 |  |   |     |    |       |     |                |                     |                                 |                    |                        |                                     |              | 2                          | 0.10                  |      |     |   |       |
|                           |   | 実績 |  |   |     |    |       |     |                | 26,29               | (2)                             |                    |                        |                                     |              | 2                          | 0.10                  |      |     |   |       |
| 西野 宏<br>(インパクト評価)         | 4 | 計画 |  |   |     |    |       |     |                |                     |                                 |                    |                        |                                     |              | 64                         | 3.20                  |      |     |   |       |
|                           |   | 実績 |  | 9 | (1) | 24 | (1)   | 1   | (1),5(1),15(1) | 17(3)19,23(1),25(1) | 5,8~10,12,14,18,19,23,24,28(11) | 4(1),6(3)8,13(3)15 | 6,15~18,20,22,24,26(9) | 2,5,6,9,12,15,16,18,21,23,29~31(13) | 11(1), 28(1) | 8,11~13,16,19~21,24,29(10) | 3,4,14,17,22,23,27(7) | 30   | (1) | 3 | (0.6) |
|                           |   |    |  |   |     |    |       |     |                |                     |                                 |                    |                        | 国内業務小計                              | 計画           | 68                         | 3.40                  |      |     |   |       |
|                           |   |    |  |   |     |    |       |     |                |                     |                                 |                    |                        |                                     | 実績           | 78.6                       | 3.93                  |      |     |   |       |
|                           |   |    |  |   |     |    |       |     |                |                     |                                 |                    |                        | 合計                                  | 計画           | 21.43                      |                       |      |     |   |       |
|                           |   |    |  |   |     |    |       |     |                |                     |                                 |                    |                        |                                     | 実績           | 21.36                      |                       |      |     |   |       |



## 添付資料2

### カウンターパートリスト





| Nom                                  | Désignation  | Fonction dans le projet           | Période assignée               |
|--------------------------------------|--|-----------------------------------|--------------------------------|
| Youssef BELQASMI                     | Secrétaire Général   | Président du CCC                  | septembre 2014 - août 2018     |
| Abdelhaq EL HAYANI                   | Directeur de la Stratégie, des Statistiques et de la Planification   | Directeur du Project              | septembre 2014 - août 2018     |
| (Directeurs centraux concernés)      |  |                                   |                                |
| Ali NABIL                            | Directeur Chargé des Constructions et du Patrimoine  | Membre du CCC                     | septembre 2014 - juin 2015     |
| Aziz NAHYA                           | Directeur Chargé de la Vie Scolaire  | Membre du CCC                     | février 2018 - août 2018       |
| Fouad CHAFIQI                        | Directeur des Curricula  | Membre du CCC                     | septembre 2014 - août 2018     |
| Hind BENLHABIB                       | Directrice du Système d'Information  | Membre du CCC                     | septembre 2014 - août 2018     |
| Hssain OUJOUR                        | Directeur de l'Education Non Formelle  | Membre du CCC                     | septembre 2014 - août 2018     |
| Mohamed SASSI                        | Directeur, Centre National de l'Evaluation, des Examens et de l'Orientation  | Membre du CCC                     | septembre 2014 - août 2018     |
| Mohammadine ISMAILI                  | Directeur Chargée de l'Enseignement Technique et de la Vie Scolaire  | Membre du CCC                     | septembre 2014 - février 2016  |
| Younes BENAOKKI                      | Directeur des Affaires Générales, du Budget et du Patrimoine   | Membre du CCC                     | septembre 2014 - août 2018     |
| Youssef EL AZHARI                    | Directeur, Centre National des Innovations Pédagogiques et de l'Expérimentation / Unité Central de la Formation des Cadres | Membre du CCC                     | septembre 2014 - août 2018     |
| (Directeurs des AREF concernées)     |  |                                   |                                |
| Abdelmoumen TALIB                    | Directeur de l'AREF Casablanca-Settat  | Membre du CCC                     | octobre 2017 - août 2018       |
| Ahmed KARIMI                         | Directeur de l'AREF Marrakech-Safi   | Membre du CCC                     | février 2016 - août 2018       |
| Mohamed LAOUINA                      | Directeur de l'AREF Chaouia Ourdigha   | Membre du CCC                     | septembre 2014 - février 2016  |
| Mohammadine ISMAILI                  | Directeur de l'AREF Casablanca-Settat  | Membre du CCC                     | février 2016 - octobre 2017    |
| Mohammed ADERDOUR                    | Directeur de l'AREF Rabat-Salé-Kenitra   | Membre du CCC                     | février 2016 - août 2018       |
| Naji CHOUKRI                         | Directeur de l'AREF Doukkala Abda  | Membre du CCC                     | septembre 2014 - février 2016  |
| (Membres du Comité Chargé du Projet) |  |                                   |                                |
| Abdelhak GHOULI                      | Chef de Division, DSSP   | Chef du Projet                    | septembre 2014 - août 2018     |
| Ahmed MAHROUG                        | Responsable d'Unité, DSSP  | Coordinateur National du Projet   | septembre 2014 - juin 2017     |
| Taoufiq FIKRI                        | Coordonnateur du dossier des PTF, DSSP   | Coordinateur National du Projet   | juillet 2017 - août 2018       |
| Ahmed CHAIBI                         | Chef de Division, CNEEO  | Point focal pédagogie             | septembre 2014 - août 2018     |
| Mohamed Cherif ESSALIH               | Chef de Division, DAGBP  | Point focal budget                | septembre 2014 - août 2018     |
| Ali ALLOUCH                          | Chef de Division, DETVS  | Membre du Comité Chargé du Projet | septembre 2014 - août 2015     |
| Douhid EL MOFADDAL                   | Chef de Division, UCFC   | Membre du Comité Chargé du Projet | septembre 2014 - août 2018     |
| Elhassane MAHFOUDI                   | Chef de Division, DENF   | Membre du Comité Chargé du Projet | septembre 2014 - août 2018     |
| Mohamed Amine MAGHRAOUI              | Chef de Division, DCP  | Membre du Comité Chargé du Projet | septembre 2014 - juin 2015     |
| Mohamed EL HAMDI                     | Chef de Division, DC   | Membre du Comité Chargé du Projet | septembre 2015 - août 2018     |
| Nourddine BOUHEMAID                  | Chef de Division, DSI  | Membre du Comité Chargé du Projet | septembre 2014 - août 2015     |
| Nourdine ELMAZOUNI                   | Chef de Division, CNIPE  | Membre du Comité Chargé du Projet | septembre 2014 - août 2018     |
| Sidi Rachid EL AMRANI EL IDRISSE     | Chef de Division, DC   | Membre du Comité Chargé du Projet | septembre 2014 - août 2015     |
| Abdeljalil BENZOUINA                 | Chef de Service, DAGBP   | Membre du Comité Chargé du Projet | septembre 2014 - août 2018     |
| Rachid ELATMI                        | Coordinateur National du Projet d'Etablissement  | Membre du Comité Chargé du Projet | septembre 2015 - décembre 2017 |
| Hicham BARKIA                        | Coordinateur National du Projet d'Etablissement  | Membre du Comité Chargé du Projet | janvier 2018 - août 2018       |

| Nom                       | Désignation  | Fonction dans le projet  | Période assignée              |
|---------------------------|--|--|-------------------------------|
| <b>Chaouia-Ourdigha</b>   |  |  |                               |
| Mohamed LAAOUINA          | Directeur, Académie Régionale de l'Éducation et de la Formation -Chaouia Ourdigha-               |  | septembre 2014 - février 2016 |
| Charaf Eddine HLIMI       | Chef du CRDAPP, Académie Régionale de l'Éducation et de la Formation -Chaouia Ourdigha-          | Coordonnateur régional du projet PEEQ  | septembre 2014 - février 2016 |
| <b>Doukkala Abda</b>      |  |  |                               |
| Choukri NAJI              | Directeur, Académie Régionale de l'Éducation et de la Formation -Doukkala Abda-                  |  | septembre 2014 - février 2016 |
| Marjouna MOHAMED          | Chef de service, Académie Régionale de l'Éducation et de la Formation -Doukkala Abda-            | Coordonnateur régional du projet PEEQ  | septembre 2014 - février 2016 |
| <b>Casablanca- Settat</b> |  |  |                               |
| Mohammadine ISMAILI       | Directeur, Académie Régionale de l'Éducation et de la Formation -Casablanca- Settat-             |  | février 2016 - octobre 2017   |
| Abdelmoumen TALIB         | Directeur, Académie Régionale de l'Éducation et de la Formation -Casablanca- Settat-             |  | octobre 2017 - août 2018      |
| Said ERRAKIB              | Académie Régionale de l'Éducation et de la Formation -Casablanca- Settat-                        | Coordonnateur régional du projet PEEQ  | février 2016 - décembre 2016  |
| Laila OUKHATTAR           | Académie Régionale de l'Éducation et de la Formation -Casablanca- Settat-                        | Coordinatrice régionale du projet PEEQ   | septembre 2017 - août 2018    |
| Abdelkader ETTALBI        | Directeur provincial de Settat   |  | avril 2010 - février 2016     |
| Ahmed GHANNAMI            | Directeur provincial de Settat   |  | février 2016 - août 2016      |
| Abdelilah MOUNADDIME      | Chef de Service Pédagogique, Direction Provinciale de l'Éducation et de la Formation - Settat-   | Coordonnateur provincial du projet PEEQ / Coordonnateur provincial du projet d'établissement | septembre 2014 - août 2018    |
| Noureddine DIHAJ          | Directeur provincial de Berrechid  |  | mars 2013 - septembre 2015    |
| Mbarek ROCHDI             | Directeur provincial de Berrechid  |  | février 2017 - août 2018      |
| Rahal HAOUATE             | Chef de Service Pédagogique Direction Provinciale de l'Éducation et de la Formation -Berrechid-  | Coordonnateur provincial du projet PEEQ  | septembre 2014 - juin 2018    |
| Dalil DAHMAN              | Direction Provinciale de l'Éducation et de la Formation -Berrechid-                              | Coordonnateur provincial assistant du projet PEEQ  | septembre 2014 - août 2018    |
| Abdelfettah FAKHRI        | Directeur provincial d'El Jadida   |  | septembre 2014 - février 2015 |
| Mohammed HAJJAOUI         | Directeur provincial d'El Jadida   |  | février 2015 - mars 2016      |
| Abdelaziz BOUHENCH        | Directeur provincial d'El Jadida   |  | mars 2016 - septembre 2017    |
| Abdellatif CHAOUKI        | Directeur provincial d'El Jadida   |  | septembre 2017 - août 2018    |
| Abdelali EL HARIRI        | Direction Provinciale de l'Éducation et de la Formation -El Jadida-                              | Coordonnateur provincial du projet PEEQ  | septembre 2014 - août 2018    |
| Mohamed HAJAOUI           | Directeur provincial de Sidi Bennour   |  | septembre 2014 - août 2018    |
| Omar BENFRIHA             | Chef de Bureau d'examens Direction Provinciale de l'Éducation et de la Formation - Sidi Bennour- | Coordonnateur provincial du projet PEEQ  | septembre 2014 - août 2018    |
| <b>Rabat Salé Kénitra</b> |  |  |                               |
| Mohammed ADERDOUR         | Directeur, Académie Régionale de l'Éducation et de la Formation -Rabat Salé Kénitra-             |  | février 2016 - août 2018      |
| Rachid ARHARBI            | Académie Régionale de l'Éducation et de la Formation -Rabat Salé Kénitra-                        | Coordonnateur régional du projet PEEQ  | février 2016 - août 2018      |
| Aziza LAHSHALFI           | Directrice provinciale de Sidi Slimane   |  | février 2016 - août 2018      |
| Jaouad ZAHER              | Direction Provinciale de l'Éducation et de la Formation -Sidi Slimane-                           | Coordonnateur provincial du projet PEEQ / Coordonnateur provincial du projet d'établissement | février 2016 - août 2018      |
| Ahmed ELHARROUCHI         | Directeur provincial de Sidi Kacem   |  | février 2016 - août 2018      |
| Jalil MARS                | Direction Provinciale de l'Éducation et de la Formation -Sidi Kacem-                             | Coordonnateur provincial du projet PEEQ  | février 2016 - août 2018      |
| <b>Marrakech Safi</b>     |  |  |                               |
| Ahmed KARIMI              | Directeur, Académie Régionale de l'Éducation et de la Formation -Marrakech Safi-                 |  | février 2016 - août 2018      |
| Youssef NAIT BELAID       | Chef du CRDAPP, Académie Régionale de l'Éducation et de la Formation -Marrakech Safi-            | Coordonnateur régional du projet PEEQ  | février 2016 - août 2018      |
| Abdellah NMIRICH          | Académie Régionale de l'Éducation et de la Formation -Marrakech Safi-                            | Coordonnateur régional du projet d'établissement   | février 2016 - août 2018      |
| Youssef AITHADDOUCH       | Directeur provincial d'Al Haouz  |  | février 2016 - août 2018      |
| Hicham AIT TAHAR          | Direction Provinciale de l'Éducation et de la Formation -Al Haouz-                               | Coordonnateur provincial du projet PEEQ  | février 2016 - août 2018      |
| Outgourante LAHCEN        | Direction Provinciale de l'Éducation et de la Formation -Al Haouz-                               | Coordonnateur provincial du projet d'établissement   |                               |
| Brahim EL MAADRI          | Directeur provincial de Chichaoua  |  | février 2016 - août 2018      |
| Jamal Mohamed KANTARI     | Direction Provinciale de l'Éducation et de la Formation -Chichaoua-                              | Coordonnateur provincial du projet PEEQ  | février 2016 - août 2018      |
| Bouchra LEKREBSSI         | Direction Provinciale de l'Éducation et de la Formation -Chichaoua-                              | Coordonnatrice provinciale du projet d'établissement   | février 2016 - août 2018      |

## 添付資料3

### 研修実績



Liste des formations, des séminaires et des ateliers menés dans le Projet

| Activité   | Durée et Période  | Formateur/facilitateur (position et organisation)  | Cibles (Participants à la formation)                          | Lieu                               |
|--|---|--|---|------------------------------------|
| « Activités relatives à l'évaluation diagnostique »  |   |  |   |                                    |
| Atelier pour le développement du test diagnostique   | 7 jours (21-23 et 27-30/01/2015)                                      | KUSAKA Satoshi (Développement du matériel pédagogique (maths et sciences))   | Inspecteurs pédagogiques affectés par le CNEEO                | Rabat                              |
| Atelier pour l'analyse d'erreurs sur les résultats du test diagnostique  | 4 jours (06-09/04/2015)   | KUSAKA Satoshi (Développement du matériel pédagogique (maths et sciences))   | 16 inspecteurs  | Rabat                              |
| Atelier pour le développement du test diagnostique   | 5 jours (07-11/03/2016)   | SATO Akira (Évaluation éducative), KOZAI Takeshi, KUSAKA Satoshi   | 10 inspecteurs et administrateurs                             | Rabat                              |
| Atelier pour la finalisation du test diagnostique  | 2 jours (01-02/06/2016)   | KUSAKA Satoshi (Développement du matériel pédagogique (maths et sciences))   | 10 inspecteurs et administrateurs                             | Rabat                              |
| Réunion d'information sur la méthode de mise en œuvre des tests diagnostiques  | 3 réunions d'un jour (07-09/09/2016)                                  | OKUKAWA Hiroshi (Chef d'équipe/ Développement du matériel pédagogique), CHAIBI Ahmed (CNEEO/Chef de division de l'évaluation), KACH Hafida (CNEEO/Chef de service de l'évaluation)       | 45 administrateurs, inspecteurs et directeurs d'établissement | Kenitra<br>Casablanca<br>Marrakech |
| Atelier pour le développement du module de formation sur « l'amélioration de l'enseignement en mettant à profit les erreurs des élèves » | 3 ateliers pour 8 jours au total (03 et 22-24/11/2016, 17-20/12/2016) | SATO Akira (Évaluation éducative), KOZAI Takeshi (Développement du matériel pédagogique (maths et sciences)), KUSAKA Satoshi (Développement du matériel pédagogique (maths et sciences)) | 12 administrateurs et inspecteurs                             | Rabat                              |

| Activité   | Durée et Période                                  | Formateur/facilitateur (position et organisation)   | Cibles (Participants à la formation)                                       | Lieu  |
|--|---|---|--|---|
| Réunion de récapitulation sur les résultats des tests diagnostiques  | 4 réunions d'un jour (16-17, 24-25/11/2016)       | OKUKAWA Hiroshi (Chef d'équipe/ Développement du matériel pédagogique), SATO Akira (Evaluation éducative)   | Coordinateurs provinciaux du PEEQ, inspecteurs, directeurs d'établissement | El Jadida<br>Sidi Slimane<br>Settat<br>Al Haouz |
| Atelier pour la rédaction et l'édition du rapport des résultats du test diagnostique, et intégration du test diagnostique du PEEQ dans le test des prérequis | 10 jours (28/02-03/03/2017, 03-05, 26-28/04/2017) | OKUKAWA Hiroshi (Chef d'équipe/ Développement du matériel pédagogique), SATO Akira (Evaluation éducative), KUSAKA Satoshi (Développement du matériel pédagogique (maths et sciences)), CHAIBI Ahmed (CNEEO/Chef de division de l'évaluation), KACH Hafida (CNEEO/Chef de service de l'évaluation) | 9 inspecteurs  | Rabat   |
| Atelier pour la finalisation du test des prérequis intégrant le test diagnostique du PEEQ  | 1 jour (11/09/2017)                               | OKUKAWA Hiroshi (Chef d'équipe/ Développement du matériel pédagogique)  | 3 inspecteurs pédagogiques affectés par le CNEEO                           | Rabat   |

| Activité  | Durée et Période                               | Formateur/facilitateur (position et organisation)                          | Cibles (Participants à la formation) | Lieu                |
|---|--|--|--------------------------------------|---------------------|
| « Activités relatives au développement du matériel pédagogique »                        |  |  |                                      |                     |
| Atelier pour l'analyse du curriculum  | 2 ateliers de 2 jours (13-14 et 15-16/01/2015) | KUSAKA Satoshi (Developpement du matériel pédagogique (maths et sciences)) | Inspecteurs pédagogiques             | Settat<br>El Jadida |
| Atelier pour le développement du matériel pédagogique supplémentaire                    | 2 jours (28-29/04/2015)                        | KUSAKA Satoshi (Developpement du matériel pédagogique (maths et sciences)) | 7 inspecteurs                        | Rabat               |
| Atelier pour le développement du matériel pédagogique supplémentaire (réunion de suivi) | 2 jours (12-13/05/2015)                        | KUSAKA Satoshi (Developpement du matériel pédagogique (maths et sciences)) | 3 inspecteurs                        | Rabat               |
| Atelier pour le développement du matériel pédagogique supplémentaire                    | 4 jour (19-20 et 27-28/11/2015)                | KUSAKA Satoshi (Developpement du matériel pédagogique (maths et sciences)) | Inspecteurs et administrateurs       | Rabat               |
| Atelier pour le développement du matériel pédagogique supplémentaire                    | 4 jours (04-07/01/2016)                        | CHAIBI Ahmed (CNEEO/Chef de division de l'évaluation)                      | 3 inspecteurs                        | Rabat               |
| Atelier pour la finalisation du matériel pédagogique supplémentaire                     | 5 jour (21-25/03/2016)                         | KUSAKA Satoshi (Developpement du matériel pédagogique (maths et sciences)) | 5 inspecteurs et administrateurs     | Rabat               |
| Atelier pour valider le matériel pédagogique développé dans le Projet                   | 1 jour (25/02/2018)                            | OKUKAWA Hiroshi (Chef d'équipe/ Développement du matériel pédagogique)     | 5 inspecteurs                        | Rabat               |



| Activité   | Durée et Période                                       | Formateur/facilitateur (position et organisation)  | Cibles (Participants à la formation)  | Lieu                                  |
|--|--|--|---|---------------------------------------|
| « Activités relatives à l'encadrement pour les personnes ressources pédagogiques »                                   |  |  |   |                                       |
| Atelier de formation pour les inspecteurs et les formateurs du CRMEF   | 2 ateliers d'un jour (11 et 16/02/2015)                | KOZAI Takeshi (Développement du matériel pédagogique (maths et sciences))  | 17 inspecteurs, formateurs du CRMEF et coordinateurs du projet  | Settat<br>El Jadida                   |
| Atelier pour la préparation des sessions de formation des enseignants  | 2 réunions d'un jour (12 et 19/10/2015)                | KOZAI Takeshi (Développement du matériel pédagogique (maths et sciences))  | 16 inspecteurs et administrateurs   | Settat<br>El Jadida                   |
| Atelier pour la préparation des sessions de formation des enseignants  | 2 réunions d'un jour (29/02 et 14/03/2015)             | KOZAI Takeshi et KISAKA Satoshi (Développement du matériel pédagogique (maths et sciences))  | 26 inspecteurs et administrateurs   | Settat<br>El Jadida                   |
| Atelier de formation de formateurs au niveau central pour inspecteurs coordinateurs régionaux                        | 2 réunions d'un jour (19-20/01/2017)                   | OKUKAWA Hiroshi (Chef d'équipe/ Développement du matériel pédagogique), CHAIBI Ahmed (CNEEO/Chef de division de l'évaluation), KACH Hafida (CNEEO/Chef de service de l'évaluation), 4 inspecteurs pédagogiques | 8 inspecteurs   | Rabat                                 |
| Atelier de formation de formateurs au niveau régional pour inspecteurs de circonscription chargés des établissements | 3 ateliers de 2 jours (26-27/01/2017 et 16-17/03/2017) | Inspecteurs coordinateurs régionaux, inspecteur pédagogique  | Inspecteurs de circonscription chargés des établissements de mise en œuvre des tests diagnostiques dans 8 provinces | Casablanca<br>Chichaoua<br>Sidi Kacem |

| Activité   | Durée et Période  | Formateur/facilitateur (position et organisation)  | Cibles (Participants à la formation)   | Lieu  |
|--|---|--|--|---|
| « Activités relatives à l'encadrement didactique pour les enseignants »  |   |  |  |   |
| Formation pour des représentants des enseignants des établissements cibles du projet                                       | 3 formations de 2 jours (12-13, 17-18 et 19-20/02/2015)   | KOZAI Takeshi, KUSAKA Satoshi et instituteurs/formateurs encadrés  | 157 enseignants, administrateurs et membres de l'associations de parents d'élève | Settat<br>El Jadida<br>Sidi Bennour   |
| Formation des enseignants pour amélioration de l'enseignement (mathématiques)  | 4 séances de 2 jours (13-14, 16-17, 20-21, 22-23/10/2015) | KOZAI Takeshi, KUSAKA Satoshi et instituteurs/formateurs encadrés  | 110 enseignants  | Settat<br>Berrechid<br>El Jadida<br>Sidi Bennour  |
| Atelier national pour l'amélioration de l'enseignement basé sur l'évaluation diagnostique                                  | 2 jours (21-22/10/2015)                                   | KOZAI Takeshi (Développement du matériel pédagogique (maths et sciences))  | 48 enseignant et inspecteurs   | Rabat   |
| Formation des enseignants pour amélioration de l'enseignement (sciences)   | 4 séances de 2 jours (01-02, 03-04, 15-16, 17-18/03/2016) | KOZAI Takeshi, KUSAKA Satoshi et instituteurs/formateurs encadrés  | 163 enseignant et administrateurs  | Settat<br>Berrechid<br>El Jadida<br>Sidi Bennour  |
| Formation et atelier au niveau des établissements pour l'amélioration de l'enseignement basé sur l'évaluation diagnostique | février - avril, 2017                                     | OKUKAWA Hiroshi (Chef d'équipe/ Développement du matériel pédagogique), SATO Akira (Evaluation éducative), KUSAKA Satoshi (Développement du matériel pédagogique (maths et sciences)), inspecteurs de circonscription chargés des établissements | Plus que 286 enseignants et 26 inspecteurs dans 8 provinces                      | Settat<br>Berrechid<br>El Jadida<br>Sidi Bennour<br>Sidi Slimane<br>Sidi Kacem<br>Al Haouz<br>Chichaoua |
| Encadrement didactique pour les enseignants sur l'utilisation des cartes de nombres et des feuilles de calcul mental       | 25/09-13/10/2017<br>5-13/12/2017                          | SATO Akira (Evaluation éducative), YAMADA Megumi (Promotion et Suivi des formations pédagogiques)  | Enseignants des 32 établissements scolaires                                      | Settat, Berrechid<br>El Jadida, Sidi Bennour<br>Sidi Slimane, Sidi Kacem<br>Al Haouz, Chichaoua         |

| Activité  | Durée et Période                              | Formateur/facilitateur (position et organisation)  | Cibles (Participants à la formation)                        | Lieu   |
|---|---|--|---|--|
| « Activités relatives à la Composante Equité »  |   |  |   |  |
| Atelier pour la planification des activité "accès" du PEEQ  | 8 atelier d'un jour (16-19 et 23-26/02/2015)  | SHIMIZU Mayu (Gestion de l'établissement scolaire)   | 246 directeurs d'établissement, surveillants et enseignants | Settat<br>Berrechid<br>El Jadida<br>Sidi Bennour |
| Accompagnement de proximité pour la planification des activités de l'Axe PEEQ du projet d'établissement                     | 9 jours (25-29/05 et 01-03/06/2015)           | HORI Yoshihiro (Gestion de l'établissement scolaire) et OTA Miho (Education des filles)          | Directeurs d'établissement et enseignants                   | Settat<br>Berrechid<br>El Jadida<br>Sidi Bennour |
| Accompagnement de proximité pour la planification et la mise en œuvre des activités de l'Axe PEEQ du projet d'établissement | 8 jours (20-23 et 26-29/10/2015)              | HORI Yoshihiro (Gestion de l'établissement scolaire)   | Directeurs d'établissement et enseignants                   | Settat<br>Berrechid<br>El Jadida<br>Sidi Bennour |
| Atelier 1 de la Composante Equité   | 2 ateliers d'un jour (23 et 29/02/2016)       | HORI Yoshihiro (Gestion de l'établissement scolaire)   | 24 directeurs d'établissement et enseignants                | Settat<br>El Jadida                              |
| Atelier 2 de la Composante Equité   | 1 jour (26/04/2016)                           | HORI Yoshihiro (Gestion de l'établissement scolaire) et TERAOKA Ryosuke (Gestion de              | 23 directeurs d'établissement et enseignants                | Casablanca                                       |
| Atelier pour la préparation de la planification de la Composante Equité   | 3 ateliers d'un jour (21, 26 et 29/09/2016)   | HORI Yoshihiro (Gestion de l'établissement scolaire) et TERAOKA Ryosuke (Gestion de sous-projet) | 37 coordinateurs et accompagnateurs                         | Casablanca<br>Marrakech<br>Kenitra               |
| Atelier 3 de la Composante Equité   | 4 ateliers d'un jour (22, 27, 28, 30/09/2016) | HORI Yoshihiro (Gestion de l'établissement scolaire) et TERAOKA Ryosuke (Gestion de sous-projet) | 83 directeurs d'établissement et enseignants                | Marrakech<br>Settat<br>El Jadida<br>Kenitra      |

| Activité  | Durée et Période                             | Formateur/facilitateur (position et organisation)  | Cibles (Participants à la formation)  | Lieu  |
|---|--|--|---|---|
| Atelier pour discuter sur l'élaboration du guide  | 1 jour (22/03/2017)                          | OKUKAWA Hiroshi (Chef d'équipe/ Développement du matériel pédagogique), HORI Yoshihiro (Gestion de l'établissement scolaire), TERAOKA Ryosuke (Gestion de sous-projet), YAMADA Megumi (Promotion et Suivi des Formations Pédagogiques) | 9 administrateurs, inspecteurs et directeurs d'établissement                | Marrakech   |
| Atelier destiné aux directeurs d'établissements au sujet du plan d'action annuel                              | 8 ateliers d'un jour (19-21, 23, 25/09/2017) | OKUKAWA Hiroshi (Chef d'équipe/ Développement du matériel pédagogique), TERAOKA Ryosuke (Gestion de sous-projet)   | 147 administrateurs, inspecteurs, directeurs d'établissement et enseignants | Settat, Berrechid<br>El Jadida, Sidi Bennour<br>Sidi Slimane, Sidi Kacem<br>Al Haouz, Chichaoua |
| Atelier destiné aux directeurs d'établissements de partager et étudier mutuellement ces plans d'action annuel | 4 ateliers d'un jour (07, 09-11/11/2017)     | TERAOKA Ryosuke (Gestion de sous-projet)   | 74 administrateurs, inspecteurs, directeurs d'établissement et enseignants  | Settat, Berrechid<br>El Jadida, Sidi Bennour<br>Sidi Slimane, Sidi Kacem<br>Al Haouz, Chichaoua |
| Atelier de partager des résultats des activités du PEEQ   | 8 atelier d'un jour (16-19/04/2018)          | OKUKAWA Hiroshi (Chef d'équipe/ Développement du matériel pédagogique), TERAOKA Ryosuke (Gestion de sous-projet), YAMADA Megumi (Promotion et Suivi des Formations Pédagogiques)   | 109 administrateurs, inspecteurs, et directeurs d'établissement             | Settat, Berrechid<br>El Jadida, Sidi Bennour<br>Sidi Slimane, Sidi Kacem<br>Al Haouz, Chichaoua |

| Activité   | Durée et Période            | Formateur/facilitateur (position et organisation)  | Cibles (Participants à la formation)   | Lieu                         |
|--|-----------------------------|--|--|------------------------------|
| « Autres activités »   |                             |  |  |                              |
| Atelier pour la préparation du Cadre de référence                          | 2 jours (21-22/10/2014)     | Experts de l'équipe de la JICA   | 12 membres du Comité Chargé du Projet  | Rabat                        |
| Atelier pour le développement des questionnaires sur l'état des lieux      | 1 jour (14/11/2014)         | Experts de l'équipe de la JICA   | Inspecteurs pédagogiques   | El Jadida                    |
| 1er stage de formation au Japon  | 15 jours (23/01-06/02/2016) |  | 12 partenaires du projet   | Tokyo<br>Kanazawa            |
| Visite de la délégation ministérielle au Japon                             | 7 jours (16-22/04/2016)     |  | 5 reponsables du MENFP   | Tokyo<br>Chiba               |
| 2e stage de formation au Japon   | 15 jours (14-28/05/2016)    |  | 14 partenaires du projet   | Tokyo<br>Kochi, Kami, Naruto |
| Atelier pour discuter sur le modèle de dissémination à l'échelle nationale | 05/10/2017                  | OKUKAWA Hiroshi (Chef d'équipe/ Développement du matériel pédagogique), SATO Akira (Evaluation éducative)  | 8 personnes de directions concernées du MENFPESRS, 4 inspecteurs                                 | Rabat                        |
| Séminaire de dissémination des activités du PEEQ                           | 1 jour (11/12/2017)         | OKUKAWA Hiroshi (Chef d'équipe / Développement du matériel pédagogique), SATO Akira (Évaluation éducative), GHOULI Abdelhak (Chef de projet), CHAIBI Ahmed(CNEEO/Chef de division de l'évaluation) | 80 personnes concernées aux niveaux central, régional et provincial dans 3 régions (CS, RSK, MS) | Rabat                        |

| Activité  | Durée et Période        | Formateur/facilitateur (position et organisation)   | Cibles (Participants à la formation)  | Lieu  |
|---|-------------------------|---|---|-------|
| Atelier pour intégrer les activités et l'approche pédagogique du PEEQ dans le curriculum de l'enseignement des mathématiques du primaire    | 3 jours (14-16/02/2018) | OKUKAWA Hiroshi (Chef d'équipe / Développement du matériel pédagogique), SATO Akira (Évaluation éducative)  | 9 inspecteurs   | Rabat |
| Atelier sur la révision des manuels scolaires de mathématiques et des activités scientifiques : 1re et 2e années de l'enseignement primaire | 3 jours (07-09/04/2018) | OKUKAWA Hiroshi (Chef d'équipe / Développement du matériel pédagogique), KOZAI Takeshi (Développement du matériel pédagogique (maths et sciences)), Akira SATO (Évaluation éducative) | 31 auteurs de manuels scolaires (mathématiques:9; scientifiques:22)               | Rabat |
| Programme pour le partage de l'apport du PEEQ avec les inspecteurs démultiplicateurs  | 1 jour (19/07/2018)     | OKUKAWA Hiroshi (Chef d'équipe / Développement du matériel pédagogique), CHAFIQI Fouad (Directeur des curricula), SLIMANI Abdelghani (inspecteur)                                     | 62 inspecteurs démultiplicateurs  | Rabat |
| Cérémonie de clôture / Séminaire national du Projet d'amélioration de l'éducation avec équité et qualité (PEEQ)                             | 1 jour (26/07/2018)     | OKUKAWA Hiroshi (Chef d'équipe / Développement du matériel pédagogique), HORI Yoshihiro (Gestion de l'établissement scolaire)   | 60 administrateurs, inspecteurs, représentants de bailleurs de fonds et la presse | Rabat |



## 添付資料4

### 研修員受入実績





JICA モロッコ国公平な教育振興プロジェクト (PEEQ)

第1回本邦研修

参加者リスト

| No. | Name                 | 所属                          | 役職                                      | 性別 |
|-----|----------------------|-----------------------------|---|----|
| 1   | Abdelhak GHOULI      | 国民教育職業訓練省戦略・統計・計画局          | 計画課長 (PEEQ プロジェクトマネージャー)                | 男  |
| 2   | Ahmed CHAIBI         | 国民教育職業訓練省 国立評価試験進路指導センター    | 評価課長                                    | 男  |
| 3   | Abdelilah MOUNADDIME | セタット県教育支局                   | 教務係長 (PEEQ 県コーディネーター)                   | 男  |
| 4   | Rahal HAOUATE        | ベルシッド県教育支局                  | 教務係長 (PEEQ 県コーディネーター)                   | 男  |
| 5   | Mohamed MARJOUA      | ドゥカラ・アブダ州教育局                | 教務・スクールマップ・進路指導・情報課 係長 (PEEQ 州コーディネーター) | 男  |
| 6   | Abdelali EL HARIRI   | エルジャディーダ県教育支局               | 情報・進路指導係 室長 (PEEQ 県コーディネーター)            | 男  |
| 7   | Omar BENFRIHA        | シディベヌール県教育支局                | 学校生活係 職員 (PEEQ 県コーディネーター)               | 男  |
| 8   | Abdelmojib MRABET    | 国民教育職業訓練省 国立評価試験進路指導センター    | プロジェクトマネージャー                            | 男  |
| 9   | Rachid EL HAOUARI    | 国民教育職業訓練省 総務・予算・資産局         | 予算作成調査係長                                | 男  |
| 10  | Otteman ELOUADI      | 国民教育職業訓練省 法務・係争局            | 法的文書管理普及係長                              | 男  |
| 11  | Mohamed EL HAMDI     | 国民教育職業訓練省<br>カリキュラム局        | 理科・体育教育課長                               | 男  |
| 12  | Nourine EL MAZOUNI   | 国民教育職業訓練省 国立教育イノベーション研究センター | 教育研究・文書管理・教材普及課長                        | 男  |

JICA モロッコ国公平な教育振興プロジェクト (PEEQ)

第 2 回本邦研修

参加者リスト

| No. | Name                     | 所属   | 役職                            | 性別 |
|-----|--------------------------|--|-------------------------------|----|
| 1   | Ahmed MAHROUG            | 国民教育職業訓練省<br>戦略・統計・計画局                         | PEEQ ナショナル・プロジェクト<br>コーディネーター | 男  |
| 2   | Taoufiq FIKRI            | 国民教育職業訓練省戦<br>略・統計・計画局                         | 技術財務パートナー案件<br>コーディネーター       | 男  |
| 3   | Siham YAKRIB             | 国民教育職業訓練省<br>カリキュラム局                           | 教育研究調整指導係長                    | 女  |
| 4   | Nihal ABITIU             | 国民教育職業訓練省<br>カリキュラム局                           | モニタリング・教育資料管<br>理責任者          | 女  |
| 5   | Hafida KACH              | 国民教育職業訓練省<br>評価・学校生活編成局<br>／国立評価試験進路指<br>導センター | 評価係長                          | 女  |
| 6   | Youness NAIL             | 国民教育職業訓練省<br>情報システム局                           | 教育プロジェクト運営係<br>長              | 男  |
| 7   | Abdellatif<br>FERGOUG    | 国民教育職業訓練省<br>国立教育革新研究セン<br>ター                  | E ラーニング・プロジェク<br>トマネージャー      | 男  |
| 8   | Rachid EL AATMI          | 国民教育職業訓練省<br>技術教育・学校生活局                        | 学校プロジェクト・ナショ<br>ナル・コーディネーター   | 男  |
| 9   | Youssef NAIT<br>BELAID   | マラケシュ・サフィ州<br>教育局                              | PEEQ 州プロジェクトコー<br>ディネーター      | 男  |
| 10  | Hicham AIT TAHAR         | アルハウズ県教育支局                                     | PEEQ 県プロジェクトコー<br>ディネーター      | 男  |
| 11  | Jamal Mohamed<br>KANTARI | シシャワ県教育支局                                      | PEEQ 県プロジェクトコー<br>ディネーター      | 男  |
| 12  | Rachid ARHARBI           | ラバト・サレ・ケニトラ<br>州教育局                            | PEEQ 州プロジェクトコー<br>ディネーター      | 男  |
| 13  | Jaouad ZAHER             | シディスリマン県教育<br>支局                               | PEEQ 県プロジェクトコー<br>ディネーター      | 男  |
| 14  | Jalil MARS               | シディカセム県教育支<br>局                                | PEEQ 県プロジェクトコー<br>ディネーター      | 男  |
| 15  | Abdelghani<br>SLIMANI    | ベンスリマン県教育支<br>局                                | 視学官                           | 男  |

## 添付資料5

供与機材・携行機材実績（引渡しリスト含む）



# CERTIFICATE OF HANDOVER

## CERTIFICAT DE TRANSFERT

To: JICA Morocco Office

Re: *Project for Promoting Education with Equity and Quality (PEEQ)*

This certificate of handover is to certify that the equipment in the attached list, which had been utilized for *the Project for Promoting Education with Equity and Quality (PEEQ)*, have been handed over properly to *Ministry of Education, Vocational Training, Higher Education and Scientific Research (MENFPESRS)*, as of July 25, 2018.

À : JICA Maroc

Objet : *Projet d'Amélioration de l'Education avec Equité et Qualité (PEEQ)*

Je soussigné, en ma qualité du Directeur du projet PEEQ et du Directeur de la Stratégie, des Statistiques et de la Planification du Ministère de l'Education Nationale, de la Formation Professionnelle, de l'Enseignement Supérieur et de la Recherche Scientifique (MENFPESRS), certifie que les équipements énumérés dans la liste ci-jointe, qui avait été utilisés pour faciliter l'exécution du *Projet d'Amélioration de l'Education avec Equité et Qualité (PEEQ)*, ont été correctement transférés au MENFPESRS, et ce à compter du 25 juillet 2018.

Rabat, le 25 juillet 2018

Monsieur Abdelhak El Hayani  
Directeur du projet PEEQ  
Directeur de la Stratégie,  
des Statistiques et de la Planification  
des  
Statistiques et de la Planification  
MENFPESRS  
Signé : Abdelhak EL HAYANI



Monsieur Hiroshi OKUKAWA  
Chef Advisor/ Chef de l'équipe des  
experts PEEQ

Attached: List of Equipment

Pièce jointe : Liste des équipements

## List of Equipment

| Item                 | Model                  | Quantity | Date of procurement |
|----------------------|------------------------|----------|---------------------|
| Photocopier          | XEROX WORKCENTER 7220  | 1        | 2015/5/6            |
| Multimedia Projector | EPSON EB-X20           | 1        | 2014/9/22           |
| Multimedia Projector | EPSON EB-S18           | 1        | 2015/2/9            |
| Laptop Computer      | DELL Latitude E5540    | 3        | 2015/2/25           |
| Laptop Computer      | HP Notebook-15-ac104nk | 1        | 2016/3/16           |
| Laptop Computer      | HP Pavilion 15-au105nk | 1        | 2017/2/22           |
| Software             | Microsoft Office 2013  | 3        | 2015/3/3            |
| Software             | Microsoft Office 2016  | 1        | 2016/3/16           |
| Software             | Microsoft Office 2016  | 1        | 2017/2/17           |
| Printer              | EPSON Xpress SL-M2020W | 1        | 2016/11/16          |
| Video Camera         | Canon LEGRIA HF R306   | 1        | 2014/12/29          |
| Digital Camera       | Canon Power Shot A2300 | 1        | 2014/9/22           |
| Wireless Router      | D-Link DSL-2730U       | 1        | 2015/3/21           |
| Speaker              | CAMAC CMK-858          | 1        | 2016/6/1            |
| Speaker              | UOUDIO T35             | 1        | 2016/10/31          |
| Screen               | TRE03B1175175          | 1        | 2014/12/29          |

Le Directeur de la Stratégie  
des Statistiques et de la Planification

Signé : Abdelhaq EL HAYANI

## 添付資料6

### Plan of Operation









## 添付資料7

成果品リスト（レポート、マニュアル、ハンドブック  
等）



Liste du matériel développé dans le cadre du Projet

| Titre du matériel   |  | Objectif de l'exploitation / Utilisateur du matériel  | Organisation chargée du renouvellement et de la révision des contenus    | Distribution (zones, temps, moyen)  |
|---|--|---|--|---|
| Rapport du test diagnostique 2015 (analyse d'erreurs)                         |  | Destiné aux inspecteurs et enseignants pour leur faciliter l'amélioration de l'enseignement en considération des lacunes des élèves.  | Centre National de d'évaluation, des examens et de l'orientation (CNEEO) | Settat, Berrechid, El Jadida Sidi Bennour dans la formation des enseignants, et 8 provinces convoquées à l'atelier national en octobre 2015   |
| Rapport du test diagnostique 2016/2017 (analyse d'erreurs)                    |  | Destiné aux inspecteurs et enseignants pour leur faciliter l'amélioration de l'enseignement en considération des lacunes des élèves.  | CNEEO  | Les établissements qui ont mis en œuvre les tests dans 8 provinces principalement.  |
| Recueil d'exercices   | Nombres et Calculs : Addition et soustraction (1re - 6e)     | Faciliter l'assimilation de connaissances de base chez les élèves de l'enseignement primaire.   | CNEEO  | Settat, Berrechid, El Jadida Sidi Bennour en février et mai 2016 dans la phase 1 et Sidi Slimane, Sidi Kacem, Al Haouz, Chichaoua en novembre 2016 dans la phase 2.<br>111 établissements ciblées dans 8 provinces en septembre 2017 (la version numérique) |
|   | Nombres et Calculs : Multiplication et division (2e - 6e)    |   |  |   |
|   | Nombres et Calculs : Nombres décimaux et fractions (4e - 6e) |   |  |   |
|   | Réponse de « Nombres et Calculs »                            |   |  |   |
|   | Guide d'utilisation  |   |  |   |
|   | Géométrie (1re - 6e)   |   |  |   |
|   | Grandeurs et Mesures (1re - 6e)                              |   |  |   |
|   | Réponse de « Géométrie » et « Grandeurs et Mesures »         |   |  |   |
| Test diagnostique   | Maths : 2e-6e primaire                                       | Identifier les lacunes d'apprentissage chez les élèves pour que les enseignants puissent améliorer leurs enseignement.  | CNEEO  | 16 établissements de Settat, Berrechid, El Jadida, Sidi Bennour en mars 2015 et 50 établissements dans 8 provinces en septembre et octobre 2016.<br>111 établissements ciblées dans 8 provinces en septembre 2017 (la version numérique)                    |
|   | Eveil Scientifique : 5e primaire                             |   |  |   |
|   | Maths : 1er collège  |   |  |   |
|   | Livrets de réponses  |   |  |   |
|   | Guide de passation   |   |  |   |
| Matériel pédagogique supplé mentaire pour la maîtrise des compétences de base | Cartes de nombres et capsules vidéos                         | Faciliter la maîtrise de compétences de base par tous les élèves du primaire. Le problème à résoudre dans l'immédiat implique l'addition jusqu'à $9 + 9$ , la soustraction jusqu'à $18 - 9$ et tableau de multiplication jusqu'à $9 \times 9$ . | Direction des curricula (DC)   | 32 établissements ciblées en septembre 2017 et 111 établissements ciblées en juillet 2018 dans 8 provinces.   |
|   | Feuilles de calcul mental et petits tests                    |   |  |   |
|   | Guide d'utilisation  |   |  |   |
| Feuilles d'exercices de remédiation (3e - 6e)                                 |  | Aider les élèves à surmonter les difficultés d'apprentissage qui sont communes parmi un grand nombre d'eux.   | DC   | 32 établissements ciblées entre février et avril 2018.  |
| Module de formation (en vidéo et livret)                                      |  | Améliorer l'enseignement en mettant à profit les erreurs d'élèves   | CNEEO  | Inspecteurs de 3 AREF et 8 provinces entre janvier et mars 2017.  |
| Manuel de procédures pour la subvention scolaire PEEQ                         |  | Faire les établissements scolaires cibles du projet comprendre les procédures de la subvention pour la mise en œuvre des activités de l'axe PEEQ du projet d'établissement.   | Direction chargée de la vie scolaire (DVS)                               | 4 provinces (Settat, Berrechid, El Jadida, Sidi Bennour) en octobre 2015 et 8 provinces en septembre 2016.  |

|   |   |  |       |   |
|---|---|--|-------|---|
| Guide pratique en vue de la promotion de l'éducation avec équité et qualité | i Préambule : comment utiliser ce guide   | Renforcer la planification, l'exécution et le suivi du Projet d'établissement au niveau de l'AREF, de la Direction Provinciale et de l'établissement scolaire. | DVS   | Distribué comme ci-dessous en juillet 2018:<br>900 copies - inspecteurs<br>12 copies - AREF (12 régions)<br>82 copies - Directions Provinciales<br>111 copies - établissements ciblées<br>100 copies - participants au séminaire national |
|   | ii Guide pratique pour la planification et la mise en oeuvre du PE (y compris le plan d'action annuel)                                |  | DVS   |   |
|   | iii Guide pratique de la démarche pédagogique de maîtrise des compétences de base en mathématiques au cycle primaire                  |  | DC    |   |
|   | iv Exercices de calcul des 5 premières minutes de séance : guide d'utilisation des cartes de nombres et des feuilles de calcul mental |  | DC    |   |
|   | v Guide de passation et d'exploitation du test des prérequis  |  | CNEEO |   |
|   | vi Guide d'utilisation du recueil d'exercices   |  | CNEEO |   |
|   | vii Guide pratique des activités de lecture   |  | DVS   |   |
|   | viii Guide pratique des activités parascolaires   |  | DVS   |   |
|   | ix Guide pratique des activités de sensibilisation à l'importance de l'éducation  |  | DVS   |   |
|   | x Guide pratique pour la coopération entre l'école primaire et le collège   |  | DVS   |   |
|   | Annexe : DVD (comprenant tous les matériaux pédagogiques, y compris audiovisuels)   |  | DC    |   |
| Rapport « Etats pratiques des activités éducatives »                        | DVS   |  |       |   |

## 添付資料8

Project Design Matrix (Version 0~2)





### Project Design Matrix

Project Title: Project for Promoting Education with Equity and Quality (PEEQ)

Executing Bodies: Ministry of Education and Vocational Training (*Ministere de l'Education Nationale et de la Formation Professionnelle: MENFP*), Regional Education Office (*Académie Régionale d'Education et de Formation :AREF*), Provincial Education Office (*Délégation*)

Target Group: MENFP, AREF and Delegation Personnel (approximately 280 personnel) and approximately 240 disadvantaged schools within 32 Bassin Scolaire

Target Area: 8 Regions (Chaouia Ourdigha (CO), Doukala Abda (DA), Gharb Chrarda Beni Hssen (GCBH), Marrakech Tensift Al Haouz (MTH) Taza Al Hoceima Taounate (THT), Oriental, Tadla Azilal (TA), Sous Massa Draa (SMD))

Duration: 48 months

| Narrative Summary   | Verifiable Indicators   | Means of Verification   | Important Assumptions   |
|---|---|---|---|
| <b>Overall Goal:</b><br>The PEEQ activity is disseminated to other schools within / beyond targeted Regions (AREFs) in Morocco. | Number of targeted schools in the extended areas  | Report by MENFP and AREF                                      | Decentralization in Morocco continues to be included in the Education Strategy. |
| <b>Project Purpose:</b><br>MENFP is able to support initiatives of AREF to mitigate educational disparity                       | Framework of MENFP's support for AREF is prepared   | Project Progress Report, Activity reports, AREF annual report | Budget plan (including PEEQ measure) is approved                                |
| <b>Outputs:</b><br>1. Measures to mitigate school disparities in learning achievement are tried out and set                     | Executing guidelines is developed<br>Changes in repetition<br>Changes in student scores in the identified areas that students do not perform well | Project Activity Report                                       | MENFP and AREF Officers do not change   |
| 2. Measures to mitigate school disparities in enrolment are tried out and set   | Executing guidelines is developed<br>Changes in primary – junior secondary retention and girls enrolment)   | Project Activity Report                                       |   |
| 3. AREF is ready to continue the measures, and MENFP is ready to disseminate the measures to other Regions.                     | Replication plan is developed<br>Responsible person in charge has clear understandings what to do next  | Replication Plan  |   |

|   |  |   |
|---|--|---|
| <p><u>Activities:</u></p> <p>1-1 Study current practice of student assessment at school, Delegation, AREF and MENFP</p> <p>1-2 Identify lower secondary schools that need interventions to narrow its gap in student achievement.<br/>(Restoring basic academic skill)</p> <p>1-3 MENFP/AREF in collaboration analyze exam result to identify areas students do not perform well and its reasons, with a focus on basic academic skill of students</p> <p>1-4 Devise and try-out intervention to restore basic academic skill of students (e.g. self-learning material)<br/>(Pedagogical guidance)</p> <p>1-5 MENFP/AREF in collaboration synthesize effective pedagogical approach/technique to improve student learning</p> <p>1-6 Inspector in charge introduce the approaches/techniques as a part of their routine inspection work</p> <p>1-7 Teachers at the identified schools revise and implement lesson plan accordingly<br/>(Facilitating learning organization)</p> <p>1-8 Inspectors in charge report the progress at its routine meeting</p> <p>1-9 Japanese experts conduct learning/briefing session for MENFP personnel</p> <p>1-10 MENFP personnel facilitate learning/briefing session for AREF/Delegation</p> <p>2-1 Study current practice of enrolment campaign and support for disadvantaged schools</p> <p>2-2 Identify lower secondary schools that need interventions to narrow its gap to others in enrolment (primary – lower secondary transition and girls enrolment)</p> <p>2-3 Hold orientation meeting for identified lower secondary schools and its affiliated primary schools to organize campaign teams</p> <p>2-4 The teams propose action plan (e.g. campaign activities, school activities, small-scale rehabilitation, and equipment/material provision to attract parents/students)</p> <p>2-5 AREF provides grant to implement the plan</p> <p>2-6 The team / school implements the plan</p> <p>2-7 AREF /Delegation inspectors monitor and evaluate implementation</p> <p>3-1 AREF develops dissemination plan within the region</p> <p>3-2 AREF revise TOR of related personnel to implement PEEQ activities</p> <p>3-3 MENFP develops nationwide dissemination plan</p> <p>3-4 MENFP revise TOR of related personnel to implement PEEQ activities</p> <p>3-5 Japanese experts support MENFP and AREF to prepare their budget to finance PEEQ activities</p> <p>3-6 Conduct workshop inviting a wider stakeholders</p> | <p><u>Inputs:</u></p> <p>1. <u>Moroccan side:</u></p> <p>(1) Office space at MENFP and facilities necessary such as desks, chairs, office equipment, cabinet for the Project (for Moroccan counterparts and Japanese experts).</p> <p>(2) Assignment of counterpart personnel (including Project Director, Manager, Coordinator) and other key counterparts</p> <p>(3) Necessary budget for the 2 main components of the Project (including school grant for equity component from Round 3 onward)</p> <p>(4) Administrative cost for smooth implementation of the Project (such as, CP staff's salary, allowance, transportation fee, and running cost of the Project office)</p> <p>2. <u>Japanese side:</u></p> <p>(1) Dispatch of experts (in the field of Assessment, Lesson Improvement, and School Management), and others as necessity arises</p> <p>(2) Training of counterpart personnel in Japan</p> <p>(3) Provision of office equipment and materials</p> <p>(4) Expenses of Project activities</p> | <p>There's no policy change in inspector's role.</p> <hr/> <p>Preconditions:<br/>Moroccan education strategy / mid-term plan PAMT (2013-2016) don't change.</p> |
|---|--|---|

**Project Design Matrix**

Project Title: Project for Promoting Education with Equity and Quality (PEEQ)  
 Executing Bodies: Ministry of Education and Vocational Training (*Ministere de l'Education Nationale et de la Formation Professionnelle: MENFP*), Regional Education Office (*Académie Régionale d'Education et de Formation :AREF*), Provincial Education Office (*Délégation*)  
 Target Group: MENFP, AREF and Delegation Personnel (approximately 280 personnel) and approximately 240 disadvantaged schools within 32 Bassin Scolaire  
 Target Area: 8 Regions (Chaouia Ourdigha (CO), Doukala Abda (DA), Gharb Chrarda Beni Hssen (GCBH), Marrakech Tensift Al Haouz (MTH) Taza Al Hoceima Taounate (THT), Oriental, Tadla Azilal (TA), Sous Massa Draa (SMD))  
 Duration: 48 months

| Narrative Summary  | Verifiable Indicators  | Means of Verification                               | Important Assumptions  |
|--|--|---|--|
| <p><u>Overall Goal:</u><br/>                     The PEEQ activity is disseminated to other schools within / beyond targeted Regions (AREFs) in Morocco.</p> | <p>Number of targeted schools in the extended areas (Target value: XX % of all primary and lower secondary schools)</p>  | <p>Report by MENFP and AREF</p>                     | <p>Decentralization in Morocco continues to be included in the Education Strategy.</p>   |
| <p><u>Project Purpose:</u><br/>                     MENFP is able to support initiatives of AREF to mitigate educational disparity</p>                       | <p>Framework of MENFP's support for AREF is prepared</p>   | <p>Project Monitoring Sheet, AREF annual report</p> | <p>Budget plan (including PEEQ measure) is approved</p>                                  |
| <p><u>Outputs:</u><br/>                     1. Measures to mitigate school disparities in learning achievement are tried out and set</p>                     | <p>1-1 Executing guidelines is developed<br/>                     1-2 The repetition rate of students in targeted school (Target value: the repetition rate decreases to XX % in targeted primary school and to YY% in targeted lower secondary school)<br/>                     1-3 The percentage of students with a score greater than or equal to 5 out of 10 in mathematics and science in the final examination of the sixth grade of primary school, and the percentage of students with a score greater than or equal to 10 out of 20 in mathematics, physics, chemistry, biology, and earth science in the final examination of the third grade of lower secondary school (Target value: the percentage</p> | <p>Project Monitoring Sheet</p>                     | <p>There is no significant change in the organizational structure of MENFP and AREF.</p> |

|  |  |  |
|--|--|--|
|  | <p>in targeted primary school increases by XX % and in targeted lower secondary school by XX% )</p> <p>1-4 The students' score in the mathematics and science test developed and implemented by PEEQ (Target value: the rate of increase in the students' scores is XX% in targeted primary school and YY % in targeted lower secondary school)</p>  |  |
| 2. Measures to mitigate school disparities in enrolment are tried out and set  | <p>2-1 Executing guidelines is developed</p> <p>2-2 The rate of students dropped-out (Target value: the rate of students dropped-out decreases by XX% in targeted primary school and by YY% in targeted lower secondary school)</p> <p>2-3 The girls enrolment rate in lower secondary school (Target value: the girls enrolment rate increased to XX % in targeted lower secondary school)</p>  | Project Monitoring Sheet   |
| 3. AREF is ready to continue the measures, and MENFP is ready to disseminate the measures to other Regions.  | <p>3-1 The plan is developed by AREF and MENFP.</p> <p>3-2 A dissemination team of the project is organized in every region.</p> <p>3-3 The dissemination process of the project is implemented in all regions.</p>  | Replication Plan   |
| <p><u>Activities:</u><br/>(Exploration and diagnosis)</p> <p>1-1 Study current practice of student assessment at school, Delegation, AREF and MENFP</p> <p>1-2 Identify lower secondary schools and their affiliated primary schools (bassins scolaires) that need interventions to narrow its gap in student achievement.</p> <p>(Information)</p> <p>1-3 Japanese experts conduct learning/briefing session for MENFP/AREF/CRMEF/ Delegation personnel</p> <p>1-4 MENFP personnel facilitate learning/briefing session for AREF/CRMEF/Delegation</p> <p>(Development)</p> <p>1-5 MENFP/AREF in collaboration analyze exam result to identify areas students do not perform well and its reasons, with a focus on basic academic skill of students</p> <p>1-6 Devise and try-out intervention to restore basic academic skill of students (e.g. self-learning material)</p> <p>1-7 MENFP/AREF in collaboration synthesize effective pedagogical approach/technique to</p> | <p><u>Inputs:</u></p> <p>1. <u>Moroccan side:</u></p> <p>(1) Office space at MENFP and facilities necessary such as desks, chairs, office equipment, cabinet for the Project (for Moroccan counterparts and Japanese experts).</p> <p>(2) Assignment of counterpart personnel (including Project Director, Manager, Coordinator) and other key counterparts</p> <p>(3) Necessary budget for the 2 main components of the Project (including school grant for equity component from Round 3 onward)</p> <p>(4) Administrative cost for smooth</p> | <p>There is no policy change in inspector's role.</p> <p>Preconditions:<br/>The general principle of Moroccan education strategy / mid-term plan PAMT (2013-2016) does not change.</p> |

|   |  |  |
|---|--|--|
| <p>improve student learning<br/>(Guidance)</p> <p>1-8 Inspector in charge introduce the approaches/techniques as a part of their routine inspection work</p> <p>1-9 Japanese experts conduct training for the inspectors and CRMEF trainers</p> <p>1-10 The trained inspectors and CRMEF trainers conduct training for teachers with support of Japanese experts</p> <p>1-11 Teachers at the identified schools revise and implement lesson plan accordingly<br/>(Monitoring)</p> <p>1-12 Inspectors in charge report the progress at its routine meeting</p> <p>2-1 Study current practice concerning students' access to school and retention and support for disadvantaged schools</p> <p>2-2 Identify lower secondary schools and their affiliated primary schools (bassins scolaires) that need interventions to narrow its gap to others in enrolment (primary – lower secondary transition and girls enrolment)</p> <p>2-3 Carry out survey on current activities concerning access and retention in the selected lower secondary schools and its affiliated primary schools (bassins scolaires)</p> <p>2-4 Hold orientation workshop for the identified lower secondary schools and its affiliated primary schools to develop and improve school project</p> <p>2-5 The schools propose school project (e.g. campaign activities, school activities, small-scale rehabilitation, and equipment/material provision to attract parents/students)</p> <p>2-6 AREF provides grant to implement the school project</p> <p>2-7 The schools implement the school project</p> <p>2-8 AREF /Delegation inspectors monitor and evaluate implementation</p> <p>3-1 AREF develops dissemination plan within the region</p> <p>3-2 AREF revises TOR of related personnel to implement PEEQ activities</p> <p>3-3 MENFP develops nationwide dissemination plan</p> <p>3-4 MENFP revises TOR of related personnel to implement PEEQ activities</p> <p>3-5 Japanese experts support MENFP and AREF to prepare their budget to finance PEEQ activities</p> <p>3-6 Conduct workshop inviting a wider stakeholders</p> | <p>implementation of the Project (such as, CP staff's salary, allowance, transportation fee, and running cost of the Project office)</p> <p>2. <u>Japanese side:</u></p> <p>(1) Dispatch of experts (in the field of Assessment, Lesson Improvement, and School Management), and others as necessity arises</p> <p>(2) Training of counterpart personnel in Japan</p> <p>(3) Provision of office equipment and materials</p> <p>(4) Expenses of Project activities</p> |  |
|---|--|--|

### Project Design Matrix

|                   |  |
|-------------------|--|
| Project Title:    | Project for Promoting Education with Equity and Quality (PEEQ)   |
| Executing Bodies: | Ministry of Education, Vocational Training, Higher Education and Scientific Research ( <i>Ministère de l'Éducation Nationale, de la Formation Professionnelle, de l'Enseignement Supérieur et de la Recherche Scientifique : MENFPESRS</i> ), Regional Education Office ( <i>Académie Régionale d'Éducation et de Formation : AREF</i> ), Provincial Education Office ( <i>Direction Provinciale</i> ) |
| Target Group:     | MENFPESRS, AREF and Direction Provinciale Personnel (approximately 160 personnel) and approximately 2,000 teachers and 50,000 students in 32 Bassin Scolaire   |
| Target Area:      | 2 provinces of each of the 8 former regions (Chaouia Ourdigha (CO), Doukala Abda (DA), Gharb Chrarda Beni Hssen (GCBH), Marrakech Tensift Al Haouz (MTH), Taza Al Hoceima Taounate (THT), Oriental, Tadla Azilal (TA), Sous Massa Draa (SMD))  |
| Duration:         | 48 months  |

| Narrative Summary  | Verifiable Indicators   | Means of Verification   | Important Assumptions   |
|--|---|---|---|
| <b>Overall Goal:</b><br>The PEEQ activity <sup>1</sup> is disseminated to other schools within / beyond targeted Regions (AREFs) in Morocco.   | Number of targeted schools in the extended areas (Target value: XX % of all primary and lower secondary schools <sup>2</sup> )  | Report by MENFPESRS and AREF  | Decentralization in Morocco continues to be included in the Education Strategy.   |
| <b>Project Purpose:</b><br>MENFPESRS supports initiatives of AREF to mitigate educational disparity.   | Framework of MENFPESRS's support for AREF is prepared   | Project Monitoring Sheet, AREF annual report  | Budget plan (including PEEQ measure) is approved  |
| <b>Outputs:</b><br>1. Measures to mitigate school disparities in learning achievement, composed mainly of diagnostic test, error analysis, preparation of lesson plans, learning support by the use of supplementary tools, and monitoring-support system, are tried out and set | 1-1-1 Executing guidelines is developed<br>1-1-2 The measures to improve students' learning achievement which has been introduced by PEEQ are adopted by the MENFPESRS.<br>1-2-1 The effectiveness of the project intervention for improving students' learning achievement is confirmed by means of diagnostic test executed under PEEQ. | Project Monitoring Sheet<br>Prerequisite evaluation's report<br><br>Diagnostic test | There is no significant change in the organizational structure of MENFPESRS and AREF except for the new territorial division. |

<sup>1</sup> It is composed of administration of the prerequisite tests, utilization of the results of school project.

<sup>2</sup> The target value will be fixed through planning of the dissemination of PEEQ activity.

|  |  |   |  |
|--|--|---|--|
|  | <p>(Target value: the percentage of the students with a score less than 20/100 decrease by half.)</p> <p>1-2-2 The “rate of mastery of basic calculation skills<sup>3</sup>” reaches 85% or more for the students over 4<sup>th</sup> grade in the target primary schools of the PEEQ diagnostic test 2016.</p> <p>1-3-1 In 80% of the project target schools or more, a workshop for the improvement of education<sup>4</sup> by the use of the diagnostic test results is carried out.</p> <p>1-3-2 The planned measures for education improvement are implemented in 80% or more of the schools where the above-mentioned workshop has been carried out.</p> <p>1-4-1 Execution of diagnostic test (prerequisite test) and utilization of its results in teachers’ teaching practices takes part in the subjects of regular monitoring and support that pedagogical inspectors carry out at school.</p> <p>1-4-2 The above mentioned monitoring is carried out at least once a year through an inspector’s school visit to every project target school.</p> | <p>Quiz</p> <p>Questionnaire</p> <p>Inspectors monitoring report to the Direction Provinciale</p> <p>Inspectors monitoring report to the Direction Provinciale</p> <p>Inspectors monitoring report to the Direction Provinciale</p> |  |
| 2. School management mechanism to promote activities aiming at mitigating disparities in access to and quality of education is tried out and set | <p>2-1 All the planned activities for the improvement of school enrolment and learning achievement are carried out in at least 90% of school projects under the contract for PEEQ’s grant provision (PEEQ Axis).</p> <p>2-2 A manual of school project implementation<sup>5</sup> is shared, as a MENFPESRS’s official</p>   | <p>Report of school submitted to the Direction Provinciale</p> <p>Project Monitoring Sheet</p>  |  |

<sup>3</sup> Measured as percentage score in short tests on addition of two 1-digit numbers (up to “9 + 9”), subtraction of a 1-digit number from 18 or less with a difference of 1-digit number (up to “18 – 9”), and multiplication of two 1-digit numbers (up to “9 x 9”)

<sup>4</sup> The “improvement of education”, as defined here, involves writing improved lesson plans and developing a plan to use the supplementary learning materials. An improved lesson plan should include effective measures to facilitate students’ understanding of the difficult points for them that the teachers have recognized on the basis of the analysis of the diagnostic test results. The plan to use the supplementary learning materials should determine how to use the PEEQ’s learning materials, according to the user’s manual provided with them, in order to remedy the students’ difficulties.

<sup>5</sup> The manual of school project implementation will contain good practices of schooling improvement activities and enhancement of teaching on the basis of the diagnostic test results as well as guidance for planning and implementation of the activities.



|   |   |  |  |
|---|---|--|--|
|   | <p>document, by all the primary and lower secondary schools within the project target school areas (i.e. project target schools).</p> <p>2-3-1 90% of headmasters or more of the project target schools receive training on school management.</p> <p>2-3-2 At 90% of schools or more of which the headmasters have received training on school management, an annual action plan (school project) to improve the quality of and the access to education is developed.</p> <p>2-3-3 At 70% of schools or more in which the above mentioned annual action plan has been developed, the objectives are achieved by reference to the plan.</p>                                     | <p>Project Monitoring Sheet</p> <p>Action Plan of school submitted to the Direction Provinciale</p> <p>Report of school submitted to the Direction Provinciale</p>                     |  |
| <p>3. AREF is ready to continue the measures, and MENFPESRS is ready to disseminate the measures to other Regions.</p>  | <p>3-1 The plan is developed by AREF and MENFPESRS.</p> <p>3-2 A dissemination team of the project is organized in every region.</p> <p>3-3 The dissemination process of the project is implemented in all regions.</p>   | <p>Replication Plan</p> <p>Project Monitoring Sheet</p> <p>Project Monitoring Sheet</p>  |  |
| <p><u>Activities:</u><br/>(Exploration and diagnosis)</p> <p>1-1 Study current practice of student assessment at school, Direction Provinciale, AREF and MENFPESRS</p> <p>1-2 Identify lower secondary schools and their affiliated primary schools (bassins scolaires) that need interventions to narrow its gap in student achievement.</p> <p>(Information)</p> <p>1-3 Japanese experts conduct learning/briefing session for MENFPESRS/AREF/CRMEF/ Direction Provinciale personnel</p> <p>1-4 MENFPESRS personnel facilitate learning/briefing session for AREF/CRMEF/Direction Provinciale</p> <p>(Development)</p> <p>1-5 MENFPESRS/AREF in collaboration analyze test result to identify the knowledge and skills that students have difficulty in acquiring and its reasons, with a focus on basic academic skill of students</p> <p>1-6 Devise and try-out intervention to restore basic academic skill of students (e.g. supplementary learning materials)</p> <p>1-7 MENFPESRS/AREF in collaboration synthesize effective pedagogical approach/technique to improve student learning</p> | <p><u>Inputs:</u></p> <p>1. Moroccan side:</p> <p>(1) Office space at MENFPESRS and facilities necessary such as desks, chairs, office equipment, cabinet for the Project (for Moroccan counterparts and Japanese experts).</p> <p>(2) Assignment of counterpart personnel (including Project Director, Manager, Coordinator) and other key counterparts</p> <p>(3) Necessary budget for the 2 main components of the Project (including school grant for equity component from Round 3 onward)</p> <p>(4) Administrative cost for smooth implementation of the Project (such as, CP staff's salary, allowance, transportation fee, and running cost of the Project office)</p> | <p>There is no policy change in inspector's role.</p> <p>Preconditions:<br/>The general principle of Moroccan education strategy and "Strategic Vision 2015-2030" does not change.</p> |  |

6

|  |   |  |
|--|---|--|
| <p>(On-the-spot Guidance)</p> <p>1-8 Inspector in charge introduce the approaches/techniques as a part of their routine inspection work</p> <p>1-9 Japanese experts conduct training for the inspectors and CRMEF trainers</p> <p>1-10 The trained inspectors and CRMEF trainers conduct training for teachers with support of Japanese experts</p> <p>1-11 Teachers at the identified schools revise and implement lesson plan accordingly</p> <p>(Monitoring)</p> <p>1-12 Inspectors in charge report the progress at its routine meeting</p> <p>2-1 Study current practice concerning improvement of school management at the national, regional, provincial and local levels</p> <p>2-2 Identify lower secondary schools and their affiliated primary schools (bassins scolaires) that need interventions to deal with challenges in terms of student learning achievement and internal efficiency of education (especially, primary-secondary transition and girls' schooling)</p> <p>2-3 Carry out survey on current activities concerning education improvement in the selected lower secondary schools and its affiliated primary schools (bassins scolaires)</p> <p>2-4 Develop tools and mechanism appropriate for strengthening the planning, implementation and monitoring of school project at the AREF, Direction Provinciale and school levels</p> <p>2-5 Hold orientation workshop for the identified lower secondary schools and its affiliated primary schools to develop and improve school project</p> <p>2-5 The schools propose school project with a special consideration on the improvement of students' learning and their dropout risk mitigation</p> <p>2-6 Provide grant to implement the school project</p> <p>2-7 The schools implement the school project</p> <p>2-8 AREF /Direction Provinciale monitor and evaluate implementation</p> <p>2-9 Publish a report on the good practices and organize meetings for the stakeholders in order to share the activities carried out by the schools with PEEQ's assistance</p> <p>3-1 AREF develops dissemination plan within the region</p> <p>3-2 MENFPESRS develops nationwide dissemination plan</p> <p>3-3 Japanese experts support MENFPESRS and AREF to prepare their budget to finance PEEQ activities</p> <p>3-4 Conduct workshop inviting a wider stakeholders</p> | <p>2. <u>Japanese side:</u></p> <p>(1) Dispatch of experts (in the field of Assessment, Lesson Improvement, and School Management), and others as necessity arises</p> <p>(2) Training of counterpart personnel in Japan</p> <p>(3) Provision of office equipment and materials</p> <p>(4) Expenses of Project activities</p> |  |
|--|---|--|



## 添付資料9

### Records of Discussions



**RECORD OF DISCUSSIONS**  
**ON**  
**THE PROJECT FOR PROMOTING EDUCATION WITH**  
**EQUITY AND QUALITY (PEEQ)**  
**IN**  
**THE KINGDOM OF MOROCCO**  
**AGREED UPON BETWEEN**  
**MINISTRY OF NATIONAL EDUCATION AND**  
**VOCATIONAL TRAINING**  
**AND**  
**JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY**



手 塚 圭 治

Rabat, May 9<sup>th</sup>, 2014

Pour Ministère de l'Education Nationale  
et de la Formation Professionnelle  
et par Délégation  
Le Secrétaire Général

Youssef BELQASMI

P.O Mr. Koichi SHOJI  
Chief Representative  
Japan International Cooperation Agency  
Morocco Office  
Japan

Mr. Youssef BELQASMI  
Secretary General  
Ministry of National Education and  
Vocational Training  
Kingdom of Morocco

In response to the official request of the Government of the Kingdom of Morocco (hereinafter referred to as “the GOM”) to the Government of Japan (hereinafter referred to as “GOJ”), the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as “JICA”) held a series of discussions with Ministry of National Education and Vocational Training (hereinafter referred to as “MENFP”) and relevant organizations to develop a detailed plan of the Project for Promoting Education with Equity and Quality (hereinafter referred to as the “the Project”).

Based on the Minutes of Meetings (hereinafter referred to as “MM”) on the concerning Preparatory Study on the Project signed on June 21 and October 11, 2013 between MENFP and JICA, JICA held a series of discussions with MENFP and relevant organizations to develop a detailed plan of the Project.

Both parties agreed the details of the Project and main points discussed as described in the Appendix 1 and the Appendix 2, respectively, and to request their respective governments to proceed with the necessary procedures for implementation of the Project.

Both parties also agreed that MENFP, the counterpart to JICA, will be responsible for the implementation of the Project in cooperation with JICA, coordinate with other relevant organizations and ensure that the self-reliant operation of the Project is sustained during and after the implementation period in order to contribute toward social and economic development of Morocco.

The Project will be implemented within the framework of the Note Verbales to be exchanged between the GOJ and the GOM.

Done in duplicate in the French and English languages, both equally authentic. In case of any divergence of interpretation, the English text shall prevail.

Appendix 1: Project Description

Appendix 2: Main Points Discussed

Appendix 3: Minutes of Meetings on Preparatory Survey

## PROJECT DESCRIPTION

MENFP and JICA confirmed that there is no change in the Project Description agreed on in the MM on the concerning Preparatory Survey on the Project signed on June 21 and Oct. 11, 2013(Appendix 3).

### I. BACKGROUND

Since 1999, the implementation of “National Charter of Education and Training” by GOM brought an impressive progress in achieving primary net enrolment rate from 71% (1999) to 97% (2011/12). However, challenges still remains with regional disparities, drop-outs and repetition, further improvement in enrolment (especially in secondary education) etc. In order to solve these issues and extend quality education, the Charter was later followed by a comprehensive four-year (2009-2012) development plan, “Programme d’Urgence (PU)” consisting of four strategic pillars; (1) achieve universal basic education, (2) promote initiative and excellence in post-basic education, (3) improve system performance (teaching, management and stewardship), (4) mobilize and utilize resources (financing, partnership, communication, social mobilization and implication of the private sector). JICA, among other international donor agencies, has been assisting pillars (1), (3), (4).

Following the completion of PU, in March 2013, MENFP developed its succeeding Mid-Term Education System Action Plan 2013-2016 (“Plan d’Action à Moyen Terme 2013-2016”, PAMT) drawing lessons from the implementation of PU. PAMT was prepared in close consultation with donors assisting Morocco’s education sector providing them a common framework for assistance. The Plan has five areas of focus; (1) access and equity; (2) teaching and learning quality; (3) school establishment, (4) governance and decentralization; and (5) human resource management.

The Project was requested by MENFP to address both access and quality of education, especially in the rural area, aligning to the Moroccan educational policies, PU 2009-2012 and subsequent PAMT 2013-2016. The first Preparatory Mission was dispatched in June 2013 where basic concept was developed and agreed by both sides in the MM dated June 21 2013. The subsequent second Preparatory Mission was dispatched in order to design the detail plan of the Project. The section below summarizes the outcome which has been discussed and agreed by both sides.



## **II. OUTLINE OF THE PROJECT**

Details of the Project are described in the Logical Framework (Project Design Matrix: PDM) (Annex I) and the tentative Plan of Operation (Annex II).

### **1. Implementation Structure**

The Project organization chart is given in the Annex III. The roles and assignments of relevant organizations are as follows:

#### (1) MENFP

##### (a) Project Director

Will be responsible for overall administration and implementation of the Project, and relevant personnel will be assigned before the official commencement of the Project.

##### (b) Project Manager

Will be responsible for the managerial and technical matters of the Project, and relevant personnel will be assigned before the official commencement of the Project.

#### (2) JICA Experts

The JICA experts will give necessary technical guidance, advice and recommendations to MENFP on any matters pertaining to the implementation of the Project.

#### (3) Joint Coordinating Committee

Joint Coordinating Committee (hereinafter referred to as "JCC") will be established in order to facilitate inter-organizational coordination. JCC will be held at least once a year and whenever necessary. JCC will approve an annual work plan, review overall progress, conduct monitoring and evaluation of the Project, and exchange opinions on major issues that arise during the implementation of the Project. A list of appointed JCC members is attached as per Annex IV.

### **2. Project Site(s) and Beneficiaries**

#### (1) Project Sites:

##### Round 1 and 2

- 1) Chaouia Ourdigha (CO)
- 2) Doukala Abda (DA)
- 3) Gharb Chrarda Beni Hssen (GCBH)
- 4) Marrakech Tensift Al Haouz (MTH)

##### Round 3 onward

- 5) Taza Al Hoceima Taounate (THT)
- 6) Oriental
- 7) Tadla Azilal (TA)
- 8) Sous Massa Draa(SMD)

The Activities will be conducted with Round 1&2 as piloting of PEEQ program with JICA assistance, with priority given to the targeted AREFs in the framework of ODA Loan Project "School Construction Component (Project Component) of Basic Education Sector Support Project (BESSP)". Activities in the Round 3 and onwards will be led by MENFP, with JICA providing technical support.

#### (2) Beneficiaries

- MENFP, AREF, and Delegation
- School: approximately 240 schools

### **3. Duration**

It is expected that the duration of the Project will be 48 months as soon as the JICA experts are dispatched.

### **4. Reports**

MENFP and the JICA experts will jointly prepare the following report:

- (1) Progress Reports every year during the Project period
- (2) Project Completion Report at the end of the Project

### **5. Environmental and Social Considerations**

- (1) MENFP agreed to abide by 'JICA Guidelines for Environmental and Social Considerations' in order to ensure that appropriate considerations will be made for the environmental and social impacts of the Project.

## **III. UNDERTAKINGS OF MENFP and GOM**

1. MENFP and GOM will take, to the extent possible, the necessary steps to :
  - (1) ensure that the technologies and knowledge acquired by the Moroccan nationals as a result of Japanese technical cooperation contributes to the economic and social development of Morocco, and that the knowledge and experience acquired by the personnel of Morocco from technical training as well as the equipment provided by JICA will be utilized effectively in the implementation of the Project;
  - (2) grant privileges, exemptions and benefits to the JICA experts and their families, which are no less favorable than those granted to experts and members of the missions and their families of third countries or international organizations performing similar missions in Morocco.
  - (3) provide security-related information, upon their availability, as well as measures to ensure the safety of the JICA experts, taking into account MENFP attributions and capacities in this field;
  - (4) permit the JICA experts to enter, leave and sojourn in Morocco for the duration of their assignments therein and exempt them from foreign registration requirements and consular fees, while indicating the necessity to discuss this particular article with the competent Moroccan authorities in this specific domain
  - (5) exempt the JICA experts from taxes and any other charges on the equipment, machinery and other material necessary for the implementation of the Project. This undertaking is secured based on the agreement between MENFP and MEF.
  - (6) exempt the JICA experts from income tax and charges of any kind imposed on or in connection with any emoluments or allowances paid to them and/or remitted to them from abroad for their services in connection with the implementation of the Project. This undertaking is secured based on the agreement between MENFP and MEF; and
  - (7) meet taxes and any other charges on the equipment, machinery and other material, necessary for the implementation of the Project. This undertaking is secured based on the agreement between MENFP and MEF.
2. The MENFP will bear claims, if any arises, against the JICA experts resulting from, occurring in the course of, or otherwise connected with, the discharge of their duties in the implementation of the Project, except when such claims arise from gross negligence or willful misconduct on the part of the JICA experts.

#### **IV. EVALUATION**

JICA and the MENFP will jointly conduct the following evaluations and reviews.

1. Mid-term review at the middle of the cooperation term
2. Terminal evaluation during the last six (6) months of the cooperation term

JICA will conduct the following evaluations and surveys to mainly verify sustainability and impact of the Project and draw lessons. MENFP is required to provide necessary support for them.

1. Ex-post evaluation three (3) years after the project completion, in principle
2. Follow-up surveys on necessity basis

#### **V. PROMOTION OF PUBLIC SUPPORT**

For the purpose of promoting support for the Project, MENFP will take appropriate measures to make the Project widely known to the people of Morocco.

#### **VI. MUTUAL CONSULTATION**

JICA and the MENFP will consult each other whenever any major issues arise in the course of Project implementation.

#### **VII. AMENDMENTS**

The Record of Discussions may be amended by the MM between JICA and the GOM. The MM will be signed by authorized persons of each side who may be different from the signers of the Record of Discussions.

- Annex I Tentative version of the Logical Framework (Project Design Matrix: PDM)
- Annex II Tentative version of the Plan of Operation
- Annex III Tentative version of the Project Organization Chart
- Annex IV A list of assigned members of the Joint Coordination Committee

## MAIN POINTS DISCUSSED

### 1. Project Overview

The Project is expected to support the development of educational governance, by enhancing the capacities and efficiency of the current system to foster Morocco's decentralization process within education sector. The Project will have two pillars; (i) "Equity component" which aims to improve access to education (girls enrolment, transition from primary to lower secondary) through campaign and other small scale investment activities organized by lower secondary and affiliated primary schools, and (ii) "Quality component" which aims to improve quality of education at the school level by placing students' learning (through exam error analysis) at the center. The Project is designed to support MENFP's capacity to support AREF; and AREF's capacity to support Delegation, and Delegation's capacity to support most disadvantaged schools to self-improve. To strengthen this, the two components have a focused approach targeting the most disadvantaged *Bassin Scolaire* (catchment area).

Sustainability is emphasized throughout the Project design by (i) using existing structure and mandate, (ii) starting off with Pilot activities (2 rounds) initiated by JICA, handing over to MENFP from the 3<sup>rd</sup> round onward.

### 2. Responsible organizations/divisions

The Project will involve various stakeholders at the national (MENFP), regional (AREF), and provincial (Delegation) levels. Responsible organizations/divisions (i) to execute, and (ii) to support the executing organization are shown in the MENFP/AREF/Delegation organizational charts in the Annex III.

MENFP and JICA Experts will produce a detailed Plan of Operation after the commencement of the Project.

**Project Design Matrix**

Project Title: Project for Promoting Education with Equity and Quality (PEEQ)

Executing Bodies: Ministry of Education and Vocational Training (*Ministere de l'Education Nationale et de la Formation Professionnelle: MENFP*), Regional Education Office (*Académie Régionale d'Education et de Formation :AREF*), Provincial Education Office (*Délégation*)

Target Group: MENFP, AREF and Delegation Personnel (approximately 280 personnel) and approximately 240 disadvantaged schools within 32 Bassin Scolaire

Target Area: 8 Regions (Chaouia Ourdigha (CO), Doukala Abda (DA), Gharb Chrarda Beni Hssen (GCBH), Marrakech Tensift Al Haouz (MTH) Taza Al Hoceima Taounate (THT), Oriental, Tadla Azilal (TA), Sous Massa Draa (SMD))

Duration: 48 months

| <b>Narrative Summary</b>  | <b>Verifiable Indicators</b>  | <b>Means of Verification</b>                                  | <b>Important Assumptions</b>  |
|---|---|---|---|
| <b>Overall Goal:</b><br>The PEEQ activity is disseminated to other schools within / beyond targeted Regions (AREFs) in Morocco. | Number of targeted schools in the extended areas  | Report by MENFP and AREF                                      | Decentralization in Morocco continues to be included in the Education Strategy. |
| <b>Project Purpose:</b><br>MENFP is able to support initiatives of AREF to mitigate educational disparity                       | Framework of MENFP's support for AREF is prepared   | Project Progress Report, Activity reports, AREF annual report | Budget plan (including PEEQ measure) is approved                                |
| <b>Outputs:</b><br>1. Measures to mitigate school disparities in learning achievement are tried out and set                     | Executing guidelines is developed<br>Changes in repetition<br>Changes in student scores in the identified areas that students do not perform well | Project Activity Report                                       | MENFP and AREF Officers do not change   |
| 2. Measures to mitigate school disparities in enrolment are tried out and set   | Executing guidelines is developed<br>Changes in primary – junior secondary retention and girls enrolment)   | Project Activity Report                                       |   |
| 3. AREF is ready to continue the measures, and MENFP is ready to disseminate the measures to other Regions.                     | Replication plan is developed<br>Responsible person in charge has clear understandings what to do next  | Replication Plan  |   |

|   |  |   |
|---|--|---|
| <p><u>Activities:</u></p> <p>1-1 Study current practice of student assessment at school, Delegation, AREF and MENFP</p> <p>1-2 Identify lower secondary schools that need interventions to narrow its gap in student achievement.<br/>(Restoring basic academic skill)</p> <p>1-3 MENFP/AREF in collaboration analyze exam result to identify areas students do not perform well and its reasons, with a focus on basic academic skill of students</p> <p>1-4 Devise and try-out intervention to restore basic academic skill of students (e.g. self-learning material)<br/>(Pedagogical guidance)</p> <p>1-5 MENFP/AREF in collaboration synthesize effective pedagogical approach/technique to improve student learning</p> <p>1-6 Inspector in charge introduce the approaches/techniques as a part of their routine inspection work</p> <p>1-7 Teachers at the identified schools revise and implement lesson plan accordingly<br/>(Facilitating learning organization)</p> <p>1-8 Inspectors in charge report the progress at its routine meeting</p> <p>1-9 Japanese experts conduct learning/briefing session for MENFP personnel</p> <p>1-10 MENFP personnel facilitate learning/briefing session for AREF/Delegation</p> <p>2-1 Study current practice of enrolment campaign and support for disadvantaged schools</p> <p>2-2 Identify lower secondary schools that need interventions to narrow its gap to others in enrolment (primary – lower secondary transition and girls enrolment)</p> <p>2-3 Hold orientation meeting for identified lower secondary schools and its affiliated primary schools to organize campaign teams</p> <p>2-4 The teams propose action plan (e.g. campaign activities, school activities, small-scale rehabilitation, and equipment/material provision to attract parents/students)</p> <p>2-5 AREF provides grant to implement the plan</p> <p>2-6 The team / school implements the plan</p> <p>2-7 AREF /Delegation inspectors monitor and evaluate implementation</p> <p>3-1 AREF develops dissemination plan within the region</p> <p>3-2 AREF revise TOR of related personnel to implement PEEQ activities</p> <p>3-3 MENFP develops nationwide dissemination plan</p> <p>3-4 MENFP revise TOR of related personnel to implement PEEQ activities</p> <p>3-5 Japanese experts support MENFP and AREF to prepare their budget to finance PEEQ activities</p> <p>3-6 Conduct workshop inviting a wider stakeholders</p> | <p><u>Inputs:</u></p> <p>1. <u>Moroccan side:</u></p> <p>(1) Office space at MENFP and facilities necessary such as desks, chairs, office equipment, cabinet for the Project (for Moroccan counterparts and Japanese experts).</p> <p>(2) Assignment of counterpart personnel (including Project Director, Manager, Coordinator) and other key counterparts</p> <p>(3) Necessary budget for the 2 main components of the Project (including school grant for equity component from Round 3 onward)</p> <p>(4) Administrative cost for smooth implementation of the Project (such as, CP staff's salary, allowance, transportation fee, and running cost of the Project office)</p> <p>2. <u>Japanese side:</u></p> <p>(1) Dispatch of experts (in the field of Assessment, Lesson Improvement, and School Management), and others as necessity arises</p> <p>(2) Training of counterpart personnel in Japan</p> <p>(3) Provision of office equipment and materials</p> <p>(4) Expenses of Project activities</p> | <p>There's no policy change in inspector's role.</p> <hr/> <p>Preconditions:<br/>Moroccan education strategy / mid-term plan PAMT (2013-2016) don't change.</p> |
|---|--|---|

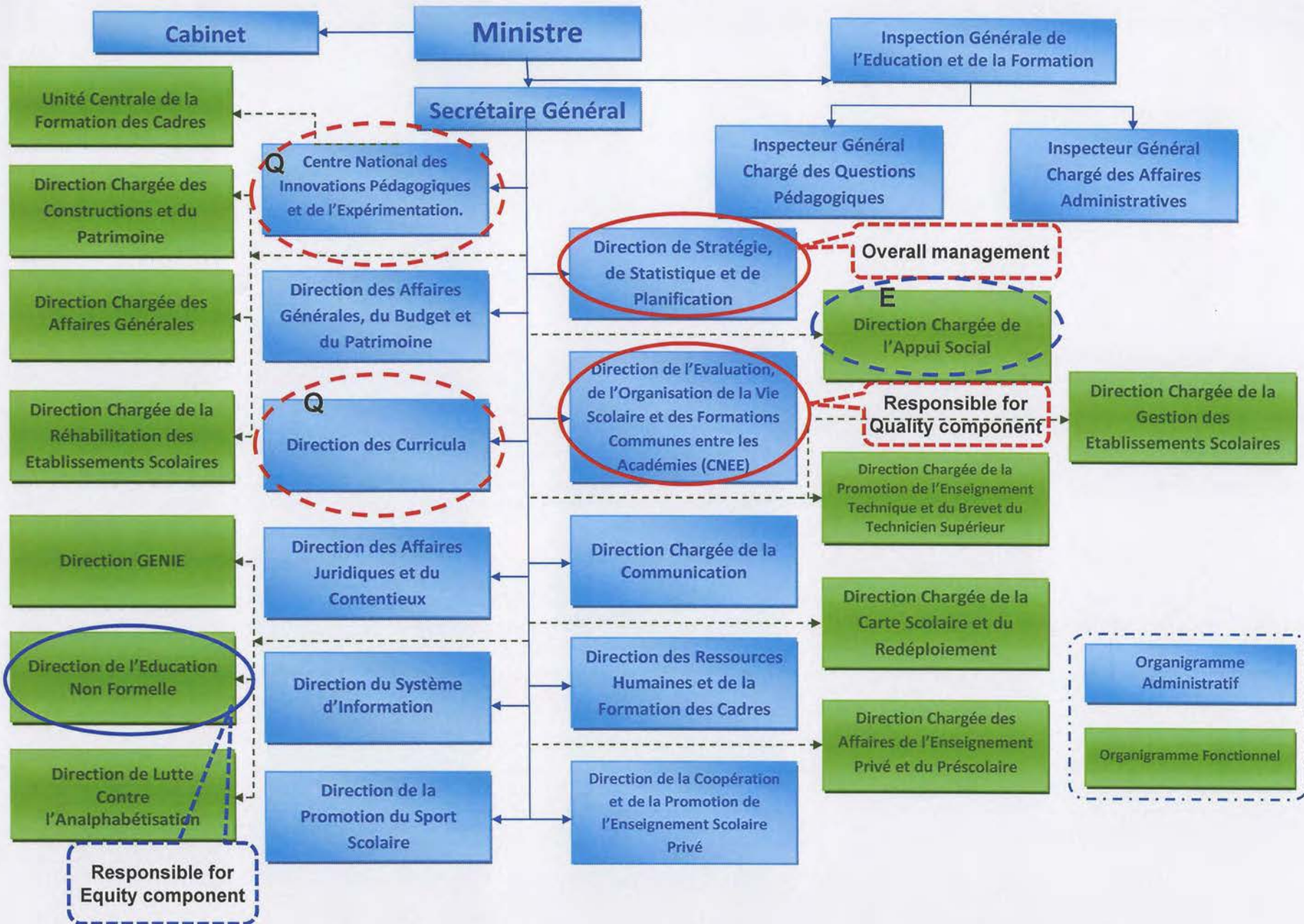


**Programme de soutien au secteur d'éducation de base**  
**Coopération Technique**  
**Projet d'Amélioration de l'Éducation avec Équité et Qualité "PEEQ"**  
**Plan opérationnel provisoire**

| Objectif global  | Finalité du projet  | N.O  | Activité  | Mesures  | Intervenants   | Lieu  | Période d'exécution   |   |  | Résultats   | Indicateurs Vérifiables   | Livrables                   |
|--|---|------|---|--|--|---|---|---|--|---|---|-----------------------------|
|  |   |      |   |  |  |   | Durée   | Début   | Fin  |   |   |                             |
| L'activité PEEQ est généralisée à d'autres écoles au sein et à l'extérieur des régions ciblées (AREF) au Maroc | MENFP est en mesure d'appuyer les initiatives de l'AREF afin de réduire les disparités éducatives | 1-1  | Étudier la pratique actuelle en matière d'évaluation de l'élève au niveau de l'école, la Délégation, l'AREF et du MENFP   | MENFP et les experts de la JICA produiront un Plan opérationnel détaillé une fois le projet lancé. | MENFP, AREF, Délégations, inspecteurs, acteurs scolaires, experts JICA ... | AREF (CO, DA, MTH & GCB), délégations ciblées, écoles ciblées       | 4 mois  | Février 2014  | Mal 2014   | 1- Mesures pour réduire les disparités dans les résultats d'apprentissage testées et mises en place                               | - Directives d'exécution mises au point<br>- Taux de doublage en baisse dans les AREF ciblées<br>- Notes des élèves en augmentation dans les matières dans lesquelles le rendement n'est pas satisfaisant | Directives de mise en œuvre |
|  |   | 1-2  | Identifier les collèges qui requièrent des interventions pour combler le déficit en matière de rendement des élèves   |  |  |   | 4 mois (4 fois*1 mois)  | Juillet 2014<br>Juillet 2015<br>Juillet 2016<br>Juillet 2017                | Juillet 2014<br>Juillet 2015<br>Juillet 2016<br>Juillet 2017   |   |   |                             |
|  |   | 1-3  | Renforcer les compétences scolaires de base: Le MENFP en collaboration avec AREF analyse les résultats des examens pour identifier les matières où les élèves n'ont pas de bons résultats et en déterminer les raisons, en mettant l'accent sur les compétences scolaires de bases des élèves |  |  |   | 8 mois (4 fois*2 mois)  | Septembre 2014<br>Septembre 2015<br>Septembre 2016<br>Septembre 2017        | Octobre 2014<br>Octobre 2015<br>Octobre 2016<br>Octobre 2017   |   |   |                             |
|  |   | 1-4  | Renforcer les compétences scolaires de base: Concevoir et tester une intervention pour améliorer les compétences scolaires de base des élèves (ex. matériel d'auto-apprentissage)   |  |  |   | 18 mois (3 fois*6 mois)   | Novembre 2014<br>Novembre 2015<br>Novembre 2016                             | Avril 2015<br>Avril 2016<br>Avril 2017   |   |   |                             |
|  |   | 1-5  | Encadrement pédagogique: MENFP/AREF œuvre de concert pour mettre au point une approche/technique pédagogique efficace pour améliorer l'apprentissage chez les élèves  |  |  |   | 8 mois (4 fois*2 mois)  | Septembre 2014<br>Septembre 2015<br>Septembre 2016<br>Septembre 2017        | Octobre 2014<br>Octobre 2015<br>Octobre 2016<br>Octobre 2017   |   |   |                             |
|  |   | 1-6  | Encadrement pédagogique: L'inspecteur en charge introduit les approches/techniques dans le cadre de ses visites d'inspection de routine   |  |  |   | 18 mois (3 fois*6 mois)   | Novembre 2014<br>Novembre 2015<br>Novembre 2016                             | Avril 2015<br>Avril 2016<br>Avril 2017   |   |   |                             |
|  |   | 1-7  | Encadrement pédagogique : Les enseignants dans les écoles identifiées révisent et mettent en œuvre le plan de leçon en conséquence  |  |  |   | 18 mois (3 fois*6 mois)   | Novembre 2014<br>Novembre 2015<br>Novembre 2016                             | Avril 2015<br>Avril 2016<br>Avril 2017   |   |   |                             |
|  |   | 1-8  | Facilitation de l'organisation de l'apprentissage: Les inspecteurs informent du progrès lors des réunions de routine  |  |  |   | 32 mois (Année scolaire 2014/15-2017/18)  | Septembre 2014<br>Septembre 2015<br>Septembre 2016<br>Septembre 2017        | Juin 2014<br>Juin 2015<br>Juin 2016<br>Novembre 2017   |   |   |                             |
|  |   | 1-9  | Facilitation de l'organisation de l'apprentissage: les experts japonais tiennent des sessions d'apprentissage/information au profit du personnel du MENFP   |  |  |   | 4 fois par an (Jan, mai-juin, août, déc)  | Janvier 2014  | Décembre 2017  |   |   |                             |
|  |   | 1-10 | Facilitation de l'organisation de l'apprentissage: Le personnel du MENFP organise des sessions d'apprentissage/information au profit de l'AREF/Délégation   |  |  |   | 32 mois (Année scolaire 2014/15-2017/18)  | Septembre 2014<br>Septembre 2015<br>Septembre 2016<br>Septembre 2017        | Juin 2014<br>Juin 2015<br>Juin 2016<br>Novembre 2017   |   |   |                             |
|  |   | 2-1  | Étudier la pratique actuelle en matière de campagne de scolarisation et appuyer aux écoles défavorisées   | MENFP, AREF, Délégations, inspecteurs, acteurs scolaires, ONG, experts JICA ...                    | AREF (CO, DA, MTH & GCB), délégations ciblées, écoles ciblées              | 4 mois  | Février 2014  | Mal 2014  | 2- Mesures pour réduire les disparités de scolarisation testées et mise en place                         | - Les directives de mise en œuvre élaborées<br>- Taux de scolarisation et taux de rétention des filles au collège en augmentation | Directives de mise en œuvre   |                             |
|  |   | 2-2  | Identifier les collèges qui requièrent des interventions pour combler l'écart par rapport aux autres en termes d'élèves inscrits (transition primaire-collège et scolarisation des filles)  |  |  | 4 mois (Développement directives)<br>4 mois (Examen: 4 fois*1 mois) | Février 2014<br>Novembre 2014<br>Novembre 2015<br>Novembre 2016<br>Octobre 2017 | Mal 2014<br>Novembre 2014<br>Novembre 2015<br>Novembre 2016<br>Octobre 2017 |  |   |   |                             |
|  |   | 2-3  | Organiser des réunions d'orientation pour les collèges identifiés et les écoles primaires avoisinantes pour organiser les équipes chargées des campagnes  |  |  | 4 mois (4 fois*1 mois)  | Novembre 2014<br>Novembre 2015<br>Novembre 2016<br>Octobre 2017                 | Novembre 2014<br>Novembre 2015<br>Novembre 2016<br>Octobre 2017             |  |   |   |                             |
|  |   | 2-4  | Les équipes proposent un plan d'action (ex. activités de la campagne, activités de l'école, travaux de rénovation de petite envergure et fourniture d'équipements et de matériel pour attirer les parents/élèves)   |  |  | 6 mois (3 fois*2 mois)  | Décembre 2014<br>Décembre 2015<br>Décembre 2016                                 | Janvier 2015<br>Janvier 2016<br>Janvier 2017                                |  |   |   |                             |
|  |   | 2-5  | AREF fourni une subvention pour la mise en œuvre du plan  |  |  | Une fois par an   | Janvier 2015<br>Janvier 2016<br>Janvier 2017                                    | Janvier 2015<br>Janvier 2016<br>Janvier 2017                                |  |   |   |                             |
|  |   | 2-6  | L'équipe/école met en œuvre le plan   |  |  | 29 mois (Campagnes années scolaires 2015/16, 2016/17, 2017/18)      | Janvier 2015<br>Janvier 2016<br>Janvier 2017                                    | Septembre 2015<br>Octobre 2016<br>Octobre 2017                              |  |   |   |                             |
|  |   | 2-7  | Les inspecteurs de l'AREF/délégation supervisent et évaluent la mise en œuvre   |  |  | 29 mois (Campagnes années scolaires 2015/16, 2016/17, 2017/18)      | Janvier 2015<br>Janvier 2016<br>Janvier 2017                                    | Septembre 2015<br>Octobre 2016<br>Octobre 2017                              |  |   |   |                             |
|  |   | 3-1  | AREF met au point un plan de généralisation au sein de la région  | MENFP, AREF, Délégation, experts JICA ...  | AREF au niveau national, délégations ciblées, écoles ciblées...            | 3 mois (3 fois*1 mois)  | Septembre 2015<br>Septembre 2016<br>Septembre 2017                              | Septembre 2015<br>Septembre 2016<br>Septembre 2017                          | 3- Mesures prises à poursuivre la mesure, et le MENFP dispose à généraliser la mesure à d'autres régions | - Plan de généralisation mis au point<br>- La personne en charge sait de manière précise ce qu'il y a à faire ensuite             | Plan de généralisation  |                             |
|  |   | 3-2  | AREF révisé les termes de référence du personnel chargé de mettre en œuvre les activités du PEEQ  |  |  | 3 mois (3 fois*1 mois)  | Septembre 2015<br>Septembre 2016<br>Septembre 2017                              | Septembre 2015<br>Septembre 2016<br>Septembre 2017                          |  |   |   |                             |
|  |   | 3-3  | MENFP met au point un plan de généralisation au niveau national   |  |  | 3 mois (3 fois*1 mois)  | Septembre 2015<br>Septembre 2016<br>Septembre 2017                              | Septembre 2015<br>Septembre 2016<br>Septembre 2017                          |  |   |   |                             |
|  |   | 3-4  | MENFP révisé les termes de référence du personnel chargé de mettre en œuvre les activités du PEEQ   |  |  | 3 mois (3 fois*1 mois)  | Septembre 2015<br>Septembre 2016<br>Septembre 2017                              | Septembre 2015<br>Septembre 2016<br>Septembre 2017                          |  |   |   |                             |
|  |   | 3-5  | Les experts japonais appuient le MENFP et l'AREF pour préparer le budget de financement des activités   |  |  | 10 mois (3 fois*3 mois, 1 fois*1 mois)                              | Octobre 2014<br>Octobre 2015<br>Octobre 2016<br>Octobre 2017                    | Décembre 2014<br>Décembre 2015<br>Décembre 2016<br>Octobre 2017             |  |   |   |                             |
|  |   | 3-6  | Organiser un atelier et y inviter un large éventail d'intervenants  |  |  | 3 fois  | Février 2015<br>Février 2016<br>Février 2017                                    | Février 2015<br>Février 2016<br>Février 2017                                |  |   |   |                             |

Handwritten initials/signature in the bottom left corner.





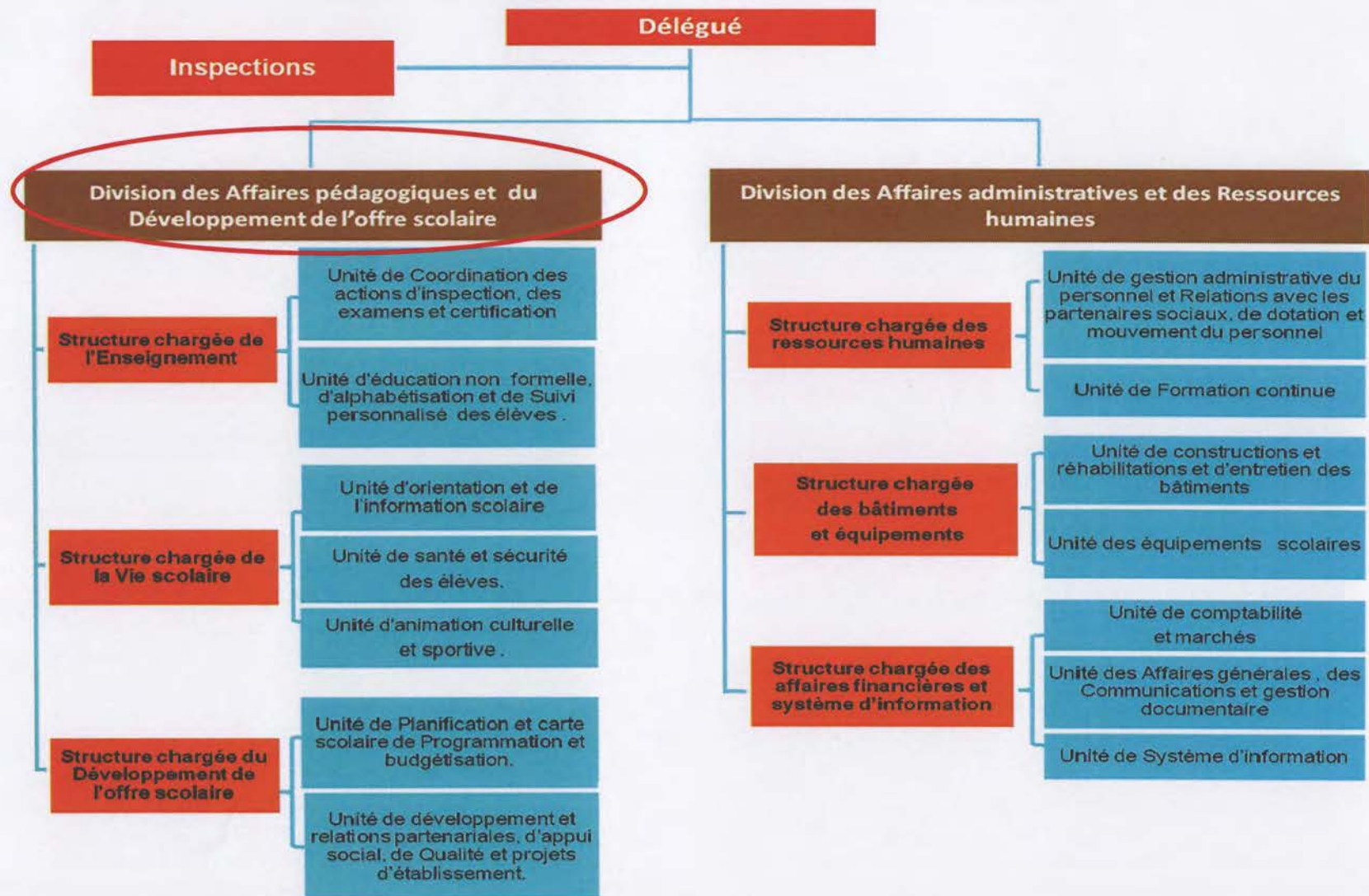
# Implementation Structure (for AREFs)

Marrakech Tensift AlHaouz (as a sample)

\* The "Pedagogic Unit" will be in charge

|   |  |   |  |
|---|--|---|--|
|   |  | Directeur   |  |
| Secrétariat Particulier   |  | Secrétariat Technique   | PMO  |
| Audit Interne   |  | Bureau d'ordre  | Secrétariat du conseil administratif                               |
| Division de la gestion des ressources humaines et des affaires administratives et financières |  | Division des affaires pédagogiques  | Division de la carte scolaire de l'information et de l'orientation |
| Service du budget, équipement et patrimoine   |  | Service des examens   | Service de la carte scolaire de l'information et de l'orientation  |
| Agence Comptable  |  | CRDAP   | Service de statistiques et informatiques                           |
| Contrôle d'Etat   |  | Service de l'éducation non formelle et la lutte contre l'analphabétisme       | CRIAO  |
| Services des ressources humaines et communication   |  | Service de l'enseignement préscolaire et de l'enseignement privé (Inspecteur) |  |
| Centre régional de la formation continue  |  | Centre régional du matériel didactique  |  |

# Implementation Structure (for Delegations)



Royaume du Maroc



Ministère de l'Éducation Nationale et de  
la Formation Professionnelle

Programme d'Appui de la JICA au Secteur de l'Éducation de Base

(Basic Education Sector Support Project « BESSP »)

Coopération Technique : Promoting Education with Equity and Quality (PEEQ).

Liste nominative des onze (11) membres du comité chargé du Projet « PEEQ ».

| NOM                              | Fonction            | Département  | Rôle                      |
|----------------------------------|---------------------|--|---------------------------|
| Abdelhak Ghoulil                 | Chef de Division    | Direction de la Stratégie, des Statistiques et de la Planification   | Point Focal Planification |
| Ahmed Mahroug                    | Responsable d'Unité | Direction de la Stratégie, des Statistiques et de la Planification   | Coordonateur              |
| Ahmed Chaibi                     | Chef de Division    | Centre National des Évaluations et des Examens                       | Point Focal Pédagogie     |
| Mohamed Cherif Essalih           | Chef de Division    | Direction des Affaires Générales, du Budget et du Patrimoine         | Point Focal Budget        |
| Abdeljalil Benzouina             | Responsable d'Unité | Direction des Affaires Générales, du Budget et du Patrimoine         | Membre du comité          |
| Nourdine Elmazouni               | Chef de Division    | Centre National des Innovations Pédagogiques et de l'Expérimentation | Membre du comité          |
| Sidi Rachid El Amrani El Idrissi | Chef de Division    | Direction des Curricula  | Membre du comité          |
| Douhid El Mofaddal               | Chef de Service     | Unité Centrale de la Formation des Cadres                            | Membre du comité          |
| Elhassane Mahfoudi               | Chef de Service     | Direction de l'Éducation Non Formelle                                | Membre du comité          |
| Ali Allouch                      | Chef de Division    | Direction Chargée de l'Enseignement Technique et de la Vie Scolaire  | Membre du comité          |
| Mohamed Amine Maghraoui          | Chef de Division    | Direction Chargée des Constructions et du Patrimoine                 | Membre du comité          |

Pour Ministère de l'Éducation Nationale  
et de la Formation Professionnelle  
et par Délégation  
Le Secrétaire Général

Youssef BELQASMI

Ministère de l'Éducation Nationale et de la Formation Professionnelle  
Direction de la Stratégie, des Statistiques et de la Planification  
Division de Planification  
Siège central de Rabat - Tél : 0537697221 / Fax : 0537732010



## 添付資料10

### Minutes of Meetings



**MINUTES OF MEETINGS**  
**BETWEEN**  
**MINISTRY OF EDUCATION, VOCATIONAL TRAINING, HIGHER EDUCATION AND**  
**SCIENTIFIC RESEARCH**  
**AND**  
**JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY**  
**FOR AMENDMENT OF THE RECORD OF DISCUSSIONS**  
**ON**  
**PROJECT FOR PROMOTING EDUCATION WITH EQUITY AND QUALITY (PEEQ)**  
**IN THE KINGDOM OF MOROCCO**

Ministry of Education, Vocational Training, Higher Education and Scientific Research (hereinafter referred to as «MENFPESRS») and the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as «JICA») agreed that the Record of Discussions on «the Project for Promoting Education with Equity and Quality (PEEQ)» (hereinafter referred to as « the Project ») initially signed on May 9, 2014 is amended on following points.

1. The Logical Framework (Project Design Matrix: PDM) is revised as ANNEX 1

In the revised PDM, “Outputs” are modified as follows.

| Before  | Amended Version  |
|---|--|
| Output 1 :<br>Measures to mitigate school disparities in learning achievement are tried out and set                             | Output 1 :<br>Measures to mitigate school disparities in learning achievement, composed mainly of diagnostic test, error analysis, preparation of lesson plans, learning support by the use of supplementary tools, and monitoring-support system, are tried out and set |
| Output 2 :<br>Measures to mitigate school disparities in enrolment are tried out and set  | Output 2 :<br>School management mechanism to promote activities aiming at mitigating disparities in access to and quality of education is tried out and set  |
| Rationale: It is appropriate to revise outputs of the Project based on the activities realized and the strategy of the Project. |  |

This amendment enters into force from 23 OCT. 2017, 2017.



Done in duplicate in the French and English languages, both equally authentic. In case of any divergence of interpretation, the English text shall prevail.

Annex 1: Revised version of Logical Framework (Project Design Matrix: PDM)

Rabat, this 23 OCT. 2017, 2017

  
Mr. Hitoshi TOJIMA  
Chief Representative  
Japan International Cooperation Agency  
Morocco Office



\_\_\_\_\_  
M. Abdelhaq EL HAYANI  
Director of Strategy, Statistics and Planning  
Ministry of Education,  
Vocational Training, Higher Education  
and Scientific Research  
Kingdom of Morocco

Pour le Ministre et par Délégation  
Directeur de la Stratégie des Statistiques  
et de la Planification et Chargé de la Gestion  
du Domaine de l'Appui Social

Signé : EL HAYANI Abdelhaq

### Project Design Matrix

|                   |  |
|-------------------|--|
| Project Title:    | Project for Promoting Education with Equity and Quality (PEEQ)   |
| Executing Bodies: | Ministry of Education, Vocational Training, Higher Education and Scientific Research ( <i>Ministère de l'Éducation Nationale, de la Formation Professionnelle, de l'Enseignement Supérieur et de la Recherche Scientifique : MENFPESRS</i> ), Regional Education Office ( <i>Académie Régionale d'Éducation et de Formation : AREF</i> ), Provincial Education Office ( <i>Direction Provinciale</i> ) |
| Target Group:     | MENFPESRS, AREF and Direction Provinciale Personnel (approximately 160 personnel) and approximately 2,000 teachers and 50,000 students in 32 Bassin Scolaire   |
| Target Area:      | 2 provinces of each of the 8 former regions (Chaouia Ourdigha (CO), Doukala Abda (DA), Gharb Chrarda Beni Hssen (GCBH), Marrakech Tensift Al Haouz (MTH), Taza Al Hoceima Taounate (THT), Oriental, Tadla Azilal (TA), Sous Massa Draa (SMD))  |
| Duration:         | 48 months  |

| Narrative Summary  | Verifiable Indicators   | Means of Verification   | Important Assumptions   |
|--|---|---|---|
| <b>Overall Goal:</b><br>The PEEQ activity <sup>1</sup> is disseminated to other schools within / beyond targeted Regions (AREFs) in Morocco.   | Number of targeted schools in the extended areas (Target value: XX % of all primary and lower secondary schools <sup>2</sup> )  | Report by MENFPESRS and AREF  | Decentralization in Morocco continues to be included in the Education Strategy.   |
| <b>Project Purpose:</b><br>MENFPESRS supports initiatives of AREF to mitigate educational disparity.   | Framework of MENFPESRS's support for AREF is prepared   | Project Monitoring Sheet, AREF annual report  | Budget plan (including PEEQ measure) is approved  |
| <b>Outputs:</b><br>1. Measures to mitigate school disparities in learning achievement, composed mainly of diagnostic test, error analysis, preparation of lesson plans, learning support by the use of supplementary tools, and monitoring-support system, are tried out and set | 1-1-1 Executing guidelines is developed<br>1-1-2 The measures to improve students' learning achievement which has been introduced by PEEQ are adopted by the MENFPESRS.<br>1-2-1 The effectiveness of the project intervention for improving students' learning achievement is confirmed by means of diagnostic test executed under PEEQ. | Project Monitoring Sheet<br>Prerequisite evaluation's report<br><br>Diagnostic test | There is no significant change in the organizational structure of MENFPESRS and AREF except for the new territorial division. |

<sup>1</sup> It is composed of administration of the prerequisite tests, utilization of the results of school project.

<sup>2</sup> The target value will be fixed through planning of the dissemination of PEEQ activity.

|  |  |   |  |
|--|--|---|--|
|  | <p>(Target value: the percentage of the students with a score less than 20/100 decrease by half.)</p> <p>1-2-2 The “rate of mastery of basic calculation skills<sup>3</sup>” reaches 85% or more for the students over 4<sup>th</sup> grade in the target primary schools of the PEEQ diagnostic test 2016.</p> <p>1-3-1 In 80% of the project target schools or more, a workshop for the improvement of education<sup>4</sup> by the use of the diagnostic test results is carried out.</p> <p>1-3-2 The planned measures for education improvement are implemented in 80% or more of the schools where the above-mentioned workshop has been carried out.</p> <p>1-4-1 Execution of diagnostic test (prerequisite test) and utilization of its results in teachers’ teaching practices takes part in the subjects of regular monitoring and support that pedagogical inspectors carry out at school.</p> <p>1-4-2 The above mentioned monitoring is carried out at least once a year through an inspector’s school visit to every project target school.</p> | <p>Quiz</p> <p>Questionnaire</p> <p>Inspectors monitoring report to the Direction Provinciale</p> <p>Inspectors monitoring report to the Direction Provinciale</p> <p>Inspectors monitoring report to the Direction Provinciale</p> |  |
| 2. School management mechanism to promote activities aiming at mitigating disparities in access to and quality of education is tried out and set | <p>2-1 All the planned activities for the improvement of school enrolment and learning achievement are carried out in at least 90% of school projects under the contract for PEEQ’s grant provision (PEEQ Axis).</p> <p>2-2 A manual of school project implementation<sup>5</sup> is shared, as a MENFPESRS’s official</p>   | <p>Report of school submitted to the Direction Provinciale</p> <p>Project Monitoring Sheet</p>  |  |

<sup>3</sup> Measured as percentage score in short tests on addition of two 1-digit numbers (up to “9 + 9”), subtraction of a 1-digit number from 18 or less with a difference of 1-digit number (up to “18 – 9”), and multiplication of two 1-digit numbers (up to “9 x 9”)

<sup>4</sup> The “improvement of education”, as defined here, involves writing improved lesson plans and developing a plan to use the supplementary learning materials. An improved lesson plan should include effective measures to facilitate students’ understanding of the difficult points for them that the teachers have recognized on the basis of the analysis of the diagnostic test results. The plan to use the supplementary learning materials should determine how to use the PEEQ’s learning materials, according to the user’s manual provided with them, in order to remedy the students’ difficulties.

<sup>5</sup> The manual of school project implementation will contain good practices of schooling improvement activities and enhancement of teaching on the basis of the diagnostic test results as well as guidance for planning and implementation of the activities.

|   |   |  |  |
|---|---|--|--|
|   | <p>document, by all the primary and lower secondary schools within the project target school areas (i.e. project target schools).</p> <p>2-3-1 90% of headmasters or more of the project target schools receive training on school management.</p> <p>2-3-2 At 90% of schools or more of which the headmasters have received training on school management, an annual action plan (school project) to improve the quality of and the access to education is developed.</p> <p>2-3-3 At 70% of schools or more in which the above mentioned annual action plan has been developed, the objectives are achieved by reference to the plan.</p>                                     | <p>Project Monitoring Sheet</p> <p>Action Plan of school submitted to the Direction Provinciale</p> <p>Report of school submitted to the Direction Provinciale</p>                     |  |
| 3. AREF is ready to continue the measures, and MENFPESRS is ready to disseminate the measures to other Regions.   | <p>3-1 The plan is developed by AREF and MENFPESRS.</p> <p>3-2 A dissemination team of the project is organized in every region.</p> <p>3-3 The dissemination process of the project is implemented in all regions.</p>   | <p>Replication Plan</p> <p>Project Monitoring Sheet</p> <p>Project Monitoring Sheet</p>  |  |
| <p><u>Activities:</u><br/>(Exploration and diagnosis)</p> <p>1-1 Study current practice of student assessment at school, Direction Provinciale, AREF and MENFPESRS</p> <p>1-2 Identify lower secondary schools and their affiliated primary schools (bassins scolaires) that need interventions to narrow its gap in student achievement.</p> <p>(Information)</p> <p>1-3 Japanese experts conduct learning/briefing session for MENFPESRS/AREF/CRMEF/ Direction Provinciale personnel</p> <p>1-4 MENFPESRS personnel facilitate learning/briefing session for AREF/CRMEF/Direction Provinciale</p> <p>(Development)</p> <p>1-5 MENFPESRS/AREF in collaboration analyze test result to identify the knowledge and skills that students have difficulty in acquiring and its reasons, with a focus on basic academic skill of students</p> <p>1-6 Devise and try-out intervention to restore basic academic skill of students (e.g. supplementary learning materials)</p> <p>1-7 MENFPESRS/AREF in collaboration synthesize effective pedagogical approach/technique to improve student learning</p> | <p><u>Inputs:</u></p> <p>1. Moroccan side:</p> <p>(1) Office space at MENFPESRS and facilities necessary such as desks, chairs, office equipment, cabinet for the Project (for Moroccan counterparts and Japanese experts).</p> <p>(2) Assignment of counterpart personnel (including Project Director, Manager, Coordinator) and other key counterparts</p> <p>(3) Necessary budget for the 2 main components of the Project (including school grant for equity component from Round 3 onward)</p> <p>(4) Administrative cost for smooth implementation of the Project (such as, CP staff's salary, allowance, transportation fee, and running cost of the Project office)</p> | <p>There is no policy change in inspector's role.</p> <p>Preconditions:<br/>The general principle of Moroccan education strategy and "Strategic Vision 2015-2030" does not change.</p> |  |

6

|  |   |  |
|--|---|--|
| <p>(On-the-spot Guidance)</p> <p>1-8 Inspector in charge introduce the approaches/techniques as a part of their routine inspection work</p> <p>1-9 Japanese experts conduct training for the inspectors and CRMEF trainers</p> <p>1-10 The trained inspectors and CRMEF trainers conduct training for teachers with support of Japanese experts</p> <p>1-11 Teachers at the identified schools revise and implement lesson plan accordingly</p> <p>(Monitoring)</p> <p>1-12 Inspectors in charge report the progress at its routine meeting</p><br><p>2-1 Study current practice concerning improvement of school management at the national, regional, provincial and local levels</p> <p>2-2 Identify lower secondary schools and their affiliated primary schools (bassins scolaires) that need interventions to deal with challenges in terms of student learning achievement and internal efficiency of education (especially, primary-secondary transition and girls' schooling)</p> <p>2-3 Carry out survey on current activities concerning education improvement in the selected lower secondary schools and its affiliated primary schools (bassins scolaires)</p> <p>2-4 Develop tools and mechanism appropriate for strengthening the planning, implementation and monitoring of school project at the AREF, Direction Provinciale and school levels</p> <p>2-5 Hold orientation workshop for the identified lower secondary schools and its affiliated primary schools to develop and improve school project</p> <p>2-5 The schools propose school project with a special consideration on the improvement of students' learning and their dropout risk mitigation</p> <p>2-6 Provide grant to implement the school project</p> <p>2-7 The schools implement the school project</p> <p>2-8 AREF /Direction Provinciale monitor and evaluate implementation</p> <p>2-9 Publish a report on the good practices and organize meetings for the stakeholders in order to share the activities carried out by the schools with PEEQ's assistance</p><br><p>3-1 AREF develops dissemination plan within the region</p> <p>3-2 MENFPESRS develops nationwide dissemination plan</p> <p>3-3 Japanese experts support MENFPESRS and AREF to prepare their budget to finance PEEQ activities</p> <p>3-4 Conduct workshop inviting a wider stakeholders</p> | <p>2. <u>Japanese side:</u></p> <p>(1) Dispatch of experts (in the field of Assessment, Lesson Improvement, and School Management), and others as necessity arises</p> <p>(2) Training of counterpart personnel in Japan</p> <p>(3) Provision of office equipment and materials</p> <p>(4) Expenses of Project activities</p> |  |
|--|---|--|

## 添付資料11

### 合同調整委員会（第1回～8回）議事録



**PROCES VERBAL DE LA PREMIERE REUNION DU  
COMITE CONJONT DE COORDINATION DU  
PROJET D'AMELIORATION DE L'EDUCATION AVEC  
EQUITE ET QUALITE**


**Convenue entre  
Le Comité Chargé du Projet  
et  
L'Equipe d'experts de la JICA**

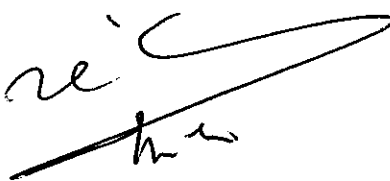
**Date:** Le jeudi 4 décembre 2014

**Lieu:** Ministère de l'éducation  
nationale et de la formation  
professionnelle, Rabat

Pour l'équipe d'expert de la JICA

Pour le Comité chargé du Projet

  
M. Hiroshi OKUKAWA  
Chef de l'équipe

  
M. Abdelhak GHOULI  
Chef du projet



A l'occasion de la première réunion du Comité Conjoint de Coordination (ci-après appelée CCC) tenue le 4 décembre 2014 à Rabat, l'équipe d'experts de l'Agence japonaise de Coopération internationale (ci-après appelée JICA) a entretenu une série de discussion avec les autorités concernées du Royaume du Maroc dans le cadre du Projet d'amélioration de l'éducation avec équité et qualité.

Suite à ces discussions, l'équipe d'experts de la JICA et les autorités Marocaines concernées ont convenues des points suivants :

- (1) Le cadre de référence y compris la matrice de conception du projet et le plan opérationnel a été approuvé sous-réserve que les points suivants soient ultérieurement révisés.
  - i. Ajouter une explication concernant la relation entre la politique marocaine vis-à-vis de l'éducation et le Projet PEEQ dans la partie contexte du projet.
  - ii. Modifier l'expression de l'objectif global pour qu'elle explicite plus l'efficacité pour l'éducation.
- (2) Le lancement du Projet a été officiellement déclaré.

## Compte-rendu de la réunion

M. EL Hayani déclare le début de la réunion du CCC .

Voici en résumé les points et interventions des différents membres.

**M. EL Hayani:** Exprime ses salutations et la bienvenue à tous les participants. Voici les remarques en résumé de M. EL Hayani après avoir assisté à la présentation des grandes lignes du projet :

- Nous avons dû fournir beaucoup d'effort pour pourvoir débiter ce projet, et le cadre amicale et collaboratif qui l'entoure est très prometteur pour la réussite du projet.
- Point "alerte" ou "crainte" à garder à l'esprit, c'est de ne pas se concentrer trop sur les actions opérationnelles, vu que ce sont des activités de pilotage pour être fidèle au maximum au schéma de gouvernance.
- Nous avons discuté pas mal de points lors de notre atelier au sujet du cadre de référence et nous retrouvons nos idées bien intégré dans le document. Donc, c'est très bien.
- Je remarque que le projet est en parfait alignement avec la vision du ministère, ce qui est très positif.

**M. SHOJI Koichi:** Exprime sa gratitude envers le gouvernement marocain pour la coopération dans le secteur de l'éducation qui a duré bien plus de 10 ans, et aussi son espoir dans le succès de cette coopération. M. SHOJI a partagé aussi ses sentiments de solidarité envers les villes sinistrés suite aux inondations qu'ont connues quelques villes du royaume récemment. Les remarques relevées par M. SHOJI sont comme suit:

- Le projet PEEQ reflète une décennie d'expérience dans le secteur éducatif, et je mets l'accent sur le point que cette coopération sera plus portée au volet technique et aussi financier.
- Je remercie la partie marocaine pour la confiance qu'elle nous réserve.
- Le point le plus important à garder en tête, c'est la pérennisation par la partie marocaine. Donc, c'est un grand défi ou un arrangement étape par étape est essentiel de la partie marocaine pour le partager au futur et pérenniser les résultats de ce projet.

**M. OKUKAWA Hiroshi:** Exprime sa joie d'avoir l'occasion de présenter le travail effectué jusqu'à ce jour là. Puis, une présentation globale est effectuée sur les grandes lignes du projet qui a intégré les idées et opinions des participants lors de l'atelier du mois d'octobre pour la préparation du cadre de référence avec la présence des membres du CCP. Les explications suivantes sont ajoutées lors de la présentation:

- L'objectif global dans le cadre d'un projet de la JICA exprime le résultat souhaité après l'exécution du projet et non pas durant le projet. En contraste avec le but du projet qui définit ce qui doit être atteint lors de l'exécution du projet.

- Basé sur le résultat des premières phases pilotes on discutera la dissémination du projet vers d'autres régions.
- Le choix des BS cibles a été fait sur la base des indicateurs qui ont été discutés lors de la réunion à la région en octobre.

**M. NABIL Ali:**

- Pas de remarque particulière sauf que nous avons bien fait de dire qu'on a besoin de cadre de référence. Nous avons des critères d'évaluation, de choix des délégations, etc. Le document va nous permettre de travailler en de meilleures conditions.
- Limiter l'objectif global à la dissémination, c'est un peu réducteur, car la dissémination est un processus au sein du projet que le ministère va effectuer. Je propose de formuler cet objectif autrement: par exemple, la promotion de la qualité de l'éducation.

**Mme LHABIB Hind:**

- C'était un plaisir d'avoir travaillé sur les indicateurs émanant du système MASAR. Aujourd'hui, nous travaillons sur de nouveaux indicateurs pour l'évaluation des apprentissages. Donc, j'espère qu'on pourra créer un point de liaison, voire une capitalisation entre ce travail et les efforts qui vont être effectués par les experts japonais.

**M. LAOUINA Mohamed:**

- J'étais content de voir les collègues désignés être choisis car c'est vrai il y'a moins de qualité et d'équité.
- Autre point, on va collaborer ensemble autour de l'abandon scolaire. Et le combat de l'équité est une bataille de longue haleine car les disparités sont importantes.

**M. CHOUKRI Naji:**

- Je vous remercie pour l'effort que vous avez fait notamment pour réaliser cette synergie d'efforts entre les acteurs centraux, régionaux et même provinciaux.
- Remarque concernant le point d'améliorer la relation collège-primaire du projet: J'ai déjà travaillé lors du projet BAJ sur la région Souss-Massa-Drâa, et cela avait beaucoup impacté le niveau d'apprentissage au niveau collège et lycée. Donc, il faut creuser plus dans ce sens là. C'est juste pour exprimer que je me retrouve bien dans ce cadre de référence.

## **M. BELQASEM Youssef:**

M. BELQASIM Youssef: Le Secrétaire Générale a remercié le travail qui a été effectué, et l'importance donnée au projet. Voici les points particulièrement importants qu'il a relevés:

- Aujourd'hui, c'est claire qu'on a bien avancé à un certain degré au niveau de l'accès mais nous devons prendre plus d'importance au problème d'équité surtout au niveau de la différence entre l'urbain et le rurale.
- Je reviens sur les paroles de M. HAYANI car l'esprit du projet actuel, c'est que nous voulons exécuter ce projet avec la finalité de dissémination par la suite. Et puisqu'il est important de démarrer à partir de l'école, de l'établissement, je vois que ce projet est en parfait alignement avec le cœur de cette idée.
- L'amélioration de la qualité de l'éducation n'est pas un choix d'un département ou du ministère seulement, c'est un choix de la nation et plus encore c'est le choix de SM le Roi Mohamed 6 qui a évoqué ce point important lors de ses discours.
- Il est très important de dessiner les limites des responsabilités à chaque niveau : notre responsabilité au niveau centrale est d'amorcer le projet dans les meilleures conditions et par la suite réaliser la dissémination au niveau national. Pour la délégation, sa responsabilité est la réussite au niveau provincial, et pour l'AREF ce sera la réussite au niveau régionale.
- Au ministère, nous préparons un projet de nouvelle vision 2030, et nous voulons mettre en œuvre les mesures prioritaires avant cette vision. Donc avant bien le déploiement de la vision 2030, c'est claire que les objectifs du projet sont en alignement. Mais, il y'a un effort à faire au niveau de la formulation pour mettre en évidence cette alignement.
- Même si cela sort du périmètre du projet, il faut prendre en considération, lorsqu'on parle d'abandon scolaire, qu'il y'a des enfants qui quittent l'école pour partir vers la formation professionnelle.
- Ce projet s'inscrit dans le choix de la nation qui est de la régionalisation, et comme l'a évoqué M. NAJI et M. HAYANI, la finalité est d'appliquer les efforts qui vont se faire aujourd'hui sur les délégations cibles tout en gardant à l'esprit que d'ici 4 ans ces efforts doivent être poursuivis. Donc, il faut construire les choses dans le sens de pouvoir dire: « Voilà. Nous avons fait les choses comme ça pour une bonne raison. »
- Je déclare officiellement le lancement du projet.

La réunion s'est terminée avec la validation du cadre de référence sous réserve d'y introduire les propositions discutées. Ainsi, Monsieur le secrétaire général déclare le lancement officiel du projet PEEQ.

### Liste des participants présents:

|                            |  |
|----------------------------|--|
| M. BELQASEM Youssef:       | Secrétaire Général                                     |
| M. SHOJI Koichi:           | Représentant Résident de la JICA                       |
| M. EL HAYANI Abdelhaq:     | Directeur du projet, Directeur de la DSSP              |
| Mme BENLHABIB Hind:        | Directeur de la DSI                                    |
| M. EL AZHARI Youssef:      | Directeur du CNIPE et de l'UCFC                        |
| M. NABIL Ali:              | Directeur de la DAGBP                                  |
| M. CHOUKRI Naji:           | Directeur de l'AREF Doukkala Abda                      |
| M. LAOUNA Mohamed:         | Directeur de l'AREF Chouia Ourdigha                    |
| M. GHOULI Abdelhaq:        | Chef du projet, Chef de division à la DSSP             |
| M. EL AMRANI Rachid:       | Chef de division à la DC                               |
| M. EL MAZOUNI Nourdine:    | Chef de division au CNIPE                              |
| M. ESSALIH Mohamed Cherif: | Chef de division à la DAGBP                            |
| M. BENZOUINA Abdeljalil    | Chef de service à la DAGBP                             |
| M. EL IRAQI Bouhaira:      | Chef de Service à la DSSP                              |
| M. HLIMI Charaf eddine:    | Point focal Chaouia Ourdigha, Chef du CRDAPP           |
| M. MARJOUA Mohamed:        | Point focal Doukkala Abda, Chef de Service, AREF       |
| M. MAHROUG Ahmed:          | Chargé du dossier de la JICA à la DSSP                 |
| Mme SAKAMOTO Noriko:       | Adjointe au Représentant Résident, JICA Maroc          |
| Mme BENHADDOU Ouidad:      | Chargée de programmes, JICA Maroc                      |
| M. OKUKAWA Hiroshi:        | Chef de l'équipe d'experts JICA                        |
| M. KUSAKA Satoshi:         | Expert JICA / Développement du matériel<br>pédagogique |
| Mme SHIMIZU Mayu:          | Expert JICA /Gestion de l'école                        |
| Mme KHATIBI Soumaya:       | Assistante Projet PEEQ                                 |
| Mme IGARASHI Chie:         | Assistante Projet PEEQ                                 |
| M. FATHI Oussama:          | Assistant Projet PEEQ                                  |

**PROCES VERBAL DE LA DEUXIEME REUNION DU  
COMITE CONJOINT DE COORDINATION DU  
PROJET D'AMELIORATION DE L'EDUCATION AVEC  
EQUITE ET QUALITE**

**Convenu entre  
Le Comité Chargé du Projet  
et  
L'Equipe d'experts de la JICA**

**Date:** Le mardi 30 juin 2015

**Lieu:** Ministère de l'éducation  
nationale et de la formation  
professionnelle, Rabat

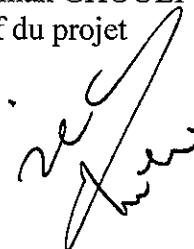
Pour l'équipe d'expert de la JICA

Pour le Comité chargé du Projet

M. Hiroshi OKUKAWA  
Chef de l'équipe



M. Abdelhak GHOULI  
Chef du projet



A l'occasion de la deuxième réunion du Comité de Coordination Conjoint (CCC) tenue le 30 Juin au siège du Ministère de l'Education Nationale et de la Formation Professionnelle à Rabat, des discussions très approfondies ont eu lieu entre les représentants de la JICA, l'équipe d'experts et les autorités concernées du Ministère suite à la présentation par l'équipe du projet du Bilan de réalisation de la première année du projet et le plan d'action de l'année scolaire 2015/2016.

Après ces discussions, les parties prenantes ont toutes convenus les points suivants :

- (1) Les activités réalisées dans le cadre de la première année du projet PEEQ sont approuvées.
- (2) Le plan d'action de l'année scolaire 2015/2016 est approuvé et peut démarrer dès le 1<sup>er</sup> septembre 2015.

## **Compte rendu de la réunion**

A la date et à l'heure ci-dessus indiqué **M. EL HAYANI** déclare l'ouverture de la réunion du CCC. **M. EL HAYANI** a souhaité la bienvenue à tous les participants, a remercié tous les intervenants, pour leur disponibilité et leurs efforts en vue de la réussite de ce projet : « Projet d'amélioration de l'Education avec Equité et Qualité ».

**M. SHOJI** s'est félicité de la coopération technique de la JICA avec le gouvernement du Maroc et a remercié à son tour tous les participants à la concrétisation de ce projet qui a connu une parfaite et étroite collaboration entre les experts JICA et ceux du ministère y compris les responsables, les cadres, les inspecteurs, et les enseignants.

**M. EL HAYANI** a ensuite rappelé l'ordre du jour du présent 2<sup>ème</sup> CCC à savoir :

- Partager le bilan des activités réalisées dans le cadre du PEEQ depuis la première réunion du CCC en décembre 2014
- Partager ensemble les prochaines étapes du projet PEEQ.
- Etudier la possibilité de présenter les résultats obtenus à l'autorité supérieure du ministère.

**M. OKUKAWA** a pris la parole et a remercié tout le personnel du ministère ayant collaboré à la réalisation de ce projet, il a ensuite procédé à un exposé détaillé donnant d'une manière exhaustive l'ensemble des activités réalisés depuis le premier CCC du 4 décembre 2014 ainsi que le plan d'action de l'année scolaire 2015/2016.

**M. EL HAYANI**, après cet exposé du Chef de l'équipe d'experts, a félicité au nom des membres du CCC les experts de la JICA et le personnel concerné du ministère pour les efforts déployés pour aboutir à ce résultat exceptionnel. Ensuite il a ouvert le débat.

**M. NABIL** a exprimé son entière satisfaction du travail élaboré par les différentes équipes du projet. Il a apprécié : « La présentation est excellente sur la forme, et sur le fond. Le projet est sur la bonne voie. »

**M. CHAIBI** ayant assuré le parfait management du côté marocain des activités de l'analyse des erreurs et du développement du matériel didactique, il a de son côté félicité les experts japonais et les participants à ce travail. **M. Chaibi** a souhaité de passer rapidement à l'exploitation du résultat des études réalisées.

L'approche de l'évaluation des apprentissages adoptée dans ce projet constitue aujourd'hui la meilleure méthode pour le développement de l'apprentissage.

**M. GHOULI** a pris la parole pour préciser que les instructions ministérielles relatives au projet d'établissement sont scrupuleusement respectées et sans confusion. Il a souligné : « Il y'a un et un seul projet d'établissement et le projet PEEQ ne prend en charge que certaines activités de ce Projet d'Etablissement. Ces activités sont uniquement rassemblées dans ce qu'on a appelé sous-projet. »

**M. MAHFOUDI** a salué de son côté l'équipe du projet pour le travail accompli en constatant que toutes les actions prévues initialement sont réalisés. Il a fait les



suggestions suivantes :

- L'analyse des erreurs doit être faite dans les deux sens, à la fois pour les élèves et pour les enseignants. Prévoir un manuel ou termes de référence pour instaurer cette démarche d'analyse d'erreur dans les établissements.
- Pour la composante accès, M. MAHFOUDI a insisté pour la prise en compte aussi de l'indicateur des non-inscrits dans la planification de certaines activités de ce projet.

**M. EL HAYANI** a soulevé la question de validation du rapport de l'analyse d'erreur en précisant que toutes les dispositions nécessaires seront prises à cet effet dans les plus brefs délais pour accélérer son partage avec ses destinataires. Il a ensuite demandé de se pencher rapidement dans la préparation de la formalisation des outils pour la pérennisation et généralisation des résultats positifs obtenues.

**M. OKUKAWA** a pris la parole pour donner quelques précisions notamment :

- Le rapport d'analyse d'erreur doit être partagé rapidement avec les enseignants.
- Le recueil d'exercices élaboré à tester à la rentrée scolaire constitue l'un des remèdes qui doit être utilisé d'une manière efficace. Au Japon par exemple on consacre les 10 premières minutes aux exercices chaque matin.
- Le processus d'analyse d'erreur par les enseignants n'est pas une tâche ponctuelle. Il doit être engagé tout au long de l'année.
- Les activités des projets d'établissement à prendre en charge par le projet PEEQ ont été longuement discutés sur le terrain avec la participation de l'expert japonais M. HORI qui a bien expliqué que les activités en question ont été ciblées dans l'objectif de développer les capacités d'apprentissages des élèves. Des réunions ont été tenues avec les délégations et les AREF qui ont partagé cette démarche.

**M. SHOJI** a précisé que la méthode de l'analyse d'erreur pour développer la réussite a fait l'objet d'expérience ayant donné d'excellents résultats au Japon. Concernant l'encouragement de la scolarité de la fille, le fait d'appeler les parents des filles et les responsables du village (par exemple) à l'école, leur expliquer qu'avec la scolarisation, les filles vont apprendre aussi comment nourrir et protéger leur famille dans de bonnes conditions sanitaires et comment participer au développement communautaire constitue une action de grande importance.

Il a expliqué que les activités du genre de jardinage, élaboration du journal de l'école etc. ont été pratiqués au Japon dans le but de développer les bonnes pratiques et le bon comportement chez les élèves.

M. Shoji a proposé l'organisation d'un concours de bonnes pratiques pour les valoriser et en tirer profit car il a constaté à travers le réseau des volontaires japonais au Maroc qu'elles existent.

**M. EL HAYANI** a donc rappelé la nécessité de la validation rapide du rapport de

l'analyse d'erreur et réfléchir comment introduire les actions de ce rapport dans les mesures prioritaires du Ministère que va connaître la prochaine rentrée scolaire. Il a ensuite fait les propositions suivantes :

- Faire une présentation des travaux réalisés par le projet PEEQ à l'attention de Monsieur le Ministre et Monsieur le Secrétaire Générale pour profiter de leurs orientations.
- Développer les outils pour la formalisation et la pérennisation.
- Organiser une formation au profit des enseignants.

**M. SHOJI** est favorable aux propositions ci-dessus. Notamment, il a exprimé sa volonté au nom de la JICA Maroc de se préparer pour la réunion avec Monsieur le Ministre.

**M. OKUKAWA** a précisé le besoin de développer les outils pour la pérennisation ; des termes de références (TDR) pour l'évaluation diagnostique seront élaborés d'ici fin juillet 2015.

Concernant la formation des enseignants, il a souligné que le ministère accorde une importance particulière à la formation continue et que, par conséquent, les actions de formations prévues par le PEEQ doivent s'inscrire bien dans les orientations ministérielles.

**M. EL HAYANI** a conclu sur les points retenus suivants :

- Réalisation des préparatifs pour la réunion avec Monsieur le Ministre et Monsieur le Secrétaire Générale.
- Les termes de référence (TDR) pour la pérennisation vers fin juillet 2015.
- La formation des enseignants fera objet de discussions ultérieurs mais avec engagement de parfaite collaboration.

**Liste des participants présents:**

|                            |   |
|----------------------------|---|
| M. EL HAYANI Abdelhaq      | Directeur du projet, Directeur de la DSSP     |
| M. SHOJI Koichi            | Représentant Résident de la JICA              |
| M. NABIL Ali               | Directeur de la DAGBP                         |
| M. GHOULI Abdelhaq         | Chef du projet, Chef de division à la DSSP    |
| M. EL AMRANI Rachid        | Chef de division à la DC                      |
| M. ESSALIH Mohamed Cherif  | Chef de division à la DAGBP                   |
| M. MAGHRAOUI Mohamed Amine | Chef de division à la DCP                     |
| M. BENZOUINA Abdeljalil    | Chef de service à la DAGBP                    |
| M. EL IRAQI Bouhaira       | Chef de Service à la DSSP                     |
| M. MAHFOUDI Elhassane      | Chef de service à la DENF                     |
| M. NAIL Youssef            | Chef de service à la DSI                      |
| M. MAHROUG Ahmed           | Chargé du dossier de la JICA à la DSSP        |
| M. AGOURRAM Driss          | Cadre au CNIPE                                |
| Mme SAKAMOTO Noriko        | Adjointe au Représentant Résident, JICA Maroc |
| Mme BENHADDOU Ouidad       | Chargée de programmes, JICA Maroc             |
| M. OKUKAWA Hiroshi         | Chef de l'équipe d'experts JICA               |
| M. AIT KHABBA Ali          | Coordonnateur Projet PEEQ                     |
| Mme KHATIBI Soumaya        | Assistante Projet PEEQ                        |
| M. FATHI Oussama           | Assistant Projet PEEQ                         |
| M. BEN YOUSSEF Abdeljalil  | Assistant Projet PEEQ                         |


**MINUTES OF MEETING  
BETWEEN  
THE AUTHORITIES CONCERNED OF THE KINGDOM OF  
MOROCCO / MINISTRY OF NATIONAL EDUCATION AND VOCATIONAL  
TRAINING  
AND  
JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY  
ON  
THE JAPANESE TECHNICAL COOPERATION  
FOR  
PROMOTING EDUCATION WITH EQUITY AND QUALITY (PEEQ)**

The Project Consultation Team (hereinafter referred to as “the Team”), organized by Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as “JICA”) and headed by Mr. TANAKA Shinichiro, visited the Moroccan authorities concerned / Ministry of National Education and Vocational Training (MENFP), Kingdom of Morocco from 29 September to 7 October 2015 in order to share information of progresses and challenges in the first year of the Technical Cooperation Project for “Promoting Education with Equity and Quality (PEEQ)” (hereinafter referred to as “the Project”) and discussed necessary measures to be taken by both sides for ensuring expected outcomes and further expansion of the targeted Regions. The contents of the Minutes are based on the Minister’s orientations set during the meeting held on 2 October 2015.

During its stay in Morocco, the Team exchanged views on the Project in terms of sustainability of activities and firm steps that bring quality learning for pupils/students and had a series of discussions with Moroccan authorities concerned including MENFP Directorates, AREF, Delegations listed in the Annex (hereinafter referred to as “the Moroccan side”).

Result of the discussions between both the Moroccan side and the Team are attached hereto.

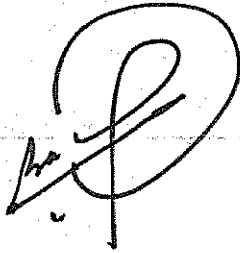
English text is authentic but French translation is attached as a reference. In case of any divergence of interpretation, the English text shall prevail.



Rabat, 7 October, 2015

---

Mr. EL HAYANI Abdelhaq  
Director of Strategy, Statistics and  
Planning,  
Ministry of National Education and  
Vocational Training  
Kingdom of Morocco



---

Mr. TANAKA Shinichiro  
Team Leader,  
Project Consultation Team  
Japan International Cooperation Agency  
Japan



**Annex1: List of Attendance**

**Annex2: Note from the meeting with the Minister on 2 October 2015**

**Annex3: List of provinces in the target AREFs**

A handwritten mark consisting of a vertical line on the left, a horizontal line extending to the right, and a diagonal line extending upwards and to the right from the end of the horizontal line.A handwritten mark consisting of a vertical line on the left, a horizontal line extending to the right, and a diagonal line extending downwards and to the right from the end of the horizontal line.

## **I. MAIN POINTS DISCUSSED**

### **(1) Objective of the Mission**

The mission was dispatched to share the information of progresses in the first year of the PEEQ Project (hereinafter referred to as the Project), and to identify and discuss issues to be addressed and measures to be taken in the remaining period of the Project. It was worthwhile for both sides to have this opportunity before the Project proceeds to its second Round that covers four Regions starting from February 2016.

### **(2) Progresses in the 1<sup>st</sup> year of the Project**

Both sides shared information on the progresses in the first year of the Project. The Project has made favorable progress so far. The details are as follows;

#### **(Quality Component)**

Both sides stated that the Project had achieved amazing outcomes within the first year especially in terms of revising and developing diagnostic assessments. Based on error analysis in light of the diagnostic assessments, learning materials were developed and teacher trainings were tried out.

#### **(Equity Component)**

Activities have been planned to create pupils' willingness to learn such as self-esteem development before the provision of the PEEQ school grant. Attention has been paid to how to promote students' transition from primary to secondary schools with special emphasis on female students since female students in rural areas are most disadvantaged.

### **(3) Conclusions from the Meeting with Minister on 2 October 2015**

Information on the progresses was shared by DSSP, concerned Directorates and the Team with the Minister of National Education and Vocational Training on the 2<sup>nd</sup> October. Both parties agreed the following points;

- MENFP organizes a workshop on application of developed materials for inspectors and teachers with contribution from Japanese experts
- Elaboration and experimentation of pedagogical materials including collective remediation tools is needed.

Details of discussion at the meeting are available in the attached document.

### **(4) Challenges and issues to be considered**

#### **1. Preparation of expansion to other six AREFs**

- It was agreed that expansion to other AREFs is not an easy task and it is necessary to manage the Project in an anticipatory manner throughout the Round 1 and 2.



- It was agreed on the assignment of dedicated personnel, two from MENFP (one planning, one pedagogy) in addition to Project Director and Project Manager for more efficient communication and sharing of expertise between Japanese experts and Moroccan counterpart personnel as well as for more direct involvement of MENFP in the Project at the field level. Also it was agreed that two dedicated personnel (one planning, one pedagogy) from each targeted AREF, to which the targeted Delegations are attached, should be assigned for the smooth Project implementation.
- It was agreed that solid platform of stakeholders at the regional, provincial and school level is crucial for successful implementation of the Project. Thus, clear assignment of responsibilities for stakeholders is necessary.

## **2. Need of more intensive work at the AREF level**

The Project should spend adequate time on implementing activities related to both Quality and Equity component, with AREF, Delegation and schools in the Round 1. With outcomes in the Round 1 confirmed, expansion to the Round 2 and onward could be successful. Quality component that aims at improving children's learning outcomes is crucial. The developed diagnostic assessments and error analysis reports are vital resources in this regard. However, the Project will need more intensive and strategic work at the AREF, Delegation and school level in order to bring learning outcomes of children, especially those with learning difficulty. Swift start of activities at the AREF, Delegation, and school level using developed materials in the Round 1 is required as effectiveness of the Project's approach and products should be verified on the field.

## **3. Maximize alignment between the MENFP's "Priority Measures 2015-2018" and the Project activities**

It was confirmed that the "Strategic Vision of the Reform 2015-2030", as an overarching policy that aims at mitigating disparities shows the policy direction for the Project. It was agreed that the alignment between the MENFP's "Priority Measures 2015-2018" should be maximized in terms of policy priority and budget allocation. Especially, Measure 1: curriculum review for the first four years at the primary level, Measure 2: passing average grade between the cycles and grades, Measure 15: close support and training by action, and Measure 17: management of schools, in the "Priority Measures 2015-2018", are firmly linked with the Project activities. Thus, the MENFP reaffirmed that the Project is putting these policy directions into practice. Both sides confirmed that necessary budget should be allocated on specific activities (providing expertise, organizing seminars, developing and printing materials related to the Project activities, providing training in Japan) by JICA in the Round 1 and 2, and those in the Round 3 and onward will be borne by MENFP. However, it was agreed that





MENFP is responsible for transportation and per diem for MENFP personnel in the framework of the Project. The MENFP agreed to start budget preparation for FY2017 starting from July 2016 and FY2018 starting from July 2017.

#### 4. Target areas for the Project

The list below shows the Target Regions in the Project according to the old territorial boundary. As target areas of the Round 2 and onward, two Provinces of each old Region will be selected by June 2016 (See list of Provinces in Annex3).

##### Round 1 and 2

- 1) Chaouia Ourdigha
- 2) Doukala Abda
- 3) Gharb Chrarda Beni Hssen
- 4) Marrakech Tensift Al Haouz

##### Round 3 onward

- 5) Taza Al Hoceima Taounate
- 6) Oriental
- 7) Tadla Azilal
- 8) Sous Massa Draa

#### 5. Necessary modification at the Project Design Matrix

##### (Project purpose)

The Project Purpose is that MENFP is able to support initiatives of AREF to mitigate educational disparity. Its verifiable indicator is the "framework" of MENFP's support for AREF is prepared. It is important to define and decompose what means the framework of MENFP's support for AREF because clarity of indicator is crucial when monitor and evaluate the Project. As it is expected for AREF to implement initiatives to mitigate educational disparity in terms of both quality and equity, it is necessary for AREF to gather and analyze data for the successful implementation to mitigate educational disparities within its territory.

##### (Setting target values in the verifiable indicators of the PDM)

The Project is meant to achieve specific outcomes and project goals within a certain period. Thus, setting target values in the verifiable indicators of the Project Design Matrix (PDM) is important to allow stakeholders to benchmark the status of the Project indicators with its targets. It was agreed initially that these targets should be set by March 2017; however taking into account that the middle point of the Project duration is September 2016, it was agreed that both baseline and target values should be jointly set by the Moroccan side and Japanese experts before June 2016 using baseline data including learning assessment and reflection from field-level practices.

**6. Effective linkage between Loan Project with the Technical Cooperation Project**

The Project is well aligned with the Basic Education Sector Loan Project in terms of providing successful models that put policy intention and implementation into practice for the Development Policy Lending Component of the Loan Project. The Project is expected to have synergy effects with school construction Component of the Loan Project as targeted AREF will support newly constructed schools using the PEEQ Project's experience.

**7. Need to develop a clear Road map**

It was agreed that a clear roadmap for the Round 1,2 and 3 to put points raised in this Minutes into practice should be developed by the end of 2015 in collaboration of MENFP and Japanese experts.



**ANNEX1: List of Attendance**

**THE MOROCCAN SIDE**

Ministry of National Education and Vocational Training

Mr. BENMOKHTAR BENABDELLAH Rachid, Minister

Mr. BELQASMI Youssef, Secretary General

Mr. FATMI Abdessamad, Advisor

**Directorate of Strategy, Statistics and Planning**

Mr. EL HAYANI Abdelhaq, Director, Project Director

Mr. GHOULI Abdelhak, Chief of Division, Project Manager

Mr. MAHROUG Ahmed, Chief of Unit, Project Coordinator

Mr. FIKRI Taoufiq, Researcher

**National Center of Pedagogical Innovation and Experimentation (CNIPE)**

Mr. ELMAZOUNI Nouridine, Chief of Division

Mr. AGOURRAM Driss, Administrator

**Central Unit of Staff Training (UCFC)**

Mr. DOUHID El Mofaddal, Chief of Division

Mr. ALOUZAD Abdelkrim, Chief of Service

**National Center of Evaluation, Examinations and Orientation (CNEEO)**

Mr. SASSI Mohammed, Director

Mr. CHAIBI Ahmed, Chief of Division

Ms. KACH Hafida, Chief of Service

**Directorate in Charge of Technical Education and School Life**

Mr. ELAATMI Rachid, National Coordinator of School Project

**Directorate of Curricula**

Mr. CHAFIQI Fouad, Director

**Directorate of Non-formal education**

Mr. MAHFOUDI Elhassane, Chief of Service,

**Directorate of Information system**

Mr. RGHIQUI Abderraouf, General Engineer



Directorate of General Affairs and Budget

Ms. ARCHANE Dalila, Officer

Directorate of Communication

Mr. ELMATINI Omar, Chief of PR Service

Chaouia-Ourdigha AREF

Mr. LAAOUINA Mohamed, Director, AREF

Mr. HLIMI Charaf Eddine, Chief, CRDAPP, Regional Project Coordinator, AREF

Mr. DARQAOUI Abdelali, Chief of Service, AREF

Mr. MOUNADDIME Abdelilah, Chief de Service, Provincial Project Coordinator, Settlat Delegation

Mr. HAOUATE Rahal, Chief de Service, Provincial Project Coordinator, Berrechid Delegation

Mr. AIT M'BARK, Omar, Inspector, Settlat Delegation

Mr. CHEGDAL Abdelhadi, Inspector, Berrechid Delegation

Mr. FELLAOUI Mohammed, Inspector, Settlat Delegation

CRMEF Chaouia-Ourdigha

Mr. BENKACHCHA Said, Director

Hassan I Lower Secondary School

Mr ZAHIR Bouchaib, Headmaster

Lekhrawaa Primary School

Mr. NECHCHAD Abelkbir, Headmaster

**THE JAPANESE SIDE**

JICA Project Consultation Team

Mr. TANAKA Shinichiro, Senior Advisor, JICA

Mr. SHIBUYA Kazuro, Deputy Director, Basic Education Division II, Human Development Department, JICA

JICA Morocco Office

Mr. WAKABAYASHI Motoharu, Deputy Resident Representative

Mr. KIDO Takehiro, Assistant Resident Representative

Ms. SAKAMOTO Noriko, Assistant Resident Representative

Ms. BENHADDOU Ouidad, Programme Officer

JICA PEEQ experts

Mr. OKUKAWA Hiroshi, Chief Advisor

Ms. OTA Miho, Expert in girls' education



57



## Note Projet

**Projet de Coopération Technique avec la JICA  
(Promoting Education with Equity and Quality « PEEQ »)  
Programme d'Appui au Secteur de l'Éducation de Base  
(Basic Education Sector Support Project « BESSP »)**

### Options à proposer et Mise en alerte

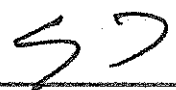
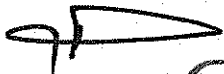
Suite à la réunion avec Monsieur le Ministre de l'Éducation Nationale et de la Formation Professionnelle, tenue le vendredi 02 octobre au siège du Ministère avec les experts japonais chargés de l'implantation du projet « PEEQ », un ensemble d'options de réajustement et de points de mise en alerte ont été évoqués, à savoir :

#### A. Options de réajustement proposées par le MENFP

1. Expérimentation et élaboration d'instruments de remédiation collective.
2. Prévoir dans le plan d'actions le renforcement des capacités des enseignants et des inspecteurs.
3. Programmer l'organisation des ateliers de travail sur les matériaux pédagogiques des inspecteurs des mathématiques du cycle primaire.
4. Importance des outils de travail pour les enseignants et les inspecteurs dans la mise en œuvre de la pédagogie basée sur l'analyse d'erreurs.
5. Mettre en place un plan d'actions d'alignement des activités du projet « PEEQ » avec les quatre mesures prioritaires 2015-2018 : 1/ Nouveau cursus pour les quatre premières années du primaire, 2/ Seuils de passage entre cycles, 15/ Encadrement de proximité et formation par l'action et 17/ Management des écoles.
6. Intégration de la marge de manœuvre des enseignants dans le dispositif du projet « PEEQ » et dans l'accompagnement des enseignants et des inspecteurs.
7. Implication d'un groupe restreint d'inspecteurs et d'enseignants dans le développement des solutions adéquates basée sur le dispositif du projet « PEEQ ».

## **B. Mise en alerte**

- 1. Ambition « PEEQ » est très élevée.**
- 2. Gérer la passerelle entre les deux composantes du projet « PEEQ », équité et qualité.**
- 3. Insuffisance des examens en tant que source de qualité et efficacité.**
- 4. Importance de l'approche d'analyse des erreurs.**
- 5. Les instruments ne sont pas suffisant à eux seuls.**
- 6. Priorité est accordée à l'accompagnement des AREF, des délégations, des établissements et des enseignants en particulier pour intégrer l'estime de soi.**



## ANNEX 3

## List of the provinces in the target AREFs

| 1         | Chaouia - Ourdigha             | Benslimane           |
|-----------|--------------------------------|----------------------|
|           |                                | Khouribga            |
|           |                                | Settat               |
|           |                                | Berrechid            |
|           | Doukala - Abda                 | El Jadida            |
|           |                                | Safi                 |
|           |                                | Sidi Bennour         |
|           |                                | Youssofia            |
| 2         | Gharb - Chrarda - Beni Hssen   | Kenitra              |
|           |                                | Sidi Kacem           |
|           |                                | Sidi Slimane         |
|           | Marrakech - Tensift - Al Haouz | Al Haouz             |
|           |                                | Chichaoua            |
|           |                                | El Kelaa Des Sraghna |
|           |                                | Essaouira            |
|           |                                | Marrakech            |
|           |                                | Rehamna              |
|           |                                |                      |
| 3 & 4     | Taza - Al Hoceima -Taounate    | Al Houceima          |
|           |                                | Taounate             |
|           |                                | Taza                 |
|           |                                | Guercif              |
|           | L'Oriental                     | Berkane              |
|           |                                | Figuig               |
|           |                                | Jerada               |
|           |                                | Nador                |
|           |                                | Oujda Angad          |
|           |                                | Taurirt              |
|           |                                | Driouch              |
|           | Tadla - Azilal                 | Azilal               |
|           |                                | Beni Mellal          |
|           |                                | Fkih ben Salah       |
|           | Sous-Massa-Draa                | Agadir Ida Outanane  |
|           |                                | Chtouka Alt Baha     |
|           |                                | Inzegane Alt Melloul |
|           |                                | Ouarzazate           |
|           |                                | Taroudant            |
|           |                                | Tiznit               |
| Zagoura   |                                |                      |
| Sidi Ifni |                                |                      |
| Tinghir   |                                |                      |



3\$0866

02 NOV 2016

**A**

**Monsieur le représentant résident  
du bureau de la JICA au MAROC**

**Objet :** Projet de coopération technique : Promotion de l'Éducation avec Équité et Qualité (PEEQ).

Monsieur,

Dans le cadre du projet de coopération technique cité en objet ci-dessus et suite à la deuxième mission consultative autour du projet qui a eu lieu entre le 13 et le 21 octobre 2016, j'ai l'honneur de vous transmettre ci-joint une copie signée du PV de cette mission.

Veuillez agréer, Monsieur, l'expression de ma haute considération.

Le Directeur de la Stratégie  
des Statistiques et de la Planification

Signé : Abdelhaq EL HAYANI

**JICA MAROC**

|      |                  |
|------|------------------|
| Réf  | 170/2016_510     |
| Date | 4 Nov. 2016      |
| File | MR -41<br>(PEEQ) |

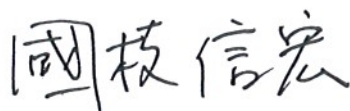


**PROCÈS-VERBAL DE LA RÉUNION**  
**ENTRE**  
**LES AUTORITÉS COMPÉTENTES DU ROYAUME DU MAROC /**  
**MINISTÈRE DE L'ÉDUCATION NATIONALE ET**  
**DE LA FORMATION PROFESSIONNELLE**  
**ET**  
**L'AGENCE JAPONAISE DE COOPERATION INTERNATIONALE**  
**SUR**  
**LA COOPÉRATION TECHNIQUE JAPONAISE**  
**POUR**  
**LE PROJET D'AMÉLIORATION DE L'ÉDUCATION AVEC ÉQUITÉ ET QUALITÉ**

L'équipe de mission de la consultation (ci-après dénommée « l'Equipe ») dirigée par M. Nobuhiro KUNIEDA, Conseiller principal à la JICA en éducation de base, a rendu visite aux autorités marocaines compétentes/Ministère de l'Education Nationale et de la Formation Professionnelle (ci-après dénommé « le Ministère » ou « MENFP ») au Royaume Maroc, du 12 au 22 octobre 2016. L'équipe a tenu une série de rencontre avec les autorités compétentes aux fins d'examiner l'état d'avancement des activités du projet, intitulé « Le Projet d'Amélioration de l'Education avec Equité et Qualité » (ci-après dénommé « Projet » ou « PEEQ »).

L'Equipe a tenu une série de discussions avec les responsables concernés du Gouvernement du Royaume du Maroc et effectué une visite de terrain dans la zone du Projet. Au cours des discussions, les deux parties ont consenti les principaux points décrits dans les pièces jointes.

Rabat, 21 octobre, 2016



---

M. Nobuhiro KUNIEDA  
Chef de l'équipe de mission de consultation  
Agence Japonaise de Coopération  
Internationale  
Japon



---

M. Youssef BELQASMI  
Secrétaire Général  
Ministère de l'Education Nationale et de la  
Formation Professionnelle  
Royaume du Maroc

## APPENDICE

### 1. Objectif du projet à la lumière de la politique de l'éducation du Royaume du Maroc et la stratégie relatif au projet

#### (1) Position du projet dans la politique du MENFP

L'objectif du projet, tel que définie dans la Cadre Logique du Projet, est que le MENFP appuie les initiatives de l'Académie Régionale de l'Education et de la formation (ci-après dénommé « AREF») visant à atténuer la disparité en matière d'éducation. Le projet est censé contribuer à la réalisation des objectifs prévus dans la "Vision Stratégique de la Réforme 2015-2030" du Royaume du Maroc, en promouvant l'éducation avec équité et qualité et en atténuant les disparités. Le Projet se positionne également parmi les « mesures prioritaires 2015-2018 », mises en place par le Gouvernement du Royaume du Maroc dans le cadre de la Vision, notamment en tant que faisant partie de la mesure n° 2, seuil de passage entre cycles, la mesure n° 15, accompagnement et formation par l'action, et de la mesure n° 17, Management des écoles.

#### (2) Désignation de « l'Accompagnateur »

En vue d'atténuer les disparités en matière d'éducation, le MENFP est en train d'expérimenter la mise en place de « l'accompagnateur » parmi des enseignants, en réduisant les nombres de tableaux de classe. « L'accompagnateur » est censé partager ses connaissances et expériences pédagogiques avec les autres enseignants. Le nombre d'accompagnateurs désignés dans les régions est décidé au niveau de chaque AREF, en tenant compte du taux d'un (1) "accompagnateur" pour chaque 20 enseignants, et les ressources humaines de l'AREF. Le MENFP, notamment le CNIPE, a déjà confirmé le nombre total de 200 "accompagnateurs" au cours de l'année 2016.

### 2. Avancement du projet par rapport à la mission de consultation en 2015

#### (1) Produits et résultats majeurs du Projet

Les deux parties ont confirmé que les produits suivants ont été développés dans le cadre des activités du Projet. L'information relative à chaque produit est citée en ANNEXE IV.

- Rapport du test diagnostique (analyse d'erreurs)
- Recueil d'expérience (Nombres et Calculs (1<sup>er</sup>-6<sup>e</sup>), Réponse de «Nombres et Calculs », Guide d'exploitation, Géométrie, Grandeurs et Mesures (1<sup>er</sup>-6<sup>e</sup>), Réponse de «Géométrie » et « Grandeurs et Mesures »)
- Test diagnostique (maths: 3<sup>e</sup> primaire, maths : 5<sup>e</sup> primaire, éveil scientifique : 5<sup>e</sup> primaire, maths 1<sup>er</sup> collège, Livret de correction, guide de passation)
- Manuel de procédure pour la subvention scolaire PEEQ

D

Les deux parties ont aussi confirmé que des formations, séminaires et ateliers ont été organisés dans le cadre du Projet comme listé en ANNEXE IV. En l'occurrence, le MENFP a organisé un atelier national au profit des inspecteurs et des enseignants en octobre 2015.

(2) Mesures prises par le MENFP suite aux recommandations du compte rendu en octobre 2015

a) Désignation de personnes dédiées du Projet

S'agissant des recommandations relatives à la désignation de personnes dédiées, « Désignation de fonctionnaires dédiés, deux du MENFP (un pour la planification et l'autre pour les aspects pédagogiques) en plus du directeur du Projet et du chef du Projet », le MENFP a désigné la personne chargée de la planification; mais l'autre chargée des aspects pédagogiques n'a pas encore été désignée officiellement.

Les deux parties avaient convenu en octobre 2015 : « Il sera procédé à la désignation de deux personnes dédiées (une pour la planification, l'autre pour les aspects pédagogiques) de chaque AREF cible, dont relève la délégation ciblée. » L'Equipe a mentionné qu'il est nécessaire de désigner la personne qui sera chargé des aspects pédagogiques au niveau régional.

b) Allocation budgétaire

Le MENFP et l'Equipe de la mission avaient convenu en octobre 2015 comme suit ;

- Les deux parties ont confirmé que le budget nécessaire devrait être alloué par la JICA pour la réalisation d'activités spécifiques (fourniture de l'expertise, organisation de séminaires, élaboration et impression de supports afférents aux activités du Projet, formation au Japon) du 1er et 2ème rounds, et celles du 3ème round, et ensuite le MENFP prendrait la relève.
- Le MENFP prendra en charge le transport et les allocations journalières pour le personnel du MENFP dans le cadre du Projet.
- Le MENFP lance la préparation du budget pour l'année fiscale 2017 à partir de juillet 2016, et l'année fiscale 2018 à partir de juillet 2017.

Comme stipulé dans compte rendu en octobre 2015, le MENFP s'occupe de frais de transport et per diem pour les personnels du MENFP dans le cadre du Projet.

### **3. Définition préliminaire des composantes du Projet**

Le Projet a expérimenté des activités au niveau d'une école, utilisant la subvention scolaire pour promouvoir l'équité en matière d'éducation dans le cadre de la « composante Equité ». Le Projet a également expérimenté des activités au niveau du district scolaire pour rehausser la qualité de l'éducation dans le cadre de la « composante Qualité ». Les deux composantes devraient servir à l'AREF/Direction

12

provinciale pour renforcer sa capacité à promouvoir l'équité et la qualité dans l'éducation à chaque région /province. Il est attendu de renforcer la capacité de l'AREF / Direction provinciale à collecter et analyser les données pédagogiques, identifier l'arrondissement scolaire cible pour intervention, mettre en œuvre des mesures pour promouvoir l'équité et la qualité dans l'éducation et les évaluer à travers la dissémination des activités du Projet.

#### (1) Composante Equité

L'objectif de la composante Equité est de permettre aux écoles d'identifier les facteurs internes responsables de l'abandon scolaire ou le redoublement, planifier et mettre en œuvre les activités avec les ressources y compris les subventions scolaires à même de contribuer à la résorption de ces facteurs. Les éléments de la composante Equité sont (i) la sélection des bassins scolaires cibles au niveau de l'AREF / la Direction provinciale, (ii) l'organisation d'activités au niveau de l'école, (iii) leur mise en œuvre par le biais de ressources y compris la subvention scolaire, et (iv) structure de suivi.

#### (2) Composante Qualité

L'objectif de la composante Qualité est de permettre aux enseignants d'identifier les domaines/points que les élèves ne comprennent pas bien en se basant sur leurs erreurs, d'organiser leurs cours sur la base des constatations et soutenir l'apprentissage des élèves par le biais d'outils de soutien, tels que les manuels scolaires. Les éléments de la composante Qualité sont (i) test diagnostique, (ii) les supports didactiques (manuels) et (iii) une structure de soutien pour les enseignants. Le composante Qualité vise à mettre en place un processus d'enseignement/apprentissage sous forme de flux : (i) évaluation diagnostique, (ii) analyse des résultats d'évaluation (analyse d'erreurs), (iii) encadrement didactique : l'amélioration du plan de leçon/ soutien scolaire, (iv) réalisation de la leçon / exploitation du matériel pédagogique supplémentaire, et (v) l'évaluation formative/ sommative.

### 4. Recommandations

Les deux parties ont convenu de faire les recommandations ci-dessous à l'Equipe du Projet. L'Equipe s'engage à les étudier et à prendre les mesures nécessaires.

#### (1) Amélioration du modèle des composantes « Equité » et « Qualité » en vue de sa dissémination

##### (a) Composante « Equité »

Le Projet a identifié les facteurs majeurs qui contribuent à l'abandon et au redoublement des élèves. Il s'agit, entre autres, des difficultés dans l'apprentissage qui ne sont pas efficacement identifiées par les enseignants et de l'insuffisance des mesures de soutien pour surmonter les difficultés. Il est aussi important d'identifier des facteurs socio-culturels qui empêchent les élèves de faire la transition de l'école primaire au collège. Les différents guides relatifs à cette composante pourraient être révisés afin de mieux

12

faciliter aux acteurs au niveau de l'école de faire l'état des lieux de l'école et d'identifier les causes de l'abandon ou du redoublement.

Il semble que, jusqu'à présent, les experts marocains et japonais ont joué un rôle important dans la mise en œuvre des activités pilotes. Cependant, il est important de renforcer l'implication des acteurs marocains dans la phase actuelle et de revoir la stratégie de la mise en œuvre notamment en matière de dissémination pour les prochaines phases (3 et 4). Il convient de renforcer le rôle des homologues marocains aux niveaux central, régional et provincial dans la formation, la préparation des documents nécessaires, et le suivi-accompagnement. L'organigramme provisoire des acteurs dans la mise en œuvre du Projet est proposé comme ANNEXE III.

(b) Composante « Qualité »

En ce qui concerne les activités de formation des enseignants relatives à la Composante « Qualité » les experts japonais ont formé les cadres pédagogiques le premier jour et les directeurs d'établissement/les enseignants le deuxième jour en collaboration avec les acteurs marocains. L'analyse des résultats du test diagnostique des écoles a été faite par les inspecteurs pédagogiques et les experts japonais au niveau central. Compte tenu du fait que le MENFP s'est engagé à disséminer le modèle du Projet dans les autres Académies aux Rounds 3 et 4, il est essentiel de se préparer à revoir la modalité selon les contraintes avec l'appui des experts japonais.

A cet effet, il est fortement recommandé de réviser la modalité de la mise en œuvre relative à la formation et au suivi-accompagnement aux niveaux central et déconcentré, les intrants et les contenus de la formation avec le soutien des experts japonais, et ce, en vue de la dissémination du modèle dans les autres Académies par le MENFP. L'organigramme provisoire des acteurs dans la mise en œuvre des activités est proposé en ANNEXE III. Il est aussi proposé de donner les conseils aux enseignants pour l'amélioration de leurs plans de leçon sur la base des résultats de l'analyse des erreurs.

En tenant compte de la stratégie du MENFP, il est pertinent de déployer des efforts pour l'amélioration du modèle de la composante « Qualité » sur les matières scientifiques avec un accent particulier sur les mathématiques.

(c) Evaluation de l'efficacité/l'efficience des composantes « Equité » / « Qualité » pour leur dissémination

Etant donné que de nombreuses activités ont été menées par le Projet et vu l'importance de la documentation sur les réalisations et les effets induits tels que l'amélioration des apprentissages des élèves, la réduction des cas d'abandon ou de redoublement dans les écoles cibles, il est donc recommandé de mener une évaluation de l'efficacité/l'efficience des composantes « Equité » / « Qualité » et d'élaborer

un rapport pour la dissémination du modèle du Projet dans les autres Académies. L'évaluation sera faite conjointement par les responsables du MENFP et les experts japonais.

(d) Partage d'informations

Il est recommandé d'exploiter les possibilités offertes par la technologie de l'information et de la communication (TIC) pour faciliter la dissémination du modèle du Projet.

**(2) Stratégie de la dissémination du modèle du Projet**

Le MENFP et les experts japonais vont travailler étroitement pour élaborer une stratégie de la dissémination du modèle du Projet, tout en étudiant sa faisabilité et les contraintes posées.

**(3) Révision du Cadre logique et du Plan d'opération du Projet**

(a) Révision du Cadre logique du Projet

L'indicateur d'évaluation pour le but de projet est « Le cadre d'appui du MENFP aux AREF est préparé ». Le cadre est défini comme l'ensemble des documents relatifs aux différentes activités du Projet qui facilitent la dissémination du modèle des composantes « Equité » et « Qualité » par les structures concernées du MENFP, y compris les AREF et les Directions provinciales. Les deux parties ont convenu de continuer la réflexion sur le contenu des différents documents du cadre selon les activités du Projet.

Il est proposé que les « Résultats 1 et 2 » sur le Cadre logique soient révisés comme suit. Le « Résultat 3 » ne sera pas changé du plan initial. Il est à noter qu'un dispositif commun de suivi-accompagnement sera mis en place pour les « Résultats 1 et 2 ».

1. Les mesures d'atténuation des disparités en termes de résultats de l'apprentissage, composées principalement du test diagnostique, de l'analyse d'erreurs, de l'élaboration des plans de leçon, du soutien scolaire en utilisant les outils supplémentaires, et du dispositif de suivi-accompagnement, sont expérimentées et adoptées.
2. Le dispositif de mise en œuvre du Projet d'Etablissement, notamment les productions d'outils, le renforcement des capacités et le suivi-accompagnement des différents acteurs, pour atténuer les disparités en termes d'accès et de qualité, est expérimenté et adopté.

La modalité de révision du Cadre logique sera finalisée entre le Bureau de la JICA au Maroc et le MENFP sur la base du Procès-Verbal des discussions issu de cette mission de consultation.

(b) Plan d'opération

D

Le Projet compte démarrer les activités du Round 3 en février 2017 en dehors des zones pilotes. Cependant, comme mentionné ci-dessus, il est proposé d'améliorer le modèle du Projet avant de procéder à la dissémination. Il sera donc nécessaire de revoir le calendrier du processus de dissémination.

#### **(4) Désignation des personnes dédiées du Projet**

Il est recommandé au MENFP à travers une lettre formelle de désigner un inspecteur pédagogique en matières scientifiques en tant que membre du Comité chargé du Projet et de désigner un responsable chargé de l'aspect pédagogique au niveau régional.

#### **(5) Calendrier provisoire du Projet pour l'année scolaire 2016-2017 sous la responsabilité conjointe des experts japonais et acteurs marocains**

- Revue et modification de la modalité/structure de la mise en œuvre, du contenu et du focus des différentes sessions de formation des composantes « Equité » / « Qualité » : avant la fin de décembre 2016
- Désignation des responsables pédagogiques aux niveaux central et régional : avant la fin de décembre 2016
- Tenue du Comité conjoint de coordination, révision du Cadre logique, du Plan d'opération et éventuellement du Procès-verbal (au besoin) : avant la fin de janvier 2017
- Révision des différents modules de formation: avant la fin de février 2017
- Formation supplémentaire (si nécessaire) : avant la fin de mars 2017
- Evaluation de l'efficacité/l'efficience des composantes « Equité » / « Qualité » : avant la fin d'août 2017
- Revue et modification de la stratégie de dissémination: avant la fin de septembre 2017

FIN

|            |   |
|------------|---|
| ANNEXE I   | Organigramme du MENFP   |
| ANNEXE II  | Schémas conceptuels des deux composantes du PEEQ                                  |
| ANNEXE III | Organigramme provisoire pour la dissémination des activités du PEEQ               |
| ANNEXE IV  | Liste des sessions de formation et des documents relatifs aux activités du Projet |

12

# Organigramme du Ministère de l'Éducation Nationale et de la Formation Professionnelle

**Ministre - Ministre délégué**

**L'Inspection Générale d'Éducation et de Formation:**

- Inspecteur Général chargé des Affaires Administratives
- Inspecteur Général chargé des Affaires Pédagogiques

**Secrétaire Général**

**Direction de l'Évaluation, de l'Organisation de la Vie Scolaire & des Formations Communes inter-Académies**

**Direction des curricula**

**Centre National des Innovations Pédagogiques & de l'Expérimentation**

**Direction de la Promotion du Sport Scolaire & de l'Organisation des Compétitions Sportives Scolaires**

**Direction de la Stratégie, des Statistiques & de la Planification**

**Direction du Système d'Information**

**Direction des Affaires Juridiques & du Contentieux**

**Direction des Affaires Générales du Budget & du Patrimoine**

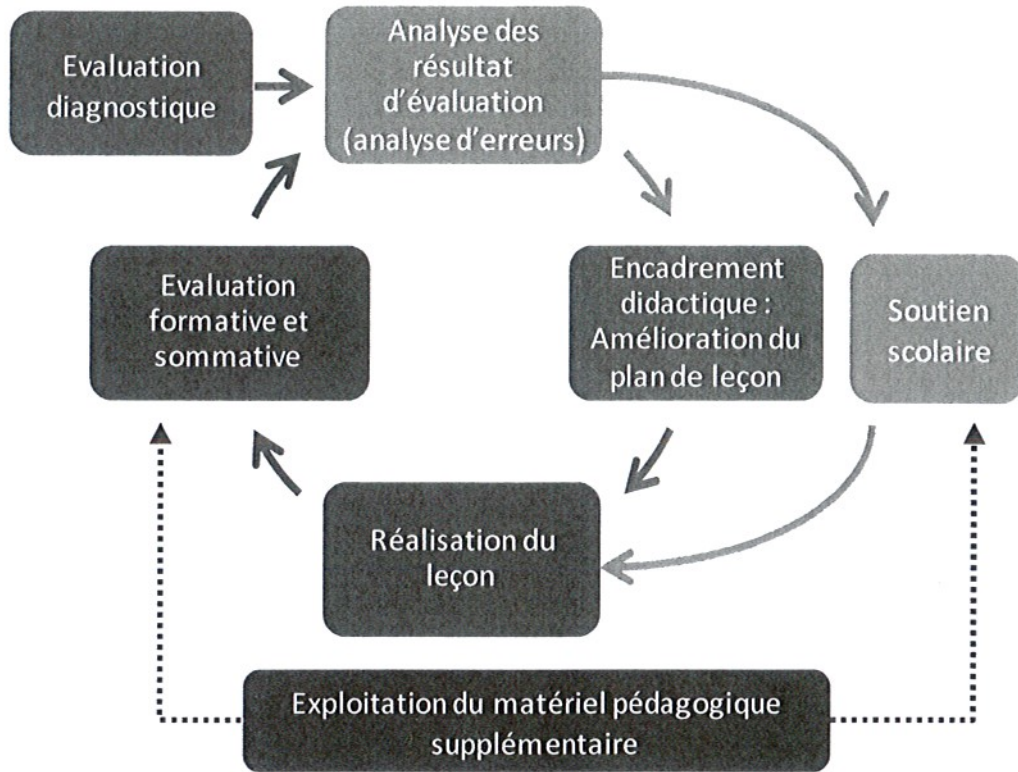
**Direction des Ressources Humaines & de la Formation des Cadres**

**Direction de la Coopération & de la Promotion de l'Enseignement Scolaire Privé**

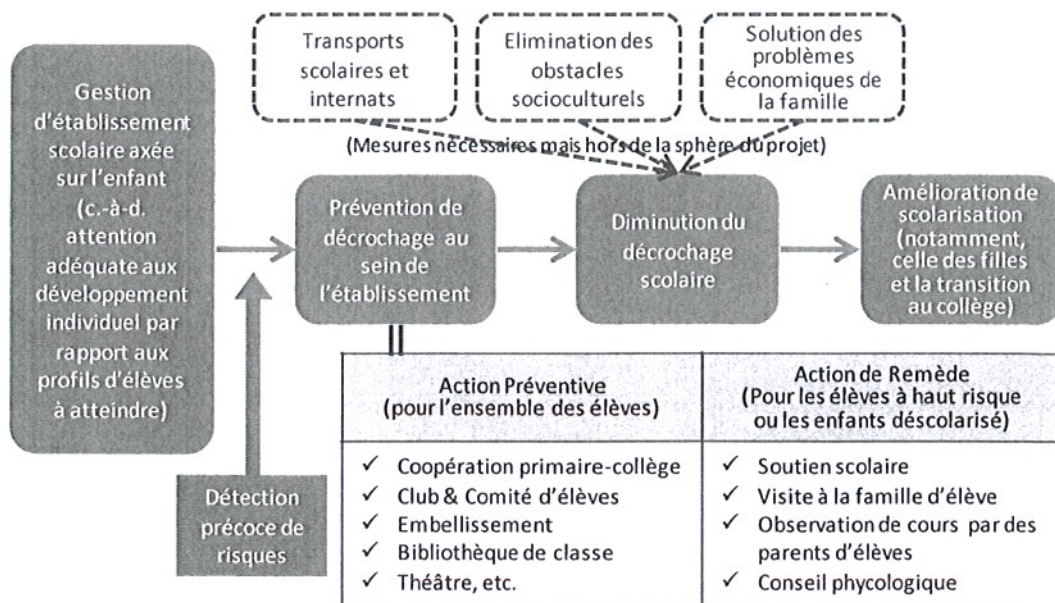
**Division de la Communication**



### Schémas conceptuels des Deux Composantes du PEEQ



« Composante Qualité »

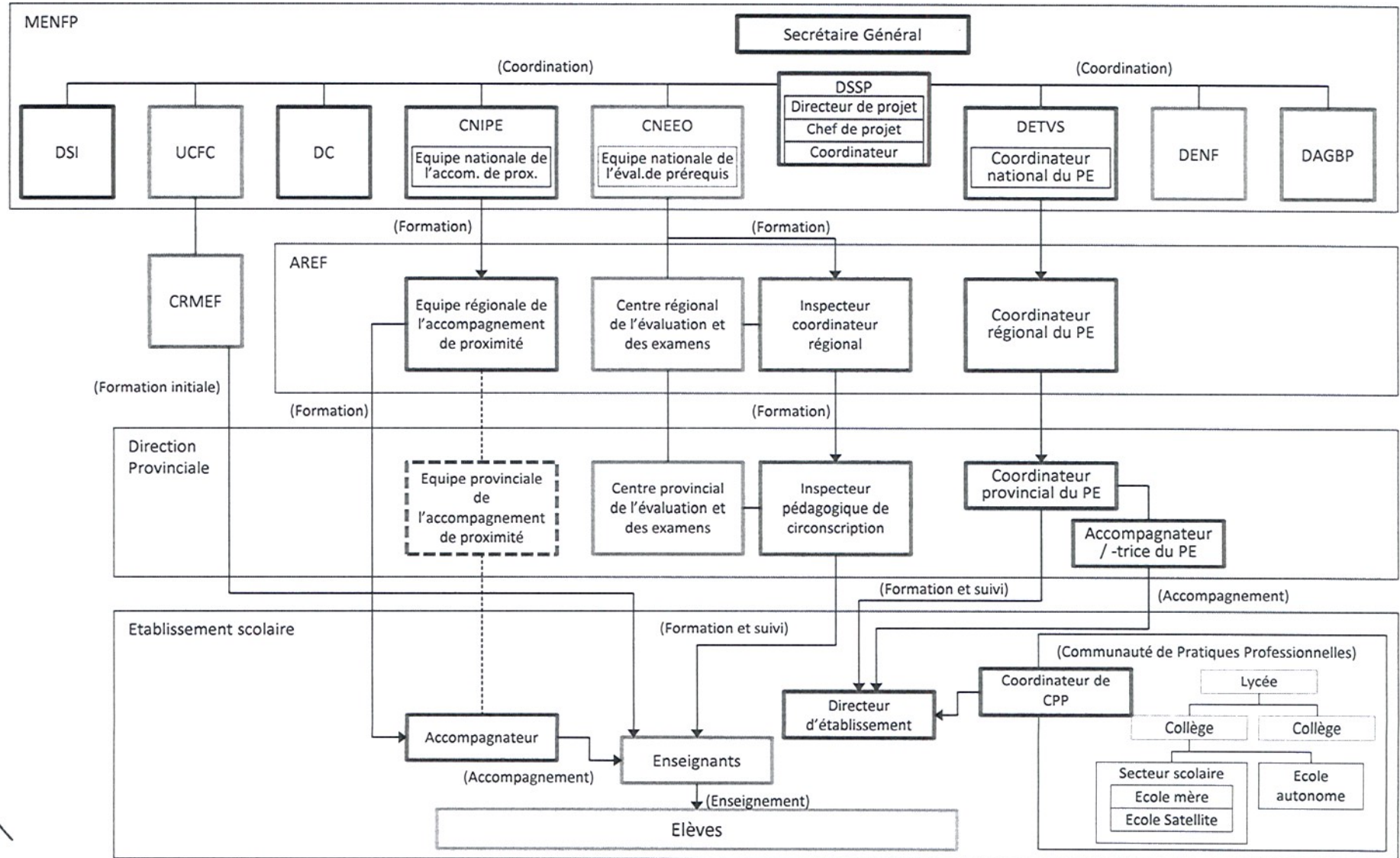


« Composante Équité »

12

12

# Organigramme provisoire pour la dissémination des activités du PEEQ



*[Signature]*

## Liste des formations, des séminaires et des ateliers menés dans le Projet

ANNEXE IV

| Activité  | Durée et Période                               | Formateur/facilitateur (position et organisation)                          | Cibles (Participants à la formation)           | Lieu                |
|---|--|--|--|---------------------|
| « Activités relatives à l'évaluation diagnostique »                                     |  |  |  |                     |
| Atelier pour le développement du test diagnostique                                      | 7 jours (21-23 et 27-30/01/2015)               | KUSAKA Satoshi (Développement du matériel pédagogique (maths et sciences)) | Inspecteurs pédagogiques affectés par le CNEEO | Rabat               |
| Atelier pour l'analyse d'erreurs sur les résultats du test diagnostique                 | 4 jours (06-09/04/2015)                        | KUSAKA Satoshi (Développement du matériel pédagogique (maths et sciences)) | 16 inspecteurs                                 | Rabat               |
| Atelier pour le développement du test diagnostique                                      | 5 jours (07-11/03/2016)                        | SATO Akira (Évaluation éducationnelle), KOZAI Takeshi, KUSAKA Satoshi      | 10 inspecteurs et administrateurs              | Rabat               |
| Atelier pour la finalisation du test diagnostique                                       | 2 jours (01-02/06/2016)                        | KUSAKA Satoshi (Développement du matériel pédagogique (maths et sciences)) | 10 inspecteurs et administrateurs              | Rabat               |
| « Activités relatives au développement du matériel pédagogique »                        |  |  |  |                     |
| Atelier pour l'analyse du curriculum  | 2 ateliers de 2 jours (13-14 et 15-16/01/2015) | KUSAKA Satoshi (Développement du matériel pédagogique (maths et sciences)) | Inspecteurs pédagogiques                       | Settat<br>El Jadida |
| Atelier pour le développement du matériel pédagogique supplémentaire                    | 2 jours (28-29/04/2015)                        | KUSAKA Satoshi (Développement du matériel pédagogique (maths et sciences)) | 7 inspecteurs                                  | Rabat               |
| Atelier pour le développement du matériel pédagogique supplémentaire (réunion de suivi) | 2 jours (12-13/05/2015)                        | KUSAKA Satoshi (Développement du matériel pédagogique (maths et sciences)) | 3 inspecteurs                                  | Rabat               |
| Atelier pour le développement du matériel pédagogique supplémentaire                    | 4 jours (19-20 et 27-28/11/2015)               | KUSAKA Satoshi (Développement du matériel pédagogique (maths et sciences)) | Inspecteurs et administrateurs                 | Rabat               |
| Atelier pour la finalisation du matériel pédagogique supplémentaire                     | 5 jours (21-25/03/2016)                        | KUSAKA Satoshi (Développement du matériel pédagogique (maths et sciences)) | 5 inspecteurs et administrateurs               | Rabat               |

12

| « Activités relatives à l'encadrement pour les personnes ressources pédagogiques »        |   |   |  |  |
|---|---|---|--|--|
| Atelier de formation pour les inspecteurs et les formateurs du CRMEF                      | 2 atelier d'un jour (11 et 16/02/2015)                    | KOZAI Takeshi (Developpement du matériel pédagogique (maths et sciences))                   | 17 inspecteurs, formateurs du CRMEF et cordinateurs du projet                    | Settat<br>El Jadida                              |
| Atelier pour la préparation des sessions de formation des enseignants                     | 2 réunion d'un jour (12 et 19/10/2015)                    | KOZAI Takeshi (Developpement du matériel pédagogique (maths et sciences))                   | 16 inspecteurs et administrateurs  | Settat<br>El Jadida                              |
| Atelier pour la préparation des sessions de formation des enseignants                     | 2 réunion d'un jour (29/02 et 14/03/2015)                 | KOZAI Takeshi et KISAKA Satoshi (Developpement du matériel pédagogique (maths et sciences)) | 26 inspecteurs et administrateurs  | Settat<br>El Jadida                              |
| « Activités relatives à l'encadrement didactique pour les enseignants »                   |   |   |  |  |
| Formation pour des représentants des enseignants des établissements cibles du projet      | 3 formations de 2 jours (12-13, 17-18 et 19-20/02/2015)   | KOZAI Takeshi, KUSAKA Satoshi et instecteurs/formateurs encadrés                            | 157 enseignants, administrateurs et membres de l'associations de parents d'élève | Settat<br>El Jadida<br>Sidi Bennour              |
| Formation des enseignants pour amélioration de l'enseignement (mathématiques)             | 4 séances de 2 jours (13-14, 16-17, 20-21, 22-23/10/2015) | KOZAI Takeshi, KUSAKA Satoshi et instecteurs/formateurs encadrés                            | 110 enseignants  | Settat<br>Berrechid<br>El Jadida<br>Sidi Bennour |
| Atelier national pour l'amélioration de l'enseignement basé sur l'évaluation diagnostique | 2 jours (21-22/10/2015)                                   | KOZAI Takeshi (Developpement du matériel pédagogique (maths et sciences))                   | 48 enseignant et inspecteurs   | Rabat  |
| Formation des enseignants pour amélioration de l'enseignement (sciences)                  | 4 séances de 2 jours (01-02, 03-04, 15-16, 17-18/03/2016) | KOZAI Takeshi, KUSAKA Satoshi et instecteurs/formateurs encadrés                            | 163 enseignant et administrateurs  | Settat<br>Berrechid<br>El Jadida<br>Sidi Bennour |

12

| « Activités relatives à la Composante Equité »  |   |  |   |  |
|---|---|--|---|--|
| Atelier pour la planification des activités "accès" du PEEQ   | 8 ateliers d'un jour (16-19 et 23-26/02/2015) | SHIMIZU Mayu (Gestion de l'établissement scolaire)   | 246 directeurs d'établissement, surveillants et enseignants | Settat<br>Berrechid<br>El Jadida<br>Sidi Bennour |
| Accompagnement de proximité pour la planification des activités de l'Axe PEEQ du projet d'établissement                     | 9 jours (25-29/05 et 01-03/06/2015)           | HORI Yoshihiro (Gestion de l'établissement scolaire) et OTA Miho (Education des filles)          | Directeurs d'établissement et enseignants                   | Settat<br>Berrechid<br>El Jadida<br>Sidi Bennour |
| Accompagnement de proximité pour la planification et la mise en œuvre des activités de l'Axe PEEQ du projet d'établissement | 8 jours (20-23 et 26-29/10/2015)              | HORI Yoshihiro (Gestion de l'établissement scolaire)   | Directeurs d'établissement et enseignants                   | Settat<br>Berrechid<br>El Jadida<br>Sidi Bennour |
| Atelier 1 de la Composante Equité   | 2 ateliers d'un jour (23 et 29/02/2016)       | HORI Yoshihiro (Gestion de l'établissement scolaire)   | 24 directeurs d'établissement et                            | Settat<br>El Jadida                              |
| Atelier 2 de la Composante Equité   | 1 jour (26/04/2016)                           | HORI Yoshihiro (Gestion de l'établissement scolaire) et TERAOKA Ryosuke (Gestion de sous-projet) | 23 directeurs d'établissement et enseignants                | Casablanca                                       |
| Atelier pour la préparation de la planification de la Composante Equité   | 3 ateliers d'un jour (21, 26 et 29/09/2016)   | HORI Yoshihiro (Gestion de l'établissement scolaire) et TERAOKA Ryosuke (Gestion de sous-projet) | 37 coordinateurs et accompagnateurs                         | Casablanca<br>Marrakech<br>Kenitra               |
| Atelier 3 de la Composante Equité   | 4 ateliers d'un jour (22, 27, 28, 30)         | HORI Yoshihiro (Gestion de l'établissement scolaire) et TERAOKA Ryosuke (Gestion de sous-projet) | 83 directeurs d'établissement et enseignants                | Marrakech<br>Settat<br>El Jadida<br>Kenitra      |

12

| « Autres activités »  |                             |                                |                                       |                              |
|---|-----------------------------|--------------------------------|---------------------------------------|------------------------------|
| Atelier pour la préparation du Cadre de référence                     | 2 jours (21-22/10/2014)     | Experts de l'équipe de la JICA | 12 membres du Comité Chargé du Projet | Rabat                        |
| Atelier pour le développement des questionnaires sur l'état des lieux | 1 jour (14/11/2014)         | Experts de l'équipe de la JICA | Inspecteurs pédagogiques              | El Jadida                    |
| 1er stage de formation au Japon                                       | 15 jours (23/01-06/02/2016) |                                | 12 partenaires du projet              | Tokyo<br>Kanazawa            |
| Visite de la délégation ministérielle au Japon                        | 7 jours (16-22/04/2016)     |                                | 5 reponsables du MENFP                | Tokyo<br>Chiba               |
| 2e stage de formation au Japon  | 15 jours (14-28/05/2016)    |                                | 14 partenaires du projet              | Tokyo<br>Kochi, Kami, Naruto |

Liste du matériel développé dans le cadre du Projet

| Titre du matériel                                     |  | Objectif de l'exploitation / Utilisateur du matériel   | Organisation chargée du renouvellement et de la révision des contenus    | Distribution (zones, temps, moyen)   |
|---|--|--|--|--|
| Rapport du test diagnostique 2015 (analyse d'erreurs) |  | Destiné aux inspecteurs et enseignants pour leur faciliter l'amélioration de l'enseignement en considération des lacunes des élèves  | Centre National de d'évaluation, des examens et de l'orientation (CNEEO) | Settat, Berrechid, El Jadida Sidibennour dans la formation des enseignants, et 8 régions convoquées à l'Atelier national en octobre 2015   |
| Recueil d'exercices                                   | Nombres et Calculs : Addition et soustraction (1re - 6e)     | Faciliter l'assimilation de connaissances de base chez les élèves de l'enseignement primaire   | CNEEO  | Déjà distribués aux écoles primaires ciblées par le projet dans la Phase 1 (Settat, Berrechid, El Jadida Sidibennour) en février et mai 2016.<br>La distribution aux écoles pilotes dans la Phase 2 est programmée en novembre 2016. |
|   | Nombres et Calculs : Multiplication et division (2e - 6e)    |  |  |  |
|   | Nombres et Calculs : Nombres décimaux et fractions (4e - 6e) |  |  |  |
|   | Réponse de « Nombres et Calculs »                            |  |  |  |
|   | Guide d'exploitation   |  |  |  |
|   | Géométrie (1re - 6e)   |  |  |  |
|   | Grandeurs et Mesures (1re - 6e)                              |  |  |  |
| Réponse de « Géométrie » et «                         |  |  |  |  |
| Test diagnostique                                     | Maths : 3e primaire  | Identifier les lacunes d'apprentissage chez les élèves pour que les enseignants puissent améliorer leurs enseignement.   | CNEEO  | Après la première exécution en mars 2015, la deuxième opération sera réalisée en septembre et octobre 2016 aux 48 établissements scolaires.  |
|   | Maths : 5e primaire  |  |  |  |
|   | Eveil Scientifique : 5e primaire                             |  |  |  |
|   | Maths : 1er collège  |  |  |  |
|   | Livrets de correction  |  |  |  |
|   | Guide de passation   |  |  |  |
| Manuel de procédures pour la subvention scolaire PEEQ |  | Faire les établissements scolaires cibles du projet comprendre les procédures de la subvention pour la mise en œuvre des activités de l'Axe PEEQ du projet d'établissement | Equipe du projet   | A l'occasion de l'atelier pour la planification des activités  |



**Coopération Marocco-Japonaise  
Contrat de prêt MR-H1**

Programme d'Appui au Secteur de l'Éducation de Base « BESSP »  
Projet de Promotion de l'Éducation avec Équité et Qualité « PEEQ »

## **PV de la Réunion de Coordination**

**Unité de Gestion du Projet (UGP) – MR-H1  
Comité Conjoint de Coordination (CCC) – PEEQ  
-21 octobre 2016-**

### ❖ Lieu et date

- **Lieu :** Salle de réunion Bab-Rouah, siège central du MENFP, Rabat.
- **Date et heure :** Vendredi 21 octobre 2016 de 11h30 à 12h 40.

### ❖ Participants

✓ Côté MENFP

- Secrétaire Général du MENFP.
- **Niveau central :**
  - DSSP : Directeur et équipe chargée du dossier JICA.
  - DAGBP : Directeur.
  - D. Curricula : Directeur et représentant de la direction dans le comité chargé du projet « PEEQ ».
  - CNEEO : Représentant de la direction dans le comité chargé du projet « PEEQ ».
  - CNIPE/UCFC : Représentant de la direction dans le comité chargé du projet « PEEQ ».
  - DSI : Directrice et représentant de la direction dans le comité chargé du projet « PEEQ ».
  - DVS : Représentant de la direction dans le comité chargé du projet « PEEQ ».
  - DENF : Représentant de la direction dans le comité chargé du projet « PEEQ ».



## ▪ Niveau régional :

- Directeur de l'AREF de Rabat-Salé-Kénitra.
- Responsables du dossier 21 collèges avec internat au niveau des trois AREF : Casablanca-Settat, Marrakech-Safi et Rabat-Salé-Kénitra.
- Coordonnateurs régionaux du projet « PEEQ » au niveau des deux AREF : Marrakech-Safi et Rabat-Salé-Kénitra.

### ✓ Côté JICA

- Représentant résidant du bureau de la JICA au Maroc.
- Représentants de la JICA siège de Tokyo :
  - Mr. Nobuhiro Kuieda / Chef de mission, Conseiller supérieur de l'éducation de base.
  - Mr. Takao MARUYAMA/ Directeur adjoint, Département du Développement Humain JICA.
- Adjoint au représentant résidant du bureau de la JICA au Maroc.
- Chargée de programmes éducation du bureau de la JICA au Maroc.
- Expert-comptable et chargé de programmes du bureau de la JICA au Maroc.
- Équipe d'experts chargé de la mise en œuvre du projet « PEEQ ».

### ✓ Côté MEF

- Représentant de la Direction du Budget du Ministère de l'Économie et des Finances.

## ❖ Points débattus

- Avancement physique et financier du projet de construction des 21 collèges avec internat en milieu rural.
- État d'avancement du projet PEEQ et calendrier de ses réalisations futurs.
- Résultats de la 2ème mission consultative du projet « PEEQ ».
- Signature du PV de la mission consultative du siège de la JICA du 12 au 21 octobre 2016.

## ❖ Recommandations JICA

### ▪ **Projet de construction des 21 collèges avec internat en milieu rural :**

- Réunir les efforts pour achever et mettre en service les 12 collèges restants au titre de la rentrée scolaire 2017-2018.
- Réaffecter le reliquat dans de nouvelles opérations.
- Communiquer à la JICA le montant des engagements à venir.
- Comblent le gap en termes de décaissement d'ici mars 2017: soit un total de 450 millions de yen.

▪ **Projet de coopération technique « PEEQ » :**

- Améliorer le modèle des composantes « Équité » et « Qualité » en vue de sa dissémination :
  - ✓ Revoir la stratégie et le dispositif de formation et de suivi-accompagnement.
  - ✓ Renforcer davantage l'implication des acteurs marocains.
  - ✓ Évaluation de l'efficacité/l'efficience des composantes pour leur dissémination.
  - ✓ Partage d'informations en exploitant la TIC.
- Élaborer une stratégie de la dissémination du modèle du Projet « PEEQ », tout en étudiant la faisabilité et les contraintes posées.
- Réviser le Cadre logique et le Plan d'opération.
- Désigner les responsables pédagogiques :
  - ✓ Au niveau central: un inspecteur pédagogique en matières scientifiques en tant que membre du Comité.
  - ✓ Au niveau régional: un responsable chargé de l'aspect pédagogique.

❖ **Décisions prises**

▪ **Projet de construction des 21 collèges avec internat en milieu rural :**

- Assurer un suivi efficace du projet et accélérer le rythme des réalisations physiques au niveau de chaque région pour rattraper le retard enregistré dans l'exécution du projet.
- En plus des réalisations physiques, il est indispensable d'assurer une coordination parfaite avec le MEF afin d'améliorer les taux de décaissement, tout en veillant sur l'assurance de la liquidité nécessaire pour les AREF.

▪ **Projet de coopération technique « PEEQ » :**

- Le constat de l'utilité du projet « PEEQ » ainsi que son alignement avec la vision stratégique de l'éducation et de la formation 2015-2030 est acquis, il est temps de penser à la manière de dissémination du projet dans le but d'impacter positivement le rendement interne de la classe.
- Institutionnaliser l'expérience et les bonnes pratiques du projet « PEEQ ».
- Introduire les recommandations du projet « PEEQ » dans le processus de révision des nouveaux manuels scolaires et dans la formation des enseignants (formation initiale et continue).

Royaume du Maroc



Ministère de l'Éducation Nationale et de  
la Formation Professionnelle

Réunion de coordination MENFP/JICA

Projet de : Promotion de l'Éducation avec Équité et Qualité (PEEQ)

## Procès-Verbal des discussions

Rabat, février 2017

## Informations générales sur la réunion

- **Date et heure** : mardi 21 février 2017 à 10h 30.
- **Lieu** : Salle de réunion bab rouah, siège central du MENP.
- **Objet** :
  - État d'avancement du projet PEEQ.
  - Plan d'actions futures du projet PEEQ.
  - Possibilités d'arrimage du projet PEEQ avec les 16 projets intégrés de la vision stratégique 2015-2030.
- **Participants** : Voir liste de présence ci-joint.

## Compte Rendu

À la date et à l'heure indiquée ci-dessus, M. le Directeur de la DSSP déclare l'ouverture de la réunion du CCC. M. le Directeur a souhaité la bienvenue à tous les participants et a félicité tous les intervenants des résultats obtenus grâce à leurs efforts. Il a particulièrement remercié le CNEEO qui a accordé une importance exceptionnelle au projet. Il a expliqué que cette réunion de suivi du projet fait partie de la dynamique entreprise par le Ministère notamment dans la mise en œuvre des 16 projets intégrés de la vision stratégique 2015-2030. Il a précisé qu'un élan important vient d'être donné à cette dynamique lors des journées du 30 et 31 janvier 2017 présidées par M. le Ministre qui a insisté d'intégrer les résultats concrets de ce projet dans les actions du Ministère.

M. le Directeur a présenté l'ordre du jour de la réunion qui comprend trois points sous formes de trois questions auxquelles la réunion doit répondre, à savoir :

1. Qu'est ce qui a été fait jusqu'à aujourd'hui et quels sont les résultats obtenus ?
2. Qui reste à faire et à réussir ?
3. Quels sont les volets qui nécessitent l'arrimage ?

M. le Représentant Résidant Adjoint de la JICA Maroc a de son côté remercié tous les intervenants pour leur soutien continu au projet PEEQ. Il a insisté sur une réflexion à mener sur le post projet PEEQ en vue de consolider les résultats dans une perspective d'avenir.

Le Directeur du CNEEO a également remercié l'ensemble des intervenants. Il a rappelé que le projet PEEQ est un projet qui creuse dans les missions et préoccupations du Ministère en vue de donner tous les élans nécessaires à l'amélioration de la qualité des apprentissages en faisant de l'évaluation un outil d'amélioration de l'efficacité. Il a recommandé de continuer à poursuivre cette démarche jusqu'à la mise en place d'un système de soutien scolaire individuel en mettant à profit les opportunités offertes par les nouvelles technologies.

Le Chef de l'équipe d'experts de la JICA a fait une présentation détaillée sur l'avancement du projet PEEQ et les orientations futures.

L'expert de la JICA en évaluation éducative a présenté ses recommandations suite aux résultats du test diagnostique session 2016 en insistant sur les points suivants :

- L'amélioration des méthodologies et pratiques des enseignants à travers des programmes nationaux avec une concentration sur la maîtrise des acquis.
- Renforcement des pratiques de l'évaluation formative et de l'évaluation diagnostique.
- Révision du curricula et des manuels scolaires.

Après ces deux exposés, M. le Directeur de la DSSP a félicité au nom des membres du CCC les experts de la JICA et le personnel du Ministère mobilisé dans le projet pour avoir ces résultats probants. Ensuite il a ouvert le débat.

M. le Chef de division à la DENF a recommandé de prendre en considération dans le développement d'un modèle de gestion scolaire pour « une école de l'équité et de la qualité » visant à atténuer la disparité de l'éducation ; les résultats des expériences réalisées au niveau des établissements scolaires. Il recommande un modèle de veille et de lutte contre le décrochage scolaire.

Le représentant de l'UCFC suggère d'inscrire les résultats positifs du PEEQ dans les orientations curriculaires et documents officiels du Ministère.

Le coordinateur du projet PEEQ au niveau de l'AREF de Marrakech-Safi a constaté que le projet a donné une nouvelle dynamique aux 8 établissements scolaires ciblés du projet, tout en insistant sur la nécessité d'un suivi de la gouvernance des établissements avec la participation des autres partenaires.

Le représentant de la DETVS a précisé que la valeur de PEEQ est très grande et recommande de prendre en considération dans le guide relatif au volet équité avec la pratique des projets d'établissement tous les documents produits à ce sujet dans le cadre du projet PAGESM.

L'inspecteur pédagogique de l'équipe nationale a témoigné qu'au niveau terrain, tous les apports du PEEQ sont bien appréciés par les directeurs d'établissement, les enseignants, les élèves, les associations des parents d'élèves, etc. Il a précisé que le PEEQ a évolué au Maroc et qu'actuellement on est dans la phase critique de mise en application sur le terrain de tous les produits du projet. Donc il faut poursuivre les efforts avec la participation de tous les partenaires.

Le représentant du CNIPE a pour sa part suggérer une implication beaucoup plus forte des accompagnateurs dans le projet.

M. le Directeur du CNEEO a commenté les résultats du test diagnostique présentés par l'expert de la JICA en précisant que les résultats modestes des mathématiques doivent nous amener à des analyses beaucoup plus fines et pour construire les outils à mettre à la disposition des enseignants. La pédagogie de la maîtrise devient une nécessité car on doit s'assurer que chaque élève a acquis ce qu'il faut.

On doit ainsi disposer d'un mécanisme qui tient compte du rythme d'apprentissage de chaque apprenant

M. le Chef de projet PEEQ a recommandé de mesurer l'effectivité des interventions du PEEQ surtout à travers des résultats obtenus dans les établissements relevant de l'AREF de Casablanca-Settat.

M. le chef des experts JICA a répondu à toutes les interrogations techniques du projet PEEQ à suggérer de préparer un plan d'action de la coopération future en vue de la mise en œuvre des recommandations citées ci-dessus.

Ensuite M. le Directeur de la DSSP a fait une présentation sur l'arrimage du projet PEEQ avec les 16 projets intégrés de la vision stratégique 2015-2030 en précisant que tous ces projets touchent à la qualité à l'instar du projet PEEQ.

Pour conclure la réunion et synthétiser les résultats du débat, M. le Directeur de la DSSP a insisté sur les trois priorités suivantes :

➤ **Priorité N°1 :**

- Finaliser l'ensemble des documents produits par le projet.
- Élaborer le guide de l'enseignant.
- Améliorer le support de formation.
- Élaborer le guide spécifique au modèle de gestion scolaire.

➤ **Priorité N°2**

- Assurer le suivi minutieux de la mise en œuvre des résultats du projet PEEQ dans son périmètre d'action, afin de pouvoir mesurer son impact sur la qualité des apprentissages.

➤ **Priorité N°3**

- Intégrer les outputs du Insérer le projet PEEQ dans les projets intégrés de la vision stratégique 2015-2030.

Le Représentant Résidant Adjoint de la JICA Maroc a préconisé l'utilisation des opportunités offertes pour les nouvelles technologies en vue de mettre les résultats du projet au profit de maximum des établissements scolaires.

Le responsable du projet PEEQ au niveau de la JICA Maroc a indiqué qu'il ne reste que juste une année pour la clôture du projet, un planning détaillé des actions futures du projet PEEQ doit être élaboré et discuté. Cette mesure sera prise en charge par le Comité Chargé du Projet (CCP) lors d'une réunion qui sera programmée au cout du mois de Mars.

M. le Directeur a clôturé la réunion par une recommandation sur l'organisation d'un séminaire national sur le projet PEEQ avant sa clôture. Regroupant ainsi, tous les acteurs de l'éducation nationale : centraux, régionaux, provinciaux et locaux ; même ceux qui ne sont pas concernés par la phase pilote du projet « PEEQ ».



## Signature

▪ **Ministère de l'Éducation et de la Formation Professionnelle (MENFP):**

- **Mr. Abdelhak Ghouli**

Chef de la Division de Planification

Directeur de la Stratégie, des Statistique et de la Planification



▪ **Agence Japonaise de coopération Internationale (JICA) / Équipe des experts chargé de la mise en œuvre du projet « PEEQ »:**

- **M.Hiroshi OKUKAWA**

Chef de l'équipe





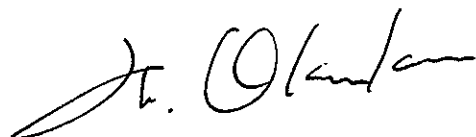
**PROCES VERBAL DE LA SIXIEME REUNION DU COMITE CONJOINT DE  
COORDINATION DU  
PROJET D'AMELIORATION DE L'EDUCATION AVEC EQUITE ET  
QUALITE**

**Convenu entre  
Le Comité Chargé du Projet  
et  
L'Equipe d'experts de la JICA**

**Date:** Le 12 octobre 2017

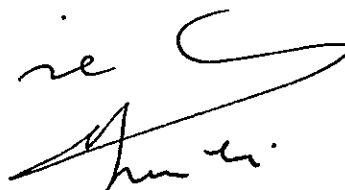
**Lieu:** Ministère de l'éducation  
nationale, de la formation  
professionnelle, de  
l'enseignement supérieur et de  
la recherche scientifique,  
Rabat

Pour l'équipe d'expert de la JICA



**M. Hiroshi OKUKAWA  
Chef de l'équipe**

Pour le Comité chargé du Projet



**M. Abdelhak GHOULI  
Chef du projet**

# **COMPTE RENDU SOMMAIRE DE LA REUNION DU CCC**

## **DU 12 OCTOBRE 2017 A 10H30**

### **1- CONTEXTE ET DEROULEMENT**

Après le mot d'ouverture par M. le Directeur de la DSSP et celui du représentant de la JICA Maroc, l'ordre du jour a été précisé et comprend deux points essentiels, à savoir :

- recueillir l'avis des membres présents au CCC avec des représentants des services centraux, AREF, et directions provinciales sur l'étude de l'effet du PEEQ sur l'apprentissage des élèves réalisée conjointement avec les experts japonais ;
- partager des points de vue sur la stratégie de généralisation du PEEQ en vue d'élaborer un plan d'action.

Ensuite le chef des experts JICA a fait une présentation détaillée contenant :

- 1) rappel des recommandations du dernier CCC en date du 21 février 2017 ;
- 2) rappel des orientations de M. le Ministre de l'Education Nationale, de la Formation Professionnelle, de l'Enseignement Supérieur et de la Recherche Scientifique lors de l'audience accordée à la JICA Maroc en date du 21 juin 2017 en vue de la généralisation du modèle pédagogique du PEEQ à partir de la rentrée scolaire 2018/2019 ;
- 3) présentation du DVD contenant tout le matériel et tous les outils produits par le PEEQ ; ce DVD a été distribué aux différents intervenants lors des réunions organisées à cet effet aux directions provinciales cibles du projet pendant la période du 19 au 24 septembre 2017 ;
- 4) présentation de l'étude de l'effet du PEEQ sur les apprentissages faisant ressortir :
  - tendance à évolution qui diffère d'un établissement à un autre selon la motivation et l'implication des acteurs ;
  - deux écoles ont donné des résultats très encourageants suite à l'encadrement des inspecteurs et directeurs et l'engagement des enseignants et élèves ;
  - fluctuations des résultats par niveau suite à l'insuffisance de la maîtrise des apprentissages et ancrage faible des connaissances et compétences de base ; à ce sujet, les experts soulignent la nécessité de prendre immédiatement des actions concrètes.

Ces résultats sont conformes aux recommandations du rapport de l'évaluation diagnostique 2016 élaboré par l'équipe nationale sous encadrement des experts de la JICA.

### **2- LES DEBATS**

M. le Directeur de la DSSP a pris la parole pour ouvrir le débat. Les interventions recueillies se présentent comme suit :

Le représentant de l'UCFC a suggéré de généraliser la pédagogie de l'erreur et travailler aussi sur les stratégies qui anticipent et préviennent des erreurs d'élèves et les intégrer dans la formation initiale dispensée dans les CRMEF.

L'inspecteur pédagogique représentant de l'équipe nationale du projet PEEQ a beaucoup insisté sur la méthodologie introduite par le PEEQ et qui doit être vulgarisée le plutôt possible et il a aussi suggéré de tenir compte dans les curricula de l'utilisation de cartes de nombre pendant 5 minutes au début des séances des mathématiques.

M. le Chef de division représentant du CNIPE a précisé que pour l'institutionnalisation des innovations, il y a des étapes parmi lesquelles les intervenants doivent les approprier. A ce sujet il a suggéré l'organisation d'un atelier pour bien analyser tous les aspects liés à la généralisation de ce produit PEEQ.

M. le Chef de division représentant du CNEEO a indiqué que le projet a pu contribuer efficacement à l'instauration de l'évaluation dans le système éducatif du Maroc qui a été accompagnée efficacement d'une communication systématique entre les différents acteurs de l'éducation. Le projet a développé une méthodologie pour la maîtrise des apprentissages ; il y a des outils réalisés d'une manière scientifique et conformant aux cadres de références. La généralisation doit être progressive et accompagnée de la formation et sans attendre les nouveaux curricula.

M. le Directeur des curricula a constaté que les chefs des établissements demandent la généralisation immédiate des acquis du projet mais on doit étudier minutieusement au niveau central tous les aspects liés à cette question. Il a ajouté :

- Méthodologie du projet : le PEEQ nous a donné l'occasion d'achever le cycle du projet entamé par le ministère avec l'analyse de l'existant au niveau des curricula, les difficultés des élèves, les remèdes, ceci pour les niveaux du primaire. Il faut tirer tous les renseignements de cette méthodologie qui est généralisable.
- Les outils produits : grâce à ce projet, on dispose d'une batterie de tests, des exercices couvrant tous les niveaux du primaire constituant une innovation par rapport à notre système éducatif.
- Les acquis du PEEQ sont généralisables mais on doit réfléchir à des mécanismes souples.

M. le Directeur des curricula a rappelé sa requête pour l'appui des experts japonais aux équipes marocaines désignées pour la rénovation des curricula qui va démarrer très prochainement, en demandant à la JICA de prévoir dans le cadre du PEEQ actuel quelques missions d'experts en attente de la mise en place de la deuxième phase du PEEQ.

M. le Chef des experts JICA a souligné la nécessité de prendre les actions concrètes immédiatement ; les difficultés constatées chez les élèves ne peuvent pas attendre ; à ce sujet il a rappelé les recommandations de la journée de travail du 5 octobre 2017 avec les différents représentants des différents intervenants du ministère pour examiner l'étude de l'effet du projet sur les apprentissages ; notamment celle consistant à promouvoir 5 minutes d'exercices avant démarrage effectif des séances des mathématiques moyennant les outils produits par le PEEQ (cartes de nombre et feuilles de calcul mental ainsi que recueils d'exercices).

M. SATO, Expert en évaluation éducative, ayant supervisé l'encadrement des évaluations diagnostiques et l'élaboration du matériel pédagogique supplémentaire, après avoir exposé

ses commentaires sur les résultats de ces évaluations faisant ressortir l'insuffisance des apprentissages chez les élèves, a recommandé d'intervenir en urgence. A cet effet, il a présenté l'application de la méthode de cartes de nombres pour la maîtrise du calcul mental. Cette présentation a été appuyée par des exemples relatifs à chaque niveau scolaire du primaire.

### **3- DECISIONS**

Les principales décisions prises au cours de cette réunion du CCC sont :

- 1) généralisation des activités de 5 minutes d'exercices au début des séances des mathématiques en utilisant les cartes de nombres et les recueils d'exercices développés par le PEEQ à partir de cette année scolaire 2017/2018 ;
- 2) généralisation de l'application de la pédagogie de l'erreur pour améliorer les apprentissages à partir des tests diagnostiques à partir de la rentrée scolaire 2018/2019 ;
- 3) organisation des formations des formateurs régionaux et provinciaux et de circonscription ainsi que les enseignants sur la pédagogie de l'erreur au cours de cette année scolaire 2017/2018 ;
- 4) participation à la rénovation des curricula selon le programme élaboré par le ministère à ce sujet avec appui des experts JICA à compter de cette année scolaire 2017/2018 ;
- 5) organisation d'un atelier avec la participation des représentants de tous les acteurs du niveau central, régional, provinciale et local pour arrêter les modalités de mise en œuvre de ces décisions.

M. le Ministre a rejoint la réunion du CCC. Après avoir écouté les explications retraçant les travaux de cette réunion ; les débats et conclusions, M. le Ministre a donné son accord sur toutes les décisions ci-dessus et a formulé ses orientations en vue d'accélérer la généralisation tout en procédant à des régulations éventuelles au fur et à mesure de son avancement.

**PROCES VERBAL DE LA SEPTIEME REUNION DU  
COMITE DE COORDINATION CONJOINT DU  
PROJET D'AMELIORATION DE L'EDUCATION  
AVEC EQUITE ET QUALITE (PEEQ)**

**Convenu entre  
Le Comité Chargé du Projet  
et  
L'Equipe d'experts de la JICA**

**Date :** Le 25 juin 2018

**Lieu :** Ministère de l'éducation  
nationale, de la formation  
professionnelle, de  
l'enseignement supérieur et de  
la recherche scientifique,  
Rabat

Pour l'équipe d'expert de la JICA

Pour le Comité chargé du Projet



M. Hiroshi OKUKAWA  
Chef de l'équipe



M. Abdelhak GHOULI  
Chef du projet

# **COMPTE RENDU SOMMAIRE DE LA REUNION DU CCC**

## **DU 25 JUIN 2018 A 10H00**

### **1. CONTEXTE ET DEROULEMENT**

Après les mots d'ouverture faits par M. le Directeur de la DSSP et par M. le Représentant Résident Adjoint de la JICA Maroc, les objectifs de la réunion ont été précisés comme indiqué ci-dessous :

- Discuter et valider le « Plan d'action national pour la généralisation de la démarche pédagogique de maîtrise des compétences de base en mathématiques au cycle primaire » qui a été introduite dans le cadre du projet PEEQ ;
- Discuter et valider la totalité du « Guide pratique pour la mise en œuvre des activités pédagogiques et éducatives » qui est un ensemble de petits guides relatifs aux différentes activités menées dans le PEEQ, dont chacun a été auparavant validé au niveau de la direction concernée (CNEEO, DC, DVS) ;
- Approuver le calendrier des activités à effectuer avant la clôture du projet (fin juillet), y compris l'émission d'une note ministérielle concernant la mise en pratique dudit plan d'action national.

Ensuite, le Chef des experts JICA a fait une présentation détaillée contenant :

- 1) Le rappel des étapes franchies lors de l'élaboration du plan national avant l'arrivée à sa version finale, y compris les orientations données par M. le Ministre le 21 juin 2017 ; les discussions menées à différents niveaux sur le plan de généralisation ; et les révisions consécutives en fonction des remarques faites par les directions concernées.
- 2) La présentation détaillée du contenu de chacune des parties constitutives du plan national de généralisation ;
- 3) La proposition des tâches à accomplir avant la clôture du projet PEEQ qui sont :
  - Approbation et distribution du « Guide pratique pour l'amélioration de l'éducation avec équité et qualité »
  - Emission d'une note ministérielle sur la mise en œuvre du plan d'action national pour la généralisation
  - Téléchargement de tous les outils pédagogiques du PEEQ sur le site web du MENFPESRS
  - Organisation d'un séminaire national pour partager l'apport du PEEQ avec toutes les parties prenantes, y compris les 12 AREF

### **2. DEBATS**

M. le Directeur de la DSSP a pris la parole pour ouvrir le débat. Les interventions recueillies lors de ces débats se présentent comme suit :

M. le Chef de division représentant du CNIPE a insisté sur la nécessité de travailler en coordination entre les différentes directions en vue d'assurer une vision globale. Il a souligné par ailleurs l'importance de réalisation des MOOC basée sur l'exploitation des outils pédagogiques du PEEQ en attirant l'attention sur l'intérêt et le rôle qu'ils peuvent rendre pour

Quant au Projet d'appui au secteur de l'éducation de base (MR-H1), M<sup>me</sup> la Chargée du programme de la JICA Maroc a exposé l'état d'avancement et les points d'attention, y compris la nécessité de coordination pour la cérémonie d'ouverture.

### 3. SYNTHÈSE ET DÉCISIONS :

M. le Secrétaire général a, à son arrivée, exprimé ses sentiments chaleureux vis-à-vis de tous les intervenants en les remerciant pour leur apport et pour les efforts qu'ils ont déployés en faveur du système éducatif marocain. En réaffirmant également la motivation de tous pour que le projet ne puisse pas terminer à la fin du projet. M. le Secrétaire général n'a pas par ailleurs omis d'orienter les participants sur les éléments à prendre en compte dans le cadre d'une stratégie de dissémination à adopter pour assurer une généralisation tout en minimisant le risque d'arrêt.

Les principales décisions prises au cours de cette réunion du CCC sont :

- 1) Validation et approbation du plan d'action national pour la généralisation de la démarche pédagogique en question sous condition d'intégrer les propositions faites au cours de cette réunion, à savoir :
  - La désignation de la démarche est « la démarche pédagogique d'évaluation et de maîtrise des compétences de base en mathématiques au cycle primaire ».
  - Les formations continues des enseignants sur la démarche en question se tiendront, sans être appelées « en cascade » en vue de l'autonomisation future au niveau des AREF, dans le cadre global de la révision des curricula et des manuels scolaires.
  - La démarche pédagogique en question sera « généralisée » en mathématiques au cycle primaires étant donné l'effet positif des outils pédagogiques du PEEQ qui a été clairement observé dans ce domaine. D'autre part, diverses pratiques pédagogiques et éducatives appuyées par le PEEQ devraient être « disséminées » dans le cadre de l'évaluation des prérequis et du projet d'établissement qui sont déjà officiellement généralisés par le MENFPESRS
  - Le dispositif de suivi de la mise en œuvre des curricula révisés sera renforcé par le questionnaire à annexer à la fin de ce plan d'action.
- 2) Validation du « Guide pratique pour la mise en œuvre des activités pédagogiques et éducatives » et autorisation de son impression.
- 3) Attribution au pôle pédagogique du MENFPESRS, coordinateur des 8 directions pédagogiques, de la responsabilité en matière de suivi de la mise en œuvre de la démarche pédagogique en question après la clôture du projet.
- 4) Concertation et confirmation avec M. le Secrétaire Général en matière de modalité de l'émission de la note ministérielle relative à la mise en œuvre du plan d'action national.
- 5) Préparation soignée du séminaire national qui se tiendra à la fin du projet pour qu'il soit une occasion substantielle de capitalisation de l'apport du PEEQ ; dans ce cadre, les participants discuteront un plan d'action régional pour la généralisation de la démarche.
- 6) Téléchargement de l'ensemble des produits du PEEQ et de leur implantation dans un site officiel du MENFPESRS.

## Liste des participants :

|                                  |  |
|----------------------------------|--|
| M. BELQASMI Youssef              | Secrétaire Général du MENFPESRS  |
| M. EL HAYANI Abdelhaq            | Directeur du projet ; Directeur de la stratégie, des statistiques et de la planification |
| M. CHAFIQI Fouad                 | Directeur des curricula  |
| M. NAHYA Aziz                    | Directeur chargé de la vie scolaire  |
| M. GHOULI Abdelhaq               | Chef du projet, Chef de division, DSSP   |
| M. CHAIBI Ahmed                  | Chef de division, CNEEO  |
| M. MAHFOUDI Elhassane            | Chef de division, DENF   |
| M. ELMAZOUNI Nourdine            | Chef de division, CNIPE  |
| M. BOUHEMAID Nourddine           | Chef de division, DSI  |
| M. BOUHAIRA El Iraqi             | Chef de Service, DSSP  |
| M. BARKIA Hicham                 | Cadre, DVS   |
| M. ARGHBI Rachid                 | Coordinateur régional du Projet PEEQ, AREF RSK   |
| M.SLIMANI Abdelghani             | Inspecteur Pédagogique, AREF CS  |
| M. FIKRI Taoufiq                 | Coordinateur national du Projet ; Cadre, SEES-DSSP                                       |
|                                  |  |
| M. KAGEYAMA Tadashi              | Représentant Résident Adjoint de la JICA Maroc   |
| M <sup>me</sup> BENHADDOU Ouidad | Chargée de programmes, JICA Maroc  |
| M. OKUKAWA Hiroshi               | Chef de l'équipe d'experts JICA  |
| M. AIT KHABBA Ali                | Coordinateur, Projet PEEQ  |
| M. BABAKHOUYA Mohamed            | Coordinateur, Projet PEEQ  |
| M. ABBADI Abdelhak               | Chargé de la qualité, Projet PEEQ  |
| M. OUBAHA Ahmed                  | Chargé de la finance et des logistiques, Projet PEEQ                                     |



**PROCES VERBAL DE LA HUITIEME SESSION DU  
COMITE DE COORDINATION CONJOINT DU  
PROJET D'AMELIORATION DE L'EDUCATION  
AVEC EQUITE ET QUALITE (PEEQ)**

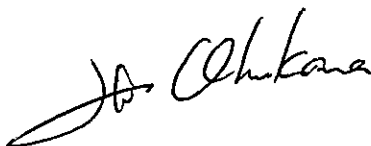
**Convenu entre  
Le Comité Chargé du Projet  
et  
L'Equipe d'experts de la JICA**

**Date :** Le 26 juillet 2018

**Lieu :** Ministère de l'éducation  
nationale, de la formation  
professionnelle, de  
l'enseignement supérieur et de  
la recherche scientifique,  
Rabat

Pour l'équipe d'expert de la JICA

Pour le Comité chargé du Projet



M. Hiroshi OKUKAWA  
Chef de l'équipe



M. Abdelhak GHOULI  
Chef du projet

## **COMPTE RENDU SOMMAIRE DE LA SESSION DU CCC** **DU 26 JUILLET 2018**

### **1. CONTEXTE ET DEROULEMENT**

Par le biais de la circulation du document parmi des membres du comité, la 8<sup>e</sup> session du Comité de Coordination Conjoint (CCC) du Projet d'amélioration de l'éducation avec équité et qualité (PEEQ) s'est tenue dans le but d'examiner et valider le projet du « Rapport d'achèvement du projet ».

### **2. CONCLUSION**

Le Rapport d'achèvement du projet a été validé en principe sous condition de réviser en fonction des événements les plus récents qui ont été réalisés juste avant la clôture du projet ainsi que d'intégrer les avis et les remarques qui seront présentés en écrit par les membres du CCC auprès du Directeur du projet dans un délai de deux semaines.

A la suite de la révision et de l'intégration des avis et des remarques des membres du CCC, le Rapport sera finalisé par le Directeur du projet représentant la partie marocaine et le Chef de l'équipe d'experts de la JICA représentant la partie japonaise, et la version finale en sera soumis définitivement auprès du MENFPESRS et de la JICA avant le 31 août 2018.

